令和元年度

自己点検・評価報告書

根拠資料編　第１分冊（基準 1）

令和２年 ３月

独立行政法人国立高等専門学校機構

岐阜工業高等専門学校

根拠資料一覧

基準	観点	資料番号	資料名称
基準1	1-1-①	資料1-1-1-(1)-01	自己点検・評価規程の制定経過を示す資料
基準1	1-1-①	資料1-1-1-(1)-02	岐阜高専における自己点検・評価規程
基準1	1-1-①	資料1-1-1-(1)-03	自己点検・評価の実施計画を示す資料
基準1	1-1-①	資料1-1-1-(1)-04	自己点検・評価の実施計画の決定過程を示す資料
基準1	1-1-①	資料1-1-1-(2)-01	自己点検・評価の実施体制PDCAを示す図
基準1	1-1-①	資料1-1-1-(2)-02	主管会議規程
基準1	1-1-①	資料1-1-1-(2)-03	運営会議規程
基準1	1-1-①	資料1-1-1-(2)-04	将来計画委員会規程
基準1	1-1-①	資料1-1-1-(2)-05	点検評価・フォローアップ委員会規程
基準1	1-1-①	資料1-1-1-(2)-06	自己点検・評価実施ワーキンググループ内規
基準1	1-1-①	資料1-1-1-(2)-07	スパイラルアップ会議規程
基準1	1-1-①	資料1-1-1-(3)-01	自己点検・評価 の基準と項目についての内規
基準1	1-1-②	資料1-1-2-(1)-01	収集・蓄積状況がわかる資料
基準1	1-1-②	資料1-1-2-(1)-02	収集・蓄積の担当組織がわかる資料
基準1	1-1-②	資料1-1-2-(2)-01	毎年実施されている年度計画のPDCAの図
基準1	1-1-②	資料1-1-2-(2)-02	毎年実施されている授業改善のPDCAの図
基準1	1-1-③	資料1-1-3-(1)-01	授業アンケート自由記載欄の例
基準1	1-1-③	資料1-1-3-(1)-02	フィードバック報告書の例
基準1	1-1-③	資料1-1-3-(1)-03	学生等からの要望及び意見等を汲み上げる意見箱の設置に関する申合せ
基準1	1-1-③	資料1-1-3-(1)-04	意見箱の対応例
基準1	1-1-③	資料1-1-3-(1)-05	本科卒業生のアンケート
基準1	1-1-③	資料1-1-3-(1)-06	専攻科修了生のアンケート
基準1	1-1-③	資料1-1-3-(1)-07	平成23年度 卒業生アンケート報告
基準1	1-1-③	資料1-1-3-(1)-08	卒業後の学生の意見反映の例
基準1	1-1-③	資料1-1-3-(1)-09	学級懇談会報告
基準1	1-1-③	資料1-1-3-(1)-10	地区保護者懇談会報告
基準1	1-1-③	資料1-1-3-(1)-11	就職先アンケート報告（平成29年度実施）
基準1	1-1-③	資料1-1-3-(1)-12	平成25年度 岐阜高専 進学先アンケートの結果
基準1	1-1-③	資料1-1-3-(2)-01	学生による授業評価が踏まえられていることを示す会議資料
基準1	1-1-③	資料1-1-3-(2)-02	学生による授業評価が踏まえられていることを示す資料
基準1	1-1-③	資料1-1-3-(2)-03	学生による達成度の周知を示す資料
基準1	1-1-③	資料1-1-3-(2)-04	学生による満足度の周知を示す資料
基準1	1-1-③	資料1-1-3-(2)-05	卒業（修了）時の学生による教育・学習の達成度と満足度周知を示す資料
基準1	1-1-③	資料1-1-3-(2)-06	外部有識者組織の参与会規程
基準1	1-1-④	資料1-1-4-(1)-01	スパイラルアップ会議の活動ステップを示す資料
基準1	1-1-④	資料1-1-4-(1)-02	スパイラルアップ会議の改善活動を示す資料（平成28年度の評価）
基準1	1-1-④	資料1-1-4-(1)-03	スパイラルアップ会議の改善活動を示す資料（平成29年度の評価）
基準1	1-1-④	資料1-1-4-(1)-04	スパイラルアップ会議の改善活動を示す資料（平成30年度の評価）
基準1	1-1-④	資料1-1-4-(1)-05	平成29年度スパイラルアップ会議議事要旨
基準1	1-1-④	資料1-1-4-(1)-06	平成30年度スパイラルアップ会議議事要旨
基準1	1-1-④	資料1-1-4-(1)-07	平成31年度スパイラルアップ会議議事要旨
基準1	1-1-④	資料1-1-4-(2)-01	学習・教育目標達成度評価方法
基準1	1-1-④	資料1-1-4-(2)-02	学習・教育目標達成度評価シートを運用しているこがわかる議事録01
基準1	1-1-④	資料1-1-4-(2)-03	学習・教育目標達成度評価シートを運用しているこがわかる議事録02
基準1	1-1-④	資料1-1-4-(2)-04	教育目標等を非常勤講師に周知している状況がわかる資料
基準1	1-1-④	資料1-1-4-(2)-05	応用物理・数学と一般科目の物理・数学の連携を示す資料
基準1	1-1-④	資料1-1-4-(2)-06	連携推進の駆動力になっている組織の存在を示す資料
基準1	1-1-④	資料1-1-4-(2)-07	授業参観において対象授業科目を重点化している状況がわかる資料
基準1	1-1-④	資料1-1-4-(2)-08	専門学科の教員が一般科目を参観している状況がわかる資料
基準1	1-1-④	資料1-1-4-(2)-09	専門学科教員と一般科目教員の連携が多様になってきていることを示す資料
基準1	1-2-①	資料1-2-1-(1)-01	準学士課程ディプロマ・ポリシー
基準1	1-2-②	資料1-2-2-(1)-01	準学士課程カリキュラム・ポリシー
基準1	1-2-③	資料1-2-3-(1)-01	準学士課程アドミッション・ポリシー
基準1	1-2-④	資料1-2-4-(1)-01	専攻科課程ディプロマ・ポリシー
基準1	1-2-⑤	資料1-2-5-(1)-01	専攻科課程カリキュラム・ポリシー
基準1	1-2-⑥	資料1-2-6-(1)-01	専攻科課程アドミッション・ポリシー

資料1-1-1-(1)-01

自己点検・評価規程の制定経過を示す資料

平成３０年度　運営会議(第６回)議事要旨

日　時　平成３０年９月１３日（木）１５：００～１５：５０
場　所　大会議室
出席者　構成員名簿のとおり

議　　題
１　協議事項
（１）「自己点検・評価規程」及び「自己点検・評価の基準と項目についての内規」の制定について
　加藤点検評価・フォローアップ委員長より資料に基づき説明があり，協議の結果，原案どおり承認された。
（２）「平成３１年度非常勤講師雇用枠時間に関する基本方針」の策定について
　教務主事より資料に基づき説明があり，協議の結果，原案どおり承認された。
　校長より，採用抑制については，10 月末又は 11 月末に決定予定であるとの説明があり，教務主事より暫定的に非常勤講師採用枠案を作成し，雇用計画書の作成を学科に依頼されるとのことであった。
（３）豊橋技術科学大学との共同教育プログラム事業計画書の申請について
　研究主事より資料に基づき説明があり，協議の結果，基本事項について原案どおり承認された。

２　報告事項
（１）校長報告
　校長より以下の報告があった。
　①表彰
　　校長より，１名の表彰について報告があった。
（２）教務主事報告
　教務主事より資料に基づき報告があった。
（３）研究主事報告（専攻科関係）
　研究主事より資料に基づき報告があった。
（４）学生主事報告
　学生主事補佐より資料に基づき報告があった。
（５）寮務主事報告　　なし
（６）研究主事報告（テクノセンター関係及びメディア関係）
　研究主事より資料に基づき報告があった。
（７）学生相談室報告
　資料のみ
（８）国際交流室報告
　国際交流副室長より資料に基づき報告があった。
（９）事務部報告
　事務部長より修学支援事業基金について，寄附の募集通知をされるとの報告があった。

出典「平成30年度第6回運営会議議事要旨　平成30年9月13日開催」

資料1-1-1-(1)-02

岐阜工業高等専門学校における自己点検・評価規程

学　校　規　則　第　９　号
制定 平成３０年９月１３日

（趣旨）
第１条 岐阜工業高等専門学校（以下「本校」という。）における自己点検・評価に関する事項については，この規程の定めるところによる。
２ 本校の教育研究水準の向上に資するため，学校教育法１０９条第１項に則り，教育及び研究，組織及び運営並びに施設及び設備の状況について自ら点検・評価を行い，その結果を公表するものとする。
（自己点検・評価と外部評価等）
第２条 本校の自己点検・評価及び外部評価は，次のとおりとする。
一 自己点検・評価実施ワーキンググループ主導で実施される本校の教職員による自己点検・評価（原則として７年毎に実施）
二 本校の参与会による外部評価（原則として年１回実施）
三 大学改革支援・学位授与機構による高等専門学校機関別認証評価（原則として７年毎に実施）
四 卒業生の進路先による評価（原則として３年毎，就職先と進学先を交互に実施）
五 日本技術者教育認定機構（ＪＡＢＥＥ）による評価（原則として３年毎）
（自己点検・評価組織）
第３条 本校における自己点検・評価を推進する組織は，次のとおりとする。
一 スパイラルアップ会議
二 将来計画委員会
三 点検・評価フォローアップ委員会
四 自己点検・評価実施ワーキンググループ
（自己点検・評価結果の公表）
第４条 本校に関わる自己点検・評価結果及び外部評価の公表は，次のとおりとする。
一 本校のウェブサイト（評価実施ごとに公開）
二 その他
（自己点検・評価の基準と項目）
第５条 本校の自己点検・評価に関わる基準と項目を別に定める。
（庶務）
第６条 本規程に関わる庶務は，総務課において処理する。
（その他）
第７条 この規程に定めるもののほか，自己点検・評価に関する必要な事項は，別に定める。

附　則（平成３０年学校規則第９号）
この規程は，平成３０年９月１３日から施行し，平成３０年４月１日から適用する。

出典「岐阜高専学内専用Webページ―事務部―規則類」

自己点検・評価の年度別計画（令和元年度版）190408 修正

スパイラルアップ点検・改善	毎年
年度計画達成度の自己点検・評価	毎年
JABEE 基準による自己点検評価・改善	３年に１回
参与会による外部評価	毎年（H29 改正）
認証評価基準による自己点検評価・改善	７年に１回
卒業生の①就職先または②進学先アンケート（いずれか一方）	３年に１回

年度	事　　項	備　　考	
2003 （平成15年）	JABEE 自己点検書作成 JABEE 基準による自己点検評価・改善	JABEE 本審査	
2004 （平成16年）	JABEE 基準による自己点検評価・改善	JABEE 中間審査前年 独法化	第一期中期計画
2005 （平成17年）	認証評価基準による自己点検評価・改善 卒業生の就職先アンケート	JABEE 中間審査	
2006 （平成18年）	2005 年度分スパイラルアップ点検・改善 認証評価　自己評価書　作成	認証評価	
2007 （平成19年）	2006 年度分スパイラルアップ点検・改善 中期計画ロードマップ達成度の自己点検・評価 JABEE 基準による自己点検評価・改善 外部評価，自己点検・評価報告書作成	JABEE 本審査前年 ５年に一度の外部評価	
2008 （平成20年）	2007 年度分スパイラルアップ点検・改善 中期計画ロードマップ達成度の自己点検・評価 JABEE 自己点検書作成 卒業生の①就職先アンケート	JABEE 本審査	
2009 （平成21年）	2008 年度分スパイラルアップ点検・改善 中期計画ロードマップ達成度の自己点検・評価		
2010 （平成22年）	2009 年度分スパイラルアップ点検・改善 中期計画ロードマップ達成度の自己点検・評価 JABEE 基準による自己点検評価・改善	JABEE 中間審査前年	第二期中期計画
2011 （平成23年）	2010 年度分スパイラルアップ点検・改善 中期計画ロードマップ達成度の自己点検・評価 卒業生の①就職先アンケート	JABEE 中間審査（免除）	
2012 （平成24年）	2011 年度分スパイラルアップ点検・改善 中期計画ロードマップ達成度の自己点検・評価 認証評価基準による自己点検評価・改善 外部評価，自己点検・評価報告書作成	認証評価前年 ５年に一度の外部評価	
2013 （平成25年）	2012 年度分スパイラルアップ点検・改善 中期計画ロードマップ達成度の自己点検・評価 JABEE 基準による自己点検評価・改善 認証評価　自己評価書　作成	JABEE 本審査前年 認証評価	
2014 （平成26年）	2013 年度分スパイラルアップ点検・改善 中期計画ロードマップ達成度の自己点検・評価 JABEE 自己点検書作成 卒業生の②進学先アンケート	JABEE 本審査	
2015 （平成27年）	2014 年度分スパイラルアップ点検・改善 年度計画達成度の自己点検・評価		第三期中期計画
2016 （平成28年）	2015 年度分スパイラルアップ点検・改善 年度計画達成度の自己点検・評価 ~~JABEE 基準による自己点検評価・改善~~	専攻科大括り化 JABEE 中間審査前年	
2017 （平成29年）	2016 年度分スパイラルアップ点検・改善 年度計画達成度の自己点検・評価 年度末に参与会による外部評価（特例として３年分） 卒業生の①就職先アンケート	JABEE 中間審査（免除） 平成 26 年度～平成 28 年度を評価	
2018 （平成30年）	~~年度当初に 2017 参与会による外部評価~~ 2017 年度分スパイラルアップ点検・改善 年度計画達成度の自己点検・評価	参与会開催時期近接のため見送り	

＊平成 29 年度：５年に１回の外部評価を廃して，参与会による毎年の外部評価（年度計画準拠型）に変更。ただし，平成 32 年度までは過渡期のため変則的。

年度	事　　項	備　　考
2019 （令和元年）	2017&2018 参与会による外部評価（特例として２年分） 2018 年度分スパイラルアップ点検・改善 年度計画達成度の自己点検・評価 ~~認証評価基準による自己点検評価・改善~~ 自己点検・評価規程に基づく自己点検評価・改善	認証評価前年
2020 （令和２年）	2019 参与会による外部評価 2019 年度分スパイラルアップ点検・改善 年度計画達成度の自己点検・評価 JABEE 自己点検書作成 認証評価　自己評価書　作成 卒業生の②進学先アンケート	JABEE 本審査(事態は流動的) 認証評価
2021 （令和3年）	2020 参与会による外部評価 2020 年度分スパイラルアップ点検・改善 年度計画達成度の自己点検・評価	
2022 （令和4年）	2021 参与会による外部評価 2021 年度分スパイラルアップ点検・改善 年度計画達成度の自己点検・評価	
2023 （令和5年）	2022 参与会による外部評価 2022 年度分スパイラルアップ点検・改善 年度計画達成度の自己点検・評価 卒業生の①就職先アンケート	

第四期　中期計画

平成 29 年度の計画表からの変更点

1. 2020 年以降の計画を追加。（平成 29 年度版では 2019 年までを記載。）
2. 5 年毎に実施していた「外部評価，自己点検・評価報告書作成」を平成 29 年度から「毎年の参与会による外部評価」に変更。過渡期を経て 2020 年に実施される 2019 年の評価から定常的に毎年になる。
3. 卒業生の①就職先アンケートと②進学先アンケートについて，いずれかを 3 年毎に実施する。実施の実態に変更は無いが，表現を変更。
4. 事態は流動的であるが，取りあえず 2020 年に JABEE 本審査を記載。2020 年は 7 年毎の認証評価も重なる年である。この前年の 2019 年には認証評価基準による自己点検評価・改善を実施する予定としている。

平成 30 年 8 月 27 日の修正点

1. 2019 年の『認証評価基準による』を『自己点検・評価規程に基づく』の表現に修正。

平成 31 年 4 月 8 日の修正点

１．元号表記の修正　平成から令和へ

出典「平成31年度第1回点検評価・フォローアップ委員会資料　平成31年4月19日開催」

自己点検・評価の実施計画の決定過程を示す資料　資料1-1-1-(1)-04

平成 31 年度（令和元年度）第 1 回点検評価・フォローアップ委員会　議事要旨

（第 1 回中期計画 WG，第 1 回自己点検・評価実施 WG，第 1 回学習評価・フォローアップ WG）

日時：平成 31 年 4 月 19 日(金) 16:20～16:40	開催場所：大会議室
委員会メンバー：[redacted]	
欠席者：なし	

【1. 審議事項】

審議事項１　平成 31 年度の各ワーキンググループ構成員

下記の各 WG 構成員についての原案が了解された。

【中期計画 WG】　[年度計画・中期計画：主に高専機構本部（の書式）対応等]
点検評価・フォローアップ委員全員（委員長（WG 長）
全委員によりワーキンググループを構成する。　計 17 名
総務・企画係（庶務）

【自己点検・評価実施 WG】　[外部評価対応：「大学改革支援・学位授与機構」の認証評価・JABEE・参与会等]
[内部質保証：本校独自の自己点検・評価規程に基づく評価]
委員長（WG 長）
[redacted]
学生課長　計 10 名
総務・企画係（庶務）

【学習評価フォローアップ WG】　[授業等のアンケート・外部評価用の授業エビデンス整備等]
「岐阜高専における教育改善規程」で規定される「FD 組織」の「学習評価フォローアップワーキンググループ」にも属す。
委員長（WG 長）
人文：宮口，自然：菅，M：宮藤，E：富田，D：北川，C：渡邉，A：清水，
教務：福永，専攻科：北川（重複表記），
学生課長　計 10 名
総務・企画係（庶務）

審議事項２　各 WG の平成 31 年度（令和元年度）の活動計画・実施予定項目

下記の活動計画項目案が了解された。

2-1　中期計画 WG 関係

- 平成 30 年度年度計画達成状況の点検　→　本会議にて審議（審議事項３関連）

2-2　自己点検・評価実施 WG 関係

- 自己点検・評価の年度別計画表の確認。平成 31 年度（令和元年度）の参与会による外部評価は，過渡期のため平成 29 年度分と 30 年度分を評価。参与会は 5/9 実施予定で計画が進んでいる。
- 参与会による外部評価（H29 と H30 年度分。実質的に毎年の定常状態になるのは令和 02 年度から。）
- 『自己点検評価規程』に基づく自己点検評価。（令和元年度は実施する年度。議事項５関連）
- 将来計画委員会の自己点検・評価検討 WG からの依頼への対処（必ず依頼があるというわけではない）

2-3　学習評価フォローアップ WG 関係

- 学習評価フォローアップ点検　→　本会議にて基本方針と実施要領を審議（審議事項６関連）
- 教育目標（準学士課程・専攻科課程）についてのアンケート調査（年度末）

【中期計画 WG 関係】

審議事項３　平成 30 年度年度計画達成状況の点検及び WG による点検評価

下記の点検評価についての手順が了解された。

評価の観点

1）「年度計画」と「実施状況」の記載項目が対応しているか。

2）「年度計画」が定量的である場合には，「実施状況」も定量的に表現できているか。

3）昨年度に変更された『年度計画の策定及び実績実施状況の自己点検・評価に関するガイドライン』に準じているか。特に箇条書きの表記方法。（アラビア数字の箇条書きをやめて丸印の列挙で統一）

上記の観点から記載内容を点検評価し，原案に加筆・修正がある場合には 4 月 22 日（月）までに委員長へご連絡下さい。4/17 付で Excel 版を添付したこの旨のメールを委員長から配信済です。問題個所を赤文字・見え消しで修正したファイルを返送してください。点検評価結果は 4/24 のスパイラルアップ会議で諮り，さらに当委員会掲示板に公開する予定です。

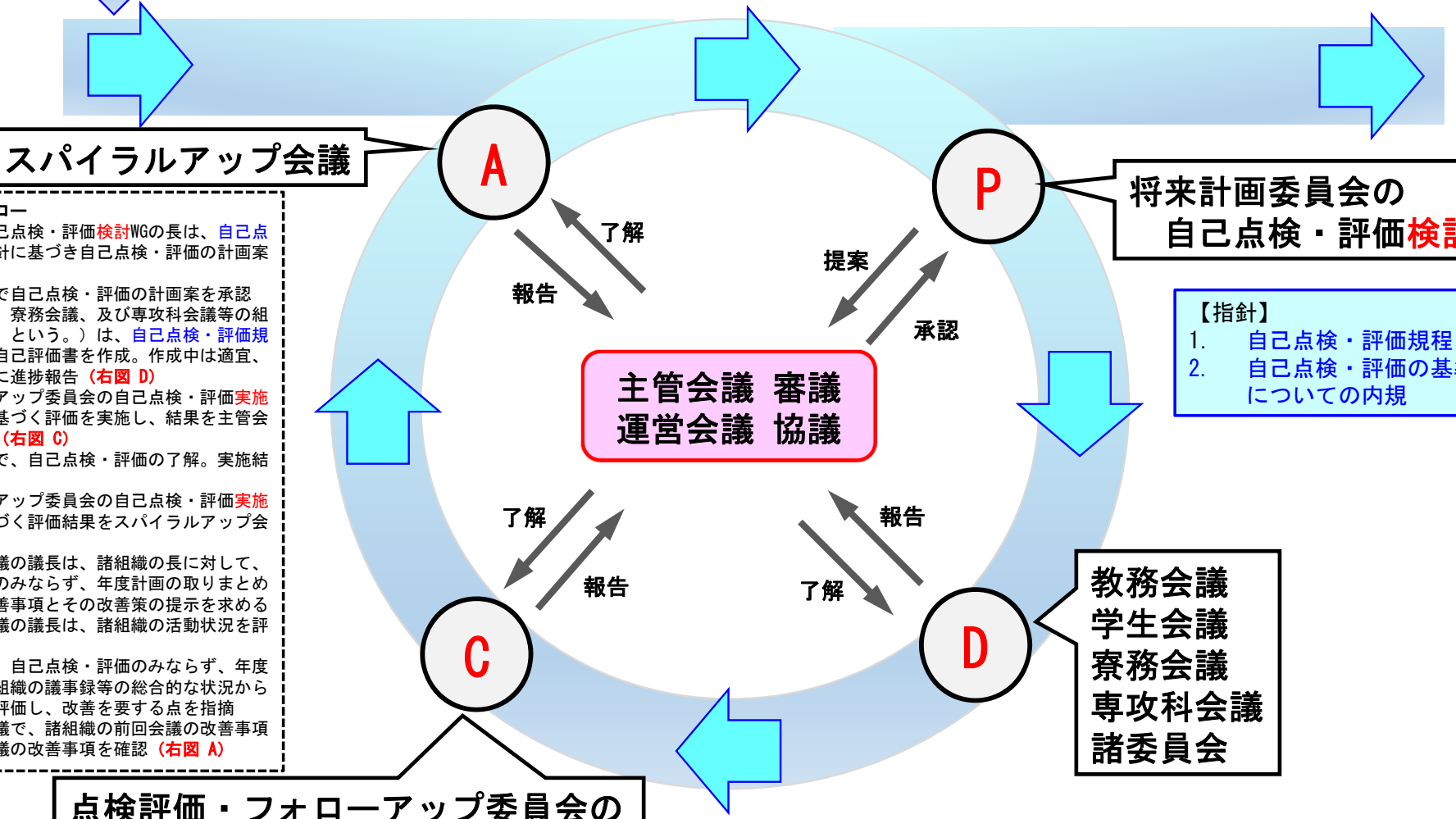
出典「平成31年度第1回点検評価・フォローアップ委員会議事要旨抜粋」

自己点検・評価の実施体制PDCAを示す図

資料1-1-1-(2)-01

岐阜高専の自己点検・評価のスパイラルアップ

外部評価
- 機関別認証評価
- 参与会



自己点検・評価の実施フロー

1. 将来計画委員会の自己点検・評価検討WGの長は、自己点検・評価規程等の指針に基づき自己点検・評価の計画案を提案（右図 P）
2. 主管会議・運営会議で自己点検・評価の計画案を承認
3. 教務会議、学生会議、寮務会議、及び専攻科会議等の組織（以下、「諸組織」という。）は、自己点検・評価規程等の指針に基づき自己評価書を作成。作成中は適宜、主管会議・運営会議に進捗報告（右図 D）
4. 点検評価・フォローアップ委員会の自己点検・評価実施WGで、自己評価書に基づく評価を実施し、結果を主管会議・運営会議に報告（右図 C）
5. 主管会議・運営会議で、自己点検・評価の了解。実施結果の公開
6. 点検評価・フォローアップ委員会の自己点検・評価実施WGは自己評価書に基づく評価結果をスパイラルアップ会議に報告
7. スパイラルアップ会議の議長は、諸組織の長に対して、自己点検・評価結果のみならず、年度計画の取りまとめ結果をも勘案した改善事項とその改善策の提示を求める
8. スパイラルアップ会議の議長は、諸組織の活動状況を評価する評価者を指名
9. 指名された評価者は、自己点検・評価のみならず、年度計画の結果、及び諸組織の議事録等の総合的な状況から諸組織の活動状況を評価し、改善を要する点を指摘
10. スパイラルアップ会議で、諸組織の前回会議の改善事項の達成状況と今回会議の改善事項を確認（右図 A）

出典　臨時運営会議資料　令和2年3月23日開催

資料1-1-1-(2)-02

岐阜工業高等専門学校主管会議規程

制定　平成 16 年 2 月 4 日
学 校 規 則 第 1 号

（設置）
第１条　岐阜工業高等専門学校（以下「本校」という。）に，主管会議を置く。
（審議事項）
第２条　主管会議は，次に掲げる事項を審議する。
一　本校学則その他重要な規則の制定，改廃に関する事項
二　中期計画・年度計画の策定に関する事項
三　組織，施設の設置改廃に関する事項
四　財務に関する事項
五　評価に関する事項
六　入学，進級及び卒業その他学生の身分に関する事項
七　教務に関する事項
八　学生支援に関する事項
九　その他本校の運営に関する事項
（組織）
第３条　主管会議は，次の各号に掲げる者をもって組織する。
一　校長
二　教務主事，研究主事，学生主事及び寮務主事
三　事務部長
２　構成員に事故があるときは，主管会議の議を経て代理の者を出席させることができる。
３　校長が必要と認めるときは，主管会議に構成員以外の者の出席を求め，説明又は意見を聴くことができる。
（会議の招集及び議長）
第４条　主管会議は，校長が招集し，その議長となる。
２　校長に事故があるときは，教務主事が議長の職務を代行する。
（庶務）
第５条　主管会議の庶務は，総務課において処理する。
附　則
この規程は，平成 16 年 4 月 1 日から施行する。
附　則（平成 19 年学校規則第 13 号）
この規程は，平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

出典　岐阜高専学内向けWebサイト－事務部－規則

資料1-1-1-(2)-03

岐阜工業高等専門学校運営会議規程

制定　平成 16 年 3 月 4 日
学 校 規 則 第　2 号

（設置）
第１条　岐阜工業高等専門学校（以下「本校」という。）に，運営会議を置く。
（目的）
第２条　運営会議は，本校の運営事項等に関し，協議することを目的とする。
（組織）
第３条　運営会議は，次の各号に掲げる者をもって組織する。
一　主管会議構成員
二　学科長
三　専攻科長
四　総務課長及び学生課長
五　その他校長が必要と認めた者
２　校長が必要と認めたときは，運営会議に構成員以外の者の出席を求め，説明又は意見を聴くことができる。
（会議の招集及び議長）
第４条　運営会議は，校長が招集し，その議長となる。
２　校長に事故があるときは，教務主事がその職務を代行する。
（庶務）
第５条　運営会議の庶務は，総務課において処理する。

附　則

この規程は，平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附　則（平成 19 年学校規則第 14 号）

この規程は，平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附　則（平成２１年学校規則第４号）

この規程は，平成２１年４月１日から施行する。

出典　岐阜高専学内向けWebサイト－事務部－規則

資料1-1-1-(2)-04

岐阜工業高等専門学校将来計画委員会規程

制定　平成16年5月12日
学 校 規 則 第　25 号

（設置）
第１条　岐阜工業高等専門学校（以下「本校」という。）に，将来計画委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（審議事項）
第２条　委員会は，本校の持続的，かつ，継続的な発展を図るため，次の各号に掲げる事項に関する中長期的な将来計画について調査審議する。
一　教育研究上の基本となる組織・運営に関すること。
二　教育課程に関すること。
三　財務に関すること。
四　施設及び設備に関すること。
五　教員組織に関すること。
六　事務組織に関すること。
七　その他本校の将来計画に関すること。
（組織）
第３条　委員会は，次に掲げる者をもって組織する。
一　校長，教務主事，研究主事，学生主事及び寮務主事
二　学科長，専攻科長及び点検評価・フォローアップ委員長
三　事務部長
四　総務課長及び学生課長
五　その他委員長が指名した者　若干名
（任期）
第４条　前条第５号の委員の任期は，２年とする。ただし，再任を妨げない。
２　前項の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。
（委員長及び副委員長）
第５条　委員会に委員長及び副委員長を置き，それぞれ教務主事及び研究主事をもって充てる。
２　委員長は，委員会を招集し，その議長となる。
３　副委員長は，委員長を補佐し，委員長に事故があるときは，その職務を代行する。
（委員以外の者の出席）
第６条　委員会が必要と認めたときは，委員会に委員以外の者の出席を求め，説明又は意見を聴くことができる。
（ワーキンググループ）
第７条　必要に応じ，委員会に，次のワーキンググループを置くことができる。
一　中期計画ワーキンググループ
二　組織・財政ワーキンググループ
三　自己点検・評価検討ワーキンググループ
（庶務）
第８条　委員会の庶務は，総務課において処理する。
（雑則）
第９条　この規程に定めるもののほか，委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。
附　則
１　この規程は，平成16年5月12日から施行し，同年４月１日から適用する。

２　この規程の施行後，最初に委嘱される第３条第５号の委員の任期は，第４条第１項本文の規定にかかわらず，平成 18 年 3 月 31 日までとする。

附　則（平成 19 年学校規則第 18 号）

この規程は，平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附　則（平成 24 年学校規則第 13 号）

この規程は，平成 24 年 10 月 29 日から施行する。

附　則（平成 25 年学校規則第 3 号）

この規程は，平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

出典　岐阜高専学内向けWebサイト－事務部－規則

資料1-1-1-(2)-05

岐阜工業高等専門学校点検評価・フォローアップ委員会規程

制定　平成16年3月4日
学 校 規 則 第　8 号

（設置）
第１条　岐阜工業高等専門学校学則（以下「学則」という。）第２条第３項の規定に基づき，岐阜工業高等専門学校（以下「本校」という。）に，点検評価・フォローアップ委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（審議事項）
第２条　委員会は，次の各号に掲げる事項について審議する。
一　中期計画及び年度計画の評価に関すること。
二　認証評価に関すること。
三　自己点検・評価の基本方針に関すること。
四　自己点検・評価結果の公表に関すること。
五　学習・教育目標の達成度及び社会や学生の要望に基づく点検・改善並びに継続的な向上に関すること。
六　その他前各号に関連する必要な事項
（組織）
第３条　委員会は，次の各号に掲げる者をもって組織する。
一　校長が委員長として指名した者　１名
二　寮務主事
三　教務会議，専攻科会議，学生会議及び寮務会議の各委員のうちから選出された者　各１名
四　学則第７条第１項に規定する学科から選出された教員　各教授１名及び准教授，講師又は助教１名
五　一般科目から選出された教員　教授１名及び准教授，講師又は助教１名
六　事務部長
七　総務課長及び学生課長
八　委員長が指名する者　若干名
（任期）
第４条　前条第３号から第５号まで及び第８号に掲げる委員の任期は，１年とする。ただし，再任を妨げない。
２　前項の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。
（委員長及び副委員長）
第５条　委員会に委員長及び副委員長を置き，それぞれ校長が指名した者及び寮務主事をもって充てる。
２　委員長は，委員会を招集し，その議長となる。
３　副委員長は，委員長を補佐し，委員長に事故があるときはその組織を代行する。
（委員以外の者の出席）
第６条　委員長が必要と認めたときは，委員会に委員以外の者の出席を求め，説明又は意見を聴くことができる。
（ワーキンググループ）
第７条　必要に応じ，委員会に，次のワーキンググループを置くことができる。
一　中期計画ワーキンググループ
二　自己点検・評価実施ワーキンググループ

三　学習評価フォローアップワーキンググループ

（庶務）

第８条　委員会の庶務は，総務課において処理する。

附　則

１　この規程は，平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

２　岐阜工業高等専門学校自己点検・評価検討委員会規程（平成４年１月２９日制定），岐阜工業高等専門学校自己点検・評価実施委員会要項（平成５年１月２９日制定），岐阜工業高等専門学校ＪＡＢＥＥ等検討委員会規程（平成１４年１月９日制定）及び岐阜工業高等専門学校学習評価フォロー・アップ委員会規程（平成１４年１月９日制定）は，廃止する。

附　則（平成 19 年学校規則第 24 号）

この規程は，平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附　則（平成20年学校規則第9号）

この規程は，平成 20 年 3 月 6 日から施行する。

附　則（平成 23 年学校規則第 11 号）

この規程は，平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

附　則（平成 24 年学校規則第 2 号）

この規程は，平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

附　則（平成 25 年学校規則第 25 号）

この規程は，平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附　則（平成 31 年学校規則第 7 号）

この規程は，平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

出典　岐阜高専学内向けWebサイトー事務部ー規則

資料1-1-1-(2)-06

岐阜工業高等専門学校自己点検・評価実施ワーキンググループ内規

制定　平成２０年３月６日

（設置）

第１条　岐阜工業高等専門学校点検評価・フォローアップ委員会規程（平成１６年学校規則第８号，以下「規程」という。）第７条第２号の規定に基づき，自己点検・評価実施ワーキンググループ（以下「ワーキンググループ」という。）に関する必要な事項を定める。

（審議事項）

第２条　ワーキンググループは，次の各号に掲げる事項を審議する。

一　認証評価に関すること。

二　自己点検・評価の基本方針に関すること。

三　自己点検・評価結果の公表に関すること。

四　学習・教育目標の達成度及び社会や学生の要望に基づく点検・改善並びに継続的な向上に関すること。

五　その他自己点検・評価に関すること。

（組織）

第３条　ワーキンググループは，次の各号に掲げる委員をもって組織する。

一　点検評価・フォローアップ委員会委員長

二　規程第３条第３号に規定により選出された者　各１名

三　規程第３条第４号に規定により選出された者　各１名

四　規程第３条第５号に規定により選出された者　各１名

五　学生課長

六　ワーキンググループ長が指名する者　若干名

（ワーキンググループ長）

第４条　ワーキンググループにワーキンググループ長を置き，点検評価・フォローアップ委員会委員長をもって充てる。

２　ワーキンググループ長は，ワーキンググループを招集し，その議長となる。

（庶務）

第５条　ワーキンググループの庶務は，総務課において処理する。

附　則

この内規は，平成２０年３月６日から施行する。

附　則

この内規は，平成２５年４月１日から施行する。

附　則

この内規は，平成３１年４月１日から施行する。

出典　岐阜高専学内向けWebサイトー事務部ー規則

資料1-1-1-(2)-07

岐阜工業高等専門学校スパイラルアップ会議規程

制定　平成１７年１月６日
学　校　規　則　第　２　号

（設置）
第１条　岐阜工業高等専門学校（以下「本校」という。）に，スパイラルアップ会議を置く。
（審議事項）
第２条　スパイラルアップ会議は，次の各号に掲げる事項を調査審議する。
一　教育点検システムに関すること。
二　学校運営の点検及び改善に関すること。
三　各会議・委員会等からの活動報告書の点検評価及び改善に関すること。
四　外部評価に対する点検評価及び改善状況の報告に関すること。
五　自己点検結果に基づく継続的改善に関すること。
六　その他点検評価に関すること。
（組織）
第３条　スパイラルアップ会議は，次の各号に掲げる者をもって組織する。
一　校長
二　教務主事，研究主事，学生主事及び寮務主事
三　専攻科長
四　ＪＡＢＥＥプログラム責任者
五　点検評価･フォローアップ委員会委員長
六　事務部長
七　総務課長及び学生課長
八　その他校長が必要と認めた者
（任期）
第４条　前条第８号の委員の任期は，１年とする。ただし，再任を妨げない。
２　前項の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。
（会議の招集及び議長）
第５条　スパイラルアップ会議は，校長が招集し，その議長となる。
２　校長に事故があるときは，教務主事がその職務を代行する。
（委員以外の者の出席）
第６条　校長が必要と認めたときは，スパイラルアップ会議に構成員以外の者の出席を求め，説明又は意見を聴くことができる。
（庶務）
第７条　スパイラルアップ会議の庶務は，総務課において処理する。

附　則

１　この規程は，平成 17 年 1 月 6 日から施行する。
２　この規程の施行後，最初に委嘱される第３条第８号の委員の任期は，第４条第１項の規定にかかわらず，平成 17 年 3 月 31 日までとする。

附　則（平成 19 年学校規則第 16 号）

この規程は，平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附　則（平成 20 年学校規則第 8 号）

この規程は，平成 20 年 3 月 6 日から施行する。

出典　岐阜高専学内向けWebサイト－事務部－規則

資料1-1-1-(3)-01

岐阜工業高等専門学校における自己点検・評価の基準と項目についての内規

制定 平成３０年９月１３日

（趣旨）

第１条 岐阜工業高等専門学校（以下「本校」という。）自己点検・評価規程第５条における自己点検・評価の基準と項目については，この内規の定めるところによる。

（自己点検・評価の基準と項目）

第２条 本校の自己点検・評価に関わる基準と項目は，次のとおりとする。（　）内の役職名は各項目の主管者。

基準１ 教育の内部質保証システム	
項目１	内部保証システムが確立され，適切に機能しているか。（点検評価・フォローアップ委員長）
項目２	本校の目的を踏まえて，下記の３つの方針が定められているか。（教務主事） 方針１ ディプロマ・ポリシー（DP）：準学士課程の卒業と学士課程の修了の認定に関する方針 方針２ カリキュラム・ポリシー（CP）：教育課程の編成及び実施に関する方針 方針３ アドミッション・ポリシー（AP）：入学者の受入れに関する方針
項目３	本校の目的と項目２の３つの方針が，社会の状況等の変化に応じて適宜見直されているか。（教務主事）
基準２ 教育組織及び教員・教育支援者等	
項目１	本校の教育に係る基本的な組織構成は，本校の目的に照らして適切なものであるか。また，教育活動を展開する上で必要な運営体制が適切に整備され，機能しているか。（教務主事）
項目２	教育活動を展開するために必要な教員が適切に配置されているか。（教務主事）
項目３	全教員の教育研究活動に対して，定期的な評価が行われているか。また，教員の採用及び昇格等に際して明確な基準や規程が定められて，これに従い適切な運用がなされているか。（校長・研究主事）
項目４	教員の教育能力の向上を図る（FD）活動は適切に行われているか。また，教育活動を展開するために必要な教育支援者等が適切に配置され，資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。（教務主事）
基準３ 学習環境及び学生支援等	
項目１	本校の教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備が整備され，適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されているか。また，ICT 環境が適切に整備され，図書・学術雑誌・視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集・整理されているか。（教務主事・研究主事）
項目２	教育を実施する上での履修指導，学生の自主的学習の相談・助言等の学習支援体制や学生の生活や経済面並びに就職等に関する指導・相談・助言等を行う体制が整備され機能しているか。また，学生の課外活動に対する支援体制等が整備され機能しているか。（学生主事・寮務主事）
基準４ 財務基盤及び管理運営	
項目１	本校の目的を達成するために，教育研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有しており，活動の財務上の基礎として，適切な収支に係る計画等が策定され履行されているか。また，学校の財務に係る監査等が適正に実施されているか。（総務課長）
項目２	本校の目的を達成するために必要な管理運営体制及び事務組織が整備され，機能しているか。また，外部の資源を積極的に活用しているか。さらに SD は積極的に行われているか。（事務部長）
項目３	本校の教育研究活動等の状況やその活動の成果に関する情報を広く社会に提供しているか。（研究主事）

基準５　準学士課程の教育課程・教育方法（教務主事）	
項目１	準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき，教育課程が体系的に編成されており，その内容，水準等は適切であるか。
項目２	準学士課程の教育課程を展開するにふさわしい授業形態，学習指導法等が整備されているか。
項目３	準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）並びに卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき，成績評価・単位認定及び卒業認定が適切に行われており，有効なものとなっているか。
基準６　準学士課程の学生の受入れ（教務主事）	
項目１	入学者の選抜は，入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な方法で実施され，機能しているか。また，実入学者数は，入学定員と比較して適正な数となっているか。（教務主事）
基準７　準学士課程の学習・教育の成果（教務主事）	
項目１	卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に照らして，学習・教育の成果は認められるか。
基準８　専攻科課程の教育活動の状況（専攻科長）	
項目１	専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき，教育課程が体系的に編成され，専攻科課程としてふさわしい授業形態，学習指導法等が採用され，適切な研究指導等 が行われているか。また，専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）並びに修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき，成績評価・単位認定及び修了認定が適切に行われており，有効なものとなっているか。
項目２	専攻科課程としての入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切に運用されており，適正な数の入学状況であるか。
項目３	修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に照らして，学習・教育・研究の成果が認められるか。

附　則

この内規は，平成３０年９月１３日から施行し，平成３０年４月１日から適用する。

出典　岐阜高専学内向けWebサイト－事務部－規則

収集・蓄積状況がわかる資料

資料1-1-2-(1)-01

令和元年度学習評価フォローアップ点検実施要領

点検評価・フォローアップ委員会
（学習評価フォローアップ WG）

（１）目的

学習評価フォローアップ点検は，本校におけるファカルティ・ディベロップメント活動（FD 活動）の一つとして教育改善活動実施規程に基づくものであり，主として学生による授業アンケートの実施とそれに基づく授業評価及び改善を行うことを目的とする。

（２）授業アンケートの実施時期と回数

前期末及び後期末のフォローアップ点検期間に実施する。通年科目は 2 回，半期科目は 1 回実施する。希望により，半期科目は 2 回実施しても良い。

（３）授業アンケート内容

授業アンケートは，学生と教員による相互評価を基本とし，以下の 6 個の点検項目からなる。7 個目の点検項目は，例年にはない全学的に共通の設問項目を設定する場合に用いる。評価項目は 5 段階評価とする。記入内容を学生本人に確認することがあることを説明するとともに，成績には影響しないことを明言する。なお，卒業研究，特別研究，各種実験・実習等，科目によって下記の点検項目に合わないものについては別の形式で実施してよい。また科目の内容により，下記の点検項目のうち，回答の要・不要を担当教員が判断することを可とする。

No.	学生	アンケートの設問項目	教員
1	①学生自身の自己点検・評価	熱心に授業を受けたか	学生に対する平均的な点検・評価および達成度評価
2		授業内容をよく理解できたか	
3		総合的に授業の目標を達成したか	
4	②授業に対する点検・評価	総合的に良い授業であったか	授業に対する自己点検・評価
5	③教員に対する点検・評価	学生への対応･配慮は適切か	教員自身の自己点検・評価
6		改善点が示された場合，それは改善されたと思うか（※2 回目に実施）	
7	能動的に学習したか（令和元年度も左記の設問により全学的なアンケートを実施）		

※項目 6 については，前期の評価（1 回目，半期科目は前年度の評価）により，改善点を学生に示した場合に，2 回目のアンケートでご使用下さい。改善点がない場合は，項目 6 はアンケートを実施する必要はありません。

（４）授業アンケート用紙

授業アンケート用紙は全学年，両面ともに記名方式とし，学生氏名及び名列番号を書く欄を表面に設けている。裏面は自由記述欄とする。授業アンケート用紙の作成及び準備は教務係とする。

（５）授業アンケートの周知とサポート

授業アンケートの趣旨等について説明文章（記入要領）を用意し，学生への周知については学級担任から特活等を利用して説明して頂く。非常勤講師への周知については文章で依頼する（ともに文章は点検評価・フォローアップ委員長作成）。非常勤講師に対するサポートは，原則，各学科のサポート教員が行い，必要に応じて点検評価・フォローアップ委員（学習評価フォローアップ WG 構成員）がフォローする。事務的な処理（文章の印刷・配布等）については教務係が行う。

（６）授業アンケートの集計処理

アンケート集計処理方法とその作業要員については，別途，定める。

（７）学習評価フォローアップ点検手順

以下，説明に際して下記の略称を用いる。

・各科目担当教員 → 教員（非常勤講師を含む）
・点検評価・フォローアップ委員 → FU 委員
・点検評価・フォローアップ委員長 → FU 委員長
・授業評価・達成度評価報告書&フィードバック報告書 → フィードバック報告書

項目	対象	内容	日程
1	教員	【通年科目】第 1 回目の授業でシラバスを学生に提示。学習・教育目標の評価方法・評価基準，成績の評価方法・評価基準等を説明（4 月教員会議で教務主事依頼済み） 【半期科目】前年度と同じ科目（担当）の場合は，上記シラバスの提示・説明とともに，前年度の授業アンケート結果から改善案を説明する。今年度の授業で改善案に基づいた授業を実践する。前年度と異なる場合は必要なし（後期科目は項目 13 へ飛ぶ）	4 月初旬 or 10 月初旬
2	FU 委員長	授業アンケート用紙の差し込み印刷用の前期科目マスターファイル整備依頼。 全教員へ**前期**授業アンケートの実施をメールで依頼，フィードバック報告書（教員用の授業アンケート，Excel ファイル）を送付。	専攻科： 7/26（金） 本科： 9/19（木） まで
3	教務係	学生用の**前期**授業アンケート用紙の準備（クラス，実施時期，科目名等を差込み印刷）。クラス人数分＋予備 3 枚と学級担任用説明文書をビニル袋に入れ，各学級担任・専攻科担当へ配布。 非常勤講師への依頼文書の配布とフィードバック報告書（用紙）の準備	
4	学級担任・ 専攻科担当	授業アンケート用紙を学生に配布。可能であれば，授業アンケートの趣旨等を説明するとともに，アンケート用紙の各自保管について注意を促す。	前期 15 回科目 授業初日
5	教員 （※1）	【通年科目】担当のフォローアップ授業にて学生による授業アンケート（**中間**授業評価・達成度自己点検評価）を実施。授業終了直後フィードバック報告書の第 1 回評価欄に教員による授業アンケート（学生の**中間**達成度評価・授業自己点検評価）を入力。Excel ファイルを所属学科の FU 委員へ提出。 【前期終了科目】前年度と同じ担当者である場合は，前年度の授業アンケート結果を第 1 回評価欄に記入し，今年度の授業アンケートを第 2 回評価欄に記入。改善結果報告を記載したフィードバック報告書を提出。前年度と異なる場合は，今年度の評価を第 1 回評価欄に記入するのみでよい。	専攻科・ 本科とも： 10/4（金） まで
6	FU 委員	各科の全科目分のフィードバック報告書が揃ったらフォローアップファイルサーバへ提出（提出先のフォルダは別途，指定する）	
7	学級担任	クラス人数分のアンケート用紙を回収，枚数や裏面の指名記載を確認し名列順にした後（4 年生の先取り科目用は最後），ビニル袋に入れ印刷室内コンテナに投函	
8		アンケート集計処理	10/9（水）開始 10/11（金）終了
9	教務係	集計処理完了後，各科 FU 委員へ連絡。A4 マークシート用紙は該当クラスの学級担任が所属する学科 FU 委員へ返却	アンケート集計処理後すぐに
10	FU 委員	集計処理されたアンケート結果とフィードバック報告書（ともに 1 つの Excel ファイル）をフォローアップサーバよりダウンロードし，学科教員へ配布。必要に応じて教員個別に改善指示する。A4 マークシート用紙は適宜処理する。自由記述欄に記載の場合は該当科目教員へ連絡する。	
11	教員	【通年科目】学生による授業アンケート結果より，評価の悪い事項について改善案を検討する。後半の授業において，評価の悪かった事項を学生に明らかにし，どのような手法で改善するかを約束する。さらに，授業参観における教員あるいは保護者による授業評価等を授業に取り入れて授業改善する。後半の授業で改善案に基づいた授業を実践する。なお，フィードバック報告書は後期フォローアップまで保存しておく。 【前期終了科目】学期末の授業アンケートなので次年度以降に反映させる。	
12	教員 （※1）	**前期終了科目**のフォローアップ点検資料（成績評価資料）の作成及び提出（ファイリング）。フォローアップ点検資料については，本実施要領（８）を参照されたい	10 月末 まで
13	FU 委員長	授業アンケート用紙の差し込み印刷用の後期科目マスターファイル整備依頼。 全教員へ**後期**授業アンケートの実施をメールで依頼。その他は項目 2 と同様	2/5（水） まで
14	教務係	学生用の**後期**授業アンケート用紙の準備。その他は項目 3 と同様	
15	学級担任・ 専攻科担当	項目 4 と同様	後期 15 回目授業 初日
16	教員 （※1）	【通年科目】担当のフォローアップ授業にて学生による授業アンケート（授業評価・**最終**達成度自己点検評価）を実施。授業終了直後，前期で使用したフィードバック報告書の第 2 回評価欄に教員による授業アンケート（学生の**最終**達成度評価・	3/4（水） まで

		授業自己点検評価）を入力。Excel ファイルを所属学科の FU 委員へ提出 【後期終了科目】項目 5 の下段と同様	
17	FU 委員	項目 6 と同様	
18	学級担任	項目 7 と同様	
19		アンケート集計処理	3/9（月）開始 3/11（水）終了
20	教務係	項目 9 と同様	3/25（水） まで
21	FU 委員	項目 10 と同様（ただし教員個別の改善指示は不要）	
22	教員 （※1）	**通年科目**及び**後期終了科目**のフォローアップ点検資料（成績評価資料）の作成及び提出（ファイリング）。フォローアップ点検資料については，本実施要領（８）を参照されたい	
23	FU 委員	全ての科目において，以下の①～⑤を点検・評価する ①フォローアップ点検資料が全て揃っているか ②試験問題，解答例，採点基準，学生の試験答案等を点検し，評価方法，評価基準が学校及び学科で定めたものと逸脱していないか（過年度と比較） ③シラバスどおりに成績評価をしているか ④フィードバック（改善案の提示）をしているか ⑤学生の授業評価と教員の自己点検評価に大きなずれがないか	3/26（木） 以降， 面談開始
24	教員 ＋ FU 委員	授業担当教員と面談を実施し，以下の①～②を実施する ①点検・評価結果を説明し，お互い確認する ②問題点を明らかにし，次年度への改善案を話し合う なお，教員面談は令和元年度 FU 委員 2 名が協力して実施する	
25	教員	改善事項があれば，次年度のシラバスを修正し，授業改善をはかる	
26	FU 委員	面談結果・改善結果を教員面談報告書にまとめ，FU 委員長に報告する	5 月末日
27	FU 委員長	①提出された教員面談報告書により成績評価資料の収集状況や教員個人の改善状況等を点検し，大きな問題あるいは学科間の調整を要するような事象が出れば改善を指示する ②学生による授業アンケート結果として 1) 学科別，2) 学年別，3) クラス別の平均値を算出し，ホームページで公開する。 ③以上の点検・評価及び改善の実施状況についてスパイラルアップ会議に報告する（教育改善活動実施規程第 4 条第 4 項により）	

※1 非常勤講師で対応が取りにくい場合は，適宜，サポート教員が事前に依頼するなどして下さい。

（８）フォローアップ点検資料

本科，専攻科とも以下の①～⑨までを科目ごとにファイリングし，令和元年度のフォローアップ点検資料とする。なお，令和元年度は以下の基準により成績評価資料等を保存することとする。

令和元年度：認証評価基準による保存

なお，フォローアップ点検時（年度末）には過去 4 年分のフォローアップ点検資料を参照することがあるため，平成 27 年度～平成 30 年度の資料もそのまま残しておく。ただし，今年度のフォローアップ点検時までは，過去 5 年分のフォローアップ点検資料を残しておくこと。（常時 5 年分をファイリングすることを原則とする）なお，平成 26 年度分のフォローアップ点検資料は必ずしも必要としないが，廃棄していない場合には令和元年度のフォローアップ点検時までは保存しておくこと。

平成 30 年度：認証評価基準による保存
平成 29 年度：JABEE 基準による保存
平成 28 年度：JABEE 基準による保存
平成 27 年度：JABEE 基準による保存
平成 26 年度：JABEE 基準による保存

ファイリングする際には，最新年度のものを手前に挟むこと。また年度ごとにインデックス等を挟むなどして閲覧しやすいようにすること。

フォローアップ点検資料のファイリング項目一覧

① ファイリングの目次（認証評価審査時と同じ書式）
② シラバス
③ 成績評価資料別得点一覧表（教員手帳のコピーも可）
④ 定期試験の模範解答・配点（各定期試験の最高点の学生の答案で代用してよい）
⑤ 各定期試験の最高点の学生の答案
⑥ 最終（学年末）成績評価８，７および６の学生の代表的な成績評価資料（定期試験の答案，レポート等）
・成績評価対象資料のうち，最終（学年末）成績評価８，７および６の資料を，履歴を追って保存する。
・「代表的な」とは各評価のなかでも最低ランクの３ないし４件程度が望ましい。１件しかない場合は１件でよい。
・履歴を追うことが困難な場合は，代表的な答案（各定期試験答案の合格最低ランク）を複数残す。
なければ１件でも良い。
⑦ 教室外学修の資料（学修単位の科目及び専攻科の科目の場合）
・基本はシラバスに記載された各回の教室外学修の内容を確認できる資料（演習プリントやレポート等の提出物あるいは小テスト答案や定期試験答案など）で直接学生が記述したものを１件で良い
・直接，成績評価に反映している場合で，成績評価の重みが大きいもの（目安は総得点数の 20%を超えるもの）は，上記⑥として保存して下さい。成績評価の重みが小さいもの（目安は総得点数の 20%以下）は各回の教室外学修の内容を確認できる資料を１件残す。誰のものでも良いが，白紙のものは避けること
・提出物がない場合は，該当する教室外学修の内容を確認できる定期試験答案（該当箇所がわかるように答案内にメモ書きして下さい），もしくはその旨を記述した別紙を用意してファイリングする
⑧ 授業評価・達成度評価報告書＆フィードバック報告書
⑨ 仮進級者の単位取得の追加認定に関する成績評価資料（追認を実施した年度にファイリングする）
・令和元年度単位修得申請者一覧及び成績提出用紙（仮進級）の写し
・追加認定に関する成績評価資料（追認試験答案や課題レポート等）

その他

① ファイリングした資料の保存場所は科目担当教員の所属する学科にて保存してよい。ただし，専門学科教員が他学科で授業担当する場合（専門基礎グループの科目など）は，該当科目の学科の FU 委員の下で教員面談を受けること。なお，専攻科専門科目で学科を横断する科目については，責任教員（非常勤科目の場合はサポート教員）の所属する学科でフォローアップ点検および資料の保存をすること

② ファイリングしない他の成績評価資料（「成績評価根拠資料」という）の保存方法および保存場所は各学科で対応することとするが，保存期間は岐阜工業高等専門学校文書管理規程により５年とする。

③ 以上のフォローアップ点検資料の保存ガイドラインは最低基準のものであり，これ以上の措置を各学科独自で講ずることは差支えない

④ 授業評価・達成度評価報告書＆フィードバック報告書及び教員面談報告書の最新版は，下記，点検評価・フォローアップ掲示板にあります。
http://www.cc.gifu-nct.ac.jp/gakunaiyou/followup/R01bun/indices/06gakusyuWG.html

出典　平成31年度第1回点検評価・フォローアップ委員会資料　4月19日開催

収集・蓄積の担当組織がわかる資料

資料1-1-2-(1)-02

岐阜工業高等専門学校学習評価フォローアップワーキンググループ内規

制定　平成２０年３月６日

（設置）

第１条　岐阜工業高等専門学校点検評価・フォローアップ委員会規程（平成１６年学校規則第８号，以下「規程」という。）第７条第３号の規定に基づき，学習評価フォローアップワーキンググループ（以下「ワーキンググループ」という。）に関する必要な事項を定める。

（審議事項）

第２条　ワーキンググループは，次の各号に掲げる事項を審議する。

一　学習評価フォローアップ点検に関すること。

二　学習評価フォローアップ実施要領に関すること。

三　教育プログラムの点検に関すること。

四　その他学習評価フォローアップに関すること。

（組織）

第３条　ワーキンググループは，次の各号に掲げる委員をもって組織する。

一　点検評価・フォローアップ委員会委員長

二　教務会議及び専攻科会議で選出された者　各１名

三　規程第３条第４号に規定により選出された者　各１名

四　規程第３条第５号に規定により選出された者　各１名

五　学生課長

六　ワーキンググループ長が指名する者　若干名

（ワーキンググループ長）

第４条　ワーキンググループにワーキンググループ長を置き，点検評価・フォローアップ委員会委員長をもって充てる。

２　ワーキンググループ長は，ワーキンググループを招集し，その議長となる。

（庶務）

第５条　ワーキンググループの庶務は，総務課において処理する。

附　則

この内規は，平成２０年３月６日から施行する。

附　則

この内規は，平成２５年４月１日から施行する。

附　則

この内規は，平成３１年４月１日から施行する。

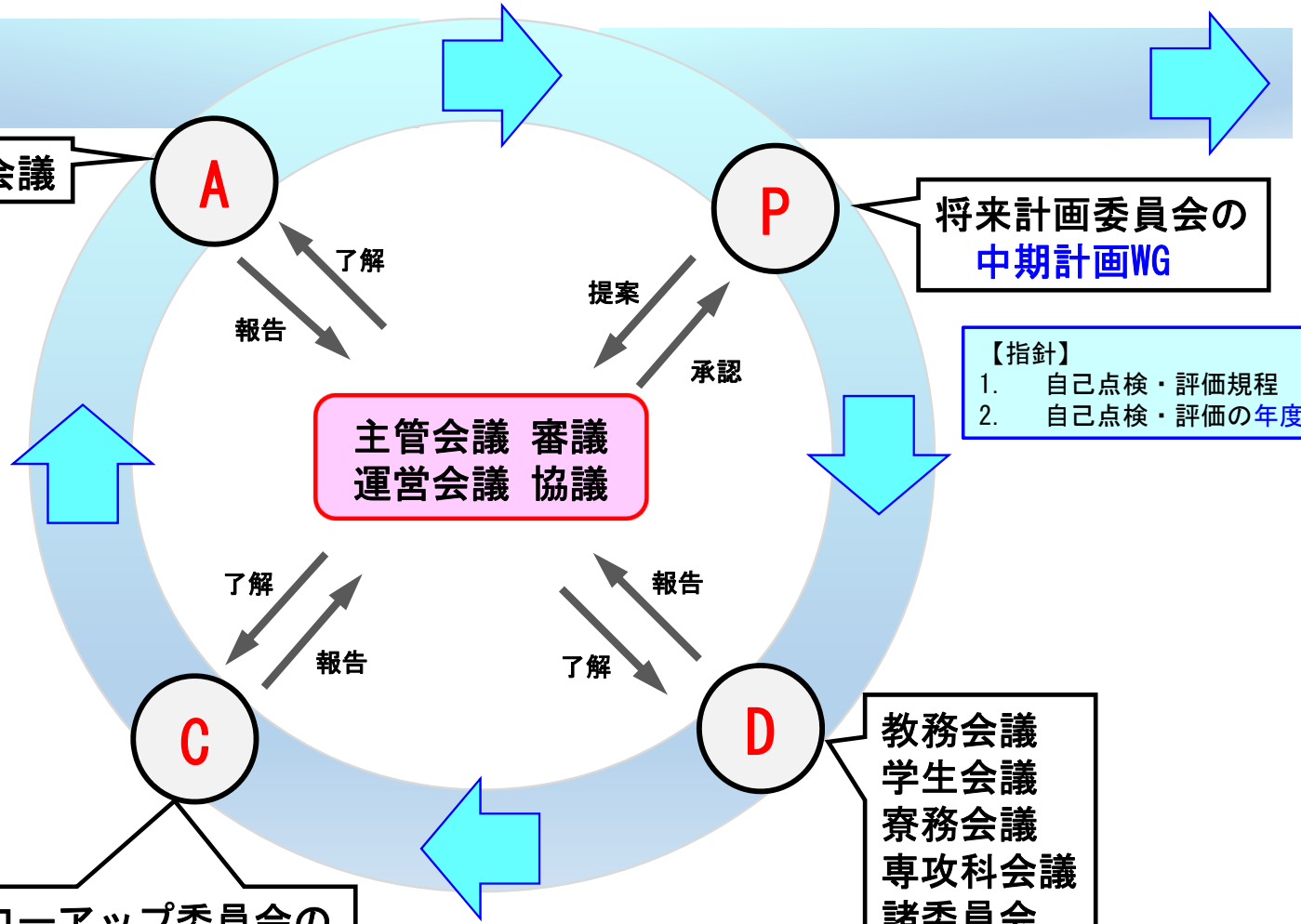
出典　岐阜高専学内向けWebサイト－事務部－規則

毎年実施されている年度計画のPDCAの図

資料1-1-2-(2)-01

岐阜高専の年度計画のスパイラルアップ

外部評価
- 機関別認証評価
- 参与会



スパイラルアップ会議

年度計画の実施フロー
1. 将来計画委員会の中期計画WGの長は、自己点検・評価規程等に基づき、年度計画の実施状況の取りまとめ計画を提案（右図 P）
2. 主管会議・運営会議で年度計画の取りまとめ計画を承認
3. 教務会議、学生会議、寮務会議、及び専攻科会議等の組織（以下、「諸組織」という。）は、年度計画の実施の取りまとめを作成。作成中は適宜、主管会議・運営会議に進捗報告（右図 D）
4. 点検評価・フォローアップ委員会の中期計画WGで、年度計画のとりまとめ結果を評価し、主管会議・運営会議に報告（右図 C）
5. 主管会議・運営会議で、年度計画のとりまとめ案の了解し、実施結果の公開
6. 点検評価・フォローアップ委員会の中期計画WGは、取りまとめた年度計画をスパイラルアップ会議に報告
7. スパイラルアップ会議の議長は、諸組織の長に対して、年度計画の取りまとめ結果から改善事項とその改善策の提示を求める
8. スパイラルアップ会議の議長は、諸組織の活動状況を評価する評価者を指名
9. 指名された評価者は、年度計画の取りまとめ結果、及び諸組織の議事録等の総合的な状況から諸組織の活動状況を評価し、改善を要する点を指摘
10. スパイラルアップ会議で、諸組織の前回会議の改善事項の達成状況と今回会議の改善事項を確認（右図 A）
11. 諸組織は次年度の年度計画を策定（右図 P）

将来計画委員会の
中期計画WG

【指針】
1. 自己点検・評価規程
2. 自己点検・評価の年度別計画

教務会議
学生会議
寮務会議
専攻科会議
諸委員会

点検評価・フォローアップ委員会の
中期計画WG

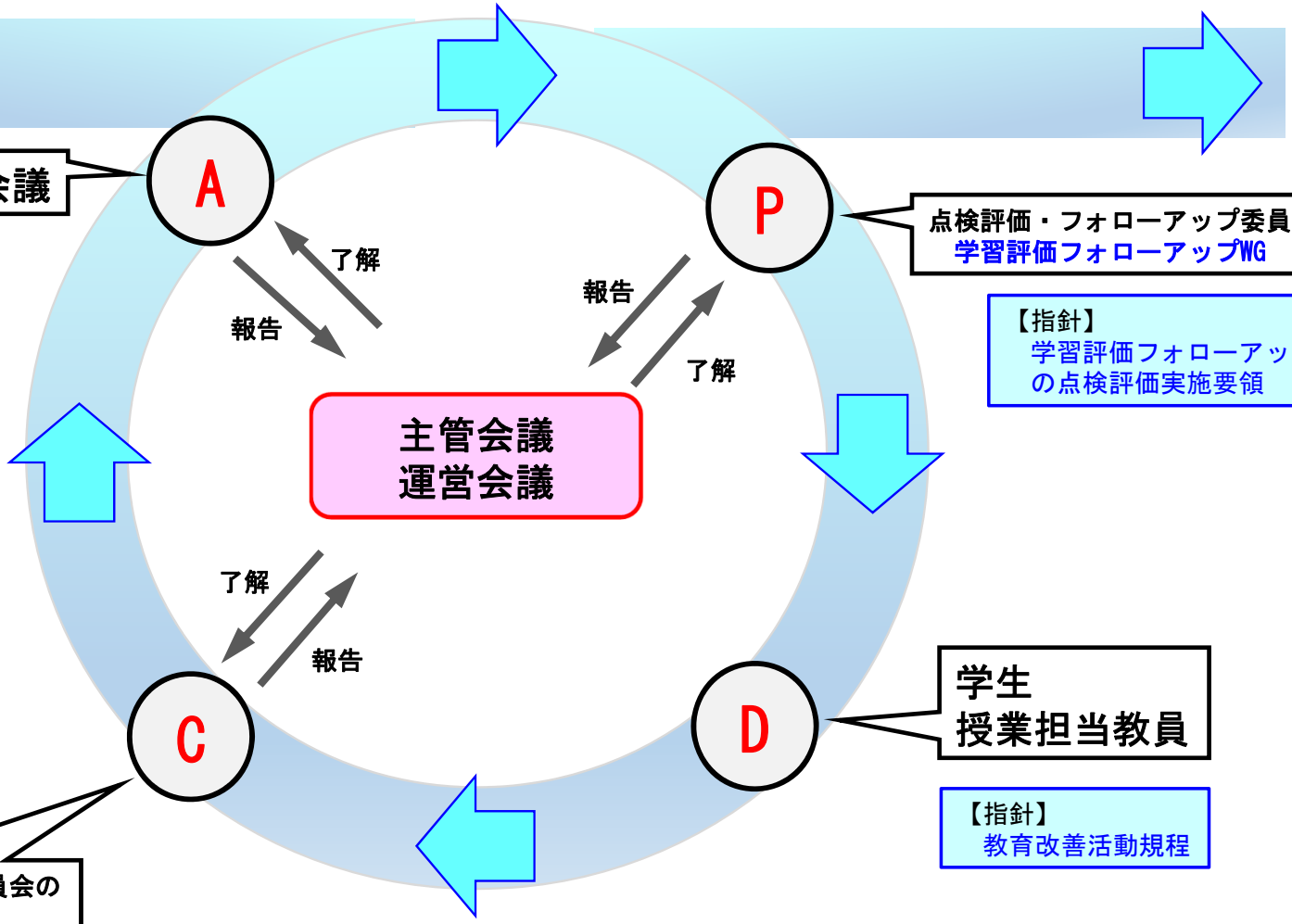
出典　臨時運営会議資料　令和2年3月23日開催

毎年実施されている授業改善のPDCAの図

資料1-1-2-(2)-02

岐阜高専の授業改善のスパイラルアップ

FD活動
- 授業参観
- FD講演会



スパイラルアップ会議

授業改善の実施フロー

1. 点検評価・フォローアップ委員会の学習評価フォローアップWGの長は、年度当初に学習評価フォローアップの点検評価実施要領（以下、「実施要領」）案を立案（右図 P）
2. 主管会議・運営会議に、実施要領案が報告・了解される
3. 実施要領と教育改善活動規程に基づき、定期試験終了後の授業時に学生は授業アンケートに回答（右図 D）
4. 教員はアンケート結果が未反映のフィードバック報告書に自己評価を記載（右図 D）
5. 教員はアンケート結果が反映されたフィードバック報告書に学生の要望を踏まえて授業改善点を記載（右図 D）
6. 点検評価・フォローアップ委員会の学習評価フォローアップWGは、授業担当教員からフィードバック報告書を回収し、これと授業担当教員によってファイリングされた成績評価資料とを基に、改善すべき点があるとされた教員と面談を実施（右図 C）
7. 点検評価・フォローアップ委員会の学習評価フォローアップWGは教員面談のとりまとめ結果をスパイラルアップ会議に報告
8. 点検評価・フォローアップ委員会の学習評価フォローアップWGの長はスパイラルアップ会議で、授業担当教員の面談に基づく改善結果を報告（右図 A）

点検評価・フォローアップ委員会の
学習評価フォローアップWG

点検評価・フォローアップ委員会の
学習評価フォローアップWG

【指針】
学習評価フォローアップ
の点検評価実施要領

学生
授業担当教員

【指針】
教育改善活動規程

出典　臨時運営会議資料　令和2年3月23日開催

授業アンケート自由記載欄の例

資料1-1-3-(1)-01

自由記述欄：良かった点、改善すべき点（特に表面の評価が①あるいは②の場合）などを自由に書いて下さい。		
1	総合国語	授業のプリントや課題プリントで簡単に復習できて良かった。
2	政治・経済	はやく怪我治して下さい。
3	英語A	「そうなんだ～」と思うようなことが何回もあって面白かった。また亀ちゃんに教えてほしい。
4	数学AII	授業をきき，ワークや教科書をしっかり解いたら60～80点はとれるテストにしてほしい。もし、ワークや教科書とまったく違うものが出るなら類似問題を授業中にやらせてほしい。じゃないとテストとれない。
5	体育(久世)	コートを譲り合って練習したり、楽しく試合したりして、他の村のうと交流できて良かった。
6	体育(山本)	
7	体育(麻草)	
8	応用物理	プリントの書くスペースが前より広くなっていて良かった。
9	測量学II	テストの範囲を的確に教えてくれてとても助かった。
10	測量実習II	唯一外で活動できる授業で楽しかった。
11	基礎実験I	仲間と協力して助け合うことがどれだけ大切か分かる授業だった。
12	コンクリート工学I	先生の話を聞き、プリントをしっかり解けば結果に結びつくテストで良かった。
13	構造力学I	少し、板書がはやかったけど分かりやすかった。
14	水理学I	とても分かりやすかった。さわがしいクラスの担任も1年間ありがとうございました。
15	土質力学I	想像するのが難しい教科だった。もう少し説明を増やしてほしい。
16	数理計画学I	問題もいくつかあって復習しやすかった。
17	環境工学I	難しいところもあったが、どうしてこうなるんだろうと考えさせられる内容があった。
18		
19		
20		
21		
22		

環境都市工学科3年 [redacted] 氏名：[redacted]

出典　点検評価・フォローアップ委員会専用サーバー

フィードバック報告書の例

資料1-1-3-(1)-02

授業評価 ・達成度評価報告書 及び フィードバック報告書

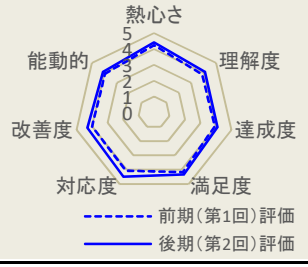
年度	授業科目	学年・学科	担当教員	開講期間
H30	英語A	1M	[redacted]	通年

注） 半期科目で昨年度と同一教員が担当の場合は，
昨年度のアンケート結果を「第１回」に転記し，
今年度のアンケート結果を「第２回」に記入して下さい．

アンケート項目	前期（第1回）評価		後期（第2回）評価		学生に説明した改善内容
	学生	教員	学生	教員	
1 授業を熱心に受けましたか	4.2	4	4.4	4	飽きない工夫など
2 この科目の内容はよく理解できましたか	3.9	4	4.1	4	
3 総合的に判断して、この科目の目標・目的を達成したと思いましたか	3.9	4	4.1	4	
4 総合的に判断して、この授業は良かったと思いましたか	4.2	4	4.3	4	
5 学生への対応・配慮（進度・質問・板書・理解度の把握など）は適切でしたか	4.1	4	4.5	4	
6 改善点がある場合、それは改善されたと思いますか（2回目に実施）	4.0	4	4.3	4	
7 能動的に学習しましたか	3.9	4	4.1	4	

教員の自己点検項目	該当する方に☑する			
	はい	いいえ	はい	いいえ
1 シラバスを提示・説明しましたか	☑	☐	☑	☐
2 シラバスに基づいて授業を行いましたか	☑	☐	☑	☐
3 シラバスに基づいた成績評価でしたか	☑	☐	☑	☐
4 試験・レポート等の内容は適切でしたか	☑	☐	☑	☐
5 学生の質問等に対応しましたか	☑	☐	☑	☐
6 能動的に学習させましたか	☑	☐	☑	☐

学生の授業評価結果



教員の自己点検評価

自由記述欄の内容を転記
・グループワークがよかった、暗記が大変など
・
・

授業参観の報告書より転記
・
・
・

備考（次年度への改善点等を記述して下さい）
・
・
・
・

【注意事項】アンケート結果について、学生の評価（平均値）は小数第1位（自動で記入されます）、教員の評価は整数で記入すること。

出典　点検評価・フォローアップ委員会専用サーバー

資料1-1-3-(1)-03

学生等からの要望及び意見等を汲み上げる意見箱の設置に関する申合せ

平成１７年１０月５日
運 営 会 議 申 合 せ

１．趣旨

岐阜工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教育・研究活動等に対する要望及び意見等を学生，教職員から吸い上げ，それを今後の教育・研究活動等に反映させることを目的として，意見箱を設置することとする。

２．対象者

対象者は，本校学生，学生の保護者（以下「保護者」という。）及び教職員等を対象とする。

３．設置場所

意見箱の設置場所は，対象者に応じ次のとおりとする。

（１）学生からの要望及び意見等

学生課事務室前，図書館受付，保健室前，伊吹食堂，学生寮食堂

（２）保護者及び教職員等

総務課前，印刷室前

４．意見用紙

意見用紙は，別紙のとおりとする。

５．開封者及び開封方法

意見箱の開封者及び開封方法は，対象者に応じ次のとおりとする。

（１）学生からの要望及び意見等

教務主事，研究主事，学生主事及び寮務主事が，毎月の初日及び１６日（その日が土曜日，日曜日又は休日に当たるときは，当該日以降の最初の勤務日とする。）（以下「所定の日」という。）に開封する。

（２）保護者及び教職員等

校長及び事務部長が，所定の日に開封する。

６．開封後の取扱い

意見箱の開封後の取扱いは，対象者に応じ次のとおりとする。

（１）学生からの要望及び意見等

意見又は要望等の内容に応じ，関係する主事が担当関連会議に附議又は担当関連部署に報告を行い，所要の改善又は改善の検討を行い，その結果を要望者本人に回答し，必要に応じホームページなどに公開するものとする。

（２）保護者及び教職員等

意見又は要望等の内容に応じ，担当関連会議に附議又は担当関連部署に報告を行い，所要の改善又は改善の検討を行い，その結果を要望者本人に回答するものとする。

付　記

この申合せは，平成１７年１０月５日から実施し，平成１６年１０月１日から適用する。

付　記

この申合せは，平成１９年４月１日から実施する。

付　記

この申合せは，平成２５年４月１日から実施する。

出典　岐阜高専Web公開サイト―事務―規則

別紙　　（　　）

要　望・意　見

記入日：平成　年　月　日

学生の所属学科名		学年	
（要望・意見内容）			
保護者氏名			回答　要　不要

注1）学生の所属学科名学年は必ずご記入ください。
注2）回答を求める場合は，必ずあなたの氏名を記入の上，回答欄中の「要」に〇印を付けて下さい。
注3）公表することが適当でないと設置者が判断する場合を除き，要望・意見及び回答内容を公表します。

意見箱の対応例

◆令和２年1月6日開封 ▲先頭に戻る

要望13（令和２年１月６日）（4E 学生記名あり：回答要）

以前まで図書館を利用して勉強していたけど、改修工事の影響で図書館を利用できなくなったので、代わりに勉強できるスペースを作って欲しです。本の貸借はできますが、勉強のできる場所がないので困っています。

回答13：（教務主事）

学習スペースの確保について要望がありましたので、規則上は学生だけでの利用はできませんが、特例措置として検討しました。以下のような条件で施設利用が許可されましたので、利用してください。

▼場所：伊吹 1F：校内食堂および伊吹 2F：第１講議室

▼時間帯：9:00～17:00

▼使用可能日（土日・祝日）：※1/18(土)推薦入試、 2/15(土)、2/16(日)学力入試は除く

1/11（土）

1/12（日）

1/13（月）祝日

1/19（日）

1/25（土）

1/26（日）

2/01（土）

2/02（日）

2/08（土）

2/09（日）

2/11（火）祝日

2/22（土）

2/23（日）

2/24（月）祝日

※学習ルームの使用については、入口に設置された利用簿に必ず明記して、利用上の注意事項を守り、 周囲に迷惑をかけないように自習してください。 ※利用後は、後片付けをするように心掛けてください。

※使用状況が悪いと判断された場合は、開放を取りやめる場合もあります。

なお、近日中に、学級担任を通じて学生に周知したいと思います。

出典　学内向けWebサイト　学生主事ー意見箱
http://www.cc.gifu-nct.ac.jp/gakunaiyou/Gsyuji/student/ikenbako/R1ikenbako/R1ikenbako.html#200217

本科卒業生のアンケート

資料1-1-3-(1)-05

平成30年度　教育目標（準学士課程）に関するアンケート

資料４

点検評価・フォローアップ委員会

本校の教育の改善等のために、卒業時に教育目標（準学士課程）に関するアンケートを実施した。その結果を下記に示す。
５段階評価で５が最上である。

準学士課程の教育目標

（１）広い視野を持ち，自立心と向上心に富み，教養豊かで心身ともに健康な技術者の育成
（２）基礎学力を身に付け，創造力，応用力，実践力を備えた技術者の育成
（３）国際コミュニケーション能力と先端情報技術を駆使する能力を備えた技術者の育成
（４）工学技術についての倫理観を有した技術者の育成
（５）教育研究活動を通じて社会へ貢献できる技術者の育成

番号	設問内容	5M	5E	5D	5C	5A	平均	平均(H29)	平均(H28)	平均(H27)
1	このような教育目標があることを知っていましたか？	3.16	3.02	3.00	3.16	**2.94**	3.06	**2.96**	**2.87**	**2.56**
2	（１）の目標はこれでよいと思いますか？	4.39	4.40	4.25	4.39	4.20	4.33	3.85	4.10	3.91
3	（２）の目標はこれでよいと思いますか？	4.50	4.48	4.33	4.50	4.20	4.40	3.90	4.11	3.99
4	（３）の目標はこれでよいと思いますか？	4.34	4.31	4.33	4.34	4.17	4.30	3.84	4.02	3.93
5	（４）の目標はこれでよいと思いますか？	4.37	4.38	4.35	4.37	4.20	4.33	3.88	4.08	3.99
6	（５）の目標はこれでよいと思いますか？	4.39	4.40	4.33	4.39	4.20	4.34	3.88	4.09	3.95
7	（１）の目標に対して、学校の教育に満足していますか？	3.84	3.98	3.65	3.84	4.06	3.87	3.54	3.69	3.52
8	（２）の目標に対して、学校の教育に満足していますか？	3.89	4.07	3.68	3.89	4.09	3.92	3.59	3.75	3.59
9	（３）の目標に対して、学校の教育に満足していますか？	3.24	3.83	3.45	3.24	3.91	3.53	3.33	3.43	3.28
10	（４）の目標に対して、学校の教育に満足していますか？	3.84	4.12	3.73	3.84	4.00	3.91	3.55	3.69	3.53
11	（５）の目標に対して、学校の教育に満足していますか？	3.89	4.10	3.73	3.89	4.00	3.92	3.55	3.65	3.52
12	あなたは（１）の目標を達成したと感じていますか？	3.66	3.81	3.60	3.66	3.63	3.67	3.40	3.52	3.34
13	あなたは（２）の目標を達成したと感じていますか？	3.66	3.90	3.55	3.66	3.74	3.70	3.41	3.60	3.34
14	あなたは（３）の目標を達成したと感じていますか？	3.03	3.57	3.33	3.03	3.71	3.33	3.17	3.36	3.15
15	あなたは（４）の目標を達成したと感じていますか？	3.68	4.05	3.63	3.68	3.66	3.74	3.46	3.57	3.34
16	あなたは（５）の目標を達成したと感じていますか？	3.61	4.00	3.63	3.61	3.66	3.70	3.39	3.55	3.32

赤字は３未満の評価

分析

１．評価項目のうち教育目標の認識度は比較的低いが，年度進行に伴って向上し，平成30年度については，5学科の平均は3を越えてきている。
２．①教育目標の妥当性についての評価，②学校教育についての満足度，及び③教育目標についての達成感はいずれも，年度進行とともに向上してきている。

出典　平成31年度第1回運営会議資料　4月2日開催
対象　全卒業生　回収率100％

専攻科修了生のアンケート

資料1-1-3-(1)-06

平成30年度　教育目標（専攻科課程）に関するアンケート

資料５

点検評価・フォローアップ委員会

本校の専攻科教育の改善等のために、修了時に教育目標（専攻科課程）に関するアンケートを実施した。その結果を下記に示す。
５段階評価で５が最上である。

専攻科課程の教育目標

（１）得意とする専門分野をさらに深めるとともに、異分野を理解し複数の分野にまたがった思考力を備えた技術者の育成
（２）社会の要求するテーマを創造的に調査・企画・設計・計画し、継続的に解析・実行・改善できる問題解決能力を備えた技術者の育成
（３）的確な日本語と国際的に通用するコミュニケーション能力を備えた技術者の育成
（４）先端情報技術を駆使して専門分野のプログラムを構築する能力を備えた技術者の育成
（５）多様でグローバルな視点の倫理的判断ができ、技術者の社会的責任を理解して地域貢献できる技術者の育成

番号	設問内容	平均（H30）	平均（H29）	平均(S+K)(H28)	平均(S+K)(H27)
1	このような教育目標があることを知っていましたか？	3.6	3.2	**2.5**	3.9
2	（１）の目標はこれでよいと思いますか？	4.1	4.1	3.9	4.3
3	（２）の目標はこれでよいと思いますか？	4.2	4.2	3.9	4.4
4	（３）の目標はこれでよいと思いますか？	4.0	4.2	4.0	4.3
5	（４）の目標はこれでよいと思いますか？	4.1	4.3	4.0	4.4
6	（５）の目標はこれでよいと思いますか？	4.2	4.1	4.0	4.3
7	（１）の目標に対して、学校の教育に満足していますか？	3.8	3.6	3.6	4.1
8	（２）の目標に対して、学校の教育に満足していますか？	3.9	3.6	3.6	3.9
9	（３）の目標に対して、学校の教育に満足していますか？	3.5	3.6	3.4	3.7
10	（４）の目標に対して、学校の教育に満足していますか？	3.7	3.7	3.3	4.0
11	（５）の目標に対して、学校の教育に満足していますか？	3.8	3.7	3.6	4.1
12	あなたは（１）の目標を達成したと感じていますか？	3.9	3.7	3.4	4.0
13	あなたは（２）の目標を達成したと感じていますか？	4.1	3.3	3.4	4.0
14	あなたは（３）の目標を達成したと感じていますか？	3.9	3.6	3.4	3.8
15	あなたは（４）の目標を達成したと感じていますか？	4.0	3.5	3.6	3.9
16	あなたは（５）の目標を達成したと感じていますか？	4.0	3.6	3.3	3.8

赤字は3以下の評価

分析

１．教育目標についての認知度（設問１）は平成28年度を底に向上してきている。
２．教育目標自体についての評価（設問２～設問６）はいずれも4.0以上であり良好である。
３．教育目標に照らした教育の満足度（設問7～設問11）は3.5～3.9の範囲であるが過年度に比べると向上している。
４．教育目標に照らした各自の達成度（設問12～設問16）は3.9～4.1の範囲であり，良好である。

出典　平成31年度第1回運営会議資料　4月2日実施
対象　全専攻科修了生　回収率100％

平成 23 年度　卒業生アンケート報告

点検評価・フォローアップ委員会

本校の教育目標，教育方法，教育組織等を継続的に改善していくために，本科卒業生にアンケートを実施しました。その結果を分析・検討したので報告します。

目　的：本校の教育目標，教育方法，教育組織等を継続的に改善していくため
期　間：平成 24 年 3 月～9 月
方　法：Web 入力形式，URL : http://www.gifu-nct.ac.jp/gr/
対　象：平成 18 年度卒業生（卒後，５年目）
回収率：卒業生 6.2%（12 名／193 名）　専攻科修了生 2 名含む
基　準：５：最良・十分、４：良・大体、３：普通（可）、２：不良・あまり、１：不可・全く

Ⅰ　本科卒業生

■教育理念：

(1)科学技術に夢を託し，人類愛と郷土愛に目覚めること。
(2)国際性豊かで世界に羽ばたく気概を持つこと。
(3)情報化社会の最前線で活動すること。

1-1　(1)の理念は本校にふさわしいものであると思われますか。

５	４	３	２	１	平均
16.7%	58.3%	16.7%	8.3%	0%	3.83

1-2　(2)の理念は本校にふさわしいものであると思われますか。

５	４	３	２	１	平均
25.0%	41.7%	0%	33.3%	0%	3.58

1-3　(3)の理念は本校にふさわしいものであると思われますか。

５	４	３	２	１	平均
16.7%	50.0%	25.0%	8.3%	0%	3.75

2-1　(1)の理念にふさわしい教育内容でしたか。

５	４	３	２	１	平均
8.3%	41.7%	41.7%	8.3%	0%	3.50

2-2　(2)の理念にふさわしい教育内容でしたか。

５	４	３	２	１	平均
16.7%	16.7%	16.7%	41.7%	8.3%	2.92

2-3　(3)の理念にふさわしい教育内容でしたか。

５	４	３	２	１	平均
8.3%	33.3%	41.7%	16.7%	0%	3.33

分析：本校の教育理念はどれもふさわしいものとして高い評価を得ているが，(2)の理念にふさわしい教育内容ではあまりない，との低い評価が得られた。

■養成すべき人材像：

科学技術に夢を託し，人類愛に目覚め国際性豊かで情報化社会の最前線で活躍する技術者

3-1　この人材像は本校にふさわしいものであると思われますか。

5	4	3	2	1	平均
25.0%	41.7%	25.0%	8.3%	0%	3.83

4-1　この人材像を養成するのにふさわしい教育内容でしたか。

5	4	3	2	1	平均
8.3%	33.3%	16.7%	41.7%	0%	3.08

分析：本校にふさわしい人材像として高い評価を得ている。教育内容も概ねふさわしいとの評価を得た。

■教育目標：

(1)広い視野を持ち，自立心と向上心に富み，教養豊かで心身ともに健康な技術者の育成

(2)基礎学力を身に付け，創造力，応用力，実践力を備えた技術者の育成

(3)国際コミュニケーション能力と先端情報技術を駆使する能力を備えた技術者の育成

(4)工学技術についての倫理観を有した技術者の育成

(5)教育研究活動を通じて社会へ貢献できる技術者の育成

5-1　(1)の教育目標は本校にふさわしいものであると思われますか。

5	4	3	2	1	平均
25.0%	66.7%	8.3%	0%	0%	4.17

5-2　(2)の教育目標は本校にふさわしいものであると思われますか。

5	4	3	2	1	平均
33.3%	58.3%	8.3%	0%	0%	4.25

5-3　(3)の教育目標は本校にふさわしいものであると思われますか。

5	4	3	2	1	平均
25.0%	50.0%	8.3%	16.7%	0%	3.83

5-4　(4)の教育目標は本校にふさわしいものであると思われますか。

5	4	3	2	1	平均
33.3%	41.7%	25.0%	0%	0%	4.08

5-5　(5)の教育目標は本校にふさわしいものであると思われますか。

5	4	3	2	1	平均
33.3%	41.7%	16.7%	8.3%	0%	4.00

6-1　(1)の教育目標にふさわしい教育内容でしたか。

5	4	3	2	1	平均
16.7%	50.0%	33.3%	0%	0%	3.83

6-2　(2)の教育目標にふさわしい教育内容でしたか。

5	4	3	2	1	平均
16.7%	58.3%	16.7%	8.3%	0%	3.83

6-3　(3)の教育目標にふさわしい教育内容でしたか。

5	4	3	2	1	平均
8.3%	16.7%	16.7%	41.7%	16.7%	2.58

6-4　(4)の教育目標にふさわしい教育内容でしたか。

5	4	3	2	1	平均
16.7%	16.7%	58.3%	8.3%	0%	3.42

6-5　(5)の教育目標にふさわしい教育内容でしたか。

5	4	3	2	1	平均
16.7%	25.0%	41.7%	16.7%	0%	3.42

分析：本校の教育目標は極めて高い評価を得ている。また，教育内容も(3)以外はふさわしい内容だと評価を得ている。(3)の教育目標と教育内容のそれぞれの評価には乖離があり，是正する必要がある。

■岐阜高専本科卒業生の優れている能力等は何ですか。不足する能力等は何ですか 。（複数回答可）

7-1　優れている能力

1. 一般教養　2. 倫理観　3. コミュニケーション能力　4. デザイン能力　5. 専門知識
6. 情報技術　7. 管理能力　8. その他（　　）

1	2	3	4	5	6	7	8
8.3%	8.3%	8.3%	8.3%	91.7%	25.0%	8.3%	0%

7-2不足している能力

1. 一般教養　2. 倫理観　3. コミュニケーション能力　4. デザイン能力　5. 専門知識
6. 情報技術　7. 管理能力　8. その他（　　）

1	2	3	4	5	6	7	8
33.3%	0%	50.0%	25.0%	8.3%	8.3%	41.7%	0%

分析：優れている能力と不足している能力の差が顕著に現れた。専門知識には高い評価を得ており，技術者の基礎となる知識が十分に身に付いていることを示している。一方，半数が，コミュニケーション能力が不足しているとの評価から，前問6-3の評価と関連して，国際コミュニケーション能力が向上するような教育内容に改善していくことを検討したい。

Ⅱ　専攻科修了生

■教育目標：

(1)得意とする専門分野をさらに深めるとともに、異分野を理解し複数の分野にまたがった思考力を備えた技術者の育成

(2)社会の要求するテーマを創造的に調査・企画・設計・計画し、継続的に解析・実行・改善できる問題解決能力を備えた技術者の育成

(3)的確な日本語と国際的に通用するコミュニケーション能力を備えた技術者の育成

(4)先端情報技術を駆使して専門分野のプログラムを構築する能力を備えた技術者の育成

(5)多様でグローバルな視点の倫理的判断ができ、技術者の社会的責任を理解して地域貢献できる技術者の育成

8-1　(1)の教育目標は本校にふさわしいものであると思われますか。

5	4	3	2	1	平均
0%	100%	0%	0%	0%	4.00

8-2　(2)の教育目標は本校にふさわしいものであると思われますか。

5	4	3	2	1	平均
0%	50.0%	50.0%	0%	0%	3.50

8-3　(3)の教育目標は本校にふさわしいものであると思われますか。

5	4	3	2	1	平均
0%	50.0%	0%	50.0%	0%	3.00

8-4　(4)の教育目標は本校にふさわしいものであると思われますか。

5	4	3	2	1	平均
0%	50.0%	50.0%	0%	0%	3.50

8-5　(5)の教育目標は本校にふさわしいものであると思われますか。

5	4	3	2	1	平均
0%	100%	0%	0%	0%	4.00

9-1　(1)の教育目標にふさわしい教育内容でしたか。

5	4	3	2	1	平均
0%	100%	0%	0%	0%	4.00

9-2　(2)の教育目標にふさわしい教育内容でしたか。

5	4	3	2	1	平均
0%	50.0%	0%	50.0%	0%	3.00

9-3　(3)の教育目標にふさわしい教育内容でしたか。

5	4	3	2	1	平均
0%	50.0%	0%	50.0%	0%	3.00

9-4　(4)の教育目標にふさわしい教育内容でしたか。

5	4	3	2	1	平均
0%	50.0%	50.0%	0%	0%	3.50

9-5　(5)の教育目標にふさわしい教育内容でしたか。

5	4	3	2	1	平均
0%	50.0%	50.0%	0%	0%	3.50

分析：専攻科課程の教育目標については，おおむね良い評価を得ている。

岐阜高専専攻科修了生の優れている能力等は何ですか。不足する能力等は何ですか 。（複数回答可）

10-1　優れている能力

1. 一般教養　2. 倫理観　3. コミュニケーション能力　4. デザイン能力　5. 専門知識
6. 情報技術　7. 管理能力　8. その他（　　）

1	2	3	4	5	6	7	8
0%	0%	50.0%	0%	50.0%	0%	0%	0%

10-2不足している能力

1. 一般教養　2. 倫理観　3. コミュニケーション能力　4. デザイン能力　5. 専門知識
6. 情報技術　7. 管理能力　8. その他（　　）

1	2	3	4	5	6	7	8
100%	0%	50.0%	0%	0%	0%	0%	0%

分析：回答者が2名と少ないが，どちらも一般教養が不足していると評価していることから，専攻科課程での教養科目の再検討を望みたい。

Ⅲ．自由記載欄

質問項目がどれも抽象的で具体的な内容が無いように感じますが、これをどのように活用して改善されるつもりでしょうか。形だけのアンケートならやる意味は無いのでは…？

よく高専の教育は実習系科目の多さが言われますが大学も当然危機感は持っていてカリキュラムに組み込んでいます。 15才からの5年間という長いスパンでの教育である点、少人数である点を生かして、より実現象への理解を深める科目、手と頭を同時に使う（問題解決型）科目を増やして頂けたらな、と思います。

総合分析

今回，卒業生アンケートの回収率が低い理由は，「郵送によるアンケートの周知」と「Web入力によるアンケートの実施」という方法を用いたことだと思われる。アンケートの実施を知っても，パソコン上でアンケートページまで開くことに大きな手間を感じているのではないか。今後，アンケート実施をWeb入力する場合には，回収率を向上させる方法を検討したい。

全体として，本校の教育理念や教育目標には高い評価を得ており，またそれにふさわしい教育内容を実施しているとの評価であった。本校の教育システムが着実に運用されていることを示している。一方で，国際的なコミュニケーション能力を向上させる教育内容に改善の余地が残されており，検討する必要があると思われる。

出典　平成24年度第3回自己点検・評価実施WG会議資料

卒業後の学生の意見反映の例

資料1-1-3-(1)-08

別紙２

参与による口頭による御助言と御指摘等の概要

１．[redacted]：㈱TYK 代表取締役会長（岐阜県工業会相談役）

① 全寮制として，学生の社会性を涵養頂きたい。成績は良いが社会性に欠けるタイプの学生が増えてきている。弊社では新入社員に対しては全寮制としている。
回答（[redacted] ご主旨は理解できるが，弊校の学生寮の収容人員は 300 名程度であり，1000 名の全学生を収容することは難しい状況ではある。寮の位置づけは創立当初からこの枠組みになっているので全寮制の実現は難しい。

② インターンシップをより活発にして頂きたい。また，東海地方はモノづくりの宝庫であるので，この環境を生かして，インターンシップの他にも，工場見学など，実際の生産現場を見る機会を増やして頂きたい。工場見学では当該企業の講話を聴く機会とすると，いっそう有機的な機会になる。

③ 単科大学の卒業生は概して社会人としての視野が狭い。弊社の人材でも単科大学の学生は課長級まではよく活躍するが，これより上位の管理職になると視野の狭さ故か，期待通りの活躍がなされない場合がある。

２．[redacted]（本巣市長代理）本巣市教育長

① AP 事業は大変興味深く，魅惑的な事業である。『ないものは自分で作る』姿勢は素晴らしい。ポイントの多い学生が，いっそう活躍するのはポイント獲得の枠組みを超えて，取組み自体に魅力を感じているためであろう。また，教員の質の向上の観点から，教員が相互に授業参観する取組みも素晴らしい。

② キャリア教育について，岐阜高専全体で統一的な指針に基づいて実施されるよう改革されたことは評価できる。一方で各学科の独自性が失われるのではないかとの懸念もある。コンピテンシーについて『低学年では低下し，高学年では向上する』背景を解析頂き，低学年のコンピテンシー向上の取組みに役立てて頂きたい。
参与会終了後の回答（[redacted]OSEN4.0 イニシアティブ事業担当者）キャリア教育のプログラムは全学科共通のタイプと各学科独自のタイプの２本立ての構成になっている。そのため学科の独自性が失われる懸念はないものと考える。この点はプログラム構成の策定時から特に配慮した点ではある。

③ OB 会である若鮎会の活躍は素晴らしい。地域の活性化にもいっそうの活躍を期待したい。

３．[redacted]与：中日新聞岐阜支社　報道部長

① キャリア教育についての取組みが特に評価できる。

② 専門の教育課程は充実しており，教員団の資質も多様であり，技術者教育の面では体制・実績とも評価できる。けれども一般教養課程の充実についてはやや懸念もある。

③ 女子学生の割合は増えているが，まだ拡大する余地はあるように感じる。女子学生獲得に向けた広報活動等についてどのような取組をされているのか興味のあるところではある。

４．[redacted]参与：岐阜大学工学部長

① ５年間の一貫した技術者教育は，制度自体が技術者教育に有利である。３年生でコンピテンシーが低下するとの結果が示されたが，この傾向は当然のことであると考えられる。この低下傾向を懸念するよりは，４・５年生のいっそうの能力向上に注力する考え方も重要である。

② AP 事業について，学生の授業評価を内向きから外向きに変革される方向性は評価できる。優れた授業については YOUTUBE にアップロードされてはどうか。

５．[redacted]参与：岐阜県中学校校長会会長（岐阜市立青山中学校校長）

① 素晴らしい卒業生がいることに驚き，また感動した。岐阜高専の素晴らしい状況が中学生には届きにくい。各中学校では６月頃から高校説明会を行うので，岐阜高専もぜひ参加して頂きたい。
回答（[redacted]点検評価・フォローアップ委員長）中学校さんで開催される進路説明会には従来から積極的に参加させて頂いている。例年，岐阜高専からも進路説明会への参加の機会を頂けるように積極的にお願いしている状況である。

５．[redacted]淳参与：岐阜高専同窓会（若鮎会）会長

① 国際交流について，私の在学中は専ら留学生が来るのみであったが，現在では相互に短期の留学生交換をも実施しており，グローバル化進んでいる点を評価したい。

② AP 事業における授業の可視化については，学生の評価であるので，学生の評価が必ずしも真に良い授業とは限らないので，この扱いにはフィルタリングが必要である。
回答（[redacted]教育 AP 推進室長）当室で実施している学生の授業アンケートは良い点のみを記載するシステ

ムになっている。学生の評価であるため，評価に偏りのある懸念も確かにあるが，これを学内公開していることにより，良い授業とされた授業については，遠慮なく授業参観できる状況・環境が形成されている。総じて本システムは教員による相互授業参観の促進，ひいては授業の質の向上に役立っている。なお，教育施設整備のアンケートについてはフィードバックを迅速に行っているため，学生のアンケートに対する信頼度を向上させる役割をも担っている。

③ キャリア教育のパワーポイントによる説明について,『コミュニケーション講座』が印象に残っているが，コミュニケーション能力の向上は技術者にとって重要であり，今後も積極的に進めて頂きたい。
回答（[redacted] KOSEN4.0 イニシアティブ事業担当者）コミュニケーション能力は実習やクラス内での活動を通して自然に身につくものとして指導はしていなかった。しかし、近年コミュニケーションを苦手とする学生が多々見られる。本事業を契機としてコミュニケーションが苦手な学生に対して手助けになるよう、コミュニケーション講座を取り入れた。今後も積極的に推進して行く考えである。

６．[redacted]参与：岐阜高専教育後援会会長

① 多様なプロジェクトが進められており，予算獲得の手段としても充実しているので今後も積極的に進めて頂きたい。

② 海外の大学との包括的な提携を進められており，グローバル化を促進されていることは評価できる。一方で，これらの提携大学はどのように選択されているか，また今後はさらに拡大していかれるのか。
回答（[redacted]校長）海外大学との提携は，実質的に学生や教員の相互交換・留学等の成果のあるものに厳選して実施している。今後，拡大する際にもこの観点で推進して行く考えである。

７．[redacted]参与：豊橋技術科学大学副学長

① 国際化・グローバル化の推進が顕著であり，特に評価したい。

② 文部科学省からは予算が削られる状況下であり，また人員削減が迫られて，人件費割合の低減が求められる状況下であるが，外部資金等の獲得やプロジェクトの推進を積極的に進められている点も素晴らしい。

③ 貴校の卒業生の後藤太一教員も豊橋技術科学大学の若手教員として将来が嘱望される人材として評価も高い。

出典　令和元年5月実施　参与会報告（抜粋）
http://www.gifu-nct.ac.jp/uploads/855/1_1.pdf

学級懇談会報告

資料1-1-3-(1)-09

平成 30 年度　学級懇談会報告書

学科	機械工学科	学年	2	学級担任	■ ■■
日時 参加者	学級懇談　６月３０日（土）１０時００分 ～１１時００分　３２人 個人懇談　６月３０日（土）１１時００分 ～１１時４０分　４人 月　日（ ）　時　分 ～　時　分　人				
場所	①　クラスルーム　２　その他（　）				

１．懇談概要（個人懇談を含む）

２０１８年度の５M の進路の紹介と第２学年の時期の説明、特に前期中間試験の成績をもとに学習習慣の不足について言及し、家庭での注意を促した。

２．情報交換内容等

2.1　学級担任から保護者へ（学級全体）

①　進級要件の確認（詳説した）

②　当該学科の進路状況（就職・進学・学際分野の本質）

第５学年の担任の山田先生から、進路情報をいただき、それをもとに具体的な進路状況の説明を行った。

2.2　学級担任から保護者へ（個人懇談をする場合等）

①　前期中間試験の結果に基づく修学状況の説明

特に、学習習慣の不足と学習時間の不足が見られることを強調した。

②　学生生活の概要（授業，休み時間，クラブ活動，クラスでの交友関係）

２M のクラスの状況を説明した。

③　必要に応じてカウンセリングの斡旋（相談室と言うのがよいかも）

学習相談室、カウンセラーの活用を奨励した。

2.3　保護者から学級担任へ（個人懇談をする場合）

①　保護者から学級担任への要望

キャリア教育について充実させてほしい旨の希望が複数件あった。

②　家庭での学習状況（通学生の場合）

スマートフォンの規制をどうすべきかの相談があった。

③　家庭での余暇の過ごし方（クラブチーム，アルバイト，交友関係）

アルバイトをさせても良いのかどうかの相談があった。

３．その他特記事項

特になし。

注）上記項目に分類してご記入ください。

注）フォントサイズは，10.5 ポイントでご記入ください。

出典　学内向けWebサイト　教務掲示板　平成30年度　学級担任関係

令和元年度地区保護者懇談会(全体会議・分科会)報告書

地　区　名	岐阜地区	全体会議 分科会	学年　～　学年 建築学科
日　時	令和　元　年 11 月 16 日（土）　全体会終了後　～　15　時　55 分		
教員参加者	[redacted]（途中から　[redacted]）		
記録者	[redacted]		

１．[redacted]から建築士法改正の概要について説明し、質疑応答に対応した。

２．参加者全員に順次意見や質問を頂き、教員や高学年保護者が回答する形式で進めた。

主な質疑応答は以下の通り。

・模型材料の購入が保護者の負担になっており、改善依頼があったため学科で検討すると回答し、11/18 学科会議で検討し、以下の通り対応することとした。

⇒学内売店に置いていない模型用角材を使用する３年設計製図１(非常勤担当)の初回事業で購入方法を学生周知する。学科会議での検討結果は３年担任から学生に周知し保護者に伝達。

・課題で使用するソフトウエアの情報を教えて欲しい

⇒現在使用のソフトウエアについて説明し、11/18 学科会議で今後は入学生オリエンテーション時に入学生および保護者に情報提供することとした。

・一般科目について塾に行った方がよいか？

⇒授業内容が高専独自であり、授業をきちんと聞いていれば理解できる内容である（[redacted]先生）

・運転免許証の取得の時期について質問があり、車校入校は年度末閉講日以降であることはお伝えしたが、取得時期については学生便覧等で確認頂くこととした。

・アルバイト届の書式が変更になったが、すでに提出している場合に再提出は必要か？

⇒今年度については、今後、新たに提出するもののみでよい。

・専攻科生の特活講演はとてもよかったので継続して欲しい。

・建築士の資格試験のためには専門学校に行かなければ取得できないのか？

⇒専門学校に行かなくても合格する専攻科生がいる。

・同じ科目と同様に勉強しているが構造力学１と材料力学が不良点でどうしてよいかわからない

⇒建築士試験でもコア科目であり、４年生以降科目の基礎となる科目なので、頑張って学習していただきたいことを伝えた。

全体として学生からの親への情報提供がなく、保護者はとても不安に思っている中で、１年生保護者から地区懇談会に参加して、踏み込んだ話が聞けて大変よかったとのご意見もあった。

懇談会終了後、建築学科棟の見学希望があり案内した。

出典　令和元年度地区保護者懇談会寮務主事取りまとめ資料

就職先アンケート報告

点検評価・フォローアップ委員会

平成２９年度実施

本校の教育目標、教育方法、教育組織等を、継続的に改善していくために、本科卒業生及び専攻科修了生の就職先にアンケートを依頼しました。その結果を分析検討したので報告します。

本科生アンケート発送先は 119 社であり、回答は 52 社（回収率 44%）でした。また専攻科生アンケート発送は 49 社であり、回答は 16 社（同 33%）、合計で 68 社（同 40%）でした。

１．本科卒業生に関するアンケート

A. 御社の業種についてお答えください。

1. 製造業	21	34.4%
2. 運輸・通信業	3	4.9%
3. 電気・ガス・水道業	3	4.9%
4. 建設業	16	26.2%
5. 情報サービス業	1	1.6%
6. その他のサービス業	9	14.8%
7. 卸売業	0	0%
8. 官公庁	4	6.6%
9. その他	4	6.6%

B. 岐阜高専の本科卒業生を採用していらっしゃいますか。

1. ５人未満を採用している	41	67.2%
2. ５人以上を採用している	20	32.8%
3. 採用していたが現在は在職していない	0	0%

C. 岐阜高専の本科卒業生の仕事（職種）で最も多いのはどれですか。（複数回答あり）

1. 研究部門	1	1.6%
2. 製造部門	8	13.1%
3. 設計・開発部門	23	37.7%
4. 技能職部門	26	42.6%
5. 営業部門	0	0%
6. その他	6	9.8%

D. 岐阜高専本科卒業生の採用２年後の全般的な能力は大学学部卒業生と比較してどうですか。

1. 高い	26	42.6%
2. 同じ	32	52.5%
3. 低い	0	0%
4. 無回答	3	4.9%

E. 岐阜高専本科卒業生の優れている能力等は何ですか。（複数回答　可）

1. 一般教養	14
2. 倫理観	12
3. コミュニケーション能力	33
4. デザイン能力	3
5. 専門知識	49
6. 情報技術	10
7. 管理能力	7
8. その他	4
9. 無回答	1 社

F. 岐阜高専本科卒業生の不足する能力等は何ですか 。(複数回答　可)

1. 一般教養	5
2. 倫理観	1
3. コミュニケーション能力	5
4. デザイン能力	2
5. 専門知識	2
6. 情報技術	2
7. 管理能力	7
8. その他	11
9. なし、無回答	29 社

G. 岐阜高専には本科（修業年限５年）とその上に学士認定の専攻科（同２年）がありますがご存知ですか。

1. 専攻科の存在を知っている	59	96.7%
2. 専攻科の存在を知らない	2	3.3%

H. 岐阜高専の本科上級学年から専攻科における教育は国際的に通用する技術者の養成にふさわしいプログラムであると日本技術者教育認定機構（JABEE）から認定されています。本校が JABEE 認定校であることをご存知ですか。

1. JABEE 認定校であることを知っている	34	55.7%
2. JABEE 認定校であることを知らない	27	44.3%

I. 岐阜高専の専攻科修了生を採用しておられますか。

1. １人を採用している	13	21.3%
2. ２人以上を採用している	9	14.8%
3. 採用していない	39	63.9%

J. 今後、岐阜高専専攻科修了生を採用したいと思われますか。

1. 今後も採用したい	30	49.2%
2. 今後は採用したい	24	39.3%
3. 今後も採用しない	0	0%
4. わからない	7	11.5%

2. 専攻科修了生に関するアンケート

A. 御社の業種についてお答えください。

1. 製造業	7	38.9%
2. 運輸・通信業	0	0%
3. 電気・ガス・水道業	0	0%
4. 建設業	5	27.8%
5. 情報サービス業	1	5.6%
6. その他のサービス業	3	16.7%
7. 卸売業	0	0%
8. 官公庁	2	11.1%
9. その他	0	0%

B. 岐阜高専の本科上級学年から専攻科における教育は国際的に通用する技術者の養成にふさわしいプログラムであると日本技術者教育認定機構（JABEE）から認定されています。本校が JABEE 認定校であることをご存知ですか。

1. JABEE 認定校であることを知っている	10	55.6%
2. JABEE 認定校であることを知らない	8	44.4%

C. 岐阜高専の専攻科修了生を採用していらっしゃいますか。

1. １人を採用している	7	38.9%
2. ２人を採用している	2	11.1%
3. ３人以上を採用している	6	33.3%
4. 採用していたが現在は在職していない	3	16.7%

D. 岐阜高専の専攻科修了生の仕事（職種）で最も多いのはどれですか。

1. 研究部門	0	0%
2. 製造部門	2	11.1%
3. 設計・開発部門	11	61.1%
4. 技能職部門	4	22.2%
5. 営業部門	0	0%
6. その他	1	5.6%

E. 岐阜高専の専攻科修了生の全般的な能力は大学学部卒業生と比較してどうですか。

1. 高い	5	27.8%
2. 同じ	11	61.1%
3. 低い	1	5.6%
4. 無回答	1	5.6%

F. 岐阜高専専攻科修了生の優れている能力等は何ですか。（複数回答　可）

1. 一般教養	5
2. 倫理観	1
3. コミュニケーション能力	6
4. デザイン能力	0

5. 専門知識	12
6. 情報技術	2
7. 管理能力	2
8. その他	2
9. 無回答	1 社

G. 岐阜高専専攻科修了生の不足する能力等は何ですか 。(複数回答　可)

1. 一般教養	0
2. 倫理観	0
3. コミュニケーション能力	2
4. デザイン能力	0
5. 専門知識	0
6. 情報技術	0
7. 管理能力	1
8. その他	7
9. なし、無回答	8 社

H. 今後、専攻科を中心として社会人の能力向上・キャリアアップに対応できる教育システムの構築を目指しています。専攻科を社会人の再教育の場として活用したいと思いますか。

1. 活用したいと思う	4	22.2%
2. 活用したいと思わない	1	5.6%
3. わからない	13	72.2%

I. 岐阜高専の本科卒業生を採用しておられますか。

1. １人を採用している	4	22.2%
2. ２人以上を採用している	11	61.1%
3. 採用していない	3	16.7%

J. 今後、岐阜高専本科卒業生を採用したいと思われますか。

1. 今後も採用したい	13	88.9%
2. 今後は採用したい	2	11.1%
3. 今後も採用しない	1	5.6%
4. わからない	2	11.1%

出典　平成29年度実施　就職先アンケート

平成２５年度 岐阜高専 進学先アンケートの結果

点検評価・フォローアップ委員会

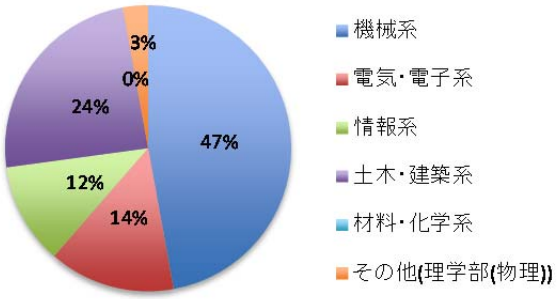
本校の教育目標，教育方法，教育組織等を継続的に改善していくために，岐阜高専本科卒業生が編入学した大学の指導教員，及び岐阜高専専攻科修了生が進学した大学院の指導教員にアンケートを実施しました。その結果を分析・検討したので報告します。

目　的：本校の教育目標，教育方法，教育組織等を継続的に改善していくため
期　間：平成 26 年 3 月
方　法：電子メール（アンケート用紙添付）＋郵送
対　象：最近５年間に本科卒業生が編入学した大学の指導教員 135 名，
　　最近５年間に専攻科修了生が進学した大学院の指導教員 42 名　計 177 名（29 機関）
回収数：編入学先（学部）より 70 名＋進学先（大学院）20 名より回答を得られた
　　（回収率は本科卒：52%，専攻科卒：48%　合計 51%）

大学に編入学した本科卒業生用のアンケート項目

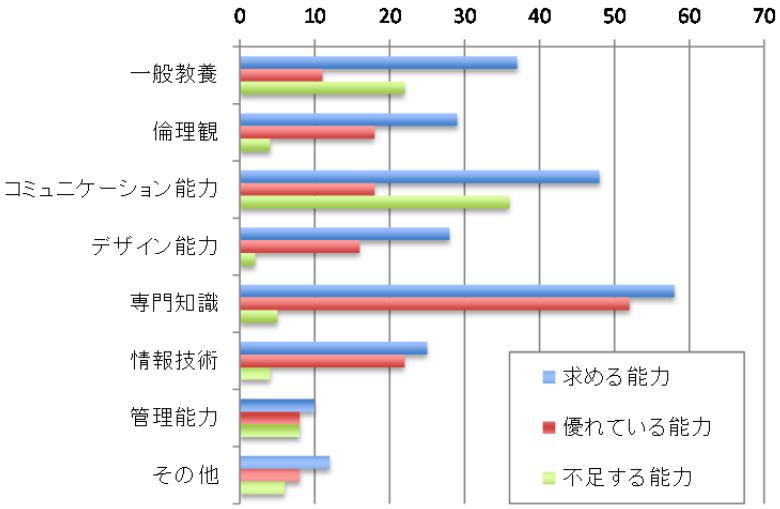
項目１．貴学科の分野について

機械系	：33 名
電気・電子系	：10 名
情報系	：8 名
土木・建築系	：17 名
材料・化学系	：0 名
その他（理学部（物理））	：2 名
合計	：70 名



項目２．貴大学もしくは貴学科が求める編入学生の能力は何ですか。（複数回答　可）
項目３．岐阜高専本科卒業生の優れている能力は何ですか。（複数回答　可）
項目４．岐阜高専本科卒業生に不足する能力は何ですか。（複数回答　可）

1. 一般教養
2. 倫理観
3. コミュニケーション能力
　（語学力（英語）を含む）
4. デザイン能力
5. 専門知識
6. 情報技術
7. 管理能力
8. その他（具体的にお書き下さい）



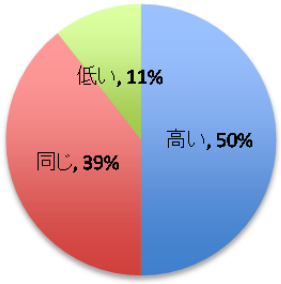
項目２．「8. その他」の具体的意見
リーダーシップとモチベーション，経験に基づく学力，工学に対する意欲，一般学生にはない「総合的な技術力」のようなもの，科学技術に対する探究心，技術職を志す者として備えるべき国語力，持続的学習力，基礎学力，自ら積極的に勉学する姿勢

項目３．「8. その他」の具体的意見
実験・実証をやりきる能力，真摯に取り組む気持ち，経験に基づく学力・意欲，人間関係を上手に築いている，基礎学力，将来の進路に対する意欲

項目４．「8. その他」の具体的意見
数学・物理の基礎学力，言語力（国語、英語）が少し弱い気がしますが、指導で向上するので問題ありません，英語に対する抵抗は昔よりなくなっていると感じています，持続的学習力，基礎学力、特に数学、英語，幅の広さ（ゆとり）

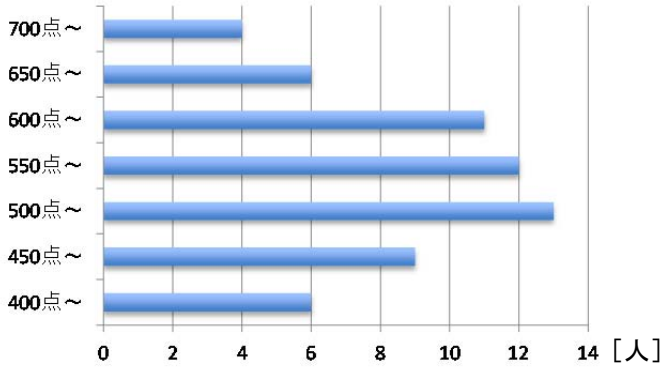
項目５．岐阜高専本科卒業生の全般的な能力は大学学部生と比較してどうですか

高い	：33 名
同じ	：26 名
低い	： 7 名
合計	：66 名



項目６．貴大学もしくは貴学科が望む編入学生としての TOEIC スコアは何点ぐらいですか

700 点～	： 4 名
650 点～	： 6 名
600 点～	：11 名
550 点～	：12 名
500 点～	：13 名
450 点～	： 9 名
400 点～	： 6 名
合計	：61 名



項目７．自由記述欄

- 特定の能力は優れているが、総合力では多少劣るところが高専編入生には見られるところがある（金沢大）
- 大変積極的に研究テーマに従事しており他の模範となる
- 対象者は大学院2年で大きく成長した(専門領域への取り組み，積極性，外国語コミュニケーション)（名大）
- 非常に優秀であったためドクターコースへの進学を強く勧めましたが本人の強い希望により民間企業に就職することになりました．大学教員としては大変残念に思いますが．企業での活躍を確信しています（名大）
- TOEIC のスコアは 500 点ぐらいほしいが，実際の学生は 350～450 点が多い（豊橋技科大）
- 実際のところ意欲的で優秀な学生さんです．卒業論文や卒業設計を経験していることも大きい．ただ一般学生と比べて「あれ」というような一般教養の点で驚くことがあります．「国語」「社会」で習うようなことで．ただこれは教育経路の問題なのか個人的なものなのかは分かりません（奈良女子大）
- 高専編入者は専門知識をしっかり身につけており，他の学生とも上手くコミュニケーションをとってしっかり勉強している．他の学生達のよい刺激にもなっており，是非今後も本学への編入を目指して頂きたい（横浜国大）
- 卒論はとてもしっかりこなし，学術論文投稿レベルの実験結果を出してくれました（東京農大）
- 岐阜高専を含む高専の編入学生は専門知識や情報技術に優れており，実際の問題(手を動かして問題を解くこと)にも優れていると思います（豊橋技科大）
- 優秀な学生さんが来てもらい，楽しく研究しています．社会で通じる技術者に育ってもらう為に高専と技科大の教育連携は有効かと思います．国・数・英の基礎力と一般高校生に先んじた専門能力があれば大学で大いに花開くものと確信しております．今後ともよろしくお願いいたします（豊橋技科大）
- 高専から編入する学生は全国的に流動していることもあり魅力的な学生が多い（岐阜大）
- たまたま私の所に来た学生さんが良くなかったと考えています（岐阜大）
- 私が後学期に担当した講義の成績は不可でした．7～8 年前に研究室に配属された岐阜高専の学生はたいへん優秀だったのですが・・・（岐阜大）
- 昔は優秀な学生が来てくれていましたが，最近はレベルの低い学生が増えているように感じます（岐阜大）

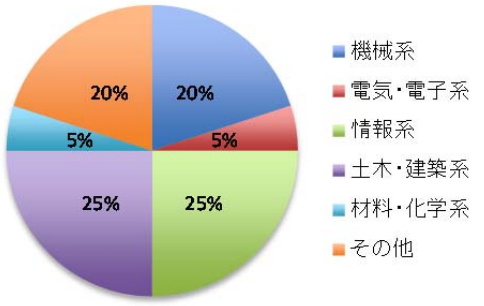
分析

- 大学教員から見て，高専本科卒業生が持つ（全般的な）能力は大学生と同等か，それ以上であると，高く評価されている．本校の教育が高く評価されていることを示すものである．
- 具体的な本科卒業生が持つ能力として，専門知識や情報技術は求められる能力として高く，またこれらの能力は優れていると評価されている．一方，一般教養や語学（特に英語）を含むコミュニケーション能力も求められる能力として高いが，本科卒業生の能力としては不足していると評価されている．
- 編入学先の大学が求める英語能力（TOEIC）の点数が高く（500～600 点台），本科の英語能力をさらに向上させる必要がある．
- 総じて優秀な学生が多いと評価されているが，一部で過去に比べ能力（レベル）が低くなったという自由意見があることは無視できない．

大学院に進学した専攻科修了生用のアンケート項目

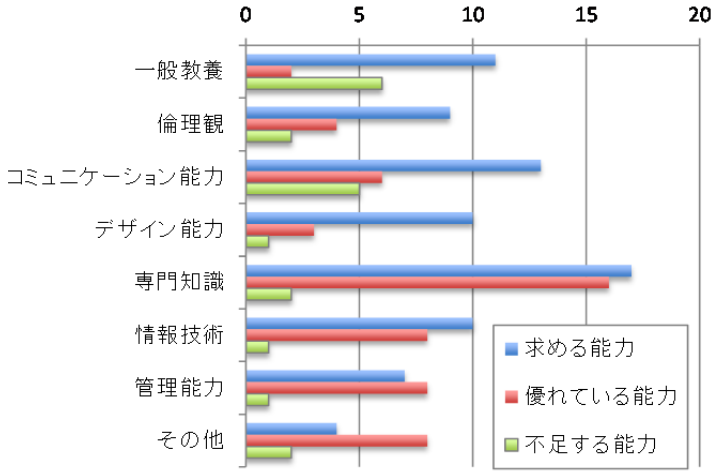
項目１．貴学科の分野について

機械系	： 4 名
電気・電子系	： 1 名
情報系	： 5 名
土木・建築系	： 5 名
材料・化学系	： 1 名
その他（理学部（物理））	： 4 名
合計	： 20 名



項目２．貴大学院もしくは貴専攻が求める学生の能力は何ですか。（複数回答　可）
項目３．岐阜高専専攻科修了生の優れている能力は何ですか。（複数回答　可）
項目４．岐阜高専専攻科修了生に不足する能力は何ですか。（複数回答　可）

1. 一般教養
2. 倫理観
3. コミュニケーション能力
（語学力（英語）を含む）
4. デザイン能力
5. 専門知識
6. 情報技術
7. 管理能力
8. その他（具体的にお書き下さい）



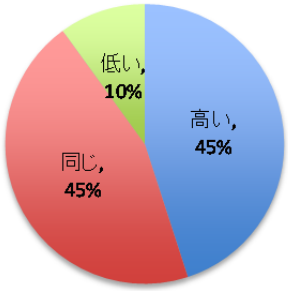
項目２．「8. その他」の具体的意見
問題解決能力，精神的・肉体的に元気であること、能動的であること，自律的に研究を進める能力，志

項目３．「8. その他」の具体的意見
問題解決能力，物事の遂行能力・問題意識，元気さ、能動性も含め最高の学生です，専門の基本的な知識をもっている，プレゼンテーション，自律的に研究を進める能力

項目４．「8. その他」の具体的意見
柔軟性と冷静なモノの見方がもっとあるとなおよい，
あえて言えば共同プログラミング経験はあってもよかったかも

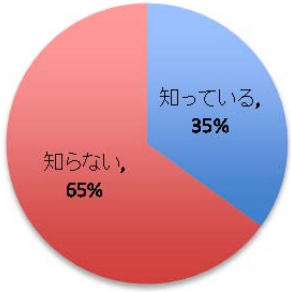
項目５．岐阜高専専攻科修了生の全般的な能力は大学学部卒業生と比較してどうですか

高い	： 9 名
同じ	： 9 名
低い	： 2 名
合計	： 20 名



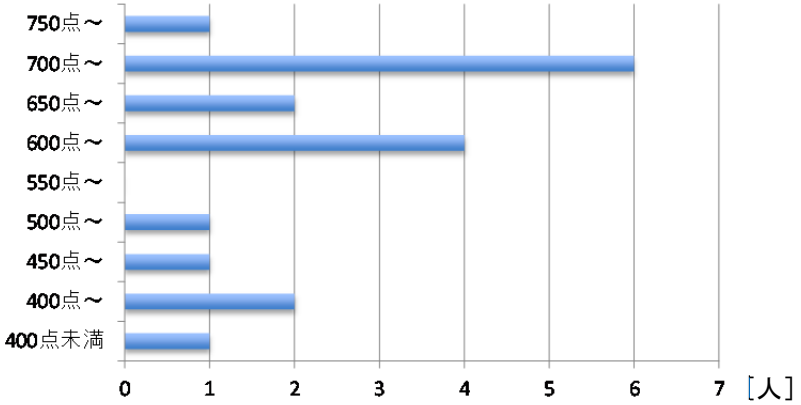
項目６．岐阜高専の本科上級学年から専攻科における教育は国際的に通用する技術者の養成にふさわしいプログラムであると日本技術者教育認定機構（JABEE）から認定されています。本校がJABEE 認定校であることをご存知ですか。

JABEE 認定校であることを知っている	： 7 名
JABEE 認定校であることを知らない	： 13 名
合計	： 20 名



項目７．貴大学もしくは貴学科が望む編入学生としての TOEIC スコアは何点ぐらいですか

750 点～	：	1 名
700 点～	：	6 名
650 点～	：	2 名
600 点～	：	4 名
550 点～	：	0 名
500 点～	：	1 名
450 点～	：	1 名
400 点～	：	2 名
400 点未満	：	1 名
合計	：	18 名



項目８．自由記述欄

- 積極的に研究に取り組んでくれました(名古屋市大)
- 高専に限らずうちの大学にくる学生は能力も元気さもピンキリですが，この学生は最高レベルで東大にいてもおかしくない．全般的なお願いとしては就職を考えたときに能力だけでなく「元気・積極的・アピールがある」ことが重要なので，そのように育てていただきたいことと，どうにもならなさそうな学生を取らない・送り込まないでほしいということです．岐阜高専以外の高専でそのような推薦の悪用がみられます(北陸先端)
- 英語力が少し足りないところがあるが，人格的に素晴らしく，リーダーになれる人物である(奈良先端大)
- 高専専攻科修了の編入学生を何名か見させていただいております．名古屋大学からの進学者は卒業研究の延長としてスムーズに大学院の研究に取り組むことができる中，編入生は球に研究テーマや取り組み方，雰囲気が変わるので，最初は戸惑ってしまうこともたくさんあるようです．しかしながら，内部の学生さん自身の分野以外の専門知識の習得が希薄であると感じるのに対し，高専の学生さんは土木に関連する専門知識を幅広く習得していると感じます(名大)

分析

- 本科卒業生のアンケート結果と同様で，専門知識，情報技術に関して，求めている能力と優れている能力がマッチしており，学習・教育目標の達成度が着実に実を結んでいる．しかし，同様に一般教養及び語学を含めたコミュニケーション能力が不足しているとする評価も多く，倫理やデザイン能力といったものの能力の不足もみられる．
- 専攻科修了生は大学学部卒業生と同等かもしくは上であると評価されている．
- 大学院が求める英語能力(TOEIC)の点数はかなり高く(600～700 点台)，専攻科の英語能力をさらに向上させる必要がある．
- 本校専攻科が JABEE 認定されていることが十分に周知されていないため，何らかの対策を立てることが望ましい．
- 自由記述からは概ね専攻科生の評価は高く，指導教員の適切な研究指導を含め専攻科全体の教育の成果が現れている．

出典　平成25年度実施　進学先アンケート

学生による授業評価が踏まえられていることを示す会議資料　　資料1-1-3-(2)-01

令和元年度　第 2 回点検評価・フォローアップ委員会資料
（第 2 回学習評価・フォローアップ WG）

日時：令和元年 7 月 19 日(金) 16:20～	開催場所：大会議室
委員会メンバー：[redacted]	
欠席者：　　途中退室：[redacted]（寮直）	

【１．審議事項】

審議事項１　令和元年度学習評価フォローアップ点検実施要領（案）について

第 1 回 WG で了解された基本方針を基に，下記の要領で授業アンケートを実施する。

平成 29 年度からの継続点の確認。変更点はなし。

- アンケート項目 No.7（自由アンケート）について，今年度も質問内容は「能動的に学習したか」とする。
- 自由記述欄として授業アンケートの裏面を用いる。なお，自由記述専用の別紙書式は昨年度廃止済。
- 全学年で授業アンケート用紙は各学生の個人保管とする。（平成 27 年度からの継続方針）

【２．報告事項】

報告事項１　令和元年度学習評価フォローアップ点検実施要領（案）の策定

第 1 回 WG（第 1 回点検評価・FU 委員会）で審議決定した基本方針

基本方針１
- 授業アンケートは前期末及び後期末の定期試験後の第 15 週の授業期間に実施する。
- 半期科目については中間のアンケートは省略し（実施しても良いが各学科で対応），次年度も同一授業担当者の場合のみ，前年度との比較で学生に改善案を提示し，改善結果を報告する。

基本方針２
- アンケート項目は変更しない。

基本方針３
- 記名式でマークシート方式とする。

基本方針４
- アンケート集計作業の外部業者に依頼（処理は学内）

基本方針５
- 令和元年度の成績評価資料の保存方法は「認証評価基準」とする。
  (直近に迫った主要な外部評価が JABEE か認証評価かの別に関わらず，成績評価資料は常時 5 年分を保存する。)

なお，JABEE 基準と認証評価基準の差異は，成績評価資料について，JABEE 基準では『可：評価 6』のみですが，認証評価基準では，『優：評価 8』，『良：評価 7 』，及び『可：評価 6』の３タイプになります。

報告事項２　令和元年度前期科目マスター表の作成　6/28 締切で回収させて頂きました。

報告事項３　平成 30 年度 学習評価フォローアップ点検　実施状況最終報告

成 30 年度の学習評価フォローアップ点検実施要領に基づき実施された教員面談及びフィードバック実施状況について，各学科等の平成 30 年度のフォローアップ委員により，5 月末を締切として実施されました。この結果は，フォローアップ掲示板にて現在公開中です。学科ごとに総括した結果を下表に示します（この総括案はメールにて 6/28 に委員の皆様の了解済です)。これを令和２年度第 1 回のスパイラルアップ会議に報告する予定である。なお，成績評価資料の取りまとめについて課題のあった学科については，早急なご対応をお願いします。

学科等	課題等
人文	問題なく良好である。ただしアンケートによる学生評価が極めて低く改善が期待できない非常勤講師 1 名について，令和元年度の雇用を見合わせた。
自然	問題なく良好である。ただし，アンケートによる学生評価と教員自身の評価の乖離がやや大きい科目が 1 科目あった。
M	概ね良好である。ただし，非常勤講師の科目について，アンケートによる学生評価と教員自身の評価の乖離がやや大きい科目が 2 科目あった。
E	概ね良好である。ただし，フォローアップ点検資料に不備があり，一部資料の手配中の科目が 4 科目ある。また，非常勤講師担当科目の一つは，講師の消息不明により資料保存の見込みがない。

D	概ね良好である。ただし，学生へのフィードバックについての記載のない科目が 6 科目あり，記載漏れであるのか，フィードバックすべき事項が達成されていないのか不明である。
C	問題なく良好である。ただし，非常勤講師による科目で，成績資料の取りまとめが完全でない科目が１科目あった。
A	問題なく良好である。ただし，アンケートによる学生評価と教員自身の評価の乖離がやや大きい科目が１科目あったが，教員が実施した AL が学生側に適切に評価されなかった一面もあったようである。

報告事項４　参与会による外部評価とりまとめ

第２回自己点検・評価実施 WG のメール会議（6/22~6//28）にて,『参与会による外部評価とりまとめ（案)』が承認された。

報告事項５　岐阜高専の自己点検・評価規程に基づく自己点検・評価　【別冊】

第３回運会議（6/26 開催）において，今年度実施予定の岐阜高専の自己点検・評価規程に基づく自己点検・評価について，実施すること自体が再確認され，自己点検・評価書の枠組みも了解された。

その他

第 3 回点検・評価フォローアップ委員会は年間行事予定表にありますように 1 月 31 日（金）16:20 を予定しております。これ以外にも適宜，メール会議を開催させて頂くことがございます。引き続き宜しくお願い致します。

出展　令和元年度 第2 回点検評価・フォローアップ委員会資料
令和元年7月19日実施

令和元年 6 月 22 日

参与会による外部評価報告　令和元年 5 月実施

点検・評価フォローアップ委員会

１．点検・評価の概要

①　点検・評価実施年月　令和元年 5 月

②　点検・評価対象期間　平成 29（2017）年度～平成 30（2018）年度

③　点検・評価実施方法

対象期間の岐阜高専の活動状況を示す資料と点検評価票を各参与に送付し，参与会に先立って，点検評価票を返送頂き岐阜高専で集計した（**別紙１**）。その後，平成元年 5 月 9 日に実施された参与会において，集計された点検評価票について各参与が追加のコメントを行った（**別紙２**）。

④　点検・評価実施項目

合計 10 項目の評価項目について，各参与が 5 段階評価を実施した。

２．点検・評価結果

①　項目１については，項目自体がポジティブであるため，参与の評価の平均値はいずれも 3.9 以上であり，高い評価を得ている。

②　項目２については，特に「２．校務運営組織」の平均値が 3.3 と相対的に厳しい表になっている。この理由は，在籍教職員の絶対数に対して委員会の数が過多であるためである。この認識は本校の運営陣にもあり，将来計画委員会で対策が検討されてきている。令和元年度からは一般科の委員数削減措置などが実行されてきており，組織改革の取組みの成果が期待される。

A～H は各参与

項目１　特色ある取組・優れた取組									
1	**授業改革**								
	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
	5	4	3	4	5	4	4	4	４．１
2	**学生指導**								
	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
	4	3	4	4	4	4	4	4	３．９
3	**研究活動**								
	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
	4	4	4	5	5	4	4	5	４．４
4	**国際交流**								
	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
	5	4	3	4	5	4	4	5	４．３
5	**教職員の人材育成**								
	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
	3	4	5	4	5	5	4	4	４．３
項目２　業務の削減と効率化									
1	**カリキュラム改革**								
	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
	3	5	4	4	5	4	4	5	４．３
2	**校務運営組織**								
	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
	3	3	3	3	4	3	4	3	３．３
3	**部活業務**								
	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
	4	4	4	5	4	4	4	3	４．０
4	**寮業務**								
	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
	4	4	4	4	4	4	3	4	３．９
5	**事務処理等**								
	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
	3	5	4	4	4	3	3	3	３．６

別紙１

参与による点検・評価とりまとめ

点検・評価実施年月　2019 年 5 月
点検・評価対象期間　平成 29（2017）年度～平成 30（2018）年度

評価ランク
評価 5：非常に優れている。評価 4：良好である。評価 3：おおむね良好である。 評価 2：やや不十分である。評価 1 ：不十分である。

項目１　特色ある取組・優れた取組

1　授業改革

A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
5	4	3	4	5	4	4	4	－	４．１

自由記載項目
・大学教育再生加速プログラムによるアクティブラーニング導入と学修成果の可視化の取組は他の高等教育機関のモデルとなる取組であり、高く評価できる。
・アクティブラーニング及びグローバル化とも充実のカリキュラム。できれば歴史や古典など教養科目の一層の充実も望みたい。
・これからの AI 時代を考えたときに人間の魅力・能力として、説得力、説明力、プレゼン能力、コミュニケーション能力が必要であり、そこに結びつく取組が見られる。一人一人にそれらの力をより身に付ける施策にさらに期待したい。
・AL について、生徒が相互に教えあい、理解が進んでいる、授業に興味をもっているとのことで成果も出ており、優れた取り組みと思います。授業への AL と ICT の導入について生徒へのアンケート結果や授業の理解度についてデータで示せるとよいと思いました。苦手科目としていた生徒の変化にも今後注目していただきたいです。グローバル化への取り組みは、シラバスに英語導入の標記をした結果が書かれていませんが、生徒、教員に変化はあったのでしょうか。

2　学生指導

A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
4	3	4	4	4	4	4	4	－	３．９

自由記載項目
・多様な学生表彰に取り組み、学生の士気高揚を図っている。その取り組み成果がもっと外に見える形になると素晴らしい。
・学生の主体性を育み、士気を高める各種取り組みを評価します。
・個性を認め、伸ばす観点からよい取組といえる。全学生に対する根本的な自己肯定感を高める取組へのアプローチがほしい。
・学級運営に活躍した学生を表彰されており、各自が自分の適性を活かせる場面で活躍しようという士気高揚につながっており、評価できると思います。

3　研究活動

A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
4	4	4	5	5	4	4	5	－	４．４

自由記載項目
・科研費の採択件数は 32 件と多いが、1 件当たりは少額の研究が多いようです。基盤 B などに今後チャレンジできる支援体制なども検討できればと思います。また地元企業との共同研究は今後充実させるべき課題と考えます。
・科研費取得をベースにした研究推進は特筆すべきである。
・特に問題はありません。
・地域連携・中核人材育成塾などの取組が魅力的である。
・数多くの外部資金を獲得されており、評価できると思います。
今後の航空宇宙産業の成長に向け、航空宇宙生産技術人材育成事業などを通じた、国や県、岐阜大学とのさらなる連携を期待しています。

4　国際交流

A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
5	4	3	4	5	4	4	5	－	４．３

自由記載項目
・海外協定締結大学と積極的に国際セミナー等を実施している。また KOSEN4.0 イニシアティブ事業にも取り組んでいる。
・東海アジアを中心として適正な規範と内容の国際交流である。
・真の国際人を育成するために、国内の歴史や古典、文化を踏まえた交流の促進に期待します。
・学術交流協定の海外大学の多さ等、努力が見られる。
・複数の大学と協定を結んでいるのは強みと思うので、今後も相互交流に多くの生徒が参加できるようお願いします。交流や国際セミナーへの参加は、生徒の自信につながると思います。

5

教職員の人材育成

A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
3	4	5	4	5	5	4	4	－	4．3

自由記載項目
・貴高専独自の SD 活動を期待したい。
・多彩な教員が数多く在籍していることが高専の強み。今後も高いレベルの人材育成を期待します。
・学生にとっては「百の施策より一人の教師」が大切である。さまざまな研修に参加したことで人材育成に直結するわけではないので、教職員に必要な力や感性を明確にして今後も人材育成に努めてもらえるとよい。
・教育・研究・生徒の生活指導等、多忙なため、計画的に実施していただければと思います。

項目２　業務の削減と効率化

1

カリキュラム改革

A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
3	5	4	4	5	4	4	5	－	4．3

自由記載項目
・カリキュラム改訂に伴い、どの程度の教員及び学生の負担軽減が実現できたか、定量的な指標があると良い。
・研究活動を軸としたカリキュラム構成を企んでいる。
・適切な改革と評価します。
・教育の質を下げず、学生・教員の負担を軽減するという姿勢をもち続けたい。
・生徒にとって分かりやすいカリキュラムづくり、外部との連携をとりやすいカリキュラムをつくられており、評価できると思います。

2

校務運営組織

A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
3	3	3	3	4	3	4	3	－	3．3

自由記載項目
・委員会の委員数見直しが現在進行中ということで、現段階の評価は３とした。今後は見直した結果としてどの程度の負担軽減が実現できたかの検証をお願いしたい。
・特に問題ありません。
・委員の数の減での業務負担も方法の一つですが、メールでの会議等委員会の運営方法での負担減も考えられると思います。

3

部活業務

A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
4	4	4	5	4	4	4	3	－	4．0

自由記載項目
・様々な工夫をされている点を評価したい。
・十分な取り組みと思います。
・部活動の主役は学生であるので、学生の気持ちを大切にし、より外部コーチ等の充実を図りたい。
・クラブ活動への外部コーチ活用は教員の負担減、生徒の充実した活動につながると思うので評価できると思います。生徒への対応等、外部コーチへの指導もお願いします。

4

寮業務

A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
4	4	4	4	4	4	3	4	－	3．9

自由記載項目
・様々な工夫がされている点を評価したい。
・適切な効率化と評価します。
・寮父、寮母には、生徒のよき相談相手として、今後も活躍していただけるよう期待します。

5

事務処理等

A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
3	5	4	4	4	3	3	3	－	3．6

自由記載項目
・特に問題ありません。
・労働時間の規制が強化される中、事務部の組織が強化されており、評価できると思います。

別紙２

参与による口頭による御助言と御指摘等の概要

１．[redacted]：㈱TYK 代表取締役会長（岐阜県工業会相談役）

① 全寮制として，学生の社会性を涵養頂きたい。成績は良いが社会性に欠けるタイプの学生が増えてきている。弊社では新入社員に対しては全寮制としている。
回答（[redacted]校長）　ご主旨は理解できるが，弊校の学生寮の収容人員は 300 名程度であり，1000 名の全学生を収容することは難しい状況ではある。寮の位置づけは創立当初からこの枠組みになっているので全寮制の実現は難しい。

② インターンシップをより活発にして頂きたい。また，東海地方はモノづくりの宝庫であるので，この環境を生かして，インターンシップの他にも，工場見学など，実際の生産現場を見る機会を増やして頂きたい。工場見学では当該企業の講話を聴く機会とすると，いっそう有機的な機会になる。

③ 単科大学の卒業生は概して社会人としての視野が狭い。弊社の人材でも単科大学の学生は課長級まではよく活躍するが，これより上位の管理職になると視野の狭さ故か，期待通りの活躍がなされない場合がある。

２．[redacted]様（本巣市長代理）本巣市教育長

① AP 事業は大変興味深く，魅惑的な事業である。『ないものは自分で作る』姿勢は素晴らしい。ポイントの多い学生が，いっそう活躍するのはポイント獲得の枠組みを超えて，取組み自体に魅力を感じているためであろう。また，教員の質の向上の観点から，教員が相互に授業参観する取組みも素晴らしい。

② キャリア教育について，岐阜高専全体で統一的な指針に基づいて実施されるよう改革されたことは評価できる。一方で各学科の独自性が失われるのではないかとの懸念もある。コンピテンシーについて『低学年では低下し，高学年では向上する』背景を解析頂き，低学年のコンピテンシー向上の取組みに役立てて頂きたい。
参与会終了後の回答（[redacted] KOSEN4.0 イニシアティブ事業担当者）キャリア教育のプログラムは全学科共通のタイプと各学科独自のタイプの２本立ての構成になっている。そのため学科の独自性が失われる懸念はないものと考える。この点はプログラム構成の策定時から特に配慮した点ではある。

③ OB 会である若鮎会の活躍は素晴らしい。地域の活性化にもいっそうの活躍を期待したい。

３．[redacted]参与：中日新聞岐阜支社　報道部長

① キャリア教育についての取組みが特に評価できる。

② 専門の教育課程は充実しており，教員団の資質も多様であり，技術者教育の面では体制・実績とも評価できる。けれども一般教養課程の充実についてはやや懸念もある。

③ 女子学生の割合は増えているが，まだ拡大する余地はあるように感じる。女子学生獲得に向けた広報活動等についてどのような取組をされているのか興味のあるところではある。

４．[redacted]参与：岐阜大学工学部長

① ５年間の一貫した技術者教育は，制度自体が技術者教育に有利である。３年生でコンピテンシーが低下するとの結果が示されたが，この傾向は当然のことであると考えられる。この低下傾向を懸念するよりは，４・５年生のいっそうの能力向上に注力する考え方も重要である。

② AP 事業について，学生の授業評価を内向きから外向きに変革される方向性は評価できる。優れた授業については YOUTUBE にアップロードされてはどうか。

５．[redacted]参与:岐阜県中学校校長会会長（岐阜市立青山中学校校長）

① 素晴らしい卒業生がいることに驚き，また感動した。岐阜高専の素晴らしい状況が中学生には届きにくい。各中学校では６月頃から高校説明会を行うので，岐阜高専もぜひ参加して頂きたい。
回答（[redacted]点検評価・フォローアップ委員長）中学校さんで開催される進路説明会には従来から積極的に参加させて頂いている。例年，岐阜高専からも進路説明会への参加の機会を頂けるように積極的にお願いしている状況である。

５．[redacted]参与：岐阜高専同窓会（若鮎会）会長

① 国際交流について，私の在学中は専ら留学生が来るのみであったが，現在では相互に短期の留学生交換をも実施しており，グローバル化進んでいる点を評価したい。

② AP 事業における授業の可視化については，学生の評価であるので，学生の評価が必ずしも真に良い授業とは限らないので，この扱いにはフィルタリングが必要である。
回答（[redacted]教育 AP 推進室長）当室で実施している学生の授業アンケートは良い点のみを記載するシステ

ムになっている。学生の評価であるため，評価に偏りのある懸念も確かにあるが，これを学内公開していることにより，良い授業とされた授業については，遠慮なく授業参観できる状況・環境が形成されている。総じて本システムは教員による相互授業参観の促進，ひいては授業の質の向上に役立っている。なお，教育施設整備のアンケートについてはフィードバックを迅速に行っているため，学生のアンケートに対する信頼度を向上させる役割をも担っている。

③　キャリア教育のパワーポイントによる説明について,『コミュニケーション講座』が印象に残っているが，コミュニケーション能力の向上は技術者にとって重要であり，今後も積極的に進めて頂きたい。

回答（[redacted] KOSEN4.0 イニシアティブ事業担当者）コミュニケーション能力は実習やクラス内での活動を通して自然に身につくものとして指導はしていなかった。しかし、近年コミュニケーションを苦手とする学生が多々見られる。本事業を契機としてコミュニケーションが苦手な学生に対して手助けになるよう、コミュニケーション講座を取り入れた。今後も積極的に推進して行く考えである。

６．[redacted]参与：岐阜高専教育後援会会長

①　多様なプロジェクトが進められており，予算獲得の手段としても充実しているので今後も積極的に進めて頂きたい。

②　海外の大学との包括的な提携を進められており，グローバル化を促進されていることは評価できる。一方で，これらの提携大学はどのように選択されているか，また今後はさらに拡大していかれるのか。

回答（[redacted]校長）海外大学との提携は，実質的に学生や教員の相互交換・留学等の成果のあるものに厳選して実施している。今後，拡大する際にもこの観点で推進して行く考えである。

７．[redacted]参与：豊橋技術科学大学副学長

①　国際化・グローバル化の推進が顕著であり，特に評価したい。

②　文部科学省からは予算が削られる状況下であり，また人員削減が迫られて，人件費割合の低減が求められる状況下であるが，外部資金等の獲得やプロジェクトの推進を積極的に進められている点も素晴らしい。

③　貴校の卒業生の[redacted]教員も豊橋技術科学大学の若手教員として将来が嘱望される人材として評価も高い。

出典　令和元年度第2回点検評価・フォローアップ委員会資料

学生による授業評価が踏まえられていることを示す資料

資料1-1-3-(2)-02

平成30年度　教員面談報告書　（一般科目（人文））

※5月末までに委員長へご提出下さい。

フォローアップ委員氏名（[redacted]）

丸数字は実施要領 p 3 項目23に対応

学年	授業科目（略称）	開講期間	担当教員	①フォローアップ点検資料の保存状況						②，③成績評価方法等の確認	④改善案の提示の有無	⑤学生評価と教員評価のズレ A　学生評価が2.5以下 B　教員評価とのギャップ1.5以上	点検資料の保存状況、もしくは面談時における特記事項	総合評価
				シラバス	成績一覧表	模範解答等	学生答案等	教室外学修	フィードバック					
1A	英語A	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
1C	英語A	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
1D	英語A	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
1E	英語A	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
1M	英語A	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
2A	英語A	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
2C	英語A	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
2D	英語A	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
2E	英語A	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
2M	英語A	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
3A	英語A	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
3C	英語A	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
3D	英語A	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
3E	英語A	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
3M	英語A	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
4A	英語A	通年	[redacted]	○	○	○	○	○	○	○	○			A
4C	英語A	通年	[redacted]	○	○	○	○	○	○	○	○			A
4D	英語A	通年	[redacted]	○	○	○	○	○	○	○	○			A
4E	英語A	通年	[redacted]	○	○	○	○	○	○	○	○			A
4M	英語A	通年	[redacted]	○	○	○	○	○	○	○	○			A
5A	英語A	通年	[redacted]	○	○	○	○	○	○	○	○			A
5C	英語A	通年	[redacted]	○	○	○	○	○	○	○	○			A
5D	英語A	通年	[redacted]	○	○	○	○	○	○	○	○			A
5E	英語A	通年	[redacted]	○	○	○	○	○	○	○	○			A
5M	英語A	通年	[redacted]	○	○	○	○	○	○	○	○			A
1A	英語B	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
1C	英語B	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
1D	英語B	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
1E	英語B	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
1M	英語B	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
2A	英語B	後期	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
2C	英語B	後期	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
2D	英語B	後期	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
2E	英語B	後期	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
2M	英語B	後期	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
1A	英語C	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
1C	英語C	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
1D	英語C	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
1E	英語C	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
1M	英語C	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
2A	英語C	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
2C	英語C	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
2D	英語C	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
2E	英語C	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
2M	英語C	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
3A	英語C	前期	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A

平成30年度　教員面談報告書　（一般科目（人文））

※5月末までに委員長へご提出下さい。

フォローアップ委員氏名（[redacted]）

丸数字は実施要領 p 3 項目23に対応

学年	授業科目（略称）	開講期間	担当教員	①フォローアップ点検資料の保存状況						②，③成績評価方法等の確認	④改善案の提示の有無	⑤学生評価と教員評価のズレ A　学生評価が2.5以下 B　教員評価とのギャップ1.5以上	点検資料の保存状況、もしくは面談時における特記事項	総合評価
				シラバス	成績一覧表	模範解答等	学生答案等	教室外学修	フィードバック					
3C	英語C	前期	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
3D	英語C	前期	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
3E	英語C	前期	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
3M	英語C	前期	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
1A	音楽	後期	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
1C	音楽	後期	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
1D	音楽	後期	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
1E	音楽	前期	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
1M	音楽	前期	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
1A	国語A	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
1C	国語A	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
1D	国語A	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
1E	国語A	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
1M	国語A	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
1A	国語B	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
1C	国語B	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
1D	国語B	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
1E	国語B	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
1M	国語B	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
3A	政治・経済	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
3C	政治・経済	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
3D	政治・経済	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
3E	政治・経済	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
3M	政治・経済	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	×			B
2A	総合国語	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
2C	総合国語	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
2D	総合国語	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
2E	総合国語	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
2M	総合国語	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
3A	総合国語	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
3C	総合国語	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
3D	総合国語	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
3E	総合国語	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
3M	総合国語	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
4A	総合国語	後期	[redacted]	○	○	○	○	○	○	○	○			A
4C	総合国語	前期	[redacted]	○	○	○	○	○	○	○	○			A
4D	総合国語	後期	[redacted]	○	○	○	○	○	○	○	○			A
4E	総合国語	前期	[redacted]	○	○	○	○	○	○	○	○			A
4M	総合国語	前期	[redacted]	○	○	○	○	○	○	○	○			A
1A	地理	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
1C	地理	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
1D	地理	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
1E	地理	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
1M	地理	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
4A	ドイツ語	通年	[redacted]	○	○	○	○	○	○	○	○			A
4C	ドイツ語	通年	[redacted]	○	○	○	○	○	○	○	○			A

平成30年度　教員面談報告書　（一般科目（人文））

※5月末までに委員長へご提出下さい。

フォローアップ委員氏名（[redacted]）

丸数字は実施要領ｐ3 項目23に対応

学年	授業科目（略称）	開講期間	担当教員	①フォローアップ点検資料の保存状況						②，③成績評価方法等の確認	④改善案の提示の有無	⑤学生評価と教員評価のズレ A　学生評価が2.5以下 B　教員評価とのギャップ1.5以上	点検資料の保存状況、もしくは面談時における特記事項	総合評価
				シラバス	成績一覧表	模範解答等	学生答案等	教室外学修	フィードバック					
4D	ドイツ語	通年	[redacted]	○	○	○	○	○	○	○	○			A
4E	ドイツ語	通年	[redacted]	○	○	○	○	○	○	○	○			A
4M	ドイツ語	通年	[redacted]	○	○	○	○	○	○	○	○			A
5A	ドイツ語	通年	[redacted]	○	○	○	○	○	○	○	○			A
5C	ドイツ語	通年	[redacted]	○	○	○	○	○	○	○	○			A
5D	ドイツ語	通年	[redacted]	○	○	○	○	○	○	○	○			A
5E	ドイツ語	通年	[redacted]	○	○	○	○	○	○	○	○			A
5M	ドイツ語	通年	[redacted]	○	○	○	○	○	○	○	○			A
3A	日本語・日本事情	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
4MCA	日本語	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
1A	美術	前期	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
1C	美術	前期	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
1D	美術	前期	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
1E	美術	後期	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
1M	美術	後期	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
4A	法学	通年	[redacted]	○	○	○	○	○	○	○	○			A
4C	法学	通年	[redacted]	○	○	○	○	○	○	○	○			A
4D	法学	通年	[redacted]	○	○	○	○	○	○	○	○			A
4E	法学	通年	[redacted]	○	○	○	○	○	○	○	○			A
4M	法学	通年	[redacted]	○	○	○	○	○	○	○	○			A
2A	倫理	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
2C	倫理	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○	A（項目２：２２），A（項目３：２．５），A（項目４：１．９），A（項目５：１．９），A（項目６：１．９）	２Aと同じ授業を実施しているが、２C学生からの学生評価が極めて低い。年度途中に教員は何度か授業改善を行っているが、学生がそれを一切評価していない。確かに教員の授業に課題はあったが、学生の教員への態度や授業への受け方にも問題がある。教員は来年度以降の非常勤を依頼しないこととした。同様に２C学生にも授業の受け方や教員への態度について改善を求めたい。	B
2D	倫理	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
2E	倫理	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
2M	倫理	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
1M	世界史	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
1C	世界史	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
1A	世界史	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
1D	世界史	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
1E	世界史	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
2A	日本史	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
2C	日本史	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
2D	日本史	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
2E	日本史	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
2M	日本史	通年	[redacted]	○	○	○	○		○	○	○			A
Y1	英語特講1	前期	[redacted]	○	○	○	○	○	○	○	○			A
Y1	英語特講2	後期	[redacted]	○	○	○	○	○	○	○	○			A
Y2	社会倫理学特論	前期	[redacted]	○	○	○	○	○	○	○	○			A
Y2	英語演習1	前期	[redacted]	○	○	○	○	○	○	○	○			A
Y2	英語演習2	後期	[redacted]	○	○	○	○	○	○	○	○			A
Y2	文学	後期	[redacted]	○	○	○	○	○	○	○	○			A

出典　平成30年度教員面談報告書　人文科目
学内向けWebサイト　点検評価・フォローアップ委員会令和元年度のサイト

学生による達成度の周知を示す資料

資料1-1-3-(2)-03

H31.3.31

平成30年度　授業評価アンケートによる目標の達成度　　資料２

点検評価・フォローアップ委員会

・総合的に授業の目標を達成したか（授業アンケート　問3）

・総合的に判断して、この科目の目標・目的を達成したと思いましたか（授業アンケート平成24年度まで 問26）

学年	学科	H30	H29	H28	H27	H26	H25	平均
1年	M	4.0	3.9	3.9	3.9	4.0	3.5	3.88
	E	3.9	3.8	3.7	3.8	4.1	3.5	3.80
	D	4.1	3.8	3.7	3.6	4.0	3.8	3.82
	C	4.2	3.9	4.1	3.8	3.8	3.6	3.90
	A	4.0	4.0	3.7	3.9	3.7	3.7	3.83
	平均	4.0	3.9	3.9	3.8	3.9	3.6	3.86
2年	M	3.9	4.1	3.8	4.2	3.7	4.0	3.95
	E	3.6	3.6	3.7	4.0	3.7	3.7	3.71
	D	3.8	3.6	3.7	4.1	3.8	4.0	3.82
	C	3.9	4.0	4.0	3.8	3.5	3.8	3.83
	A	4.0	3.5	3.9	3.7	3.4	3.7	3.71
	平均	3.8	3.8	3.8	3.9	3.6	3.8	3.80
3年	M	3.8	3.8	4.1	3.6	4.0	3.6	3.83
	E	3.4	3.7	4.0	3.5	3.5	3.7	3.64
	D	3.7	3.7	3.8	3.8	3.9	3.5	3.73
	C	4.0	3.7	3.7	3.5	3.9	3.9	3.78
	A	3.6	4.0	3.8	3.7	3.5	3.6	3.70
	平均	3.7	3.8	3.9	3.6	3.8	3.7	3.74
4年	M	4.0	4.0	3.6	3.8	3.6	3.4	3.74
	E	3.9	4.0	3.7	3.5	3.6	**3.3**	3.67
	D	3.8	4.0	3.8	3.9	3.6	3.6	3.78
	C	3.9	3.8	3.6	3.9	4.0	3.4	3.77
	A	4.0	3.8	3.6	3.7	3.7	3.5	3.71
	平均	3.9	3.9	3.6	3.8	3.7	3.4	3.73
5年	M	4.0	3.5	3.7	3.6	3.3	3.4	3.59
	E	4.1	3.4	3.8	3.7	**3.3**	3.3	3.59
	D	3.8	3.7	3.6	3.5	**3.2**	3.4	3.54
	C	3.8	3.6	3.9	3.9	3.4	3.6	3.71
	A	3.9	3.6	3.5	3.6	3.3	3.4	3.55
	平均	3.9	3.6	3.7	3.7	3.3	3.4	3.61
全平均		3.9	3.8	3.8	3.8	3.7	3.6	3.76
専攻科	1Y	3.8	4.0					3.91
	2Y	4.1	3.9	3.7				3.92
	S			4.2	3.7	3.9	3.9	3.93
	K			3.8	3.6	3.5	3.7	3.65
	SK			3.9	3.7	3.6	3.5	3.70
	平均	4.0	3.9	3.9	3.6	3.7	3.7	3.80

赤字：3.3以下のもの

出典　平成31年度第1回教員会議資料　4月2日開催

学生による満足度の周知を示す資料

資料1-1-3-(2)-04

H31.3.31

平成30年度　授業評価アンケートによる授業の満足度　　資料１

点検評価・フォローアップ委員会

・総合的に良い授業であったか（授業アンケート　問4）
・総合的に判断して、この授業は良かったと思いましたか（授業アンケート平成24年度まで 問19）

学年	学科	H30	H29	H28	H27	H26	H25	平均
1年	M	4.2	4.2	4.1	4.0	4.3	3.8	4.10
	E	4.1	4.0	4.0	4.0	4.3	3.6	3.99
	D	4.3	4.2	4.0	3.8	4.1	4.0	4.06
	C	4.4	4.1	4.3	3.9	4.1	3.9	4.10
	A	4.1	4.1	3.9	4.1	3.9	3.9	4.01
	平均	4.2	4.1	4.1	4.0	4.1	3.8	4.06
2年	M	4.0	4.1	3.9	4.3	3.9	4.3	4.07
	E	3.7	3.7	3.9	4.2	3.8	3.8	3.86
	D	3.9	3.7	3.8	4.2	3.8	4.1	3.92
	C	3.9	4.2	4.1	3.9	3.7	4.1	3.98
	A	4.1	3.6	4.0	3.9	3.6	3.8	3.83
	平均	3.9	3.9	3.9	4.1	3.8	4.0	3.93
3年	M	4.0	4.0	4.2	3.8	4.2	3.8	4.00
	E	3.5	3.7	4.1	3.6	3.6	3.7	3.71
	D	3.9	3.9	3.9	3.8	3.9	3.6	3.84
	C	4.1	3.8	3.9	3.6	4.0	4.1	3.92
	A	3.7	4.1	3.9	3.8	3.5	3.9	3.81
	平均	3.8	3.9	4.0	3.7	3.9	3.8	3.85
4年	M	4.1	4.2	3.7	4.0	3.7	3.7	3.90
	E	3.9	4.1	3.6	3.5	3.7	**3.3**	3.69
	D	3.9	4.0	3.7	3.9	3.7	3.6	3.79
	C	4.1	3.9	3.7	4.0	4.1	3.6	3.90
	A	4.1	3.9	3.7	3.7	3.8	3.6	3.81
	平均	4.0	4.0	3.7	3.8	3.8	3.6	3.82
5年	M	4.0	3.6	3.9	3.7	3.5	3.7	3.75
	E	4.2	3.5	3.8	3.8	**3.4**	3.6	3.71
	D	4.0	3.8	3.8	3.6	**3.3**	3.7	3.68
	C	3.9	3.7	3.9	4.0	3.5	3.7	3.79
	A	4.0	3.7	3.6	3.7	3.6	3.6	3.70
	平均	4.0	3.7	3.8	3.8	3.5	3.7	3.74
全平均		4.0	3.9	3.9	3.9	3.8	3.8	3.88
専攻科	1Y	3.8	4.0					3.90
	2Y	4.2	3.9	3.8				3.97
	S			4.1	3.8	4.1	4.1	4.00
	K			4.3	3.6	3.6	3.9	3.85
	SK			4.0	3.8	3.7	3.7	3.80
	平均	4.0	3.9	4.0	3.7	3.8	3.9	3.88

赤字：3.4以下のもの

出典　平成31年度第1回教員会議資料　4月2日開催

平成30年度 教育目標（準学士課程）に関するアンケート

資料４

点検評価･フォローアップ委員会

本校の教育の改善等のために、卒業時に教育目標（準学士課程）に関するアンケートを実施した。その結果を下記に示す。
５段階評価で５が最上である。

準学士課程の教育目標

（１）広い視野を持ち，自立心と向上心に富み，教養豊かで心身ともに健康な技術者の育成
（２）基礎学力を身に付け，創造力，応用力，実践力を備えた技術者の育成
（３）国際コミュニケーション能力と先端情報技術を駆使する能力を備えた技術者の育成
（４）工学技術についての倫理観を有した技術者の育成
（５）教育研究活動を通じて社会へ貢献できる技術者の育成

番号	設問内容	5M	5E	5D	5C	5A	平均	平均(H29)	平均(H28)	平均(H27)
1	このような教育目標があることを知っていましたか？	3.16	3.02	3.00	3.16	**2.94**	3.06	**2.96**	**2.87**	**2.56**
2	（１）の目標はこれでよいと思いますか？	4.39	4.40	4.25	4.39	4.20	4.33	3.85	4.10	3.91
3	（２）の目標はこれでよいと思いますか？	4.50	4.48	4.33	4.50	4.20	4.40	3.90	4.11	3.99
4	（３）の目標はこれでよいと思いますか？	4.34	4.31	4.33	4.34	4.17	4.30	3.84	4.02	3.93
5	（４）の目標はこれでよいと思いますか？	4.37	4.38	4.35	4.37	4.20	4.33	3.88	4.08	3.99
6	（５）の目標はこれでよいと思いますか？	4.39	4.40	4.33	4.39	4.20	4.34	3.88	4.09	3.95
7	（１）の目標に対して、学校の教育に満足していますか？	3.84	3.98	3.65	3.84	4.06	3.87	3.54	3.69	3.52
8	（２）の目標に対して、学校の教育に満足していますか？	3.89	4.07	3.68	3.89	4.09	3.92	3.59	3.75	3.59
9	（３）の目標に対して、学校の教育に満足していますか？	3.24	3.83	3.45	3.24	3.91	3.53	3.33	3.43	3.28
10	（４）の目標に対して、学校の教育に満足していますか？	3.84	4.12	3.73	3.84	4.00	3.91	3.55	3.69	3.53
11	（５）の目標に対して、学校の教育に満足していますか？	3.89	4.10	3.73	3.89	4.00	3.92	3.55	3.65	3.52
12	あなたは（１）の目標を達成したと感じていますか？	3.66	3.81	3.60	3.66	3.63	3.67	3.40	3.52	3.34
13	あなたは（２）の目標を達成したと感じていますか？	3.66	3.90	3.55	3.66	3.74	3.70	3.41	3.60	3.34
14	あなたは（３）の目標を達成したと感じていますか？	3.03	3.57	3.33	3.03	3.71	3.33	3.17	3.36	3.15
15	あなたは（４）の目標を達成したと感じていますか？	3.68	4.05	3.63	3.68	3.66	3.74	3.46	3.57	3.34
16	あなたは（５）の目標を達成したと感じていますか？	3.61	4.00	3.63	3.61	3.66	3.70	3.39	3.55	3.32

赤字は３未満の評価

分析

１．評価項目のうち教育目標の認識度は比較的低いが，年度進行に伴って向上し，平成30年度については，5学科の平均は3を越えてきている。
２．①教育目標の妥当性についての評価，②学校教育についての満足度，及び③教育目標についての達成感はいずれも，年度進行とともに向上してきている。

平成30年度 教育目標（専攻科課程）に関するアンケート

資料５

点検評価・フォローアップ委員会

本校の専攻科教育の改善等のために、修了時に教育目標（専攻科課程）に関するアンケートを実施した。その結果を下記に示す。
５段階評価で５が最上である。

専攻科課程の教育目標

（１）得意とする専門分野をさらに深めるとともに、異分野を理解し複数の分野にまたがった思考力を備えた技術者の育成
（２）社会の要求するテーマを創造的に調査・企画・設計・計画し、継続的に解析・実行・改善できる問題解決能力を備えた技術者の育成
（３）的確な日本語と国際的に通用するコミュニケーション能力を備えた技術者の育成
（４）先端情報技術を駆使して専門分野のプログラムを構築する能力を備えた技術者の育成
（５）多様でグローバルな視点の倫理的判断ができ、技術者の社会的責任を理解して地域貢献できる技術者の育成

番号	設問内容	平均（H30）	平均（H29）	平均(S+K)(H28)	平均(S+K)(H27)
1	このような教育目標があることを知っていましたか？	3.6	3.2	**2.5**	3.9
2	（１）の目標はこれでよいと思いますか？	4.1	4.1	3.9	4.3
3	（２）の目標はこれでよいと思いますか？	4.2	4.2	3.9	4.4
4	（３）の目標はこれでよいと思いますか？	4.0	4.2	4.0	4.3
5	（４）の目標はこれでよいと思いますか？	4.1	4.3	4.0	4.4
6	（５）の目標はこれでよいと思いますか？	4.2	4.1	4.0	4.3
7	（１）の目標に対して、学校の教育に満足していますか？	3.8	3.6	3.6	4.1
8	（２）の目標に対して、学校の教育に満足していますか？	3.9	3.6	3.6	3.9
9	（３）の目標に対して、学校の教育に満足していますか？	3.5	3.6	3.4	3.7
10	（４）の目標に対して、学校の教育に満足していますか？	3.7	3.7	3.3	4.0
11	（５）の目標に対して、学校の教育に満足していますか？	3.8	3.7	3.6	4.1
12	あなたは（１）の目標を達成したと感じていますか？	3.9	3.7	3.4	4.0
13	あなたは（２）の目標を達成したと感じていますか？	4.1	3.3	3.4	4.0
14	あなたは（３）の目標を達成したと感じていますか？	3.9	3.6	3.4	3.8
15	あなたは（４）の目標を達成したと感じていますか？	4.0	3.5	3.6	3.9
16	あなたは（５）の目標を達成したと感じていますか？	4.0	3.6	3.3	3.8

赤字は3以下の評価

分析

１．教育目標についての認知度（設問１）は平成28年度を底に向上してきている。
２．教育目標自体についての評価（設問２～設問６）はいずれも4.0以上であり良好である。
３．教育目標に照らした教育の満足度（設問7～設問11）は3.5～3.9の範囲であるが過年度に比べると向上している。
４．教育目標に照らした各自の達成度（設問12～設問16）は3.9～4.1の範囲であり，良好である。

出典　平成31年度第1回教員会議資料　4月2日開催

外部有識者組織の参与会規程

資料1-1-3-(2)-06

岐阜工業高等専門学校参与会規程

制定　平成16年８月２５日
学 校 規 則 第 ３ ８ 号

（設置）
第１条　岐阜工業高等専門学校（以下「本校」という。）に，広く学外有識者の意見を聴くため，参与会を置く。
（任務）
第２条　参与会は，次の各号に揚げる事項について，校長の諮問に応じて審議し，及び校長に対して助言又は勧告を行うものとする。
一　本校の教育研究上の目的を達成するための基本的な計画に関する事項
二　本校の教育研究活動等の状況について本校が行う自己点検・評価に関する事項
三　その他本校の運営に関する事項
（組織）
第３条　参与会は，次の各号に掲げる参与若干名で組織する。
一　大学又は高等専門学校等の教育研究機関の教員等
二　産業・経済界の関係者
三　本校の所在する地域の関係者
四　本校を卒業又は修了した者
五　その他高等専門学校に関し広くかつ高い識見を有する者
（委嘱）
第４条　参与は，校長が委嘱する。
（任期）
第５条　参与の任期は，２年とする。ただし，再任を妨げない。
２　前項の参与に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。
（会長及び副会長）
第６条　参与会に会長及び副会長を置き，それぞれ委員の互選とする。
２　副会長は，会長を補佐し，会長に事故があるときは，その職務を代行する。
（運営）
第７条　参与会の会議は，校長が招集し，会長がその議長となる。
（庶務）
第８条　参与会の庶務は，総務課において処理する。

附　則

１　この規程は，平成１６年８月２５日から施行する。
２　岐阜工業高等専門学校有識者との懇話会要綱（平成１３年１２月５日校長裁定）は，廃止する。

附　則（平成19年学校規則第29号）

この規程は，平成19年4月1日から施行する。

附　則（平成25年学校規則第8号）

この規程は，平成25年4月1日から施行する。

出典　岐阜高専学内向けWebサイトー事務部ー規則

資料1-1-4-(1)-01

スパイラルアップ会議の活動ステップを示す資料

ステップ１
スパイラルアップ会議議長が、各種会議・委員会に対して各活動報告の自己点検・評価を依頼するメール

-----Original Message-----
From: soum7 [redacted]
Sent: Monday, March 25, 2019 4:11 PM
To:
Subject: 平成３０年度各種会議・委員会等の活動報告について（依頼）

平成３１年３月２５日

各種会議・委員会の長　殿

スパイラルアップ会議議長　校長

平成３０年度各種会議・委員会等の活動報告について（依頼）

このことについて，スパイラルアップ会議規程の審議事項第２条第３号により，各種会議・委員会等からの活動の点検評価のため別紙様式により該当会議等の活動・点検について，下記のとおり回答願います。

記

提出期限　　４月３日（水）
提 出 先　　総務課総務・企画係
回答内容　　１　会議開催回数
　　２　③今年度の活動内容
　　３　④自己点検及び改善すべき事項
　　４　ワーキンググループについては、内規等に定められたものは
　　表中に記載しておりますが、各委員会等で独自に定められた
　　ワーキンググループについては、「③今年度の活動内容」に
　　記入願います。

以上（添付ファイルの赤字部分）について，記載願います。

なお、前年度評価が評価「C」又は「W」の部門は「②改善すべき事項」等の実施状況を必ず記載ください。

****
独立行政法人国立高等専門学校機構
岐阜工業高等専門学校
総務課総務・企画係
〒501-0495 [redacted]
TEL
FAX
E-mail　:
****

ステップ２
スパイラルアップ会議議長が評価者を指名し、各種会議・委員会の自己点検・評価を評価することを依頼するメール

----Original Message-----
From: soum7 <s[redacted]
Sent: Friday, April 5, 2019 2:49 PM
To:
Subject: 平成３０年度活動報告書の点検評価について（依頼）

平成３１年４月５日

点検評価担当者各位
（ＣＣスパイラル会議構成員各位）

校　　長

平成３０年度活動報告書の点検評価について（依頼）

平成３０年度の各会議・委員会等の活動内容について、添付ファイルのとおり報告がありましたので、下記の要領で点検評価をお願いします。
点検評価の結果につきましては、４月２４日（水）にスパイラルアップ会議で審議を予定しております。
短期間での依頼になり申し訳ございませんが、ご協力の程よろしくお願い致します。

記

１．評価箇所
　点検評価を分担する委員会等を評価者欄で確認し、報告表のエクセルファイルの⑤⑥⑦を記入してください。

２．評価方法
　前年の例を参考にして
　⑤=　評価の概要を記述する。
　良好である。・・・が望ましい。・・・の懸念がある。等
　⑥=　評価を記号で入れる。⑤の概要末尾で決まります。
　末尾例を示します。（JABEE の評価基準を採用しています。）
　A　；良好である。十分である。満たしている。
　C　；望ましい。懸念がある。
　W　；必要である。問題である。
　D；　欠陥がある。満たしていない。
　⑦=　評価 C，W，D について改善案を提示してください。
　自己点検で改善案が示されていますので、同じでよければ同じ表記で結構です。不足の場合はさらに指摘してください。
☆　評価「W・D］をつける場合は、事前に会議等の委員長に聞き取りを行ってください。

３．提出期限等
　４月１８日（木）、総務・企画係まで

４．今後の予定
　・評価一覧表作成（総務課）
　・C，W，D について、今年度開催予定のスパイラルアップ会議
　（４月２４日（水））で点検結果を審議し、改善案を決定して周知する。
　　評価者の先生方も会議にご出席願います。
　・周知された改善案等に従い各会議で改善を行い、年度末に
　　活動報告を提出する。

****
　独立行政法人国立高等専門学校機構
　岐阜工業高等専門学校
　総務課総務・企画係
　〒501-0495 [redacted]
　[redacted]
　FAX
　E-mail　：
****

出典　平成31年度当初　スパイラルアップ会議議長から関係者への依頼メール

平成28年度　会議・委員会・部門委員会の活動，評価等

番号	会議・委員会・部門委員会名	委員長等	担当課・係	前年度（H27）自己点検 自己点検及び改善すべき事項	前年度（H27）評価者による評価等 ①評価概要	評価	 ②改善すべき事項	開催回数 H28	③今年度の活動内容 H28	④自己点検及び改善すべき事項 H28	⑤評価概要 H28	⑥評価 H28	⑦改善事項 H28
1	主管会議	校長	総務課 総務・企画係	①　審議事項等に関し事前に資料を配布し効率化を図る必要がある。 ②　会議資料の電子化を推し進め資源の削減を図る必要がある。	活動状況は，良好である。	A	○会議資料の中に，同一の報告事項を，複数回に亘って掲載している個所が散見される。 ○会議資料の電子化を推し進め，資源の削減とともに，事務業務の効率化を図る必要がある。	18	適切に審議され実施できた。	昨年度指摘事項について、 1．資料の重複については、説明上必要な面があり重複も避けられないが、今後、効率化を図りたい。 2．資料の電子化については、進まなかったが、次年度電子化を図る予定である。	活動状況は良好である。	A	議事進行の効率化と会議資料削減のため，前回の報告事項は，基本的に再掲しない方がよい。特に，研究主事関連（センター関係）で散見される。
2	運営会議	校長	総務課 総務・企画係	会議資料の電子化を推し進め資源の削減を図る必要がある。	活動状況は，良好である。	A	○会議資料の中に，同一の報告事項を，複数回に亘って掲載している個所が散見される。 ○会議資料の電子化を推し進め，資源の削減とともに，事務業務の効率化を図る必要がある。	15	適切に協議され実施できた。	昨年度指摘事項について、 1．資料の重複については、説明上必要な面があり重複も避けられないが、今後、効率化を図りたい。 2．資料の電子化については、進まなかったが、次年度電子化を図る予定である。	活動状況は良好である。	A	議事進行の効率化と会議資料削減のため，前回の報告事項は，基本的に再掲しない方がよい。特に，研究主事関連（センター関係）で散見される。
3	スパイラルアップ会議	校長	総務課 総務・企画係	特になし	活動状況は良好である。	A		1	適切に審議され実施できた。	特になし	活動状況は良好である。	A	
4	教務会議	教務主事	学生課 教務係	新たな広報活動の内容や方法、体制について検討する必要がある。	従前の活動においては良好である。 改革推進活動においては，自己点検にある広報活動について，特にAP関係や高専機構関係の展開の広報強化が今後期待される。	A	改革推進活動においては，自己点検にある広報活動について，特にAP関係や高専機構関係の展開の広報強化が今後期待される。	37	開講期間中、ほぼ週１回開催し、教育課程表の変更や入試広報活動を中心として十分な議論が行われた。	入試方法を改善する必要があるか、また、どのように改善するかについて継続して検討していく必要がある。具体的には、推薦入試においては調査書点と面接点の割合、学力入試においては調査書点と学力検査の割合などについてである。	活動状況は良好である。	A	引き続き、広報活動等、可視化の推進を継続されたい。
4-1	FD活動推進会議	教務主事	学生課 教務係		外部のFD講習等への参加者が限定されており，必ずしも全教員のFD意識が十分とは言えない懸念がある。	C	高専機構の改革推進事業とも連携して，外部FD活動等に，より多くの教員が参加することを期待する。	4	実施方法を検討のうえ、FD講演会、授業参観とも前後期に各１回、開催した。授業参観については、前年度の学生アンケート評価が高かったAL授業を対象とした授業参観を初試行した。	FD講演会、授業参観とも参加率が高いとは言えない。教員のFDに対する意識を高める工夫が必要であるが、講演会においては魅力あるテーマ設定も求められる。	活動の改善努力は見受けられるが、自己点検にある様に、更なる参加率の増加やFD活動の可視化が望まれる。	C	更なるFD活動への教員参加率の増加やFD活動のコンテンツ等の蓄積・可視化が望まれる。 また、SD活動も含めての、他会議との統合化も今後は検討の余地が有る。
5	専攻科会議	専攻科長	学生課 教務係	活動状況は良好である。 来年度の課題は新専攻の運営及び特例審査の通過である。	前回課題として指摘された教職員並びに学生に対する情報周知が実施されている。活動状況は良好である。	A		13	新専攻が発足して一期生が入学した。その運営方法について検討した結果，進路指導，特別研究審査，特別実習報告のみについては従来の二専攻体制とすることを決定した。 新専攻での特例審査を受審し，5専攻区分全てについて特例適用「適」となった。 JABEE変更時審査は不要と判定されたため，改めて他機関からの入学生に対応できるよう達成目標・評価方法の微修正を行った。	活動状況は良好である。 今年度概要を決定した特別研究１英語発表について，来年度詳細を検討する必要がある。	前回課題として指摘された新専攻の運営及び特例審査の通過に関する実績が示されている。活動状況は良好である。	A	
6	学生会議	学生主事	学生課 学生係	会議は良好に行なわれているが，登録制度に基づく校内自転車駐輪、規程に基づく各種届を提出した上での自動車利用に関して、学級担任と連携しながら学年別に更に周知徹底していく予定でいる。	活動状況は良好である。	A		35	予定された学生会行事の実施に加え、各方面から提起された案件に審議のうえ対応した。交通安全教育は継続実施したが、数値としては自転車20、自動車11、バイク2と合計33件の27年度同じ件数の交通事故が報告された。盗難紛失は5件が報告され(27年度6件)校内での自転車紛失は27年度に続き0件と予防指導の成果が見られた。上級生で通学届未提出状態で自動車通学をした事例が13件発覚したのが例年より目立った。	会議は良好に行われているが，惑戒を典型とする学生指導の基準や方法に関して見直しを求める意見が複数方面から寄せられ、審議を進めている。情報を公開したうえで開かれた議論を展開したうえで可及的速やかに体制を落ち着ける必要がある。また通学届を中心とする自動車関係書類の提出に関しては、引き続き学級担任と連携して指導を進める必要がある。	活動状況は良好である。学生指導の基準や方法に関する見直しが速やかに行われることが望まれる。	A	
7	寮務会議	寮務主事	学生課寮務係	指導退寮5名、希望退寮13名が出た。希望退寮者の内6名は成績不振が理由であったこと、朝寝坊を繰り返すものが多かったことから、学習習慣、生活リズムの確立に向けた指導を強化していく予定である。また、施設設備に関するアンケートで多数の改修希望があった風呂場は、実際に天井壁の落下も起こり、改修実現に向けた取り組みを行なう予定である。	活動状況は良好である。退寮者対策としての生活指導、老朽化が進む施設の改修実現に向けた取り組みといった課題に向けた取り組みが期待される。	A		26	寮務会議、寮生会行事は予定通り行われた。繰り返される寝坊に対する指導強化として停寮指導を適用した。寮棟内洋式便座の一部に温水洗浄器付便座を設置、害虫・雑草対策として防草シートの敷詰など、寮生の住環境の改善を行なった。これまでの1年生に対する指導を撤廃し、1年生と指導寮生との新しい関わり方について検討した。H29年度夏季休業期間に男子浴室内装改修工事が行われることが決定した。	指導退寮4名、希望退寮8名が出た。停寮指導を9名を対象に行った。基本的な生活習慣、学習習慣の確立に向けた指導を今後も継続する予定である。また、新しい体制で迎えるA寮の1年生の様子を注意深く見守っていく予定である。	活動状況は良好である。	A	
8	将来計画委員会	教務主事	総務課 総務・企画係		活動状況は良好である。	A		4	ミニWGの体制、検討すべき内容を見直すとともに、年度計画の策定および進捗状況のチェックを行った。	中長期的な展望について積極的な議論がされているかが課題といえる。	活動状況は良好である。議事録によると，教員組織・事務組織ともに中長期的な観点から組織改革に関わる議論がなされている。	A	
9	財務・施設委員会	校長	総務課 財務係・施設係	適切に審議され，実施された。	良好である。	A	特になし	5	●第1回①平成27年度決算について②平成27年度校長裁量経費の決算について③平成28年度予算配分（案）について④平成29年度概算要求事業（施設整備関係）について⑤平成28年度実施事業について⑥「岐阜高専キャンパスマスタープラン2017」について ●第2回①「財務・施設委員会キャンパス整備ワーキンググループ内規」の制定について②教員室等の使用（不動産使用許可）について ●第3回①平成29年度予算編成方針（案）等について②平成28年度校長裁量経費の採択結果について③平成29年度概算要求事業について④平成29年度営繕要求事業について⑤「岐阜高専キャンパスマスタープラン2017」策定に伴う審議について ●第4回①平成29年度予算配分審査（要求ヒアリング）②平成29年度施設整備実施予定事業について③平成30年度施設整備費補助金の概算要求事業について④平成28年度営繕事業（追加）について ●第5回①平成29年度予算配分について②平成29年度　営繕要求事業について③平成29年度　教員室等の継続使用（不動産使用許可）及び冷暖房機器の継続使用について④「岐阜高専キャンパスマスタープラン2017」策定に伴う審議について⑤設備整備マスタープランの策定について	適切に審議され、実施された。	良好である。	A	特になし
10	入試運営委員会	教務主事	学生課 入試係		活動状況は良好である。	A		6	マークシート方式による入試方法、採点方法について改善を図った。また、帰国子女特別枠を新設する方向で検討を行った。	入試方法の改善も含め、本校に適合する入学生をどのように確保していくかが今後、より重要となる。	選抜方法をアドミッションポリシーとして受験者に明示することが外部評価で求められることがある。第4回の同委員会において平成30年度本科の募集要項から『合格発表者数』の記載を省くことが決議されているが，会議資料では募集要項の全容を確認できないため，募集要項内の選抜方法に関わる記載に首尾一貫性を欠くことがあるのでは？との懸念が残る。別途，募集要項の全容を精査し確認したい。	A	

11	広報委員会	学生主事	総務課 総務・企画係	HPリニューアルに伴い、学外向け情報の大半は外部業者による更新形式を取っているが、稼働初年度は年間保守契約に伴う更新回数のカウントに関して本校と業者の間に解釈の相違が見られた。今後体制を継続するためには契約の見直し、可能な範囲で本校教職員による更新体制増加も検討していくことになる。またFTPソフトを用いた本校教職員による更新部分では同期のずれから正常に翌日更新されないケースもあり、事態が落ち着くまで該当部局と情報係が連携し確認していくことになる。	ホームページが更新され，本校の活動内容が徐々に情報発信されている．自己点検されているように，更新のズレや更新回数のカウントに際して，業者間で不具合があるので，改善が望まれる．	C	教育AP事業などの文科省採択プロジェクトについては，ホームページから閲覧可能である．今後，小中学校や保護者などの一般の方が見てわかるように，パンフレット配付を含めて積極的な広報展開が望まれる．また，グローバル高専事業（拠点校）が採択された際にも，同様に，ICT機器などを活用した教育改善，先進的な取組みであることをメディア報道に取り上げてもらえるように広報していただきたい．	2	HPに関して27年度に見られた同期のずれや契約業者への想定を超えた回数の更新依頼といった問題は、対策を講じて解決した。 高専だより、学校要覧という紙媒体を含めて、教育AP事業・グローバル高専拠点事業に広報活動方法を提供するなど、各種事業との連携も図った。上記の連携に加えて広報コアフレーズ作成を進める必要が生じる中で、従来の規程を改正して各学科各部門から代表が集まる形態に改善し、審議を経たうえでシステムを提示する体制を整えた。なお対面会議は2回であるが、必要に応じてメール会議による審議を年度を通して実施している。	HPの内容更新方法や手順は27年度に整理したうえでHP内に公開し可視化したが，学内外で実施した各種催しや受賞等に関してHPに掲載されないとの指摘が寄せられることが複数回あった。システムは整理され、原稿を関係部局が提出すれば、必要に応じ審議を経由して掲載することは可能である。原稿作成や各種催しの監督まで、広報に関する全ての過程を広報委員会が担当しているように誤解している場合があるので、引き続きの連携を進める必要がある。	活動状況は良好である．	A	自己点検されているように，H27年度に見られた不具合等が改善された．広報活動の重要性は増加しているので，今後，関係者と連携した戦略的な活動が期待される．
12	人事委員会	校長	総務課 人事係	適切に審議され、実施した。	良好である。	A		10	10回の委員会を開催し適切に審議され実施された。	適切に審議され、実施した。	活動は良好である	A	入試関係と同様に、昇任手続き等に関するある程度の年間スケジュールの可視化があっても良い。
13	安全衛生委員会	校長	総務課 人事係 契約係 施設係 総務・企画係	適切に審議され、実施した。	良好である。	A		12	年間安全衛生活動計画により、次の事項について12回審議した。 ・安全衛生管理体制の確立 ・職場の安全衛生と作業環境の確保（職場の安全・衛生巡視等） ・健康管理（熱中症の予防講習会）・健康増進の実施 ・安全衛生教育の実施（救急法講習会等） ・設備・備品の転倒防止対策 ・ストレスチェックの実施（外部委託） ・化学物質リスクアセスメントの実施 【環境保全関係】：環境保全に関する事項について1回審議した。 【防災対策関係】：防災訓練、防災備蓄備品関係（備蓄倉庫は継続審議）について1回審議した。	適切に審議され、実施した。	活動は良好である	A	特になし
14	点検評価・フォローアップ委員会	[redacted]	総務課 総務・企画係	特になし。	活動は良好である	A	特になし	2	①H28度年度計画の達成状況を点検評価（中期計画WG） ②H28度学習評価フォローアップ点検の基本方針を策定（学習評価フォローアップWG） ③H28度授業アンケート結果の分析（学習評価フォローアップWG） ④H28度卒業生・修了生の教育目標に関する満足度・達成度を調査（学習評価フォローアップWG）	特になし。	活動は良好である	A	特になし
14 -1	中期計画WG	[redacted]	総務課 総務・企画係	特になし。	活動は良好である	A	特になし	2	①親委員会の①で実施した。	特になし。	活動は良好である	A	特になし
14 -2	自己点検・評価実施WG	[redacted]	総務課 総務・企画係	特になし。	活動は良好である	A	特になし	2	①スパイラルアップ会議における教育点検システム（概略図）の確認を行った。	特になし。	活動は良好である	A	特になし
14 -3	学習評価フォローアップWG	[redacted]	[redacted] 総務・企画係	特になし。	活動は良好である	A	特になし	3	①親委員会の②で策定した方針を基に、新しい実施要領を定め、WGで具体的な作業を実施した。 ②H28度の授業アンケートの取りまとめをWGで実施した。 ③親委員会で④（H28度卒業生・修了生の教育目標に関する満足度・達成度調査）を実施した。	特になし。	活動は良好である	A	特になし
15	国際交流室会議	[redacted]	総務課 総務・企画係	■長期外国人留学生 長期留学生を対象とした各種イベントを整理して、来年度は、東海地区高専の留学生研修は10月に市内および近郊で計画を進めていたが、今年度のスキー研修が中止となったため、来年度も同様のスキー研修とした。次回岐阜高専が担当校になったとき改めて検討をする。 ■本科生の短期留学生との交流および語学研修 JASSO短期留学生との交流は、研究室、学科、学生寮などで引き続き実施する。本校独自の本科生プログラムは未だ確立していないので、高専機構、JASSOなどが企画する短期派遣プログラムを引き続き情報提供する。 ■海外インターンシップ、短期留学派遣 海外インターンシップ、短期留学は、英国TYK Limited、バンドン工科大学(ITB)、マレーシア工科大学（UTM）、ハノーバー大学、アイオワ大学、トリノ工科大学タシケント校と派遣先の準備は整っている。継続的な取組みとするためには同人数の双方向交流が望まれる。そのためにJASSO（学生支援機構）による派遣・受入の支援および本校の支援を継続させる必要がある。トビタテ留学JAPANプログラムも活用する。 ■学生の安全面は、渡航前の指導の他、民間の危機管理会社との契約を行い、不測の事態に対応できるようにする。 ■海外大学との学術交流 交流協定を締結した大学との双方向交流、特にマレーシア工科大学における研究者間との交流に努める。 ■教職員の業務のバランスと取る必要がある。	本年度の活動においては良好である。 ただし，今後の活動において，継続性や発展性を計画的に可視化する事が望まれる。	A	今後の活動において，継続性や発展性を計画的に可視化する事が期待される。	4	■JASSO支援を基にした短期留学生【受入】を実施した。アイオワ大学から大学院生1名、学部生2名、ハノーバ大学から大学院生3名、マレーシア工科大学から大学院生3名、バンドン工科大学から学部生3名、トリノ工科大学(タシケント校)から学部生3名、そして今年度から新たにタシケント工科大学から大学院生3名の短期留学生を受入れ、研究室での実習を行なった。 ■JASSO支援を基にした短期留学生【派遣】を実施した。アイオワ大学に2名、ハノーバ大学に2名、マレーシア工科大学に3名、バンドン工科大学に3名、トリノ工科大学(タシケント校)に2名、TYK Limitteedに2名を派遣し3週間の実習を行なった。資金援助は外部資金JASSOの他、教育後援会の国際交流基金、同窓会若駒基金からの支援を受けた。 ■長期外国人留学生長期留学生を対象とした、学内(チューター 等の懇談会、校長との懇談会など)、学外(地域との交流会、現地見学旅行、ホームステイなど)の各種イベントを実施した。 ■高専に在籍する長期留学生を対象とした東海地区外国人留学生交流会を乗鞍青少年交流の家にて開催し、本校5名、鳥羽3名、沼津3名、豊田11名、鈴鹿6名の参加者を得た。スキー研修、高山市内観光、各種レクリエーションを実施した。 ■また、この東海地区外国人留学生交流会と並行し、本校日本人学生を対象とした英語キャンプを開催、当地にて英語によるグループワーク、レクリエーション等を実施した。 ■本校学生を対象とした留学セミナーを開催し、海外インターシップ参加学生による体験談・アドバイスなどの講演を実施した。 ■海外大学との長期学生受入として、電気工学科教員の研究室にシンガポールリバプリックポリテクニックの学部生2名を4か月の長期にわたって受け入れ、研究指導を行った。 ■海外大学との学術交流の一環としてバンドン工科大学と第4回都市環境の持続可能性と災害に対する強靭性(ESDP; Environmental Sustainability and Disaster Prevention)に関する共同セミナーを開催した。日本側からは、副校長含め岐阜高専教員6名が出席した。なお、本セミナーは2011年のバンドン工科大学との交流協定締結以来、毎年開催しているものであり、学術交流の深化に貢献している。 ■ベトナムのハノイ建設大学、中部土木大学との包括的な交流協定を新規締結し、また、ドイツハノーバ大学ならびにバンドン工科大学との交流協定を更新・締結した。	■本科生を対象とした語学研修および本校学生と短期留学生との交流 JASSO(日本学生支援機構)支援による短期留学生との交流は、研究室、学科、学生寮などで引き続き実施する。今年度は本校学生の有志により短期留学生の日本文化体験の案内が行われたが、次年度以降はより多くの学生が携われるような仕組みを検討を行う。高専機構、JASSOなどが企画する短期派遣プログラムを引き続き学生に情報提供を行い、学生のグローバルエンジアとしての素地を養う。 ■海外インターンシップ、短期留学派遣 海外インターンシップ、短期留学は、英国TYK Limited、バンドン工科大学(ITB)、マレーシア工科大学(UTM)、ハノーバー大学、アイオワ大学、トリノ工科大学タシケント校、中国鍋屋バイテックの派遣先の準備は整っている。継続的な取組みとするためには同人数の双方向交流が望まれる。そのためにJASSOによる派遣・受入の支援および本校の支援を継続させる必要がある。トビタテ留学JAPANプログラムも活用する。 ■海外渡航時の危機管理 学生のみならず教職員の海外渡航時の危機管理を目的に本年度、民間の危機管理会社との契約を行い、不測の事態に対応できるよう制度ならびに組織整備を行った。次年度以降もこれらを継続するとともに、危機管理ガイダンス等を教職員，学生に実施することを検討する。 ■海外大学との学術交流 交流協定を締結した大学との双方向交流、特にマレーシア工科大学における研究者間との交流に努める。 ■教職員の業務のバランス調整 国際交流室には専任教員が配置されていないことから、専任教員を置くなど他の業務とのバランス調整が必要である。	活動は良好である	A	事業の継続性や発展性を鑑みると、主に支援予算的な部分での、長期的展望・戦略を今後検討する時期が来ると予想される。
16	人権委員会	[redacted]	[redacted] 人事係	特になし	良好である。	A	会議開催が少ないと言うことは重大な問題が特に可視化されていないと認識した。引き続き，各種ハラスメントに対するFD・SD活動を推進することが期待される。	2	外部相談窓口として、顧問弁護士と契約した。ハラスメントの防止に関する規定をHPに掲載した。「特別支援に関する講演会」を、学生相談室と共同で開催した。	ハラスメントの可視化について、具体的な検討をする必要がある。	特に問題が発生しなかったことを鑑みて、活動は良好である	A	自己点検にある様に、予防的な意味を含めて、ハラスメントの可視化についての具体策を今後検討していくことが望まれる。
17	情報セキュリティ管理委員会	校長（情報処理センター長）	学生課 図書・情報係	情報セキュリティ監査の指摘項目及び注意項目について、情報セキュリティ推進委員会に改善を指示し、実行状況を確認する。	良好である。	A		1	情報セキュリティ推進委員会に改善を指示し、会議において実行状況を確認した。	良好である。	特に問題が発生しなかったことを鑑みて、活動は良好である	A	新年度からは高専機構情報セキュリティ人材育成関係の事業に加わることも有り、より一層の予防的な啓発活動の可視化が期待される。
18	情報セキュリティ推進委員会	情報処理センター長	学生課 図書・情報係	1．情報セキュリティ監査の結果を受けて、本校の各種情報セキュリティポリシーに関して、整備・改定する。 2．ファイアーウォールの問題解消を喫緊の最優先課題とし、その他の指摘項目についても平成30年度までに解消するよう計画を立案する。 3．IT資産管理のあり方、運用について検討をする。	AP関係の繋がらないタブレットやネットワークの問題，逆にファイアウォールの脆弱性問題など，人的組織体制を含めて，ICT環境全体の懸念を早急に改善することが望ましい。	C	高専機構の通達（本校全員宛メール10月15日付）にもあるとおり，ICT環境活用のしやすさを最大限に推進させることが望ましい。	2	1.情報セキュリティ監査の結果を受け， 1-1.業務用端末の一部にWindowsXPがる件：教務システムにXPでなければ扱えない機能があるため，教務サーバ以外と通信できないように設定し，必要なとき以外は電源を入れない。 1-2.パワードが付箋等で貼り付けられている例：担当者注意の上改善した。 1-3.容易にメインスイッチにアクセスできる件：間仕切りを設置した。 1-4.ファイアウォールのファームウェアアップデート：1台をアップデート，もう一台はH29年末に使用停止予定。 2．上記1-4のとおり，H30年度までには解消する予定 3．IT資産管理のあり方，運用について検討し，一括管理する案と各科ごとに管理する案について検討した。	情報セキュリティ監査の指摘事項及び注意事項について，ほぼ対応した。XPについては機構の学生情報統合システムに乗り換えるまでの措置であり，1台のファイアウォールについても高専統一ネットワークが導入されるまでの措置であるので，十分な対応状況である。 IT資産管理については，継続して検討が必要である。	IT資産管理については，継続して検討が必要であると自己評価しているとおり、検討結果の実施・検証までの過渡期にある懸念がある。	C	今後予想される機構のシステムへのスムーズな移行を完了させると共に、IT資産管理についても，実効性に配慮した実施が望まれる。

19	テクノセンター運営委員会	研究主事	総務課 研究協力係	■テクノセンター全般 良好である．関連会議参加の負担が大きいため，取捨選択や担当者の分散化が検討課題である．また，地域連携協力会会員等に対して，産学官連携アドバイザー制度があまり認識されておらず，会報等に継続的に掲載して周知していく必要がある． ■技術開発部門 良好である．外部会議参加の負担が大きいため，取捨選択や担当者の分散化が検討課題である． ■技術教育部門 良好である．特に，小中学生を対象とした多くの講座依頼があり，近隣の小中学校向けに数多くの教育活動を実施している．	昨年度からの改善すべき事項である，学校として取組む共通のプロジェクトやPR活動における実施体制の強化（集中と選択，各教員の貢献度の明確化など），すなわち重要度が低いものは切り捨て必要なものを選んで強化すること．さらには教員の貢献度を評価する仕組みを確立することが望ましい．	C	次年度は，学校として取組む共通のプロジェクトやPR活動における実施体制の強化（集中と選択，各教員の貢献度の明確化など），すなわち重要度が低いものは切り捨て必要なものを選んで強化すること．さらには教員の貢献度を評価する仕組みを確立すべきである．	8	■テクノセンター全般 ・会議・展示会（全国高専フォーラム，展示会出展3件，東海北陸地区テクノセンター長等会議3回） ・中核人材育成塾（基礎コース6回，アドバンスコース6回） ・公開講座取り纏め（10回，実施は各学科等） ・小水力発電アイデアコンテスト（東海・北陸地区高専） ・地域連携協力会関連行事・会議（総会，役員会，運営委員会3回） ・共同研究13件，受託研究3件，技術相談26件 ・地域連携協力会研究プロジェクト5件 ■技術開発部門 テクノシンポジウム，知財講演会，外部資金獲得に関する講演会，外部組織との連携（岐阜県工業会，岐阜大学等主催の会議等11回）を実施した． ■技術教育部門 ・実習工場関係活動 （1）7月に実施した利用講習会を行い，延べ28名の参加． （2）夏休み期間中に3件の公開講座を行い，延べ41名の参加 （3）その他高専祭催し物製作支援，教育研究に関わる依頼物品の試作 ・科学技術リテラシー教育関係活動 科学技術リテラシー教育推進室長，7名の室員，およびその他の指導教員2名の指導に基づいて教育活動を行い，ものづくりリテラシー教育実習の学生（本科10グループ61名），科学技術リテラシー教育実習の学生（専攻科4グループ9名）に対して単位認定を行った．また，小中学生を対象とした講座の依頼があり，派遣教員が近隣の小中学校向けに数多くの教育活動を実施した． ・インターンシップ関係 岐阜県インターンシップ推進協議会の協力によって，キャリア支援講座，インターンシップ事前講習会などが実施された．	活動は良好である。 ■テクノセンター全般 良好である．地域連携協力会会員等に対して，産学官連携アドバイザー制度があまり認識されていないが，会報等に継続的に掲載して周知を行い，また実際にそのアドバイザーの方々と議論して，より効果的な広報活動について検討を始めた． ■技術開発部門 良好である．外部会議参加に関する負担に関しては，学内業務と照らし合わせて，必要に応じて外部会議を欠席するなどして負担軽減を試みた．また，今年度は岐阜テクノフェア（隔年実施）が実施されなかったため，外部会議参加の負担が緩和された． ■技術教育部門 良好である．特に，小中学生を対象とした多くの講座依頼があり，近隣の小中学校向けに数多くの教育活動を実施している．また改善対応については，テクノセンター運営委員会においても情報共有，意見交換がなされており，教員の貢献度を評価する仕組みに関しては，本年度より実施された教員自身による自己評価書の提出（4月提出）が，その評価方法の一つとなった． さらに、以下の点を改善する予定である。 1)学校として取組む共通のプロジェクトやPR活動における実施体制の強化：学校として取り組む事業は，引き続き，主管・運営・教員会議を通じて教員に周知し，重要度、地域との関連性、外部資金、継続性などから決定している。PR活動については，引き続きホームページ等を活用して地域へアピールする。 2)教員の貢献度を評価する仕組み：H28年度から開始した教員の自己評価書および計画書において，具体的な貢献度のエビデンス，エフォート等を可視化する。また、ホームページによる教育研究業績の公開、research mapなどにより教員の研究シーズを可視化する．	今年度の改善すべき事項「学校として取組む共通のプロジェクトやPR活動における実施体制の強化（集中と選択，各教員の貢献度の明確化など），すなわち重要度が低いものは切り捨て必要なものを選んで強化することについての見直しが望まれる。 「教員の貢献度を評価する仕組みに関しては，本年度より実施された教員自身による自己評価書の提出（4月提出）」に基づく，校長面談によりその評価方法の一つとなった。 「次年度こそ，学校として取組む共通のプロジェクトやPR活動における実施体制の強化（集中と選択，各教員の貢献度の明確化など），すなわち重要度が低いものは切り捨て必要なものを選んで強化することについての見直しが望まれる。	C	次年度こそ，学校として取組む共通のプロジェクトやPR活動における実施体制の強化（集中と選択，各教員の貢献度の明確化など），すなわち重要度が低いものは切り捨て必要なものを選んで強化することについての見直しが望まれる。
19	-1 高専連携クラウド推進室	[redacted]	総務課 研究協力係	学外との連携については、積極的に展開できたが，学内活動において開催したものの、学内からの参加者が少なく組織化を目指したい。	昨年度からの改善すべき事項である，専攻科の大括り化（研究グループ）に向けた学内の取組みの進展について議論されておらず懸念がある。	C	平成28年度から専攻科の大括り化により先端融合開発専攻の1専攻になったことから，早急に研究グループの学内の取組みにつて進展を計るべきである。	2	研究開発グループのなかで高専連携クラウド推進室が特に関係する航空宇宙グループに関しては、学内での取り組みとして研究基盤となる解析システムの進展を計るために、以下の活動を行った。 1：5月開催予定として、テクノセンター経由で学科に講習会の企画を案内したが、希望者がなかった。 2：2月9日にぎふ技術革新センターとの連携事業で、講習会を実施した。 3：2月10日に大括り化に対応した研究環境整備である大規模解析システムに関して説明会をおこなった。	今年度末に高専連携クラウド室として活動基盤となる大規模解析システムが導入されたので、来年度からは全校対象として本システムを教育研究に活用するために以下の活動を展開する。 ・大規模解析システムの利用講習会を、年間4回程度開催して、大括り化に対応した研究グループの活動基盤を実現する。 ・この活動を通して、専攻科での大括り化における航空宇宙研究グループの学科横断的な活動を目指す。	活動は良好である	A	特になし
19	-2 科学技術リテラシー教育推進室	[redacted]	技術室	実践ポイント制度が実施され、今後さらに展開されることを考えると活動はさらに活発になると予想できる。しかし現在本科では授業の1つとしてカウントされておらず、特定の教員に負担が偏っている。担当教員の負担の減、または予算的な措置など考慮が必要。	過去最大のグループ数になったのはよいことであるが，昨年からの課題である，担当教員の負担の減、または予算的な措置などの考慮に対して進展が見られず，早急な対応が望ましい。	C	昨年からの課題である，担当教員の負担の減、または予算的な措置などについて対応が必要である。	1	本科の募集テーマ数11、実施テーマ数9、専攻科テーマ数3（本科と合同）にて実施された。また、本科受講者数70名のうち単位認定者数61名、専攻科受講者数10名のうち単位認定者数9名であった。昨年度からの懸案であった、担当教員の負荷については、規則改正、および運用の合理化を図ることで事務作業の軽減を図ることが出来た。昨年度の予算的な措置に関する言及について、その意図は不明であるが、年々緩やかに予算は削減されており、学校経営上は妥当な措置がなされている。	本科、並びに専攻科のリテラシー教育実習に関しては、学生のアンケートよりその目的が十分に果たされていることが確認できた。改善については、科学技術リテラシー教育推進室会議、およびテクノセンター運営委員会で既に情報共有、ならびに意見交換がなされており、現状では最大限の改善が図られている。	活動は良好である	A	特になし
19	-3 若鮎連携推進室	研究主事	総務課 総務・企画係	良好である． ・若鮎会設立50周年に向けて，シニアOBだけでなく若手・中堅OBOGを含めた本校の教育・研究・地域貢献に関わる継続的な人材活用システムの構築が望まれる．	活動は良好である	A	特になし	2	・シニアOBが中心となって実施している中核人材育成塾の活動（基礎コース・アドバンスドコース）は，計12回のリカレント教育内容を提供した．今年度，延べ受講者2600名以上となった． ・教育APの事業として、これらのコンテンツの一部（5S，見える化，課題解決法などの企業活動）を学生にも実践教育として利用できる作業を行った．これらの成果は，AP報告会（3/1）において学外に公開した． ・同窓会若鮎会は2017年3月で設立50周年を迎えた．9/9の記念式典やそれ以降の卒業生講演会シリーズなど，卒業生で構成される実行委員会により企画・運営されている．	活動は良好である。 ・若鮎会設立50周年記念式典（9/9）に向けて準備が進められている．創設期のシニアOBに加えて若手・中堅OBOGを含めた本校の教育・研究・地域貢献に関する人材活用について，外部資金（高専4.0イニシャティブなど）を活用しながら多面的な連携を実践する必要がある．	活動は良好である	A	特になし
19	-4 知財教育推進室	研究主事	総務課 研究協力係	良好である． ・INPITの予算執行には制約が多いため，2学科（電気情報工学科と環境都市工学科）が継続したり他学科へ展開するためには，地域連携協力会などのように消耗品の立替払いがしやすい経費を活用する方法がある．	活動は良好である	A	特になし	0	・昨年度まで，電気情報工学科と環境都市工学科の連携事業としてINPIT（知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発）に向けた取り組みを行ったが，外部資金には申請せず各学科独自の取組みとなった．	・知財教育に特化した取組には限界があり，イノベーションを創造するには優れたアイデアが必要となる．この成果が知財などに直結することになる．今後は知財教育推進室ではなく，イノベーション人材に求められる能力や素養を身につける観点から，イノベーション人材教育推進室（仮称）などのように，他のプロジェクト（教育AP，グローバル高専事業，情報セキュリティ人材育成など）と連動しながら，学生の取組を支援する検討が必要である． ・以上の観点から，知財教育推進室（知財教育に特化した組織は）一定の役割を終えたと判断し廃止する（高専4.0イニシャティブなどの申請事業に鑑み、イノベーション人材育成を支援する仕組み・機能について検討する）．	会議が開催されていないのは問題である． 特許出願が積極的に行われている今，本知財教育推進室が本当に必要か，また，知的財産委員会との合併を検討するなどしてはどうか． また，「イノベーション人材教育推進室（仮称）などのように，他のプロジェクト（教育AP，グローバル高専事業，情報セキュリティ人材育成など）と連動しながら，学生の取組を支援する必要がある．」と自己点検されているように，新たな取り組みを支援する組織が必要になってきているのではないか．	W	知財教育推進室の役割の再点検及びイノベーション人材教育推進室（仮称）のような新たな組織づくりを検討する必要がある．
19	-5 知的財産委員会	研究主事	総務課 研究協力係	良好である． ・特許出願、審査請求などの知的財産権に関しては，本校の審査結果を受けて機構本部知財部門において最終判断が下される．昨年度から学校裁量（本校あるいは個人）が可能となり，機構が受理しない場合の選択肢が残っている．	活動は良好である	A	特になし	8	・今年度はメール審議を含めて8回の知財委員会を行った．その内，承継2件，学校裁量2件である．また，知財に関する卒業研究発表会では，学生や教員から秘密保持誓約書，指導学生には共同（受託）研究参画に関する合意書を提出してもらい，知財の学内取扱いに一定のガイドラインを設定した．	活動は良好である。 ・昨年度から学校裁量（本校あるいは個人）が可能となり，特許出願に関しては，新規性などに加えて市場性が鍵を握っている．企業との共同出願であればほぼ承継されるものの，単独出願の場合は承継は困難である．これらを踏まえた学内の事前審査が必要である．	活動は良好であるが，新たな問題として学内の事前審査方法の構築が望まれる．	C	学校裁量（本校あるいは個人）の特許出願に関して，企業との共同出願，単独出願の場合に応じた学内の事前審査方法の構築が望まれる．
19	-6 機器分析室運営委員会（平成26年1月6日から）	[redacted]	総務課 研究協力係	良好である。機器の不具合や分析室の問題はすぐ対処したため、利用できない事態は発生していない。	活動は良好である	A	特になし	1	■(機器設備の管理に関する事項)機器のメンテナンスや消耗品の充填を行い常に機器が使用できるように保守・管理した。今年度は、EDXの故障が生じたが対応し使用できるようにした。 ■(利用に関する事項)利用状況をまとめて報告した。稼働率、顕微鏡27.9%、XRD58%、ミリング5.4%、ラマン13.2%(集計はH27年度) ■(その他)オープンキャンパスにて分析室の公開を行い中学生に走査型電子顕微鏡の体験を行なった	・機器の不具合に対応し、機器は使用できる状態を維持できた。 ・今年度は、校長裁量経費により機器の不具合を修理した。機器を導入して次年度4年が経過するため、メンテナンス経費を確保する必要がある。 ・機器の分析データを利用した研究業績は、論文　2件、特許　1件、口頭発表　14件(H27年度)。また、外部資金としてNEDOと科研の採択がある。	活動は良好である	A	特になし

20	メディア委員会	研究主事	学生課 図書・情報係	■図書館部門 ４．実施書店を、岐阜市内の大型書店に変更し、経費の節約を図る。	活動状況は良好である。	A		6	■図書館部門 1)図書館利用ガイダンスの実施(1年生対象) 2)文献検索講習会(新5年生対象：資料配付) 3)第21回読書感想文等コンクールの実施 （読書感想文：185、自由投稿文：79、表紙イラスト：1） 4)ブックハンティングの実施(学生：21名、引率：6名) 5)iPad/ノートPC貸出の実施(PC：127、iPad：150) 6)高専祭企画展(ものづくり体験：約20組) 7)図書館だより46号の編集・発行 8)岐阜高専 紀要52号の編集・発行 9)各種図書館イベント・コーナー等の設置 ■情報処理センター部門 1)情報処理センターガイダンスの実施：情報リテラシ教育の実施(1年生対象)，学生向け情報セキュリティ講習会 2)校内LANシステム定例打合せ(校内ネットワーク保守) 3)高専統一ネットワークの更新 4)高専統一認証IDの更新(個人番号のID廃止) 5)Office365サービスの提供(全学生：教職員の登録) 6)研修会等への参加(IT人材、情報セキュリティ人材育成など) 7)情報処理教育・研究報告44号の編集・発行 8)高専機構の情報セキュリティ人材育成事業(準拠点校)に申請	活動は良好である。 ■図書館部門 1)利用者数ベースで7.5%減となった(貸出冊数は14%増)．図書館の利用者拡大のための方策を検討する(貸出冊数：9844，人数：4842)． 2)学科推薦図書の選書方法を検討する． 3)新高専統一認証システムへの接続を行い，MyOPACにより図書リクエストや予約の電子化を進める． ■情報処理センター部門 1)平成30年度の高専統一ネットワークの導入に向けた準備 2)認証環境の整備とID管理の効率化 3)サイボウズ及びOffice365の利用促進 4)演習室及び情報機器の管理と運用	議事録を確認していないが，本紙左列の記載を見る限りでは，多様な活動が活発になされており，総じて活動状況は良好である。	A	
20	-1 IT技術管理WG	情報処理センター長	学生課 図書・情報係	情報セキュリティ推進委員会と連携し、ファイアウォールのファームウェア問題を解決する。	活動状況は良好である。	A		1	情報セキュリティ推進委員会と連携し、ファイアウォールのファームウェア問題を解決した。 基本的にメールによる議論・情報共有を行っているため，実会議回数は少ない。	高専統一ネットワークシステムに対応する必要がある。	議事録を確認していないが，本紙左列の記載を見る限りにおいては，活動状況は良好である。	A	
20	-2 アクティブラーニング推進WG （平成26年4月1日から）	情報処理センター長	学生課 図書・情報係	Webシラバスの全科目導入における支援を行う	活動状況は良好である。	A		12	各科の教務委員を通じて，Webシラバスの全科目導入が行われた。 アクティブラーニングに関わるFDを実施した。	Webシラバスの支援の実務を教務委員が負っている。	議事録を確認していないが，本紙左列の記載を見る限りにおいては，活動状況は良好である。	A	
21	学生相談室会議	[redacted]	学生課学生係	活動は良好である。 ・相談室会議を金曜午後に開催し，カウンセラーにもアドバイザーとして参加いただき，専門的知見で相談室運営にアドバイスがいただけたが，来年度は時間割の都合でカウンセラーの勤務時間中の午後開催が難しい。 ・「特別な配慮を要する学生の情報等についての取扱い」を受けて，カウンセラーと担任間が情報共有を行うことで連携が強化できた。また，見守り体制を示すことで，学生相談と情報共有の流れを可視化することができた。しかし，カウンセリング時間以外に担任間と情報共有する時間を設ける必要が多くなり，カウンセラーの負担軽減も考える必要がある。 ・こころと体の健康調査において，担任主導で実施することで，心配な学生の面談とケア，カウセリングの連携が上手くできた。 ・担任よりクレペリン検査の結果が学生指導に有用であるとの評価を受けたが，連続実施の必要性はない。 ・精神科医(校医)による自殺予防の講演会により，自殺の現状と基礎知識を学ぶことができた。 ・勉強教え隊で勉強を聞きに来る学生は少なく，勉強場所として食堂を利用する学生が多いため，勉強場所としての食堂開放は有効である。 ・相談室員が研修会に参加することで，学生相談の基礎知識と他高専や大学の学生相談の状況を把握し，学生相談室の運営に役立てることができた。	・学生相談室発行の室員紹介の掲示物は，各学科選出の学生相談員があたかもカウンセラー業務を担っているかのような誤解を受ける表現になっており，改善が望ましい。	C		9	・相談室ポスターでの室員紹介で、室員がカウンセリング業務を担っているような誤解がないように、相談室員は専門科目の質問や関する相談のみを受けることを周知した。 ・毎月１回の相談室会議に加え、毎週、気になる学生に関する情報交換会を実施した。 ・カウンセラー週５日待機によるカウンセリングを実施した。 ・ＯＢ教員や室員による進路・学習相談を実施し、試験期間中の勉強場所として伊吹食堂と多目的室を開放した。 ・いじめと自殺予防の対策として、こころと体の健康調査（全学年）とクレペリン検査（１年生のみ）を実施した。 ・相談室員のスキルアップと学生相談の情報収集として、障害学生支援や東海北陸地区高専、全国高専の各研修会に参加した。 ・ネット依存と障害学生支援に関する学内講演会を２回実施した。	・適切に審議され、実施された。 ・こころと体の健康調査を迅速に対応するため、集計・対応方法を見直す。 ・相談室会議にカウンセラーにも参加いただき、情報共有を改善する。	議事録の記載により，良好な活動状況が確認された。	A	
22	教員会議	校長	総務課 総務・企画係	適切に付議され，実施できた。	良好である。	A		10	適切に報告等が行われ、会議構成員に対する周知等が適切に実施された。	今年度から、議長を校長としたことにより、報告時間の短縮等、効率化を図ることができた。 会議資料の電子化等、より効率化を図ることが、今後の課題である。	良好である。	A	
23	学級担任会議	教務主事	学生課 教務係		良好である。	A		5	学級指導に関する情報共有、進路状況など学科別の情報交換の場として機能している。	学級担任としての素養を身に付けていただくために必要であれば、学級指導・厚生補導を対象とした講演会やカウンセリングの機会を設けることも検討する。	活動は良好である	A	2連続留年での実質的な退学の先送りが次年度には無くなるので、進路変更関係の担任指導についての情報共有が、新年度末に向けては必要になると思われる。
24	クラブ顧問連絡会議	学生主事	学生課 学生係	次年度も引き続き機構から課外活動指導業務軽減の手当が同程度に実施されることを希望する。	良好である。	A		3	会議は良好に実施された。機構による課外活動指導業務軽減手当が前年度比で半減したことを含め、特に休日におけるクラブ指導の在り方を継続的に検討していく必要がある。		良好である。	A	
25	若鮎奨学基金運用委員会	校長	総務課 総務・企画係	特になし	良好である。	A		1	適切に審議され、実施されました。	特になし	議事録を確認していないが，本紙左列の記載を見る限りにおいては，活動状況は良好である。	A	
26	特別支援検討委員会 （平成26年3月10日から）	学生主事	学生課 学生係	松葉杖常用学生が進級する過程を予測しながら引き続き校内設備整備計画を進めていく。高次脳機能障がいを有する学生は木沢記念病院等との連携下に対応を継続していく。	良好である。	A		2	第2学年に復学した学生が精神的障がいを有することが明らかになり、特別支援対象に加えた。残念ながら該当学生は夏季休業中に症状が悪化し、29年度に休学することになったが、本委員会としての活動を総括する会合を年度末に持った。なお高次脳機能障がいを有する学生は27年度前期末で円満に退学し、松葉杖常用の学生は夏季休業中から療養のため休学、28年度末に退学している。以上2名に関しては本委員会による支援経過をまとめ、主管会議に報告する。	29年度に聴力に障がいを有する学生及び歩行に支障のある学生の入学が決まっており、新たに支援体制を構築して対応する予定でいる。	議事録を確認していないが，本紙左列の記載を見る限りにおいては，活動状況は良好である。	A	
27	男女共同参画推進室 （平成26年4月1日から）	[redacted]	総務課長	今年度の本校の取り組みとして，経費を掛けずに，できるところからという趣旨で実施してきた。今後も，他高専の取り組み状況を参考にして，女子学生の比率向上等のために，継続して活動していく必要がある。	特別活動における人権教育，各種イベントへの参加などが継続的に行われている．	A	女子学生の生涯にわたるキャリアパスを具体的に描くことができるように，企業技術者等活用プログラム（高専機構予算：平成28年度申請中）により，身近な卒業生OGや女性の技術者・建築士などの講演会を企画していただきたい．	1	・本科第2学年の特活を利用して，男女間に関わる重大な人権問題の１つであるDVをテーマに，意識啓発活動の一環として講演会を行った。 ・高専機構主催の男女共同参画意識啓発講演会が，GI-netにより配信され，主に推進室委員が参加した。 ・本巣市役所企画政策係の担当者と男女共同参画推進に関する情報交換を行った。その際，本巣市が実施している男女共同参画に関するポスター募集の掲示を依頼され，本校図書館に掲示し周知を行った。 ・奈良高専主管の平成28年度第3ブロック男女共同参画推進担当者会議に出席し，各校の現状について意見交換を行った。	・女子学生に対するキャリヤパスに関する講演会実施については，全学的な展開は困難であると思われる。よって，各学科の事情に応じて，学科単位で適宜実施するのが現実的であると考える。 ・女性教員の各学科１名配置を早急に実現するため，女性限定や任期付修士採用を実施すべきである。	活動状況は良好である．	A	
28	教育AP推進室 （平成26年10月1日から）	研究主事	総務課 総務課長補佐	各教員のAL活用授業の更なる更新・継続の啓蒙。 LMS活用の更なる推進と拡充。 企業技術者一押しコンテンツの入門レベルのCBTなどの活用方法の検討が今後必要である。 今後、実践技術単位制度の各科での活用方法の検討、全学的な可視化方法の研等が望まれる。	活動は良好である。	A	今後、LMS活用方法の検討、実践技術単位制度の各科での活用方法の検討、全学的な可視化方法の検討が望まれる。	11	3/1には教育APの公開報告会が開催された。 今年度の内容として，AL推進FD活動，AL導入状況の定量的評価，LMS導入状況の定量的評価，ALおよびICT活用事例の集約的戦略，企業技術者イチ押し45課題入門CBT，実践技術単位制度の全校展開，実践技術単位サーバーによる学修成果の可視化などが報告された．	活動は良好である。 教育APは3年が経過し折り返し時期となる．他高専では，教育APによるAL推進，学修成果の可視化の具体的な取組として，自律，協働，創造の力を向上させるための学年学科横断PBL科目（Co＋work）などが展開されている．専門分野の垣根を越えて融合，連携することはイノベーション人材育成にも必要である．今後は，教育課程科目と非教育課程活動の両者に対して，ミクロとマクロとの観点から，教育改善の成果と進展を可視化する必要がある．	活動状況は良好である。今後は、教育課程科目と非教育課程活動の両者に対して、教育改善の成果と進展を可視化することが望まれる。	A	

出典　平成29年度スパイラルアップ会議資料　平成29年4月26日開催

資料1-1-4-(1)-03

平成29年度　会議・委員会・部門委員会の活動，評価等

番号	会議・委員会・部門委員会名	委員長等	担当課・係	前年度（H28）自己点検	前年度（H28）評価者による評価等			開催回数	③今年度の活動内容	④自己点検及び改善すべき事項	⑤評価概要	⑥評価	⑦改善事項
				自己点検及び改善すべき事項	①評価概要	評価	②改善すべき事項	H29	H29	H29	H29	H29	H29
1	主管会議	校長	総務課 総務・企画係	昨年度指摘事項について、 1．資料の重複については、説明上必要な面があり重複も避けられないが、今後、効率化を図りたい。 2．資料の電子化については、進まなかったが、次年度電子化を図る予定である。	活動状況は良好である。	A	議事進行の効率化と会議資料削減のため，前回の報告事項は，基本的に再掲しない方がよい。特に，研究主事関連（センター関係）で散見される。	17	適切に審議され実施できた。	会議資料の再掲はリマインドのため必要な部分もあるが、H30年度より資料をタブレットにするため、紙の削減が出来る。また、口頭説明は簡略化するなどして、進行の効率化を図っている。	活動状況は良好である。	A	
2	運営会議	校長	総務課 総務・企画係	昨年度指摘事項について、 1．資料の重複については、説明上必要な面があり重複も避けられないが、今後、効率化を図りたい。 2．資料の電子化については、進まなかったが、次年度電子化を図る予定である。	活動状況は良好である。	A	議事進行の効率化と会議資料削減のため，前回の報告事項は，基本的に再掲しない方がよい。特に，研究主事関連（センター関係）で散見される。	16	適切に協議され実施できた。	会議資料の再掲はリマインドのため必要な部分もあるが、H30年度より資料をタブレットにするため、紙の削減が出来る。また、口頭説明は簡略化するなどして、進行の効率化を図っている。	活動状況は良好である。	A	
3	スパイラルアップ会議	校長	総務課 総務・企画係	特になし	活動状況は良好である。	A		1	適切に審議され実施できた。	特になし	活動状況は良好である。	A	
4	教務会議	教務主事	学生課 教務係	入試方法を改善する必要があるか、また、どのように改善するかについて継続して検討していく必要がある。具体的には、推薦入試においては調査書点と面接点の割合、学力入試においては調査書点と学力検査の割合などについてである。	活動状況は良好である。	A	引き続き、広報活動等、可視化の推進を継続されたい。	36	入学志願者数の確保、Webシラバスの導入、MCC対応に向けた教育課程表の変更、帰国子女特別選抜実施方法等に対し検討を行ってきた。2年連続原級留置となった場合、退学とする規定を復活させた。一時的に退学者は増える可能性はあるが、長期的には対象学生に緊張感を持たせることが有効と考えられる。また、1～3年の原級留置の学生に対して評価8以上の科目の履修を不要とし、不得意科目の克服に時間を充てられるように内規の一部改正を行った。	積立金の廃止に伴う研修旅行の見直しや退学率や原級留置率の減少に向けた取り組みについては検討を継続していく必要がある。	④にある退学率・原級留め置き率の減少に向けた具体的な対策の検討と実施が必要である懸念がある。特に2年連続留年での退学が復活するため、高専の高度化・国際化とMCC対応などで、学修内容がレベルアップすると、その対策は直ちに実施すべきであると懸念する。	A	検討するだけで無く、直ちに行動に移し、全教職員と学生で意識共有することが望まれる。
4	-1 FD活動推進会議	教務主事	学生課 教務係	FD講演会、授業参観とも参加率が高いとは言えない。教員のFDに対する意識を高める工夫が必要であるが、講演会においては魅力あるテーマ設定も求められる。	活動の改善努力は見受けられるが，自己点検にある様に、更なる参加率の増加やFD活動の可視化が望まれる。	C	更なるFD活動への教員参加率の増加やFD活動のコンテンツの蓄積・可視化が望まれる。また、SD活動も含めての、他会議との統合化も今後は検討の余地が有る。	各2	授業参観週間（前後期に1週間）の設置、FD講演会2回（前期テーマ：「授業を設計・構成する力　－教科教育学の知見を踏まえて－」、後期テーマ：「アクティブ・ラーニングの4つの視点」）を実施した。講演会資料で公開可能なものに対しては、教務掲示板上で提供した。	結果として、授業参観やFD講演会への教員の参加率等は前年度とほぼ同様であり、改善を継続していく必要があるが、授業参観前に教育APで実施された学生アンケート結果を配布、周知するなど、活動の可視化やスパイラルアップへの流れはできつつある。	取組の更なる可視化で、実のある活動となることが期待できる。	A	教育改革の流れの「教育APと連動した可視化」を是非進めて頂きたい。
5	専攻科会議	専攻科長	学生課 教務係	活動状況は良好である。 今年度概要を決定した特別研究１英語発表について，来年度詳細を検討する必要がある。	前回課題として指摘された新専攻の運営及び特例審査の通過に関する実績が示されている。活動状況は良好である。	A		12	定常的な専攻科運営に加え、入試方法の改善、JABEE継続の検討、特例変更届への対応等を実施した。 検討予定であった特別研究１英語発表についても、詳細な実施方法を検討し、実施要綱を作成した。	活動状況は良好である。 次年度については、これまでの活動を継続するとともに、新たに大学との共同教育について検討する予定である。	前回課題として示された特別研究1英語発表に関する実績が示されており、活動状況は良好である。	A	
6	学生会議	学生主事	学生課 学生係	会議は良好に行われているが，懲戒を典型とする学生指導の基準や方法に関して見直しを求める意見が複数方面から寄せられ、審議を進めている。情報を公開したうえで開かれた議論を展開したうえで可及的速やかに体制を落ち着ける必要がある。また通学届を中心とする自動車関係書類の提出に関しては、引き続き学級担任と連携して指導を進める必要がある。	活動状況は良好である。学生指導の基準や方法に関する見直しが速やかに行われることが望まれる。	A		33	予定された学生会行事の実施に加え、各方面から提起された案件に審議のうえ対応した。懲戒件数は28年度33件から29年度7件と大幅減、交通事故は28年度35件から28件と微減、紛失盗難が28年度5件から29年度16件と大幅増となり、特に紛失は学生会議による4時限の1号館3階巡回や伊吹出入口に防犯カメラ設置等の対応を実施した。	会議は良好に行われている。学生指導の基準・方法に関しては概ね学内の合意を得て見直しを済ませた。今後は主に教務会議と連携して、単位追認試験で不正行為が発生した際の統一的な対応の合意に向け検討する予定がある。学生会費の先細りが指摘されており、高専祭関係とクラブ関係の双方を検討する予定がある。	活動状況は良好である。	A	
7	寮務会議	寮務主事	学生課寮務係	指導退寮4名、希望退寮8名が出た。停寮指導を9名を対象に行った。基本的な生活習慣、学習習慣の確立に向けた指導を今後も継続する予定である。また、新しい体制で迎えるA寮の1年生の様子を注意深く見守っていく予定である。	活動状況は良好である。	A		26	寮務会議、寮生会行事は予定通り行われた。退寮指導を3名、停寮指導を11名に対して行なった。男子1年生と指導寮生との関わり方を見直した。昨年度に続き温水洗浄器付便座設置個所を増やし、全寮棟の全階に1つは温水洗浄器付便座が設置されるに至った。夏季休業期間に男子浴室内装改修工事を行なった。試行ではあるが、学生からの要望が強かったウォーターサーバーを全談話室に設置した。	男子1年生と指導寮生との関わり方を見直した結果か、入寮後早い時期（前期間）での退寮者が出なかった。飲酒に関わる指導件数が多かったため、それを防ぐ指導が必要である。寮生数が増加の傾向にあり、定員超過時の対応や受入数の拡大に向けての検討が必要である。	活動状況は良好である。	A	
8	将来計画委員会	教務主事	総務課 総務・企画係	中長期的な展望について積極的な議論がされているかが課題といえる。	活動状況は良好である。議事録によると，教員組織・事務組織ともに中長期的な観点から組織改革に関わる議論がなされている。	A		4	計画通り開催され、外部評価の実施方法、参与会との関連付け等を中心に検討を行った。	機構本部から教員定員削減検討の指示があるなど、中長期的な展望が難しい状況にある。	展望が困難な状況において比較的，活動状況は良好である。	A	
9	財務・施設委員会	校長	総務課 財務係・施設係	適切に審議され、実施された。	良好である。	A	特になし	5	財務・施設委員会の主な活動内容（開催回数5回） ●第1回①「岐阜高専キャンパスマスタープラン2017」の策定について②平成29年度実施事業（施設整備費補助金事業、営繕事業）について ●第2回①平成28年度決算について②平成28年度校長裁量経費の決算について③平成29年度予算配分（案）について ●第3回①平成30年度予算配分方針（案）等について②平成30年度概算要求事業について③平成30年度営繕要求事業について ●第4回①平成30年度予算配分審査（要求ヒアリング）②平成30年度施設整備実施予定事業について③平成31年度施設整備費補助金の概算要求事業について ●第5回①平成30年度予算配分について②平成30年度　教員室等の継続使用（不動産使用許可）及び冷暖房機器の継続使用について③設備整備マスタープランの策定について	適切に審議され、実施された。	十分な審議が行われ、各事業が実施された。	A	
10	入試運営委員会	教務主事	学生課 入試係	入試方法の改善も含め、本校に適合する入学生をどのように確保していくかが今後、より重要となる。	選抜方法をアドミッションポリシーとして受験者に明示することが外部評価で求められることがある。第4回の同委員会において平成30年度本科の募集要項から『合格発表者数』の記載を省くことが決議されているが，会議資料では募集要項の全容を確認できないため，募集要項内の選抜方法に関わる記載に首尾一貫性を欠くことがあるのでは？との懸念が残る。別途，募集要項の全容を精査し確認したい。	A		6	臨時会議を1回開催したものの、ほぼ当初の計画通り、開催された。主な審議事項は、専攻科入試方法（TOEICスコア換算方法など）の変更、帰国子女特別選抜の実施方法、学外検査場（名古屋会場）の廃止等である。	従来から実施の推薦選抜、学力選抜に加え、帰国子女特別選抜の実施要項が確立された。	新たな取り組みとして，帰国子女特別選抜を導入するなど活動状況は良好である。	A	
11	広報委員会	学生主事	総務課 総務・企画係	HPの内容更新方法や手順は27年度に整理したうえでHP内に公開し可視化したが，学内外で実施した各種催しや受賞等に関してHPに掲載されないとの指摘が寄せられることが複数回あった。システムは整理され、原稿を関係部局が提出すれば，必要に応じ審議を経由して掲載することは可能である。原稿作成や各種催しの監督まで、広報に関する全ての過程を広報委員会が担当しているように誤解している場合があるので、引き続きの連携を進める必要がある。	活動状況は良好である．	A	自己点検されているように，H27年度に見られた不具合等が改善された．広報活動の重要性は増加しているので，今後、関係者と連携した戦略的な活動が期待される．	2	前後期2回の対面会議に加え、必要が生じるたびにメール審議形式で意見を集約したうえで対応した。	教育AP事業、グローバル高専拠点事業、デザコン開催など、本校が関連する各種事業を中心に、HP並びに冊子を利用した広報活動を展開した。HP更新や掲載内容に関する各種意見が寄せられるたび、全学科・全事務部局から構成される委員にメール審議形式で情報共有し、合理的な対応を実施している。	対面会議に加えて適宜メール審議が行われ、活動状況は良好である．	A	教育・研究・社会連携活動に関する各種の事業が実施されており、委員会として広報活動が展開されている。今後は，学校全体として，本校の強みおよび弱みの補強策などを整理分析し，広報活動に繋げることが望まれる．
12	人事委員会	校長	総務課 人事係	適切に審議され、実施した。	活動は良好である	A	入試関係と同様に、昇任手続き等に関するある程度の年間スケジュールの可視化があっても良い。	10	10回の委員会を開催し適切に審議され実施された。	適切に審議され、実施した。	適切に実施されている。	A	引き続き適切な実施を継続して下さい。

平成29年度　会議・委員会・部門委員会の活動，評価等

番号	会議・委員会・部門委員会名	委員長等	担当課・係	前年度（H28）自己点検	前年度（H28）評価者による評価等			開催回数	③今年度の活動内容	④自己点検及び改善すべき事項	⑤評価概要	⑥評価	⑦改善事項
				自己点検及び改善すべき事項	①評価概要	評価	②改善すべき事項	H29	H29	H29	H29	H29	H29
13	安全衛生委員会	校長	総務課 人事係 契約係 施設係 総務・企画係	適切に審議され実施した。	活動は良好である	A	特になし	13	年間安全衛生活動計画により、次の事項について12回審議した。 ・安全衛生管理体制の確立 ・職場の安全衛生と作業環境の確保（職場の安全・衛生巡視等） ・健康管理（熱中症の予防講習会）・健康増進の実施 ・安全衛生教育の実施（救急法講習会等） ・設備・備品の転倒防止対策 ・ストレスチェックの実施（外部委託） 【防災対策関係】：防災訓練、防災備蓄備品関係について1回審議した。	適切に審議され実施した。	適切に実施されている。	A	ストレスチェックの実施後の、その改善へ向けた活動が可視化されると尚良い。
14	点検評価・フォローアップ委員会	[redacted]	総務課 総務・企画係	特になし。	活動は良好である	A	特になし	2	①H29年度年度計画の達成状況を点検評価（中期計画WG） ②H29年度学習評価フォローアップ点検の基本方針を策定（学習評価フォローアップWG） ③H29年度授業アンケート結果の分析（学習評価フォローアップWG） ④H29年度卒業生・修了生の教育目標に関する満足度・達成度を調査（学習評価フォローアップWG）	適切に実施された。	活動は良好である	A	特になし
14	-1 中期計画WG	[redacted]	総務課 総務・企画係	特になし。	活動は良好である	A	特になし	2	①親委員会の①で実施した。	適切に実施された。	活動は良好である	A	特になし
14	-2 自己点検・評価実施WG	[redacted]	総務課 総務・企画係	特になし。	活動は良好である	A	特になし	2	①スパイラルアップ会議における教育点検システム（概略図）の確認を行った。 ②H26～28年度の学校独自の計画及び実施報告をまとめ、外部評価としての評価を参与会に依頼した。	適切に実施された。	活動は良好である	A	特になし
14	-3 学習評価フォローアップWG	[redacted]	[redacted] 総務・企画係	特になし。	活動は良好である	A	特になし	3	①親委員会の②で策定した方針を基に、新しい実施要領を定め、WGで具体的な作業を実施した。 ②H29年度の授業アンケートの取りまとめをWGで実施した。 ③親委員会で④（H29年度卒業生・修了生の教育目標に関する満足度・達成度調査）を実施した。 ④5年ごとに行われる就職先アンケート（本科・専攻科）の取りまとめをWGで実施した。	適切に実施された。	活動は良好である	A	特になし
15	国際交流室会議	[redacted]	総務課 総務・企画係	■本科生を対象とした語学研修および本校学生と短期留学生との交流 JASSO(日本学生支援機構)支援による短期留学生との交流は、研究室、学科、学生寮などで引き続き実施する。今年度は本校学生の有志により短期留学生の日本文化体験の案内が行われたが，次年度以降はより多くの学生が携われるような仕組みを検討を行う。高専機構、JASSOなどが企画する短期派遣プログラムを引き続き学生に情報提供を行い、学生のグローバルエンジアとしての素地を養う。 ■海外インターンシップ、短期留学派遣 海外インターンシップ、短期留学は、英国TYK Limited、バンドンエ科大学(ITB)、マレーシア工科大学(UTM)、ハノーバー大学、アイオワ大学、トリノ工科大学タシケント校、中国鍋屋バイテックの派遣先の準備は整っている。継続的な取組みとするためには同人数の双方向交流が望まれる。そのためにJASSOによる派遣・受入の支援および本校の支援を継続させる必要がある。トビタテ留学JAPANプログラムも活用する。 ■海外渡航時の危機管理 学生のみならず教職員の海外渡航時の危機管理を目的に本年度、民間の危機管理会社との契約を行い、不測の事態に対応できるよう制度ならびに組織整備を行った。次年度以降もこれらを継続するとともに、危機管理ガイダンス等を教職員，学生に実施することを検討する。 ■海外大学との学術交流 交流協定を締結した大学との双方向交流、特にマレーシアエ科大学における研究者間との交流に努める。 ■教職員の業務のバランス調整 国際交流室には専任教員が配置されていないことから、専任教員を置くなど他の業務とのバランス調整が必要である。	活動は良好である	A	事業の継続性や発展性を鑑みると、主に支援予算的な部分での、長期的展望・戦略を今後検討する時期が来ると予想される。	5	■JASSO支援を基にした短期留学生【受入】を実施した。アイオワ大学から2名、ハノーバ大学から2名、マレーシア工科大学から2名、バンドン工科大学から2名、トリノ工科大学(タケント校)から2名、そして今年度から新たに中部土木大学から2名、ハノイ建設大学から2名、ハノイ工科大学短期部から2名の短期留学生を受入れ、研究室での実習を行なった。 ■JASSO支援を基にした短期留学生【派遣】を実施した。アイオワ大学に2名、ハノーバ大学に2名、マレーシア工科大学に3名、バンドン工科大学に3名、トリノ工科大学(タシケント校)に2名、TYK Limitedに2名を派遣し3週間の実習をなった。資金援助は外部資金JASSOの他、教育後援会の国際交流基金、同窓会若鮎基金からの支援を受けた。 ■長期外国人留学生長期留学生を対象とした、学内(チューター 等の懇談会、校長との懇談会など)、学外(地域との交流会、現地見学旅行、ホームステイなど)の各種イベントを実施した。 ■高専に在籍する長期留学生を対象とした東海地区外国人留学生交流会を乗鞍青少年交流の家にて行い11名の学生が参加した。 ■本校学生の希望者を対象としたトビタテ留学ジャパン制度を利用した留学方法に関する講演会を実施した。 ■海外大学との長期学生受入として、電気工学科教員の研究室にシンガポール リバプリックポリテクニックの学部生2名を5か月の長期にわたって受け入れ、研究指導を行った。また、電気工学科教員の研究室にIUTリールAの学生2名を3ヶ月にわたって受け入れ、研究指導を行った。 ■海外大学との学術交流の一環として(ESDPR&EE: Environmental Sustainability and Disaster Prevention and Reduction, Engineering Education)に関するシンポジウムを開催した。交流協定大学を含めて5ヶ国、7大学（計17名）の参加があり、本校、福井高専、明石高専などからの口頭発表、ポスター展示があった。交流協定締結以来、毎年開催しているものであるが、今年度はバンドン工科大学以外の協定校に拡大して実施し学術交流の深化に大きく貢献した。	■教職員の業務のバランス調整 国際交流室には専任教員が配置されていないことから、専任教員を置くなど他の業務とのバランス調整が必要である。また、担当事務が学生課か総務課なのかはっきりしていない業務があり、調整に時間がかかり非効率であり改善を要する。 ■本科生を対象とした語学研修および本校学生と短期留学生との交流 JASSO(日本学生支援機構)支援による短期留学生との交流は、研究室、学科、学生寮などで引き続き実施する。多くの学生が携われるような仕組みを考え、「留学生サポーター」を結成し実施した。国際連携実習の時間数を超えて活動することは難しく、単位化には結びつかなかった。次年度の課題としたい。 ■海外インターンシップ、短期留学派遣 海外インターンシップ、短期留学は、英国TYK Limited、バンドンエ科大学(ITB)、マレーシア工科大学(UTM)、ハノーバー大学、アイオワ大学、トリノ工科大学タシケント校、中国鍋屋バイテックに加え、ベトナムの提携校、およびIUTを加えて募集をかけている。継続的な取組みとするためには同人数の双方向交流が望まれる。そのためにJASSOによる派遣・受入の支援および本校の支援を継続させる必要がある。トビタテ留学JAPANプログラムも活用しているが、まだ採択に至っていないため、活用するようさらなる働きかけをしたい。 ■海外渡航時の危機管理 学生のみならず教職員の海外渡航時の危機管理を目的に本年度、民間の危機管理会社との契約を行い、不測の事態に対応できるよう制度ならびに組織整備を行った。次年度以降もこれらを継続するとともに、短期留学では必ず加入するよう徹底させる。 ■海外大学との学術交流 交流協定を締結した大学との双方向交流、特にマレーシアエ科大学における研究者間との交流に努める。	適切に実施されている。ただし、④にあるとおり他の業務との、また、他の教員とのバランス調整が必要な時期に来ている懸念がある.	A	高専機構による重点項目である。ただし、過度な負担、もしくはこの事への負担が、本来の本校学生への支援を妨げるものとならない様、担当事務職員の業務分担を含めて改善することが望まれる.
16	人権委員会	事務部長	総務課 人事係	ハラスメントの可視化について、具体的な検討をする必要がある。	特に問題が発生しなかったことを鑑みて、活動は良好である	A	自己点検にある様に、予防的な意味を含めて、ハラスメントの可視化についての具体策を今後検討していくことが望まれる。	2	ハラスメント対策としてDVDを購入し、教員会議の際に視聴した。また、新任教員研修時に視聴することとしている。 外部相談窓口として、顧問弁護士と継続契約した。 「学生支援に関する講演会」を、学生相談室と共同で開催した。	ハラスメントの可視化について、具体的な検討をする必要がある。	現在はハラスメントが表立って問題となっているとの認識は無いが、④でハラスメントの可視化について具体的な検討をする必要があるとのことなので、なにがしかの懸念があるのではと判断しますが、表だった情報からは特に問題ありません。	A	もし、ハラスメントの可視化につい、なにがしかの懸念があるのであれば、改善を期待します。
17	情報セキュリティ管理委員会	校長（情報処理センター長）	学生課 図書・情報係	良好である。	特に問題が発生しなかったことを鑑みて、活動は良好である	A	新年度からは高専機構情報セキュリティ人材育成関係の事業に加わることも有り、より一層の予防的な啓発活動の可視化が期待される。	1	1)情報セキュリティ推進委員会の活動内容を確認した。 2)情報セキュリティトップセミナーの案内を周知した。	活動は良好である。	適切に実施されている。	A	ネットワーク認証関係でのトラブルが長引いていますが、セキュリティ関係には最大限の活動の継続をお願いします。
18	情報セキュリティ推進委員会	情報処理センター長	学生課 図書・情報係	情報セキュリティ監査の指摘事項及び注意事項について，ほぼ対応した。XPについては機構の学生情報統合システムに乗り換えるまでの措置であり，1台のファイアウォールについても高専統一ネットワークが導入されるまでの措置であるので，十分な対応状況である。 IT資産管理については，継続して検討が必要である。	IT資産管理については，継続して検討が必要であると自己評価しているとおり、検討結果の実施・検証までの過渡期にある懸念がある。	C	今後予想される機構のシステムへのスムーズな移行を完了させると共に、IT資産管理についても，実効性に配慮した実施が望まれる。	5	1)教職員向情報セキュリティ教育の実施 1-1)情報セキュリティに関するe-Learing教育（全教職員が受講） 1-2)標的型メール訓練 2)情報セキュリティインシデントへの対応 4/13に事務職員PCがマルウェアに感染するインシデントが発生した。機構本部CSIRTや文科省への報告を適切に処理した。 3)情報セキュリティ人材育成事業について 3-1)学生向け情報セキュリティ講演会の実施 3-2)専攻科棟教室改修によるAL対応化 3-3)LMSによる情報セキュリティコンテンツ展開のための準備 3-4)高専キャラバン隊による情報セキュリティ演習の実施 3-5)ブロック拠点校（石川高専）開催の学生向け情報セキュリティイベントへの学生派遣 3-6)情報セキュリティに関する研修への教職員の派遣	IT資産管理調査については、機構本部から実施指示がなかったため、今年度は実施していない。高専全体で利用しているIT資産管理システムが更新されたため、今後各教職員管理PCのIT資産管理ソフトウェアの入れ替えを予定している。	適切に実施されている。	A	IT資産管理調査はシステムにより自動的に実施されると教職員の負担が減って良いと思います。

平成29年度　会議・委員会・部門委員会の活動，評価等

番号	会議・委員会・部門委員会名	委員長等	担当課・係	前年度（H28）自己点検	前年度（H28）評価者による評価等			開催回数	③今年度の活動内容	④自己点検及び改善すべき事項	⑤評価概要	⑥評価	⑦改善事項
				自己点検及び改善すべき事項	①評価概要	評価	②改善すべき事項	H29	H29	H29	H29	H29	H29
19	テクノセンター運営委員会	研究主事	総務課 研究協力係	活動は良好である。 ■テクノセンター全般 良好である．地域連携協力会会員等に対して，産学官連携アドバイザー制度があまり認識されていないが，会報等に継続的に掲載して周知を行い，また実際にそのアドバイザーの方々と議論して，より効果的な広報活動について検討を始めた． ■技術開発部門 良好である．外部会議参加に関する負担に関しては，学内業務と照らし合わせて，必要に応じて外部会議を欠席するなどして負担軽減を試みた．また，今年度は岐阜テクノフェア（隔年実施）が実施されなかったため，外部会議参加の負担が緩和された． ■技術教育部門 良好である．特に，小中学生を対象とした多くの講座依頼があり，近隣の小中学校向けに数多くの教育活動を実施している．また改善対応については，テクノセンター運営委員会において情報共有，意見交換がなされており，教員の貢献度を評価する仕組みに関しては，本年度より実施された教員自身による自己評価書の提出（4月提出）が，その評価方法の一つとなった． さらに，以下の点を改善する予定である。 1)学校として取組む共通のプロジェクトやPR活動における実施体制の強化：学校として取り組む事業は，引き続き，主管・運営・教員会議を通じて教員に周知し、重要度、地域との関連性、外部資金、継続性などから決定している。PR活動については、引き続きホームページ等を活用して地域へアピールする。 2)教員の貢献度を評価する仕組み：H28年度から開始した教員の自己評価書および計画書において、具体的な貢献度のエビデンス、エフォート等を可視化する。また、ホームページによる教育研究業績の公開、research mapなどにより教員の研究シーズを可視化する．	今年度の改善すべき事項「学校として取組む共通のプロジェクトやPR活動における実施体制の強化（集中と選択、各教員の貢献度の明確化など），すなわち重要度が低いものは切り捨て必要なものを選んで強化することについての見直しが望まれる。	C	次年度こそ，学校として取組む共通のプロジェクトやPR活動における実施体制の強化（集中と選択、各教員の貢献度の明確化など），すなわち重要度が低いものは切り捨て必要なものを選んで強化することについての見直しが望まれる。	8	■テクノセンター全般 ・外部資金の獲得等について，科研費、共同研究、受託研究、寄附金などの情報を提供し、全国あるいは第3ブロック内における本校の強みと弱みを明確にしながら、講習会等の実施，各種財団，研究助成の募集情報を周知した（科研費：26件、共同研究：23件、受託研究：3件（NEDOを含む）、寄附金：31件）． ・学校として取り組む大型プロジェクト（教育AP，KOSEN4.0イニシアティブなど）について，関係機関（岐阜県・岐阜市・本巣市等）と調整して実施した。 ・地域連携協力会の運営委員会や総会などを通じて，研究プロジェクト（成果報告や研究シーズ紹介など）や人材育成事業を推進した。 ・シニアOBによる中核人材育成塾は，入門：5、基礎：6、アドバンス：6の合計17講座が開講され、有料開講依頼、延べ3072名が受講した。 ■技術開発部門：良好である。 ・外部組織との連携（岐阜県商工労働部、岐阜県工業会など） ・IAMASとの連携（IoT関連の共同セミナーなど） ・高専連携クラウド推進室（オープンCAE・ものづくりミニワーキング） ■技術教育部門：良好である。 ・インターンシップ関連（本科＋専攻科：国内199名、海外23名） 一文科省へのインターンシップの届出制度申請予定 ・ものづくり/科学技術リテラシー教育実習 （単位認定者：本科70名、専攻科12名） ・自治体や各種団体から依頼されたイベントやリテラシー活動（43件）	活動は良好である． ■テクノセンター全般：良好である。 ■技術開発部門：良好である。 外部会議参加に関しては，必要に応じてCDに代理出席を依頼し、情報収集を行った． ■技術教育部門：良好である。 特に，小中学生を対象とした多くの講座依頼があり，近隣の小中学校向けに数多くの教育活動を実施している． 昨年度の指摘事項，学校として取り組む事業については，運営会議，教員会議等で研究主事から報告している（AP事業，KOSEN4.0イニシアティブ事業等）．また，具体的な地域連携活動については，テクノセンター委員会等で検討し，重要度や継続性に応じて取捨選択した．一方，教員の自己評価書における教育・研究・社会貢献等のエフォートについては，具体的な貢献度のエビデンス、エフォート等が申請されている。また、ホームページによる教育研究業績の公開、research mapなどにより教員の研究シーズが可視化されている．また，重要な案件については、既存の部門や推進室が中心となってプロジェクト方式で進めている． これらの教育・研究・地域連携活動のバランスについては、引き続き優先順位などを考慮しながら、学校全体や学科、教員などの関連性を配慮してテクノセンターとして調整する。	活動は良好である	A	特になし
19	-1 高専連携クラウド推進室	[redacted]	総務課 研究協力係	今年度末に高専連携クラウド室として活動基盤となる大規模解析システムが導入されたので、来年度からは全校対象として本システムを教育研究に活用するために以下の活動を展開する。 ・大規模解析システムの利用講習会を、年間4回程度開催して、大括り化に対応した研究グループの活動基盤を実現する。 ・この活動を通して、専攻科での大括り化における航空宇宙研究グループの学科横断的な活動を目指す。	活動は良好である	A	特になし	0	大規模解析システムの活用技術を蓄積は行うことができたが，学内全体を対象とした利用講習会の準備として，今年度は研究室単位および授業単位での活用推進に方針を変更して活動を行った。 ・建築学科1研究室＋機械工学科1研究室での卒業研究や特別研究での有効利用ができた。 ・専攻科先端融合開発専攻での実習系科目において、本システムを活用した演習を行った。 ・航空宇宙研究グループとしては、特命教員2名と連携して、計算機活用の支援システムを開発した。 （室員とはメールでの情報交換で活動を進め会議は開催していない） ・航空宇宙研究グループの学科横断的な活動としては、数値解析技術に対して特命教員と連携し、機械工学科と建築学科の研究室間協力や、電気情報工学科の卒業研究支援などを実現した。	数値解析を活用した研究開発を支援するために、来年度は学内全体を対象とした利用講習会を年2回程度は開催する。このための準備会議を2回実施する。 利用技術をまとめた情報発信用のウエブページを充実させることによって，学生や初心者の利用を支援する。	・目標であった「大規模解析システムの利用講習会」年4会の開催が未開催であるにもかかわらず，「室員とはメールでの情報交換で活動を進め会議は開催していない」との報告で推進室会議が一度も開催されておらず，室員間の情報共有が十分に行われているのか懸念がある．	C	・室員間の情報共有を十分にはかり，「大規模解析システムの利用講習会」を目標2回程度の開催が望まれる．
19	-2 科学技術リテラシー教育推進室	[redacted]	技術室	本科、並びに専攻科のリテラシー教育実習に関しては，学生のアンケートよりその目的が十分に果たされていることが確認できた。改善については，科学技術リテラシー教育推進室会議，およびテクノセンター運営委員会で既に情報共有、ならびに意見交換がなされており、現状では最大限の改善が図られている。	活動は良好である	A	特になし	1	本科の募集テーマ数11、実施テーマ数9、専攻科テーマ数4（本科と合同）にて実施された。また、本科受講者数79名のうち単位認定者数70名、専攻科受講者数12名のうち単位認定者数12名であった。 昨年度に引き続き、単位認定書類の様式や提出方法の整備を図り、教員・学生に負担がないようにした。また、報告会は口頭発表からポスター発表に変更し、発表の時間的な制約がないようにした。 また、ポスター前で交代で発表できるようにしたため，多数の学生が参加しているグループでもプレゼンテーションが十分行えるようになった。	リテラシー教育実習に参加する学生は増えてきており、活動は良好である。一方で、担当する教員はほぼ同じであると、今後はテーマを提案する教員が増えることが望ましい。	活動は良好である	A	特になし
19	-3 若鮎連携推進室	研究主事	総務課 総務・企画係	活動は良好である。 ・若鮎会設立50周年記念式典（9/9）に向けて準備が進められている．創設期のシニアOBに加えて若手・中堅OBOGを含めた本校の教育・研究・地域貢献に関する人材活用について，外部資金（高専4.0イニシャティブなど）を活用しながら多面的な連携を実践する必要がある．	活動は良好である	A	特になし	5	同窓会若鮎会設立50周年記念式典とレセプションが行われた（9/9）． ・同窓会若鮎会設立50周年記念実行委員会（25名）が組織された。式典に先立ち，予算・実施計画等を若鮎会役員会に諮りながら進められた。チラシ作成や配布、報道機関への取材・広報，当日のパネル展示の準備など，卒業生が中心となり実施した。 ・式典終了後は、同窓会若鮎会設立50周年記念事業として、卒業生・教員等が講師となる公開講座を後期に計5回実施した。この事業は、次年度も引き継がれる予定である． ・さらに，以前から実施している中核人材育成塾は、今年度、入門：5、基礎：6、アドバンス：6の合計17講座が開講され、卒業生が講師として参画している。今年度、有料開講に延べ3072名が受講し、3000名を超えた。	活動は良好である． ・若鮎会設立50年を経過し，世代間を繋ぐ人材活用について，各学科の同窓会組織と連携しながら，効果的に実践する必要がある．	活動は良好である	A	特になし
19	-4 知的財産委員会	研究主事	総務課 研究協力係	活動は良好である。 ・昨年度から学校裁量（本校あるいは個人）が可能となり，特許出願に関しては，新規性などに加えて市場性が鍵を握っている．企業との共同出願であればほぼ承継されるものの，単独出願の場合は承継は困難である．これらを踏まえた学内の事前審査が必要である．	活動は良好であるが，新たな問題として学内の事前審査方法の構築が望まれる．	C	学校裁量（本校あるいは個人）の特許出願に関して，企業との共同出願，単独出願の場合に応じた学内の事前審査方法の構築が望まれる．	7	平成29年度の知財申請は、機構承継（3），学校承継→個人帰属（1）となっている。学校裁量（本校あるいは個人）が可能となり，特許出願に関しては，新規性などに加えて市場性，実用化の見通しなどがあることも重要である。企業との共同出願であればほぼ承継されるものの，単独出願の場合は承継は困難である．	活動は発明等届が申請されてから対応している。 提出された発明等届，発明評価書に基づいて学内審査手続きを進めており，発明評価書の新規性，市場性，活用性などについては，申請者と知財委員会メンバーとの間で差異が出る場合があり，CDなどの意見を参考にして最終的な判断を行っている．	活動は良好である	A	特になし
19	-5 機器分析室運営委員会	[redacted]	総務課 研究協力係	・機器の不具合に対応し、機器は使用できる状態を維持できた。 ・今年度は、校長裁量経費により機器の不具合を修理した。機器を導入して次年度4年が経過するため、メンテナンス経費を確保する必要がある。 ・機器の分析データを利用した研究業績は、論文　2件、特許1件、口頭発表　14件(H27年度)。また、外部資金としてNEDOと科研の採択がある。	活動は良好である	A	特になし	1	■(機器設備の管理に関する事項)機器のメンテナンスや消耗品の充填を行い常に機器が使用できるように保守・管理した。今年度はSEMの保守点検を行った。 ■(利用に関する事項)利用状況は前期449時間、後期873時間となった(集計はH28年度)	活動は良好である。 ・機器を導入して次年度5年が経過するため、メンナンス経費を確保する必要がある。 ・専攻科の授業「材料分析工学」で分析室の機器を使用した実習を行い、学生の分析に関する学習にも役立てた。	活動は良好である	A	特になし
20	メディア委員会	研究主事	学生課 図書・情報係	活動は良好である。 ■図書館部門 1)利用者数ベースで7.5%減となった（貸出冊数は14%増）．図書館の利用者拡大のための方策を検討する（貸出冊数：9844，人数：4842）． 2)学科推薦図書の選書方法を検討する． 3)新高専統一認証システムへの接続を行い，MyOPACにより図書リクエストや予約の電子化を進める． ■情報処理センター部門 1)平成30年度の高専統一ネットワークの導入に向けた準備 2)認証環境の整備とID管理の効率化 3)サイボウズ及びOffice365の利用促進 4)演習室及び情報機器の管理と運用	議事録を確認していないが，本紙左列の記載を見る限りでは，多様な活動が活発になされており，総じて活動状況は良好である。	A		6	■図書館部門 1)利用者講習会の実施、2)ブックハンティングの実施 2)読書感想文、自由投稿文、図書だより表紙イラストのコンクール実施 3)高専祭企画展，各種イベントの開催 4)iPad、ノートPC貸出（延べ計199台） 5)図書館だより，紀要の編集・発行 ■情報処理センター部門 (1) 第1学年情報処理センターガイダンスの実施 情報リテラシ教育の実施（1回）、セキュリティー講習会実施（2回） (2) 校内LANシステム定例打ち合わせ（2回） (3) 高専統一ネットワークの更新 (4) 高専統一ネットワークに外れる部分の更新 (5) IT資産管理調査の実施 今年度は実施通知がなく未実施 (6) 研修会等 (7)「情報処理教育・研究報告第 45 号」の発行 （平成 27 年度より、紀要と同時収録により電子化） (8) 無線 LAN の試験運用 （4 月より、全学生を対象に実施。600アカウント登録）	活動は良好である。 ■図書館部門 1)利用者数は広報活動等により微増した （昨年度より、貸出冊数は7.3%増，利用者数は8.1%増）． 2)OPACの利用促進を図る 新高専統一認証システムへの接続を行い，MyOPACにより図書リクエストや予約の電子化を進める． 3)電子ジャーナル利用促進を図る ■情報処理センター部門 1)平成31年度の高専統一学情ネットワーク導入に向けた支援準備 2)認証環境の整備とID管理のさらなる効率化 3)Office365の利用促進 4)演習室及び情報機器の管理と運用 （AP事業終了後を踏まえた検討）	両部門で多様な取組がなされており，活動状況は良好である。	A	

平成29年度　会議・委員会・部門委員会の活動，評価等

番号	会議・委員会・部門委員会名	委員長等	担当課・係	前年度（H28）自己点検	前年度（H28）評価者による評価等			開催回数	③今年度の活動内容	④自己点検及び改善すべき事項	⑤評価概要	⑥評価	⑦改善事項
				自己点検及び改善すべき事項	①評価概要	評価	②改善すべき事項	H29	H29	H29	H29	H29	H29
20	-1 IT技術管理WG	情報処理センター長	学生課 図書・情報係	高専統一ネットワークシステムに対応する必要がある。	議事録を確認していないが，本紙左列の記載を見る限りにおいては，活動状況は良好である。	A		2	1)高専統一ネットワークの更新について 1-1)導入業者との打合せの実施 1-2)実施計画の策定 2)高専統一ネットワークから外れたサーバ群（Webサーバ・教職員メールサーバ・外部DNS）の更新について 2-1)サーバ更新(案)の策定 2-2)仕様の策定	活動は良好である。	各サーバー群の更新日程は遅れているが，外因によるものであり，本校の活動状況は概して良好である。	A	
20	-2 アクティブラーニング推進WG	情報処理センター長	学生課 図書・情報係	Webシラバスの支援の実務を教務委員が負っている。	議事録を確認していないが，本紙左列の記載を見る限りにおいては，活動状況は良好である。	A		10	各科の教務委員を通じて，Webシラバスの全科目導入が行われた。 アクティブラーニングに関わるFDを実施した。	活動は良好である。	教育AP推進委員会との連携により，設備基盤の充実も図られ活動状況は良好である。	A	
21	学生相談室会議	[redacted]	学生課学生係	・適切に審議され、実施された。 ・こころと体の健康調査を迅速に対応するため、集計・対応方法を見直す。 ・相談室会議にカウンセラーにも参加いただき、情報共有を改善する。	議事録の記載により，良好な活動状況が確認された。	A		10	・自殺予防といじめ対策として、こころと体の健康調査（前期）と学校生活アンケート（後期）を実施し、LMS方式により集計作業を改善した。 ・毎月１回の相談室会議にカウンセラーが参加し、相談室運営の協議と、気になる学生に関する情報交換会を実施した。 ・相談室（カウンセリング）、キャリア支援室（OB教員や相談室員による学習・進路）の利用案内、伊吹食堂と多目的室（休憩場所や勉強場所）の開放をポスターとホームページで周知した。 ・カウンセラー週５日待機によるカウンセリングを実施した。 ・OB教員や室員による進路・学習相談を実施した。 ・クレペリン検査（１、３年生のみ）に実施し、学生の自己理解と学級担任の学生指導に活用いただいた。 ・相談室員のスキルアップと学生相談の情報収集として、障害学生支援や東海北陸地区高専、全国高専の各研修会に参加した。 ・教職員向けの学生支援の学内講演会を１回実施した。 ・問題を抱えた学生をカウンセラー、室員、学級担任および関係教員と連携し、チーム支援を実施した。また、外部機関（社会福祉協議会、就労支援）、校医（精神科医）とも連携した。	・適切に審議され、実施された。 ・問題を抱えた学生のチーム支援の強化を目指したい。	多様な施策がなされ，かつ取組みの見える化も図られており活動状況は良好である。	A	
22	教員会議	校長	総務課 総務・企画係	今年度から、議長を校長としたことにより、報告時間の短縮等、効率化を図ることができた。 会議資料の電子化等、より効率化を図ることが、今後の課題である。	良好である。	A		8	適切に報告等が実施できた。	会議資料の再掲はリマインドのため必要な部分もあるが、H30年度より資料をタブレットにするため、紙の削減が出来る。また、口頭説明は簡略化するなどして、進行の効率化を図っている。	年度最終の会議でタブレットを試行するなど、会議での進行の効率化、経費節減へ向け、活動は良好である。	A	
23	学級担任会議	教務主事	学生課 教務係	学級担任としての素養を身に付けていただくために必要であれば、学級指導・厚生補導を対象とした講演会やカウンセリングの機会を設けることも検討する。	活動は良好である	A	2連続留年での実質的な退学の先送りが次年度には無くなるので、進路変更関係の担任指導についての情報共有が、新年度末に向けては必要になると思われる。	5	学生指導や定期試験の会場準備等について周知する場として、計画通り、開催された。専門学科間教員との意見交換、情報共有の場としても活用されている。	活動は良好である。		A	
24	クラブ顧問連絡会議	学生主事	学生課 学生係		良好である。	A		3	例年通り3回の対面連絡会議を実施した。	29年度から各クラブの部費を本校で統一した通帳として財務係管理の下に運用する措置を始め、大きな混乱をきたすことなく年度を終えることができた。	良好である。	A	
25	若鮎奨学基金運用委員会	校長	総務課 総務・企画係	特になし	議事録を確認していないが，本紙左列の記載を見る限りにおいては，活動状況は良好である。	A		1	主管会議メンバー及び若鮎会事務局教員により2月22日に委員会を開催し、表彰関係79件と助成関係39件を決定した。	活動は良好である。	表彰と助成が所定の手続きにより着実に実現され，活動状況は良好である。	A	
26	特別支援検討委員会	学生主事	学生課 学生係	29年度に聴力に障がいを有する学生及び歩行に支障のある学生の入学が決まっており、新たに支援体制を構築して対応する予定でいる。	議事録を確認していないが，本紙左列の記載を見る限りにおいては，活動状況は良好である。	A		2	年度当初に2名の学生を対象に、異なる構成員による会議を各1回実施し、その後は必要に応じてメール審議形式で情報を共有して日常の支援体制を維持した(メール送受においては学生の個人名は明記していない)。なお個人情報保護の観点からHP上での議事録公開は行なっていないが、必要に応じて関係者は閲覧可能である。	聴力障がいを有する学生への対応は年度を通じて実施し、該当学生は第2学年に進級する。歩行に支障のある学生は年度途中に本人の事情で休学し、30年度に第1学年に復学予定であり、再度必要な支援を実施する予定がある。	良好である。支援経緯等の記録内容を共有し、活用していけるとよい。	A	
27	男女共同参画推進室	[redacted]	総務課長	・女子学生に対するキャリヤパスに関する講演会実施については，全学的な展開は困難であると思われる。よって，各学科の事情に応じて，学科単位で適宜実施するのが現実的であると考える。 ・女性教員の各学科１名配置を早急に実現するため，女性限定や任期付修士採用を実施すべきである。	活動状況は良好である.	A		1	・高専機構主催の「男女共同参画推進意識啓発講演会」が，GI-netにより配信され，推進室活動の一環として，室員も参加した。 ・本科第2学年の特活を利用して，男女間に関わる重大な人権問題の1つであるDVをテーマに，推進室の意識啓発活動の一環として，室長兼学年主任が講演を行った。 ・今年度の「第3ブロック男女共同参画推進担当者協議会」を，本校が担当校として，３月１５日にじゅうろくプラザで実施した。	・教員募集の際，ポジティブアクションを継続し，女性教員の各学科１名配置を早期に実現する必要がある。 ・女性教員が不安なく働ける職場環境を実現するため，推進室が主体となって，女性教員の不安解消に努める必要がある。	男女共同参画推進に向けた各種の取組が行われており，活動は良好である.	A	女性教員のポジティブアクション等については，学校全体としての配慮が必要である. 女子学生に対しては，社会で活躍する卒業生や関連分野の女性技術者等のキャリアパスが見渡せる教育を，引き続き継続する必要がある。
28	教育AP推進室	研究主事	総務課課長補佐（財）	活動は良好である。 教育APは3年が経過し折り返し時期となる．他高専では，教育APによるAL推進，学修成果の可視化の具体的な取組として，自律，協働，創造の力を向上させるための学年学科横断PBL科目（Co＋work）などが展開されている．専門分野の垣根を越えて融合，連携することはイノベーション人材育成にも必要である．今後は，教育課程科目と非教育課程活動の両者に対して，ミクロとマクロとの観点から，教育改善の成果と進展を可視化する必要がある.	活動状況は良好である。今後は、教育課程科目と非教育課程活動の両者に対して，教育改善の成果と進展を可視化することが望まれる。	A		12	主な活動内容は以下のようである。 ・本校のALとFDの実状と展望（ICT活用教育のスパイラルアップ、プログ解析結果とLMSの活用状況） ・授業参観週間等のAL授業実践，各授業のAL展開事例、LMS上の学修支援教材コンテンツ ・シニアOBと連携した企業技術者イチ押し課題のCBT作成 ・実践技術単位制度の全学展開と学修成果可視化へ向けた活用 ・専門学科のサイエンスコモンズ活用 ・AP事業による講演会の実施、研究発表、ICT環境改善等 これらのAP事業については，3月に公開報告会が開催され，本校の事例紹介のみではなく，先進事例の招待講演，ポスター発表等が行われた。	活動は良好である。 AP事業4年目の成果として，ALの実践と学修成果の可視化についての外部意見を反映させ，全国高専フォーラム2018などを活用して、次年度以降の選定取組をさらに充実・発展する必要がある.	活動状況は良好である。	A	

出典　平成30年度スパイラルアップ会議資料　平成30年4月26日開催

スパイラルアップ会議の改善活動を示す資料（平成30年度の評

資料1-1-4-(1)-04

平成30年度　会議・委員会・部門委員会の活動、評価等

番号	会議・委員会・部門委員会名	委員長等	担当課・係	前年度の活動内容 H29	前年度自己点検及び改善すべき事項 H29	①評価概要 H29	評価 H29	②改善事項 H29	会議開催回数 H30	③今年度の活動内容 H30	④自己点検及び改善すべき事項 H30	評価者	⑤評価概要 H30	⑥評価 H30	⑦改善事項 H30
1	主管会議	校長	総務・企画係	適切に審議され実施できた。	会議資料の再掲はリマインドのため必要な部分もあるが、H30年度より資料をタブレットにするため、紙の削減が出来る。また、口頭説明は簡略化するなどして、進行の効率化を図っている。	活動状況は良好である。	A		17	定例会議15回、臨時会議を2回開催し、適切に審議され実施できた。	H30年度より会議資料をサイボウズのファイル管理にアップロードし、タブレットにて閲覧する形態に変更したため、紙の削減ができ経費の節約が図れた。 また、口頭説明は簡略化するなどして、進行の効率化を図っている。	清水教授	良好である。	A	
2	運営会議	校長	総務・企画係	適切に協議され実施できた。	会議資料の再掲はリマインドのため必要な部分もあるが、H30年度より資料をタブレットにするため、紙の削減が出来る。また、口頭説明は簡略化するなどして、進行の効率化を図っている。	活動状況は良好である。	A		19	定例会議15回、臨時会議を4回開催し、適切に協議され実施できた。	H30年度より会議資料をサイボウズのファイル管理にアップロードし、タブレットにて閲覧する形態に変更したため、紙の削減ができ経費の節約が図れ、全教職員に会議資料を共有することができ、共通理解を得ることができた。 また、口頭説明は簡略化するなどして、進行の効率化を図っている。	清水教授	良好である。	A	
3	スパイラルアップ会議	校長	総務・企画係	適切に審議され実施できた。	特になし	活動状況は良好である。	A		1	適切に審議され実施できた。	特になし	所教授	活動状況は良好である。	A	
4	教務会議	教務主事	教務係	入学志願者数の確保、Webシラバスの導入、MCC対応に向けた教育課程表の変更、帰国子女特別選抜実施方法等に対し検討を行ってきた。2年連続原級留置となった場合、退学とする規定を復活させた。一時的に退学者は増える可能性はあるが、長期的には対象学生に緊張感を持たせることが有効と考えられる。また、1～3年の原級留置の学生に対して評価8以上の科目の履修を不要とし、不得意科目の克服に時間を充てられるように内規の一部改正を行った。	積立金の廃止に伴う研修旅行の見直しや退学率や原級留置率の減少に向けた具体的な対策の検討と実施が必要である懸念がある。特に2年連続留年での退学が復活するため、高専の高度化・国際化とMCC対応などで、学修内容がレベルアップすると、その対策は直ちに実施すべきであると懸念する。	④にある退学率・原級留め置き率の減少に向けた具体的な対策の検討と実施が必要である懸念がある。特に2年連続留年での退学が復活するため、高専の高度化・国際化とMCC対応などで、学修内容がレベルアップすると、その対策は直ちに実施すべきであると懸念する。	A	検討するだけで無く、直ちに行動に移し、全教職員と学生で意識共有することが望まれる。	34	Webシラバスの運用やMCCに対応したカリキュラムの検討、Office365を活用した授業時間割の作成、オープンキャンパスや中学校訪問など入学志願者の確保に向けた広報活動等を中心に行った。仮進級学生の単位取得状況を担任にも提供し情報の共有を図るとともに、該当学生に対する指導や追認試験に関する申合せを策定した。また、平成31年度版から教職員用と保護者用の二種類の年間行事予定表を作成し、学外HPには保護者用を掲載する方向で進めている。	現行の成績処理システムCampus Assistのシステム更新及び学生情報統合システムKOREDAの本格運用に向けての対応を並行して行っていく状況下で教職員の負担軽減を図りながら公正な処理を維持していく必要がある。	吉村教授	学生情報統合システムKOREDAの本格運用に向けての進展状況、今後の学内対応等について学内周知が望まれる。	C	・学生情報統合システムKOREDAの本格運用に向けての学内周知 ・平成31年度：新規に教職員用と保護者用の二種類の年間行事予定表が作成されており、学外HPに保護者用が掲載予定であるので、その評価が必要
4	−1 FD活動推進会議	教務主事	教務係	授業参観週間（前後期に1週間）の設置、FD講演会2回（前期テーマ：「授業を設計・構成する力　−教科教育学の知見を踏まえて−」、後期テーマ：「アクティブ・ラーニングの4つの視点」）を実施した。講演会資料や公開可能なものに対しては、教務掲示板上で提供した。	結果として、授業参観やFD講演会への教員の参加率等は前年度とほぼ同様であり、改善を継続していく必要があるが、授業参観前に教育APで実施された学生アンケート結果を配布、周知するなど、活動の可視化やスパイラルアップへの流れはできつつある。	取組の更なる可視化で、実のある活動となることが期待できる。	A	教育改革の流れの「教育APと連動した可視化」を是非進めて頂きたい。	各2	授業参観やFD講演会に対する教員参加率は増加していないものの、授業参観前に教育APで実施された学生アンケート結果を配布、周知するなど、活動の可視化やスパイラルアップへの流れはできつつある。	授業参観やFD講演会に対する教員参加率は増加していないものの、授業参観前に教育APで実施された学生アンケート結果を配布、周知するなど、活動の可視化やスパイラルアップへの流れはできつつある。	吉村教授	活動は良好である	A	特になし
5	専攻科会議	専攻科長	教務係	定常的な専攻科運営に加え、入試方法の改善、JABEE継続の検討、特例変更届への対応等を実施した。 検討予定であった特別研究1英語発表についても、詳細な実施方法を検討し、実施要綱を作成した。	活動状況は良好である。 次年度については、これまでの活動を継続するとともに、新たに大学との共同教育について検討する予定である。	前回課題として示された特別研究1英語発表に関する実績が示されており、活動状況は良好である。	A		12	定常的な専攻科運営に加え、入試方法の改善、JABEE継続の検討、特例変更届への対応、特別研究1英語発表等を実施した。 検討予定であった大学との共同教育（連携教育プログラム）についても、豊橋技術科学大学との打ち合わせを重ね、入学者募集要項案を作成した。	活動状況は良好である。 次年度については、これまでの活動を継続するとともに、引き続き連携教育プログラムの詳細を検討し、決定する。	山本学生主事	活動状況は良好である	A	
6	学生会議	学生主事	学生係	予定された学生会行事の実施に加え、各方面から提起された案件に審議のうえ対応した。窓ガラス破は28年度33件から29年度7件と大幅減、交通事故は28年度35件から28件と微減、紛失盗難が28年度5件から29年度16件と大幅増となり、特に紛失は学生会議による4時限の1号館3階巡回や伊吹出入口に防犯カメラ設置等の対応を実施した。	会議は良好に行われている。学生指導の基準・方法に関しては概ね学内の合意を得て見直しを済ませた。今後は主に教務会議と連携して、単位追認試験で不正行為が発生した際の統一的な対応の合意に向け検討する予定がある。学生会費の先細りが指摘されており、高専祭開催とクラブ関係の双方を検討する予定がある。	活動状況は良好である。	A		31	予定された学生会行事の実施や、各種活躍した学生達への表彰を実施、学生の窓口に関する事案について審議のうえ対応した。窓ガラス破は28年度33件から29年度7件30年度は4件（5人）と減少傾向であった。交通事故は28年度35件から29年度28件、30年度も28件と同数となった。紛失盗難が28年度5件から29年度16件と大幅増となったが、30年度は8件と減少できた。防犯や盗難への抑止となるよう、伊吹出入口防犯カメラ設置に続き、第1体育館入口、6号館女子トイレ付近にもカメラの設置をした。	会議は良好に実施できた。30年度は年間約30件発生する交通事故が気になった。自転車・原付バイク・自動車運転について、更なる安全指導をする必要性を感じている。課外活動や各種コンテストで活躍する学生達が増えてきており、非常に喜ばしいことではあるが、その支援の方法が今後の課題となってくる。また、それに伴う教員の業務負担の増加についても対策を考える予定である。	麻草前寮務主事	活動状況は良好である。交通安全指導のさらなる充実、課外活動支援と教員の業務負担軽減についての継続した検討が期待される。	A	
7	寮務会議	寮務主事	寮務係	寮務会議、寮生会行事は予定通り行われた。退寮指導を3名、停寮指導を11名に対して行なった。男子1年生と指導寮生との関わり方を見直した。昨年度に続き温水洗浄器付便座設置個所を増やし、全寮棟の全階に1つは温水洗浄器付便座が設置されるに至った。夏季休業期間に男子浴室内装改修工事を行なった。試行ではあるが、学生からの要望が強かったウォーターサーバーを全談話室に設置した。	男子1年生と指導寮生との関わり方を見直した結果か、入寮後早い時期（前期間）での退寮者が出なかった。飲酒に関わる指導件数が多かったため、それを防ぐ指導が必要である。寮生数が増加の傾向にあり、定員超過時の対応や受入数の拡大に向けての検討が必要である。	活動状況は良好である。	A		29	寮務会議、寮生会行事は予定通り行われた。退寮指導を4名、停寮指導を15名に対して行なった。女子寮の居室配置の見直し（同学年での相部屋）、アンケート調査実施など、女子寮快適性の向上を図った。温水洗浄器付便座は全洋式便座に設置され、試行であったウォーターサーバーも本設置となり、男子寮乾燥機使用を無料とした。インフルエンザ予防接種を学内で実施し、利用者は前年比約1.5倍となった。定員超過が予想された女子寮において、退寮対象者への早めの情報提供に努めた。また、寮務会議委員の業務負担軽減のため、寮棟巡回を朝のみとした。	飲酒、寝坊に関する指導件数に改善が見られず、更なる指導上の工夫が必要である。	山本学生主事	活動状況は良好である	A	
8	将来計画委員会	教務主事	総務・企画係	計画通り開催され、外部評価の実施方法、参与会との関連付け等を中心に検討を行った。	機構本部から教員定員削減検討の指示があるなど、中長期的な展望が難しい状況にある。	展望が困難な状況において比較的、活動状況は良好である。	A		4	計画通り開催され、外部評価の実施方法、会議・委員会等における教員の負担軽減等についての検討が行われた。具体的には専攻科運営規程をはじめとする関連規程において、一般科目からの選出委員を2名から1名に変更することが承認された。	機構本部から教員定員削減の指示がある状況下で、学校単独での方針の決定や中長期的な展望は行うには、難しい状況にある。	麻草前寮務主事	活動状況は良好である。	A	
9	財務・施設委員会	校長	財務係・施設係	財務・施設委員会の主な活動内容（開催回数5回） ●第1回①「岐阜高専キャンパスマスタープラン2017」の策定について②平成29年度実施事業（施設整備費補助金事業、営繕事業）について ●第2回①平成28年度決算について②平成28年度校長裁量経費の決算について③平成29年度予算配分（案）について ●第3回①平成30年度予算配分方針（案）等について②平成30年度概算要求事業について③平成30年度営繕要求事業について ●第4回①平成30年度予算配分審査（要求ヒアリング）②平成30年度施設整備実施予定事業について③平成31年度施設整備費補助金の概算要求事業について ●第5回①平成30年度予算配分について②平成30年度　教員室等の継続使用（不動産使用許可）及び冷暖房機器の継続使用について③設備整備マスタープランの策定について	適切に審議され、実施された。	十分な審議が行われ、各事業が実施された。	A		4	財務・施設委員会の主な活動内容（開催回数4回） ●第1回①平成29年度決算について②平成29年度校長裁量経費の決算について③平成30年度予算配分（案）について④平成31年度概算要求事業（施設整備費関係）について⑤平成30年度実施事業（施設整備費補助金事業・営繕事業）について⑥建築学科棟改修工事期間中の居室等について⑦その他（高専教育充実設備費について） ●第2回①平成31年度予算配分方針（案）等について②平成30年度施設整備費補助金事業・営繕事業進捗状況及び平成30年度追加予算事業について③その他（①平成30年度高専と大学の共同教育プログラムの構築支援校の採択結果について②暖房期間について） ●第3回①平成31年度予算配分審査（要求ヒアリング）②平成31年度施設整備補助金実施予定事業について③2020年度施設整備費概算要求事業について ●第4回①平成31年度予算配分について②設備整備マスタープランの策定について③2019年度教員室等の継続使用（不動産使用許可）及び冷暖房機器の継続使用について	適切に審議され、実施された。	麻草前寮務主事	適切に審議され、各事業が実施された。	A	
10	入試運営委員会	教務主事	教務係	臨時会議を1回開催したものの、ほぼ当初の計画通り、開催された。主な審議事項は、専攻科入試方法（TOEICスコア換算方法など）の変更、帰国子女特別選抜の実施方法、学外検査場（名古屋会場）の廃止等である。	従来から実施の推薦選抜、学力選抜に加え、帰国子女特別選抜の実施要項が確立された。	新たな取り組みとして、帰国子女特別選抜を導入するなど活動状況は良好である。	A		5	当初の計画通り、開催された。主な審議事項は、専攻科学力検査による選抜方法の変更である。具体的には、判定項目として従来から実施している数学、英語に加え、高専4年次に相当する専門科目の評価を反映した調査書を追加した。また、英語点数の換算方法として従来から採用しているTOEICスコアに加え、TOEFL iBTスコアの選択も可能にした。以上の変更は2020年度専攻科入試から適用される。	専攻科学力選抜方法の変更により、数学、英語だけでなく、専門分野の能力も加味されることになり、よりバランスの取れた選抜が実施できる見通しである。	麻草前寮務主事	専攻科学力選抜方法について、よりバランスの取れた選抜が実施できる見通しであるなど、活動状況は良好である。	A	
11	広報委員会	学生主事	総務・企画係	前後期2回の対面会議に加え、必要が生じるたびにメール審議形式で意見を集約したうえで対応した。	教育AP事業、グローバル高専拠点事業、デザコン開催など、本校が関連する各種事業を中心に、HP並びに冊子を利用した広報活動を展開した。HP更新や掲載内容に関する各種意見が寄せられるたび、全学科・全事務部局から構成される委員にメール審議形式で情報共有し、合理的な対応を実施している。	対面会議に加えて適宜メール審議が行われ、活動状況は良好である。	A	教育・研究・社会連携活動に関する各種の事業が実施されており、委員会として広報活動が展開されている。今後は、学校全体として、本校の強みおよび弱みの補強策などを整理分析し、広報活動に繋げることが望まれる。	2	H30年度も前年度同様、前後期2回の対面会議を実施した。確認事項等必要が生じたとき、メール審議にて確認した。また、本校の強み及び弱みの補強策について、今年度HPを更新した。内容として、トップページに・KOSEN（高専）4.0イニシアティブ事業・教育AP事業・グローバル高専拠点事業・についてバナーを開設し、各事業についての情報を発信した。	KOSEN（高専）4.0イニシアティブ事業、教育AP事業、グローバル高専拠点事業、全国高専フォーラム開催など、本校が関連する各種事業を中心に、HP並びに冊子を利用した広報活動を展開した。HP更新や掲載内容に関する各種意見が寄せられるたび、全学科・全事務部局から構成される委員にメール審議形式で情報共有し、合理的な対応を実施している。	吉村教授	2回の対面会議に加えて適宜メール審議が行われ、活動状況は良好である。 また、昨年度指摘された改善事項については、強みがHP等で情報発信された。	A	
12	人事委員会	校長	総務・企画係	10回の委員会を開催し適切に審議され実施された。	適切に審議され、実施した。	適切に実施されている。	A	引き続き適切な実施を継続して下さい。	11	採用・昇任等の審議を実施した。	適切に審議され、実施した。	所教授	適切に実施されている。	A	
13	安全衛生委員会	校長	総務・企画係 契約係 施設係	年間安全衛生活動計画により、次の事項について12回審議した。 ・安全衛生管理体制の確立 ・職場の安全衛生と作業環境の確保（職場の安全・衛生巡視等） ・健康管理（熱中症の予防講習会）・健康増進の実施 ・安全衛生教育の実施（救急法講習会等） ・設備・備品の転倒防止対策 ・ストレスチェックの実施（外部委託） 【防災対策関係】・防災訓練、防災備蓄備品関係について1回審議した。	適切に審議され実施した。	適切に実施されている。	A	ストレスチェックの実施後の、その改善へ向けた活動が可視化されると尚良い。	安全衛生12 防災関係1	毎月の衛生に関する事項と、9月に防災に関する次の事項を審議した。 ・職場の安全衛生と作業環境の確保（職場の安全・衛生巡視等） ・健康管理（熱中症の予防講習会、熱中症予防についての注意喚起） ・健康増進の実施 ・安全衛生教育の実施（救急法講習会等） ・防災備品の充実 ・ストレスチェックの実施（外部委託）	適切に審議され、実施した。	所教授	適切に実施されている。	A	

平成30年度　会議・委員会・部門委員会の活動、評価等

番号	会議・委員会・部門委員会名	委員長等	担当課・係	前年度の活動内容 H29	前年度自己点検及び改善すべき事項 H29	①評価概要 H29	評価 H29	②改善事項 H29	会議開催回数 H30	③今年度の活動内容 H30	④自己点検及び改善すべき事項 H30	評価者	⑤評価概要 H30	⑥評価 H30	⑦改善事項 H30
14	点検評価・フォローアップ委員会	委員長	総務・企画係	①H29年度年度計画の達成状況を点検評価（中期計画WG） ②H29年度学習評価フォローアップ点検の基本方針を策定（学習評価フォローアップWG） ③H29年度授業アンケート結果の分析（学習評価フォローアップWG） ④H29年度卒業生・修了生の教育目標に関する満足度・達成度を調査（学習評価フォローアップWG）	適切に実施された。	活動は良好である	A	特になし	4	①H30年度年度計画の達成状況を点検評価（中期計画WG） ②H30年度学習評価フォローアップ点検の基本方針を策定（学習評価フォローアップWG） ③H30年度授業アンケート結果の分析（学習評価フォローアップWG） ④H30年度卒業生・修了生の教育目標に関する満足度・達成度を調査（学習評価フォローアップWG） ⑤点検評価・フォローアップ委員会の学内向け掲示板のレイアウトを刷新した。 http://www.cc.gifu-nct.ac.jp/gakunaiyou/followup/followup.html	特になし	久保田前学生主事	活動は良好である。	A	特になし
14	-1 中期計画WG	委員長	総務・企画係	①親委員会の①で実施した。	適切に実施された。	活動は良好である	A	特になし	3	①親委員会である『点検評価・フォローアップ委員会』の①に示すように実施した。	特になし	久保田前学生主事	活動は良好である。	A	特になし
14	-2 自己点検・評価実施WG	委員長	総務・企画係	①スパイラルアップ会議における教育点検システム（概略図）の確認を行った。 ②H26～28年度の学校独自の計画及び実施報告をまとめ、外部評価としての評価を参与会に依頼した。	適切に実施された。	活動は良好である	A	特になし	3	①『内部質保証システム構築』の観点から岐阜高専独自の自己点検・評価規程(案)及び同基準と項目についての内規(案)を策定し、主管会議・運営会議に提案し成案された。 http://www.cc.gifu-nct.ac.jp/gakunaiyou/shomu/2-21-2.pdf http://www.cc.gifu-nct.ac.jp/gakunaiyou/shomu/2-21-3.pdf ②H29・H30年度の参与会による外部評価の方法（実施は平成31年度5月）を策定した。主管会議・運営会議に提案し了解された。	特になし	久保田前学生主事	活動は良好である。	A	特になし
14	-3 学習評価フォローアップWG	委員長	総務・企画係	①親委員会の②で策定した方針を基に、新しい実施要領を定め、WGで具体的な作業を実施した。 ②H29年度の授業アンケートの取りまとめをWGで実施した。 ③親委員会で④（H29年度卒業生・修了生の教育目標に関する満足度・達成度調査）を実施した。 ④5年ごとに行われる就職先アンケート（本科・専攻科）の取りまとめをWGで実施した。	適切に実施された。	活動は良好である	A	特になし	4	①親委員会である『点検評価・フォローアップ委員会』の②で策定した方針に準じてWGで具体的な作業を実施した。 ②H30年度の授業アンケートの取りまとめをWGで実施した。 ③親委員会である『点検評価・フォローアップ委員会』の④に示す『H30年度卒業生・修了生の教育目標に関する満足度・達成度調査』を実施した。	特になし	久保田前学生主事	活動は良好である。	A	特になし
15	国際交流室会議	[redacted]	教務係	■JASSO支援を基にした短期留学生【受入】を実施した。アイオワ大学から2名、ハノーバ大学から2名、マレーシアエ科大学から2名、バンドンエ科大学から2名、トリノエ科大学(タケント校)から2名、そして今年度から新たに中部土木大学から2名、ハノイ建設大学から2名、ハノイエ科大学短期部から2名の短期留学生を受入れ、研究室での実習を行なった。 ■JASSO支援を基にした短期留学生【派遣】を実施した。アイオワ大学に2名、ハノーバ大学に2名、マレーシアエ科大学に3名、バンドンエ科大学に3名、トリノエ科大学(タシケント校)に2名、TYK Limitedに2名を派遣し3週間の実習をなった。資金援助は外部資金JASSOの他、教育後援会の国際交流基金、同窓会若鮎基金からの支援を受けた。 ■長期外国人留学生長期留学生を対象とした、学内(チューター 等の懇談会、校長との懇談会など)、学外(地域との交流会、現地見学旅行、ホームステイなど)の各種イベントを実施した。 ■高専に在籍する長期留学生を対象とした東海地区外国人留学生交流会を豊橋青少年交流の家にて行い11名の学生が参加した。 ■本校学生の希望者を対象としたトビタテ留学ジャパン制度を利用した留学方法に関する講演会を実施した。 ■海外大学との長期学生受入として、電気工学科教員の研究室にシンガポール リパブリックポリテクニックの学部生2名を5か月の長期にわたって受け入れ、研究指導を行った。また、電気工学科教員の研究室にIUTリールAの学生2名を3ヶ月にわたって受け入れ、研究指導を行った。 ■海外大学との学術交流の一環として(ESDPR&EE: Environmental Sustainability and Disaster Prevention and Reduction、Engineering Education)に関する共同セミナーを開催した。交流協定大学を含めて5ヶ国、7大学（計17名）の参加があり、本校、福井高専、明石高専などからの口頭発表、ポスター展示があった。交流協定締結以来、毎年開催しているものであるが、今年度はバンドンエ科大学以外の協定校に拡大して実施し学術交流の深化に大きく貢献した。	■教職員の業務のバランス調整 国際交流室には専任教員が配置されていないことから、専任教員を置くなど他の業務とのバランス調整が必要である。また、担当事務が学生課か総務課なのかはっきりしていない業務があり、調整に時間がかかり非効率であり改善を要する。 ■本科生を対象とした語学研修および本校学生と短期留学生との交流 JASSO(日本学生支援機構)支援による短期留学生との交流は、研究室、学科、学生寮などで引き続き実施する。多くの学生が携われるような仕組みを考え、「留学生サポーター」を結成し実施した。国際連携実習の時間数を超えて活動することは難しく、単位化には結びつかなかった。次年度の課題としたい。 ■海外インターンシップ、短期留学派遣 海外インターンシップ、短期留学は、英国TYK Limited、バンドンエ科大学(ITB)、マレーシアエ科大学(UTM)、ハノーバー大学、アイオワ大学、トリノエ科大学タシケント校、中国鍋屋バイテック)に加え、ベトナムの建機校、およびIUTを加えて募集をかけている。継続的な取組みとするためには同人数の双方向交流が望まれる。そのためにJASSOによる派遣・受入の支援および本校の支援を継続させる必要がある。トビタテ留学JAPANプログラムも活用しているが、まだ採択に至っていないため、活用するようさらなる働きかけをしたい。 ■海外渡航時の危機管理 学生のみならず教職員の海外渡航時の危機管理を目的に本年度、民間の危機管理会社との契約を行い、不測の事態に対応できるよう制度ならびに組織整備を行った。次年度以降もこれらを継続するとともに、短期留学では必ず加入するよう徹底させる。 ■海外大学との学術交流 交流協定を締結した大学との双方向交流、特にマレーシアエ科大学における研究者間との交流に努める。	適切に実施されている。ただし、④にあるとおり他の業務との、また、他の教員とのバランス調整が必要な時期に来ている懸念がある。	A	高専機構による重点項目である。ただし、過度な負担、もしくはこの事への負担が、本来の本校学生への支援を妨げるものとならない様、担当事務職員の業務分担を含めて改善することが望まれる。	9	■JASSO支援を基にした短期留学生【受入】を実施した。アイオワ大学から2名、ハノーバ大学から2名、マレーシアエ科大学から2名、バンドンエ科大学から2名、トリノエ科大学(タケント校)から2名、ハノイ建設大学から2名の短期留学生を受入れ、研究室での実習を行なった。 ■JASSO支援を基にした短期留学生【派遣】を実施した。アイオワ大学に2名、ハノーバ大学に2名、マレーシアエ科大学に3名、バンドンエ科大学に3名、トリノエ科大学(タシケント校)に2名、TYK Limitedに2名を派遣し3週間の実習をなった。資金援助は外部資金JASSOの他、教育後援会の国際交流基金、同窓会若鮎基金からの支援を受けた。 ■長期外国人留学生長期留学生を対象とした、学内(チューター 等の懇談会、校長との懇談会など)、学外(地域との交流会、現地見学旅行、ホームステイなど)の各種イベントを実施した。 ■高専に在籍する長期留学生を対象とした東海地区外国人留学生交流会(豊田高専主管)として豊田市近郊の文化体験・工場見学を行い、3名の学生が参加した。 ■本校学生の希望者を対象としたトビタテ留学ジャパン制度を利用した留学方法に関する講演会を実施した。 ■トビタテ留学ジャパンへの応募を検討している学生に対し、応募申請のサポートを行ない、高校生コースに4名、大学コースに3名の応募があった。なお、高校コース4名のうち3名が書類審査を通過した。 ■海外大学との長期学生受入として、電気工学科教員の研究室にシンガポール リパブリックポリテクニックの学部生4名を5か月の長期にわたって受け入れ、研究指導を行った。また、電気工学科教員の研究室にIUTリールAの学生2名を3ヶ月にわたって受け入れ、研究指導を行った。 ■昨年度実施した共同セミナーESDPR&EE: Environmental Sustainability and Disaster Prevention and Reduction、Engineering Educationの第二回を開催した。交流協定6大学から計12名の参加があった。また、本校専攻科生3名の口頭発表、本校専攻科生2年生全員のポスター発表も行われた。	特になし	麻草前寮務主事	活動状況は良好である。	A	
16	人権委員会	事務部長	総務・企画係	ハラスメント対策としてDVDを購入し、教員会議の際に視聴した。また、新任教員研修時に視聴することとしている。 外部相談窓口として、顧問弁護士と継続契約した。 「学生支援に関する講演会」を、学生相談室と共同で開催した。	ハラスメントの可視化について、具体的な検討をする必要がある。	現在はハラスメントが表立って問題となっているとの認識は無いが、④でハラスメントの可視化について具体的な検討をする必要があるとのことなので、なにがしかの懸念があるのではと判断しますが、表だった情報からは特に問題ありません。	A	もし、ハラスメントの可視化につい、なにがしかの懸念があるのであれば、改善を期待します。	2	特に問題はあがってきていない。	適切に審議され、実施した。	清水教授	活動状況は良好である。	A	
17	情報セキュリティ管理委員会	情報処理センター長	図書・情報係	1)情報セキュリティ推進委員会の活動内容を確認した。 2)情報セキュリティトップセミナーの案内を周知した。	活動は良好である。	適切に実施されている。	A	ネットワーク認証関係でのトラブルが長引いていますが、セキュリティ関係には最大限の活動の継続をお願いします。	0	1)情報セキュリティトップセミナーの案内を周知した。	適切に実施されている。なお、毎年年度末に開催していた情報セキュリティ推進委員会の活動報告を、翌年度の年度初めに移行したため、今年度は会議を開催していない。	和田教務主事	情報セキュリティ管理委員会は、一般的管理業務であり、主管会議、運営会議、メディア委員会などを通じて、情報セキュリティ推進委員会の活動状況、情報セキュリティ監査等の対応が適切に把握されている。	A	引き続き、情報セキュリティ推進委員会の活動を把握し、情報セキュリティ強化を進めていただきたい。
18	情報セキュリティ推進委員会	情報処理センター長	図書・情報係	1)教職員向情報セキュリティ教育の実施 1-1)情報セキュリティに関するe-Learing教育（全教職員が受講） 1-2)標的型メール訓練 2)情報セキュリティインシデントへの対応 4/13に事務職員PCがマルウェアに感染するインシデントが発生した。機構本部CSIRTや文科省への報告を適切に処理した。 3)情報セキュリティ人材育成事業について 3-1)学生向け情報セキュリティ講演会の実施 3-2)専攻科棟教室改修によるAL対応化 3-3)LMSによる情報セキュリティコンテンツ展開のための準備 3-4)高専キャラバン隊による情報セキュリティ演習の実施 3-5)ブロック拠点校（石川高専）開催の学生向け情報セキュリティイベントへの学生派遣 3-6)情報セキュリティに関する研修への教職員の派遣	IT資産管理調査については、機構本部から実施指示がなかったため、今年度は実施していない。高専全体で利用しているIT資産管理システムが更新されたため、今後各教職員管理PCのIT資産管理ソフトウェアの入れ替えを予定している。	適切に実施されている。	A	IT資産管理調査はシステムにより自動的に実施されると教職員の負担が減って良いと思います。	5	1)教職員向情報セキュリティ教育の実施 1-1)情報セキュリティに関するe-Learing教育（ほぼ全教職員が受講） 1-2)情報セキュリティ講習会の実施(1/31) 1-3)高専機構による標的型メール訓練 2)情報セキュリティ監査について 監査において指摘が2項目、注意が10項目あった。次年度対応を協議する。 3)情報セキュリティインシデントへの対応 11/2に本校学生による情報セキュリティインシデントが発生した。機構本部CSIRTへの報告を適切に処理した。 4)新IT資産管理システムによるIT資産管理調査の実施 5)情報セキュリティ人材育成事業について 年度当初に各専門学科で情報セキュリティ教育実施計画を策定し、計画に基づき実施した。	適切に実施されている。	和田教務主事	情報セキュリティ教育、情報セキュリティ監査、情報セキュリティインシデント、IT資産管理等への対応が適切に実施されている。	A	昨年度、情報セキュリティ監査に指摘された事項を改善していただきたい、また、4月上旬に発生した個人情報に関するニューマンエラーについて、情報セキュリティ強化の観点から、留意点等を全教職員に周知していただきたい。
19	テクノセンター運営委員会	研究主事	研究協力係	■テクノセンター全般 ・外部資金の獲得等について、科研費、共同研究、受託研究、寄附金などの情報を提供し、全国あるいは第3ブロック内における本校の強みと弱みを明確にしながら、講習会等の実施、各種財団、研究助成の募集情報を周知した（科研費：26件、共同研究：23件、受託研究：3件（NEDOを含む）、寄附金：31件）。 ・学校として取り組む大型プロジェクト（教育AP、KOSEN4.0イニシアティブなど）について、関係機関（岐阜県・岐阜市・本巣市等）と調整して実施した。 ・地域連携協力会の運営委員会や総会などを通じて、研究プロジェクト（成果報告や研究シーズ紹介など）や人材育成事業を推進した。 ・シニアOBによる中核人材育成塾は、入門：5、基礎：6、アドバンス：6の合計17講座が開講され、有料開講依頼、延べ3072名が受講した。 ■技術開発部門：良好である。 ・外部組織との連携（岐阜県商工労働部、岐阜県工業会など） ・IAMASとの連携（IoT関連の共同セミナーなど） ・高専連携クラウド推進室（オープンCAE・ものづくりミニワーキング） ■技術教育部門：良好である。 ・インターンシップ関連（本科＋専攻科：国内199名、海外23名） ー文科省へのインターンシップの届出制度申請予定 ・ものづくり/科学技術リテラシー教育実習 （単位認定者：本科70名、専攻科12名） ・自治体や各種団体から依頼されたイベントやリテラシー活動（43件）	活動は良好である。 ■テクノセンター全般：良好である。 ■技術開発部門：良好である。 外部会議参加に関しては、必要に応じてCDCに代理出席を依頼し、情報収集を行った。 ■技術教育部門：良好である。 特に、小中学生を対象とした多くの講座依頼があり、近隣の小中学校向けに数多くの教育活動を実施している。 昨年度の指摘事項、学校として取り組む事業については、運営会議、教員会議等で研究主事から報告している（AP事業、KOSEN4.。0イニシアティブ事業等）。また、具体的な地域連携活動については、テクノセンター委員会等で検討し、重要度や継続性に応じて取捨選択した。一方、教員の自己評価書における教育・研究・社会貢献等のエフォートについては、具体的な貢献度のエビデンス、エフォート等が申請されている。また、ホームページによる教育研究業績の公開、research mapなどにより教員の研究シーズが可視化されている。また、重要な案件については、既存の部門や推進室が中心となってプロジェクト方式で進めている。 これらの教育・研究・地域連携活動のバランスについては、引き続き優先順位などを考慮しながら、学校全体や学科、教員などの関連性を配慮してテクノセンターとして調整する。	活動は良好である	A	特になし	8	■テクノセンター全般 ・外部資金の獲得等について、科研費、共同研究、受託研究、寄附金などの情報を提供し、過去最高額（総額1.1億円）に達した（第三ブロックで2番目）。 ・学校として取り組む大型プロジェクト（教育AP、KOSEN4.。0イニシアティブなど）について、関係機関（岐阜県・岐阜市・本巣市等）と調整して実施した。 ・地域連携協力会の運営委員会や総会などを通じて、研究プロジェクト（成果報告や研究シーズ紹介など）や人材育成事業を推進した。 ・シニアOBによる中核人材育成塾は、入門：5、基礎：6、アドバンス：6の合計17講座が開講され、有料開講依頼、延べ約3500名が受講した。2019年度は中核人材育成事業開始から10年目を迎える。 ■技術開発部門： ・外部組織との連携（岐阜県商工労働部、岐阜県工業会など） ・IAMASとの連携（IoT関連の共同セミナーなど） ・高専連携クラウド推進室は2018年度で廃止されるが、オープンCAEなどの地域連携活動は継続・推進した。 ■技術教育部門： ・インターンシップ関連（本科＋専攻科：国内201名、海外49名） ・ものづくり/科学技術リテラシー教育実習 （単位認定者：本科49名、専攻科4名）（昨年度：計82名） ・自治体や各種団体から依頼されたイベントやリテラシー活動	活動は良好である。 ■テクノセンター全般：良好である。 KOSEN4。0イニシアティブ事業で掲げた評価指標：技術相談件数30以上などを達成し、第4期に向けて本校の強みをさらに伸ばす工夫と克服する課題を検討する必要がある。 ■技術開発部門：良好である。 ■技術教育部門：良好である。 一昨年度の指摘事項、学校として取り組む事業については、テクノセンター委員会等で検討し、重要度や継続性に応じて取捨選択した。重要な案件については、既存の部門や推進室が中心となってプロジェクト方式で進めた。これらの教育・研究・地域連携活動のバランスについては、引き続き優先順位などを考慮しながら、学校全体や学科、教員などの関連性を配慮してテクノセンターとして調整する。	久保田前学生主事	活動は良好である。	A	特になし

平成30年度　会議・委員会・部門委員会の活動、評価等

番号	会議・委員会・部門委員会名	委員長等	担当課・係	前年度の活動内容 H29	前年度自己点検及び改善すべき事項 H29	①評価概要 H29	評価 H29	②改善事項 H29	会議開催回数 H30	③今年度の活動内容 H30	④自己点検及び改善すべき事項 H30	評価者	⑤評価概要 H30	⑥評価 H30	⑦改善事項 H30
19	-1 高専連携クラウド推進室	[redacted]	研究協力係	大規模解析システムの活用技術を蓄積は行うことができたが、学内全体を対象とした利用講習会の準備として、今年度は研究室単位および授業単位での活用推進に方針を変更して活動を行った。 ・建築学科1研究室＋機械工学科1研究室での卒業研究や特別研究での有効利用ができた。 ・専攻科先端融合開発専攻での実習系科目において、本システムを活用した演習を行った。 ・航空宇宙研究グループとしては、特命教員2名と連携して、計算機活用の支援システムを開発した。 （室員とはメールでの情報交換で活動を進め会議は開催していない） ・航空宇宙研究グループの学科横断的な活動としては、数値解析技術に対して特命教員と連携し、機械工学科と建築学科の研究室間協力や、電気情報工学科の卒業研究支援などを実現し	数値解析を活用した研究開発を支援するために、来年度は学内全体を対象とした利用講習会を年2回程度は開催する。このための準備会議を2回実施する。 利用技術をまとめた情報発信用のウエブページを充実させることによって、学生や初心者の利用を支援する。	・目標であった「大規模解析システムの利用講習会」年4会の開催が未開催であるにもかかわらず、「室員とはメールでの情報交換で活動を進め会議は開催していない」との報告で推進室会議が一度も開催されておらず、室員間の情報共有が十分に行われているのか懸念がある。	C	・室員間の情報共有を十分にはかり、「大規模解析システムの利用講習会」を目標2回程度の開催が望まれる。	クラウド推進室講習会準備会議2 イニシャル連携講習会準備会議2	教職員および学生を対象に、大規模解析システムの利用を促進するために、以下の活動を行う。 1：専攻科の特別実験において、システムを活用した演習を行う。 　数値流体力学の大規模解析 2：研究開発の活用を促進するために、システム利用者講習会を行う。 　流体解析プリケーションの活用講座2回 　大規模並列数値解析の基礎演習2回 今年度は、イニシアティブの外部人材育成の活動と連携して、人工知能に関する基礎講座を開催する。 3：ニューラルネットワークの基礎講座2回	左の活動内容においては、以下の通り実施した。 1：　10/10、17、24、31の4回の授業において、専攻科学生6グループが、システムを活用した大規模流体解析演習を行なった。 2：　大規模解析システムの利用講習会を、以下の通り実施した。 前期分　7/31 6名参加　8/7 4名参加 後期分　11/13 11名参加　11/27 9名参加 3：　ニューラルネットワークの基礎演習を、以下の通り実施した。 12/11 11名参加　1/12 12名参加 以上より、昨年度の改善事項に対応できた。	久保田前学生主事	活動は良好である。	A	H31.3.31をもって高専連携クラウド推進室は廃止された。
19	-2 科学技術リテラシー教育推進室	[redacted]	技術室	本科の募集テーマ数11、実施テーマ数9、専攻科テーマ数4（本科と合同）にて実施された。また、本科受講者数79名のうち単位認定者数70名、専攻科受講者数12名のうち単位認定者数12名であった。昨年度に引き続き、単位認定書類の様式や提出方法の整備を図り、教員・学生に負担がないようにした。また、報告会は口頭発表からポスター発表に変更し、発表の時間的な制約がないようにした。また、ポスター前で交代で発表できるようにしたため、多数の学生が参加しているグループでもプレゼンテーションが十分行えるようになった。	リテラシー教育実習に参加する学生は増えてきており、活動は良好である。一方で、担当する教員はほぼ同じである。今後はテーマを提案する教員が増えることが望ましい。	活動は良好である	A	特になし	1	すべての学科からリテラシーのテーマが提案され、募集テーマ数は11であった。そのうち本科に8テーマ49名、専攻科テーマ数2（本科と合同）4人の応募があった。そして、本科15名に1単位、3名に2単位、専攻科4名に2単位を認定した。 ・5月22日に受講者に対しガイダンスを行なった。 ・ぎふ・サイエンスフェスティバルには岐阜高専としてブース出展し、活動の成果を発表した。 ・1月30日に成果発表会を行い、テーマごとにポスター発表をした。	活動は良好である。 応募者数は昨年度に比べ減少したものの、テーマ数は昨年度と同様であり、また全学科としての取り組みが行なわれている。 応募学生を増やすためには低学年へのリテラシー活動の周知と複数年にわたる活動の継続が必要である。	久保田前学生主事	活動は良好である。	A	特になし
19	-3 若鮎連携推進室	研究主事	総務・企画係	同窓会若鮎会設立50周年記念式典とレセプションが行われた（9/9）。 ・同窓会若鮎会設立50周年記念実行委員会（25名）が組織された。式典に先立ち、予算・実施計画等を若鮎会役員会に諮りながら進められた。チラシ作成や配布、報道機関への取材・広報、当日のパネル展示の準備など、卒業生が中心となり実施した。 ・式典終了後は、同窓会若鮎会設立50周年記念事業として、卒業生・教員等が講師となる公開講座を後期に計5回実施した。この事業は、次年度も引き継がれる予定である。 ・さらに、以前から実施している中核人材育成塾は、今年度、入門：5、基礎：6、アドバンス：6の合計17講座が開講され、卒業生が講師として参画している。今年度、有料開講に延べ3072名が受講し、3000名を超えた。	活動は良好である。 ・若鮎会設立50年を経過し。世代間を繋ぐ人材活用について、各学科の同窓会組織と連携しながら、効果的に実践する必要がある。	活動は良好である	A	特になし	20 （メール会議を含む）	テクノセンターの若鮎連携推進室は、全学同窓会「若鮎会」および中核人材育成塾の「若鮎連携事業室」、建設技術士有志会などと連携して事業を推進している。 1)若鮎会設立50周年記念事業として開始された公開講座は、卒業生・教員等が講師となり3回実施した（岐阜大学教授、大野町長、山梨大学准教授）。 2)2019年度で10年目を迎える「中核人材育成塾は、入門：5、基礎：6、アドバンス：6の合計17講座が開講され、企業経験をもつシニアOBが講師として参画している。今年度で有料開講に延べ約3500名に達した。 3)東海地域に在住する建設技術士有志会（約60名）と連携し、環境都市工学科の導入教育（1年生）、キャリア教育支援（4年生）などを実施し、国家資格：技術士1次試験合格者を表彰している。	活動は良好である。 ・若鮎会設立50年を経過し、世代間を繋ぐ人材活用について、各学科の同窓会組織と連携しながら、効果的に実践する必要がある。2019年度は建築学科が設立50周年を迎える。	久保田前学生主事	活動は良好である。	A	特になし
19	-4 知的財産委員会	研究主事	研究協力係	平成29年度の知財申請は、機構承継（3）、学校承継一個人帰属（1）となっている。学校敷量（本校あるいは個人）が可能となり、特許出願に関しては、新規性などに加えて市場性、実用化の見通しなどがあることも重要である。企業との共同出願であればほぼ承継されるものの、単独出願の場合は承継は困難である。	活動は発明等届が申請されてから対応している。 提出された発明等届、発明評価書に基づいて学内審査手続きを進めており、発明評価書の新規性、市場性、活用性などについては、申請者と知財委員会メンバーとの間で差異が出る場合があり、CDなどの意見を参考にして最終的な判断を行っている。	活動は良好である	A	特になし	9 （メール審議を含む）	平成30年度の知財申請は、企業との共同出願（承継）の他に、特許を受ける権利の持ち分譲渡及び出願名義人変更手続きに係る同意書の提出、審査請求、外国出願などであった。	活動は良好である（新規＋審査請求対応＋外国出願など）。 提出された発明等届、発明評価書に基づいて学内審査手続きを進めており、発明評価書の新規性、市場性、活用性などについては、CDや機構本部などの意見を参考にして判断を行っている。	久保田前学生主事	活動は良好である。	A	特になし
19	-5 機器分析室運営委員会	[redacted]	研究協力係	■（機器設備の管理に関する事項）機器のメンテナンスや消耗品の充填を行い常に機器が使用できるように保守・管理した。今年度はSEMの保守点検を行った。 ■（利用に関する事項）利用状況は前期449時間、後期873時間となった（集計はH28年度）	活動は良好である。 ・機器を導入して次年度5年が経過するため、メンナンス経費を確保する必要がある。 ・専攻科の授業「材料分析工学」で分析室の機器を使用した実習を行い、学生の分析に関する学習にも役立てた。	活動は良好である	A	特になし	1	■（機器設備の管理に関する事項） ・機器のメンテナンスや消耗品の充填を行い常に機器が使用できるように保守・管理している。今年度は、錠前取替、Arガスの交換、FT-IRの光源交換をおこなった。 ■（利用に関する事項） ・利用状況は前期488時間、後期657時間となった（集計はH29年度） ・専攻科の授業「材料分析工学」で分析室の機器を使用した実習を行い、学生の分析に関する学習に役立てた。	活動は良好である。 ・機器を導入して次年度6年が経過するため、メンナンス経費を確保する必要がある。 ・本塚先生が抜けるので新しい委員を入れる検討をする。	久保田前学生主事	活動は良好である。	A	特になし
20	メディア委員会	研究主事	図書・情報係	■図書館部門 1)利用者講習会の実施、2)ブックハンティングの実施 2)読書感想文、自由投稿文、図書だより表紙イラストのコンクール実施 3)高専祭企画展、各種イベントの開催 4)iPad、ノートPC貸出（延べ計199台） 5)図書館だより、紀要の編集・発行 ■情報処理センター部門 (1) 第1学年情報処理センターガイダンスの実施 情報リテラシー教育の実施（1回）、セキュリティー講習会実施（2回） (2) 校内LANシステム定例打ち合わせ（2回） (3) 高専統一ネットワークの更新 (4) 高専統一ネットワークに外れる部分の更新 (5) IT資産管理調査の実施 今年度は実施通知がなく未実施 (6) 研修会等 (7)「情報処理教育・研究報告第 45 号」の発行 （平成 27 年度より、紀要と同時収録により電子化） (8) 無線 LAN の試験運用 (4 月より、全学生を対象に実施。600アカウント登録）	活動は良好である。 ■図書館部門 1)利用者数は広報活動等により微増した （昨年度より、貸出冊数は7。3%増、利用者数は8。1%増）。 2)OPACの利用促進を図る 新高専統一認証システムへの接続を行い、MyOPACにより図書リクエストや予約の電子化を進める。 3)電子ジャーナル利用促進を図る ■情報処理センター部門 1)平成31年度の高専統一学情ネットワーク導入に向けた支援準備 2)認証環境の整備とID管理のさらなる効率化 3)Office365の利用促進 4)演習室及び情報機器の管理と運用 （AP事業終了後を踏まえた検討）	両部門で多様な取組がなされており、活動状況は良好である。	A		6	■図書館部門 1)利用者講習会の実施 2)ブックハンティングの実施 3)読書感想文、自由投稿文、図書だより表紙イラストのコンクール実施 4)高専祭企画展、各種イベントの開催 5)iPad、ノートPC貸出（延べ計128台） 6)図書館だより、紀要の編集・発行 ■情報処理センター部門 1) 第1学年情報処理センターガイダンスの実施 2) 高専統一ネットワークの運用 3) 高専統一ネットワークに外れる部分の更新（web、メールサーバー） 4) IT資産管理調査の実施（AssetBase登録情報） 5) 研修会等（高専フォーラム、IT人材育成、情報担当者研修ほか） 6)「情報処理教育・研究報告第 46 号」の発行（紀要と同時収録） 7) 無線 LAN の試験運用（A科3、5年生対象）	活動は良好である。 ■図書館部門 1)利用者数はほぼ横ばいで推移した。今年度に引き続いて、無線LANの受付窓口をする、コーナーの展示頻度を上げるなどの対策を行う。 2)効率的に図書検索ができるように、OPACの利用説明を実施する（今年度は2年生全員）。 3)学生の電子ジャーナル利用促進を図る（今年度は5年生に簡易利用マニュアルを配付）。 ■情報処理センター部門 1)図書館棟改修に伴う対応（臨時図書館、サーバー室移動・演習室移動などの対応） 2)高専統一学情ネットワーク導入に向けた支援準備 （本格運用：2020年度） 3)認証環境の整備とID管理のさらなる効率化 4)Office365の利用促進 5)演習室及び情報機器の管理と運用 （AP事業終了後を踏まえた検討）	熊崎前教務主事	活動状況は良好である。	A	

平成30年度　会議・委員会・部門委員会の活動、評価等

番号	会議・委員会・部門委員会名	委員長等	担当課・係	前年度の活動内容 H29	前年度自己点検及び改善すべき事項 H29	①評価概要 H29	評価 H29	②改善事項 H29	会議開催回数 H30	③今年度の活動内容 H30	④自己点検及び改善すべき事項 H30	評価者	⑤評価概要 H30	⑥評価 H30	⑦改善事項 H30
20	-1 IT技術管理WG	情報処理センター長	図書・情報係	1)高専統一ネットワークの更新について 1-1)導入業者との打合せの実施 1-2)実施計画の策定 2)高専統一ネットワークから外れたサーバ群(Webサーバ・教職員メールサーバ・外部DNS)の更新について 2-1)サーバ更新(案)の策定 2-2)仕様の策定	活動は良好である。	各サーバー群の更新日程は遅れているが、外因によるものであり、本校の活動状況は概して良好である。	A		1	1)高専統一ネットワークの仕様から外れたサーバ群(Webサーバ・教職員メールサーバ・外部DNS)の更新について 高専統一ネットワークの認証サーバとの認証連携不具合への対策案を策定した。	活動は良好である。	熊崎前教務主事	活動状況は良好である。	A	
20	-2 アクティブラーニング推進WG	情報処理センター長	図書・情報係	各科の教務委員を通じて、Webシラバスの全科目導入が行われた。 アクティブラーニングに関わるFDを実施した。	活動は良好である。	教育AP推進委員会との連携により、設備基盤の充実も図られ活動状況は良好である。	A		3	・授業参観週間に合わせ、授業力向上のためのFD研修を実施した(実施回数:2回)。	活動は良好である。	熊崎前教務主事	活動状況は良好である。	A	
21	学生相談室会議	[redacted]	学生係	・自殺予防といじめ対策として、こころと体の健康調査(前期)と学校生活アンケート(後期)を実施し、LMS方式により集計作業を改善した。 ・毎月1回の相談室会議にカウンセラーが参加し、相談室運営の協議と、気になる学生に関する情報交換会を実施した。 ・相談室(カウンセリング)、キャリア支援室(OB教員や相談室員による学習・進路)の利用案内、伊吹食堂と多目的室(休憩場所や勉強場所)の開放をポスターとホームページで周知した。 ・カウンセラー週5日待機によるカウンセリングを実施した。 ・OB教員や室員による進路・学習相談を実施した。 ・クレペリン検査(1、3年生のみ)に実施し、学生の自己理解と学級担任の学生指導に活用いただいた。 ・相談室員のスキルアップと学生相談の情報収集として、障害学生支援や東海北陸地区高専、全国高専の各研修会に参加した。 ・教職員向けの学生支援の学内講演会を1回実施した。 ・問題を抱えた学生をカウンセラー、室員、学級担任および関係教員と連携し、チーム支援を実施した。また、外部機関(社会福祉協議会、就労支援)、校医(精神科医)とも連携した。	・適切に審議され、実施された。 ・問題を抱えた学生のチーム支援の強化を目指したい。	多様な施策がなされ、かつ取組みの見える化も図られており活動状況は良好である。	A		11	・自殺予防、いじめ及びハラスメント対策として、前期に学生生活アンケートをLMS方式で実施し、学級担任と連携して学生のカウンセリングに繋げた。後期は、前期のアンケート結果を基に、更なる追跡調査を行い、担任と連携してカウンセリングに繋げた。 ・後期から、相談室として学習サポートルームを開設し、主に数学と物理の補習授業に対応した。 ・相談室、キャリア支援室、学習サポートルームなどを、ポスター掲示やホームページ等により学生への周知に努めた。 ・カウンセラーを2名増員したことにより、月曜と水曜が2名体制となり、学生や教員の面談希望に素早く対応できた。 ・学級担任による学生指導の一助とするため、クレペリン検査を1、3年生に実施した。 ・教職員のFD研修として、教員会議開始前の20分程度、カウンセラーによる全体研修会を4回実施した。さらに、個別案件についても、各学科会議にカウンセラーを派遣し、個別研修会を延べ7回実施した。 ・1、2年生の特活で、メンタルヘルスと称して、全10クラスにカウンセラーを派遣し、学生参加型のワークショップを行った。	・適切に審議され、実施された。 ・今後増えると予想される合理的配慮を必要とする学生に対し、継続的なチーム支援の強化が求められる。 ・カウンセラー間の支援方針に齟齬があり、相談室として対応に苦慮したが、次年度以降、カウンセラーには、カウンセリングの基本方針として、誓約書を提出させることで改善を図ることになった。	熊崎前教務主事	良好である。	A	
22	教員会議	校長	総務・企画係	適切に報告等が実施できた。	会議資料の再掲はリマインドのため必要な部分もあるが、H30年度より資料をタブレットにするため、紙の削減が出来る。また、口頭説明は簡略化するなどして、進行の効率化を図っている。	年度最終の会議でタブレットを試行するなど、会議での進行の効率化、経費節減へ向け、活動は良好である。	A		8	定例会議7回、臨時会議を1回開催し、適切に報告等が実施できた。	H30年度より会議資料をサイボウズのファイル管理にアップロードし、タブレットにて閲覧する形態に変更したため、紙の削減ができ経費の節約が図れた。 また、口頭説明は簡略化するなどして、進行の効率化を図っている。	麻草前寮務主事	経費削減、進行の効率化への取り組みなど、活動状況は良好である。	A	
23	学級担任会議	教務主事	教務係	学生指導や定期試験の会場準備等について周知する場として、計画通り、開催された。専門学科間教員との意見交換、情報共有の場としても活用されている。	活動は良好である。		A		5	計画通り開催され、担任業務の周知や課題等について検討された。また、学科別で担任間の情報交換の場としても機能した。	教職員から学生への連絡および周知方法として学内メールを積極的に使用する試みがされる。少しでも、担任業務の負担軽減につながることが期待される。	清水教授	良好である。	A	
24	クラブ顧問連絡会議	学生主事	学生係	例年通り3回の対面連絡会議を実施した。	29年度から各クラブの部費を本校で統一した通帳として財務係管理の下に運用する措置を始め、大きな混乱をきたすことなく年度を終えることができた。	良好である。	A		3	例年通り年間3回のクラブ顧問連絡会議を実施した。30年度はクラブ活動で各種大会やコンテストでの活躍が目立ち、経費負担が増えた。今後の対応として、32年度より学生会費を値上げする事を学生会総会で決定した。	昨年度に続き30年度も各クラブの預り金(部費)を本校で統一した通帳として財務係管理の下に運用することができた。今後各種大会やコンテストへの出場学生への支援として、経費の使用について適正な使用について見直していく必要があるため、学生会や教育後援会と協力して検討していく予定である。また、教員の業務負担軽減が今後の課題となっており、改善できるよう検討したいと考えている。	熊崎前教務主事	活動状況は良好である。	A	
25	若鮎奨学基金運用委員会	校長	総務・企画係	主管会議メンバー及び若鮎会事務局教員により2月22日に委員会を開催し、表彰関係79件と助成関係39件を決定した。	活動は良好である。	表彰と助成が所定の手続きにより着実に実現され、活動状況は良好である。	A		1	主管会議メンバー及び若鮎会事務局教員により2月21日に委員会を開催し、表彰関係61件と助成関係34件を決定した。	活動は良好である。	麻草前寮務主事	表彰と助成が所定の手続きにより着実に実現され、活動状況は良好である。	A	
26	特別支援検討委員会	学生主事	学生係	年度当初に2名の学生を対象に、異なる構成員による会議を各1回実施し、その後は必要に応じてメール審議形式で情報を共有して日常の支援体制を維持した(メール送受においては学生の個人名は明記していない)。なお個人情報保護の観点からHP上での議事録公開は行なっていないが、必要に応じて関係者は閲覧可能である。	聴力障がいを有する学生への対応は年度を通じて実施し、該当学生は第2学年に進級する。歩行に支障のある学生は年度途中に本人の事情で休学し、30年度に第1学年に復学予定であり、再度必要な支援を実施する予定がある。	良好である。支援経緯等の記録内容を共有し、活用していけるとよい。	A		0	平成29年度入学生で、聴力障がいを有する学生への対応を引き続き実施した。該当学生は第2学年に問題なく進級し、クラブ活動(卓球部)も活発に活動している。改めて委員会を開催することはなく、聴力障碍に関する配慮事項の纏めを担任や各教科担当者へ伝達する方法で継続的な支援のお願いを行なった。次年度第3学年に進級するため、既に新担任との面談を終えている。	聴力障がいを有する学生については、第2学年でも問題なく学校生活を送ることができた。第3学年に進級するが、改めて委員会を開催する必要はないと思われ、保護者からも同意を得ており、これまで同様配慮事項の引継ぎを行う事で継続して支援していくつもりである。	所教授	活動状況は良好である。	A	
27	男女共同参画推進室	[redacted]	総務・企画係	・高専機構主催の「男女共同参画推進意識啓発講演会」が、GI-netにより配信され、推進室活動の一環として、室員も参加した。 ・本科第2学年の特活を利用して、男女間に関わる重大な人権問題の1つであるDVをテーマに、推進室の意識啓発活動の一環として、室長兼学年主任が講演を行った。 ・今年度の「第3ブロック男女共同参画推進担当者協議会」を、本校が担当校として、3月15日にじゅうろくプラザで実施した。	・教員募集の際、ポジティブアクションを継続し、女性教員の各学科1名配置を早期に実現する必要がある。 ・女性教員が不安なく働ける職場環境を実現するため、推進室が主体となって、女性教員の不安解消に努める必要がある。	男女共同参画推進に向けた各種の取組が行われており、活動は良好である。	A	女性教員のポジティブアクション等については、学校全体としての配慮が必要である。女子学生に対しては、社会で活躍する卒業生や関連分野の女性技術者等のキャリアパスが見渡せる教育を、引き続き継続する必要がある。	1 メール会議(審議)4	1。男女共同参画の推進およびワークライフバランスを図るための環境整備の一環として、岐阜県が運営する人材バンクに加名登録するとともに、第3ブロック協議会で情報提供し、若鮎会女子部に登録依頼を行った。 2。本校および他高専の女子トイレ盗撮をおよびその対策の実態を把握するとともに、盗撮防止対策のための改修工事の追加予算要求を行った。 3。全教員対象に「男女共同参画の推進およびワークライフバランスを図るための環境整備」に関する意向調査を実施した。	アンケート調査結果より判明した男女共同参画の推進およびワークライフバランスを図るための環境整備に関する課題(制度周知が不徹底、制度改善)は把握できたので、それらの課題改善に向けた取り組み(情報周知方法の検討と整備、機構等への制度改善要求、OBとの連携等)が必要がある。また、女子トイレ、更衣室の盗撮防止に向けた取り組みが引き続き必要である。さらに、多様な立場の視点からの意見を踏まえて取り組むために、性別、年齢層に配慮した室員の構成(増員)が必要である。	麻草前寮務主事	アンケート調査の実施など、男女共同参画推進に向けた各種の取組が行われており、活動は良好である。今後、多様な立場の委員で構成されることが期待される。	A	
28	教育AP推進室	研究主事	総務課長補佐	主な活動内容は以下のようである。 ・本校のALとFDの実状と展望(ICT活用教育のスパイラルアップ、ブログ解析結果とLMSの活用状況) ・授業参観週間等のAL授業実践、各授業のAL展開事例、LMS上の学修支援教材コンテンツ ・シニアOBと連携した企業技術者イチ押し課題のCBT作成 ・実践技術単位制度の全学展開と学修成果可視化へ向けた活用 ・専門学科のサイエンスコモンズ活用 ・AP事業による講演会の実施、研究発表、ICT環境改善等 これらのAP事業については、3月に公開報告会が開催され、本校の事例紹介のみではなく、先進事例の招待講演、ポスター発表等が行われた。	活動は良好である。 AP事業4年目の成果として、ALの実践と学修成果の可視化についての外部意見を反映させ、全国高専フォーラム2018などを活用して、次年度以降の選定取組をさらに充実・発展する必要がある。	活動状況は良好である。	A		9	主な活動内容は、昨年度に引き続いて以下のようである。 ・本校のALとFDの実状と展望 (ICT活用教育のスパイラルアップ、ブログ解析結果とLMSの活用) ・授業参観週間等のAL授業実践、各授業のAL展開事例、LMS上の学修支援教材コンテンツ ・シニアOBと連携した企業技術者イチ押し課題のCBT作成 ・実践技術単位制度の全学展開と学修成果可視化へ向けた活用 ・専門学科のラーニングコモンズの活用 ・AP事業による講演会の実施、研究発表、ICT環境改善等 これらのAP事業については、報告書に取り纏めるとともに、3月に公開報告会、ポスター発表等が実施され、同時に、事業終了年度を迎えたKOSEN4、0イニシアティブ事業(2課題)、グローバル事業などの報告会も行われた。	活動は良好である。 2019年度はAP事業6年目の最終年度として、ALの実践と学修成果の可視化について取り纏めるとともに、第4期における取組の継続、さらなる充実・発展策を検討する必要がある。	熊崎前教務主事	活動状況は良好である。	A	

出典　平成31年度スパイラルアップ会議資料　平成31年4月24日開催

資料1-1-4-(1)-05

平成29年度スパイラルアップ会議議事要旨

第１回スパイラルアップ会議議事要旨

日　時　平成２９年４月２６日（水）１６時～１６時３８分
場　所　大会議室
構成員　校長［議長］，教務主事，研究主事，学生主事，寮務主事，[redacted]建築学科長，
[redacted]点検評価・フォローアップ委員長，[redacted]ＪＡＢＥＥプログラム責任者，
事務部長，総務課長，学生課長
陪　席　國枝総務課長補佐
（議題Ｉのみ出席評価者）
[redacted]教授，[redacted]教授，[redacted]教授，[redacted]教授，[redacted]教授　　欠席：[redacted]教授
記　録　[redacted]総務･企画係長

議題

Ⅰ　平成２８年度各会議・委員会の活動状況の点検について（審議事項）
評価がＡについては異論がなく，C･Wについて評価者と各委員会の長及び所管主事の説明を聞き，評価の正当性を審議した。
・評価の修正
10　入試運営委員会　C→A　とする。
19　テクノセンター運営委員会　活動内容はしっかりしており，文言を修正することにより，W→C　とする。
・19-4 知財教育推進室　Wについて　会議の在り方を検討し，今後必要なければ解体する。

Ⅱ　点検評価・フォローアップ委員会関係
①　平成２８年度計画の達成状況の点検評価（および平成２９年度年度計画の策定）について（審議事項）
点検評価フォローアップ委員長から，資料に基づき，中期計画ＷＧで検討した点検評価等について説明があり，審議の結果，原案どおり承認された。
②学習評価フォローアップＷＧ関係（報告事項）
点検評価フォローアップ委員長から，資料に基づき報告があった。

Ⅲ　ＦＤ活動推進会議平成２８年度活動報告
教務主事から，資料に基づき報告があった。
ＦＤ活動について，ＪＡＢＥＥプログラム認定審査がＣ判定であったことを受け止め，分析・改善をしていく。

Ⅳ　平成２６年度ＪＡＢＥＥ審査Ｃ判定項目の改善方策案について
専攻科長から資料に基づき報告があった。
Ａ判定項目の点検も今後行っていく。

Ⅴ　平成２８年度参与会指摘事項について（報告事項）

校長から，資料に基づき報告があった。

自己点検・評価・改善事項を参与会へ毎年報告し，点検評価改善指示を受ける。

指摘事項を盛り込んで今年度の自己点検評価報告資料を作成することとする。

ただし，対応するもの・しなくて良いものは精査する必要がある。

参与会の在り方も今後検討する余地がある。

Ⅵ　その他

以上

出典　岐阜高専学内向けWebサイト－事務部－会議録

平成３０年度　第１回スパイラルアップ会議　議事

開催日時：平成３０年４月２６日（木）１６：２０～１７：０７
開催場所：大会議室
構成員　：校長【議長】，教務主事，研究主事，学生主事，寮務主事，北川専攻科長，
[redacted]点検評価・フォローアップ委員長[redacted]建築学科長
事務部長，総務課長，学生課長
陪　席　：（評価者）[redacted]元主事，[redacted]元主事，[redacted]前主事，[redacted]前主事，[redacted]前主事
総務課長補佐（総務担当）　　（記録）総務・企画係長

議　題

Ⅰ　平成２９年度会議・委員会等の活動報告書の点検評価について

会議・委員会等の活動報告に対する評価者による評価・改善案について審議が行われ、以下の訂正を加味することで、別紙のとおり、承認されることとなった。

・教務会議　　今年度の活動内容を追記
・国際交流室会議　　評価　C　→　A
・高専連携クラウド推進室　　今年度の活動内容、自己点検・改善すべき事項を追記
・学級担任会議　　自己点検・改善すべき事項を追記　評価　C　→　A

Ⅱ　点検評価・フォローアップ委員会関係

加藤委員長より２件の審議事項の説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。
１．平成２９年度計画の達成状況の点検評価案
２．自己点検・評価の年度別計画表

年度計画の記入方法について、文頭に《○》を付けることに統一するよう、本校のガイドラインを訂正することとなった。（別紙参照、H30 年度計画策定もこれによるよう再通知済）

加藤委員長より中期計画WG関係、自己点検・評価実施WG関係、学習評価フォローアップWG関係について報告があった。
校長から参与会の評価方法について、次回以降はもう少し改善が必要であるとの発言があった。

Ⅲ　ＦＤ活動推進会議平成２９年度活動報告

教務主事から資料に基づき報告があった。

Ⅳ　平成２６年度ＪＡＢＥＥ審査Ｃ判定項目の改善方策案について

専攻科長から資料に基づき報告があった。前回指摘事項について現在は概ね改善されている。次回審査があるとすれば、平成３１年度。

Ⅴ　その他

以上

平成３１年度　第１回スパイラルアップ会議　議事

開催日時：平成３１年4月２４日（水）１６：００～１６：２０
開催場所：大会議室
出席者　：校長【議長】，教務主事，研究主事，学生主事，寮務主事，[redacted]専攻科長，
[redacted]点検評価・フォローアップ委員長，電気情報工学科長
事務部長，総務課長，学生課長
陪　席　：（評価者）[redacted]
[redacted]務担当）（記　録）総務・企画係長

議　題

Ⅰ　平成３０年度会議・委員会等の活動報告書の点検評価について

会議・委員会等の活動報告に対する評価者による評価・改善案について審議が行われ、以下の訂正を加味することで、別紙のとおり、承認されることとなった。
・教務会議　　高専機構へ問題提起するため、このままの内容、評価とする。
・広報委員会　H29 年度の指摘事項に対し、H30 年度に実施した対応を追記し、再度評価をする。
・学生相談室会議　カウンセラーに対する改善事項を追記　評価 Ｃ → Ａ

Ⅱ　点検評価・フォローアップ委員会関係

加藤委員長より２件の審議事項の説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。
1．平成３０年度計画の達成状況の点検評価案
2．自己点検・評価の年度別計画表

加藤委員長より中期計画WG関係、自己点検・評価実施WG関係、本校独自の「自己点検・評価規程」に基づく点検・評価の実施、学習評価フォローアップWG関係について報告があった。

Ⅲ　ＦＤ活動推進会議平成３０年度活動報告

教務主事より資料に基づき報告があった。

Ⅳ　平成２６年度ＪＡＢＥＥ審査Ｃ判定項目の改善方策案について

専攻科長より資料に基づき前回指摘事項についての再確認報告があった。
次回、審査を受審する場合は、平成３２年度であるとのことであった。

Ⅴ　その他

学習・教育目標達成度評価方法　　資料1-1-4-(2)-01

平成 26 年 6 月 19 日

学習・教育目標達成度評価方法改正

主管会議・運営会議承認

１．改正についての考慮事項

機関別認証評価の指摘事項を配慮し，教育目標達成度評価について下記の３点を改正する。

① 在学中の学生が，自己の教育目標達成度を認識できる方法とする。
② 学生が自身の達成度のみならず，教育目標を再認識する機会とする。
③ 教育目標達成度評価表には教育課程の系統図を載せ，学生が教育課程と各科目の連携を再認識する機会とする。

２．改正の方針

2.1　教育目標達成度評価表（以下，評価表）の概要

① 学科別でかつ入学年度別の評価表を設け，これに各学生が記載する。
② 評価表の書式には科目系統図も載せる。
③ 留年学生には修正版を設けて適用する。教育課程を乗り換えたり，読み替えていたりする学生には，その点を再認識させる記載欄を設ける。
④ 年度終了ごとに各学生が自ら評価する。（４学年以下の評価は翌年度４月，５学年の評価は卒業式の日に実施。）

2.2　教育目標達成度評価表の構成等

① Excel による表計算機能を利用する。
② 教育目標ごとに割当てる科目数は学科の裁量の範囲とするが，現行の評価方法に用いられている科目に必要最小限の科目を加える程度とする。（開講全科目を網羅するわけではなく，その意味ではマイナーチェンジである）
③ 評価表における一般科目の割り当てについては，５つの専門学科で統一する。
④ 教育目標ごとに教科目を割当て，科目ごとに 10 段階評価を記載する。
⑤ 教育目標の分類別に５年間で（評価 6 を基準として）100%となるように，科目数による案分方式を採用する。この際，評価 7 以上の科目や 5 以下の科目の個別の評価が相互に作用して，全体への寄与を相殺することを可とする。なお，単位数の重み付けは行わない。

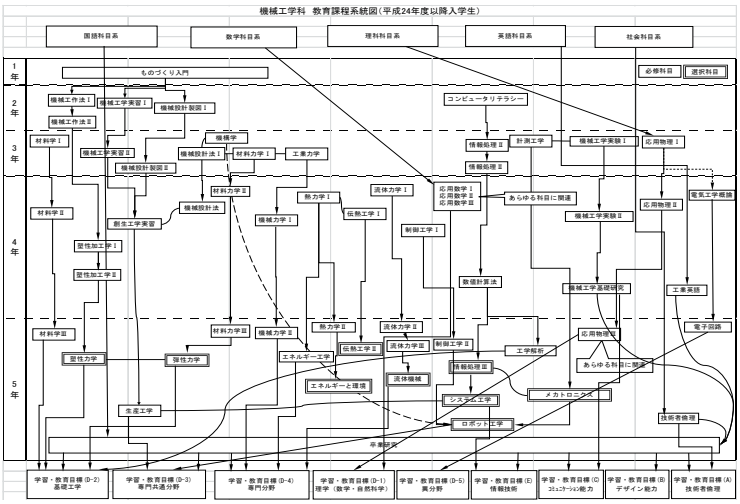
３．運用

① 学生が特活の時間等に各自の達成度を評価する際には，必要な成績一覧を準備する。（保護者への成績通知の再出力）あるいは，タイミングが合えば，保護者への通知版そのものを利用する。
② 学生が入力する際には，パソコンのある教室で入力する。各自当該の Excel ファイルを USB メモリに保存する一方で，電子ファイルとプリントアウト版の両方を提出し，学級担任の支援により教務会議でとりまとめる。なお，学生への電子ファイルの配布，及び回収方法は各学科の裁量に依る。適用は平成 26 年度の第 1 学年～第 4 学年の成績からとして，平成 27 年の 4 月に平成 26 年度（以前）の成績について達成度を自己評価させる。必要な前年度分についての成績情報は，教務係で予め準備する。（10 段階評価の成績証明書を出力・予め Adobe Acrobat により他の目的に流用しないよう文言を追加）
③ 平成 27 年度の特別活動指導計画書に，学生が評価表の記載の機会を盛り込む。

学習・教育目標達成度評価

機械工学科平成25年度入学生	学籍番号		氏名	

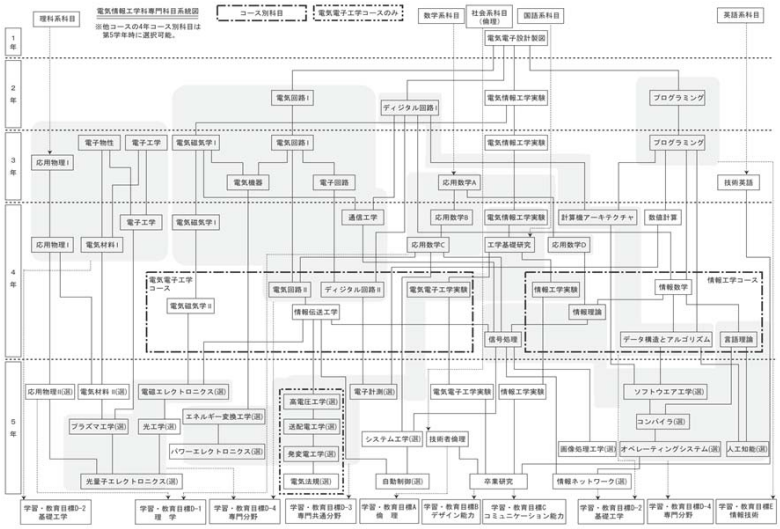
分類	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年	
	教科目	10段階評価	教科目	10段階評価	教科目	10段階評価	教科目	10段階評価	教科目	10段階評価
A-1 社会倫理	国語A	6	総合国語	6	総合国語	6	総合国語	6	英語A	6
	国語B	6	歴史	6	政治経済	6	法学	6		
	地理	6	倫理	6	英語A	6	英語A	6		
	歴史	6	英語A	6	英語C	6				
	歴史	6	英語B	6						
	英語A	6	英語C	6						
	英語B	6								
	英語C	6								
	達成度	36%		64%		82%		95%		100%
A-2 技術者倫理									卒業研究	合
									技術者倫理	6
	達成度									100%
A-3 芸術・保健体育	美術	6	保健	6	体育	6	体育	6		
	音楽	6	体育	6						
	保健	6								
	体育	6								
	達成度	50%		75%		88%		100%		100%
B-1 計画									卒業研究	合
	達成度									100%
B-2 実践									卒業研究	合
	達成度									100%
C-1 日本語	国語A	6	総合国語	6	総合国語	6	総合国語	6		
	達成度	25%		50%		75%		100%		100%
C-2 外国語	英語A	6	英語A	6	英語A	6	英語A	6	英語A	6
	英語B	6	英語B	6	英語C	6	ドイツ語	6	ドイツ語	6
	英語C	6	英語C	6	TOEIC	300	工業英語	6		
	達成度	21%		43%		64%		86%		100%
D-1 理学	数学AⅠ	6	数学AⅠ	6	数学AⅠ	6	応用数学Ⅰ	6		
	数学AⅡ	6	数学AⅡ	6	数学AⅡ	6	応用数学Ⅱ	6		
	数学B	6	数学B	6	応用物理Ⅰ	6	応用数学Ⅲ	6		
	物理A	6	物理BⅠ	6			応用物理Ⅱ	6		
	化学AⅠ	6	物理BⅡ	6						
	化学AⅡ	6	化学B	6						
	達成度	32%		63%		79%		100%		100%
D-2 基礎工学	ものづくり入門	6	機械設計製図Ⅰ	6	工業力学	6	機械力学Ⅰ	6	材料学Ⅲ	6
			機械工学実習Ⅰ	6	機構学	6	材料力学Ⅱ	6	工学解析	6
					材料力学Ⅰ	6	材料学Ⅱ	6		
					材料学Ⅰ	6	機械設計法Ⅱ	6		
					機械設計法Ⅰ	6	数値計算法	6		
					機械設計製図Ⅱ	6	機械工学実験Ⅱ	6		
					機械工学実験Ⅰ	6				
					機械工学実習Ⅱ	6				
	達成度	5%		16%		58%		89%		100%
D-3 工学共通			機械工作法Ⅰ	6	計測工学	6	伝熱工学Ⅰ	6	制御工学Ⅱ	6
			機械工作法Ⅱ	6	機械工学実験Ⅰ	6	塑性加工学Ⅰ	6	生産工学	6
							塑性加工学Ⅱ	6		
							制御工学Ⅰ	6		
							機械工学実験Ⅱ	6		
							創生工学実習	6		
	達成度			17%		33%		83%		100%
D-4 専門							材料力学Ⅱ	6	材料力学Ⅲ	6
							流体力学Ⅰ	6	流体力学Ⅱ	6
							熱力学Ⅰ	6	流体力学Ⅲ	6
							伝熱工学Ⅰ	6	機械力学Ⅱ	6
							機械工学基礎研究	6	熱力学Ⅱ	6
									エネルギー工学	6
	達成度							45%		100%
D-5 異分野							電気工学概論	6	電子回路	6
	達成度							50%		100%
E 情報技術			コンピュータリテラシー	6	情報処理Ⅰ	6	機械設計法Ⅱ	6	工学解析	6
					情報処理Ⅱ	6	数値計算法	6		
							機械工学実験Ⅱ	6		
							創生工学実習	6		
							機械工学基礎研究	6		
	達成度			11%		33%		89%		100%
学年累積達成度	第1学年達成度	28%	第2学年達成度	42%	第3学年達成度	64%	第4学年達成度	84%	卒業時達成度	100%



学習・教育目標達成度評価

電気情報工学科電気電子工学コース平成25年度入学生	学籍番号		氏名		※: 選択科目

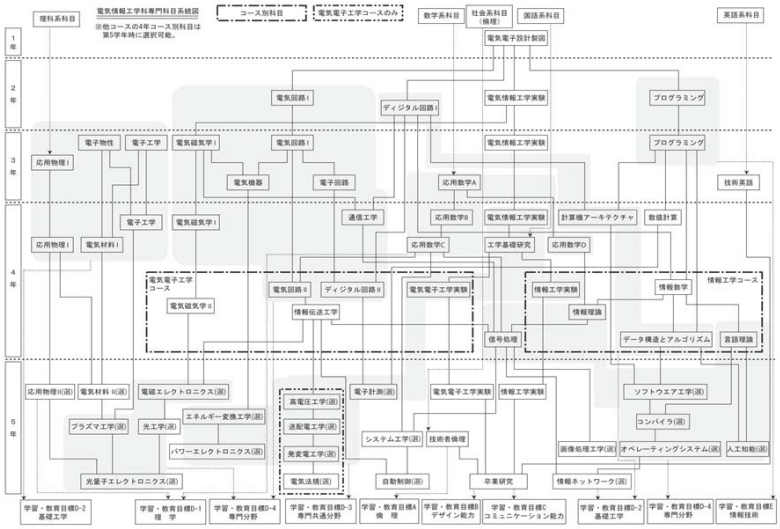
分類	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年	
	教科目	10段階評価	教科目	10段階評価	教科目	10段階評価	教科目	10段階評価	教科目	10段階評価
A-1 社会倫理	国語A		総合国語		総合国語		総合国語		英語A	
	国語B		歴史		政治経済		法学			
	地理		倫理		英語A		英語A			
	歴史		英語A		英語C					
	英語A		英語B							
	英語B		英語C							
	英語C									
	達成度	0%		0%		0%		0%		0%
A-2 技術者倫理									技術者倫理	
	達成度	0%		0%		0%		0%		0%
A-3 芸術・保健体育	美術		保健		体育		体育			
	音楽		体育							
	保健									
	体育									
	達成度	0%		0%		0%		0%		0%
B-1 計画							工学基礎研究		電気電子工学実験(E)	
									卒業研究	
	達成度	0%		0%		0%		0%		0%
B-2 実践							工学基礎研究		電気電子工学実験(E)	
									卒業研究	
	達成度	0%		0%		0%		0%		0%
C-1 日本語	国語A		総合国語		総合国語		総合国語			
	達成度	0%		0.0%		0%		0%		0%
C-2 外国語	英語A		英語A		英語A		英語A		英語A	
	英語B		英語B		英語C		ドイツ語		ドイツ語	
	英語C		英語C		TOEIC					
					技術英語					
	達成度	0%		0%		0%		0%		0%
D-1 理学	数学AⅠ		数学AⅠ		数学AⅠ		応用数学B		応用物理Ⅱ※	
	数学AⅡ		数学AⅡ		数学AⅡ		応用数学C			
	数学B		数学B		応用数学A		応用数学D			
	物理A		物理BⅠ				数値計算			
	化学AⅠ		物理BⅡ							
	化学AⅡ		化学B							
	達成度	0%		0%		0%		0%		0%
D-2 基礎工学			ディジタル回路Ⅰ		応用物理Ⅰ		応用物理Ⅰ		情報ネットワーク※	
					電子工学		計算機アーキテクチャ			
					電子物性		電気材料Ⅰ			
							電子工学			
							情報伝送工学(E)			
	達成度	0%		0%		0%		0%		0%
D-3 工学共通					電気情報工学実験		電気情報工学実験		電気材料Ⅱ※	
							工学基礎研究		エネルギー変換工学※	
							電気電子工学実験(E)			
	達成度	0%		0%		0%		0%		0%
D-4 専門（１）主要	電気電子設計製図		電気回路Ⅰ		電気回路Ⅰ		電気磁気学Ⅰ			
			電気情報工学実験		電気磁気学Ⅰ		通信工学			
					電子回路		信号処理			
					電気機器					
	達成度	0%		0%		0%		0%		0%
D-4 専門（２）電気電子							ディジタル回路Ⅱ(E)			
							電気回路Ⅱ(E)			
	達成度	0%		0%		0%		0%		0%
D-4 専門（３）情報										
	達成度	0%		0%		0%		0%		0%
D-5 異分野										
	達成度	0%		0%		0%		0%		0%
E　情報技術			プログラミング		プログラミング				電気電子工学実験(E)	
									画像処理工学※	
	達成度	0%		0%		0%		0%		0%
学年累積達成度	第1学年達成度	0%	第2学年達成度	0%	第3学年達成度	0%	第4学年達成度	0%	卒業時達成度	0%



学習・教育目標達成度評価

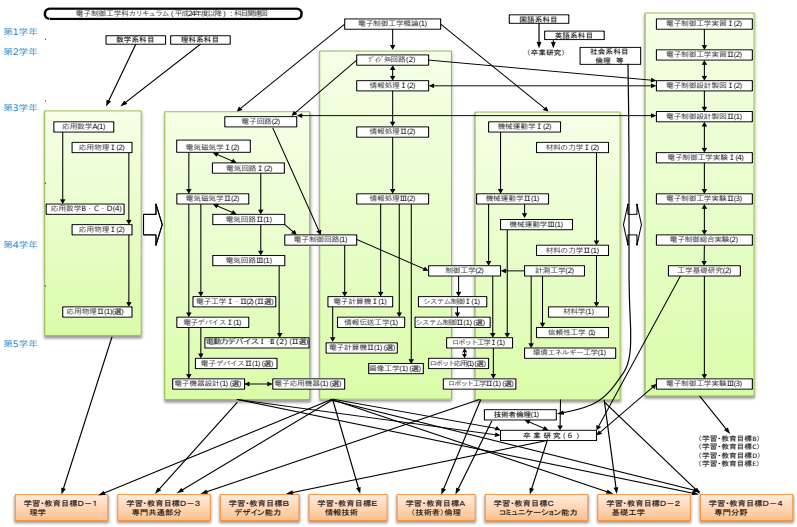
電気情報工学科情報工学コース平成25年度入学生	学籍番号	0	氏名	0	※: 選択科目

分類	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年	
	教科目	10段階評価	教科目	10段階評価	教科目	10段階評価	教科目	10段階評価	教科目	10段階評価
A-1 社会倫理	国語A	0	総合国語	0	総合国語	0	総合国語		英語A	
	国語B	0	歴史	0	政治経済	0	法学			
	地理	0	倫理	0	英語A	0	英語A			
	歴史	0	英語A	0	英語C	0				
	英語A	0	英語B	0						
	英語B	0	英語C	0						
	英語C	0								
	達成度	0%		0%		0%		0%		0%
A-2 技術者倫理									技術者倫理	
	達成度	0%		0%		0%		0%		0%
A-3 芸術・保健体育	美術	0	保健	0	体育	0	体育			
	音楽	0	体育	0						
	保健	0								
	体育	0								
	達成度	0%		0%		0%		0%		0%
B-1 計画							工学基礎研究		情報工学実験(J)	
									卒業研究	
	達成度	0%		0%		0%		0%		0%
B-2 実践							工学基礎研究		情報工学実験(J)	
									卒業研究	
	達成度	0%		0%		0%		0%		0%
C-1 日本語	国語A	0	総合国語	0	総合国語	0	総合国語			
	達成度	0%		0.0%		0%		0%		0%
C-2 外国語	英語A	0	英語A	0	英語A	0	英語A		英語A	
	英語B	0	英語B	0	英語C	0	ドイツ語		ドイツ語	
	英語C	0	英語C	0	TOEIC	0				
					技術英語	0				
	達成度	0%		0%		0%		0%		0%
D-1 理学	数学AⅠ	0	数学AⅠ	0	数学AⅠ	0	応用数学B		応用物理Ⅱ※	
	数学AⅡ	0	数学AⅡ	0	数学AⅡ	0	応用数学C			
	数学B	0	数学B	0	応用数学A	0	応用数学D			
	物理A	0	物理BⅠ	0			数値計算			
	化学AⅠ	0	物理BⅡ	0						
	化学AⅡ	0	化学B	0						
	達成度	0%		0%		0%		0%		0%
D-2 基礎工学			ディジタル回路Ⅰ	0	応用物理Ⅰ	0	応用物理Ⅰ		情報ネットワーク※	
					電子工学	0	計算機アーキテクチャ			
					電子物性	0	電気材料Ⅰ			
							電子工学			
							データ構造とアルゴリズム(J)			
	達成度	0%		0%		0%		0%		0%
D-3 工学共通					電気情報工学実験	0	電気情報工学実験		電気材料Ⅱ※	
							工学基礎研究		エネルギー変換工学※	
							情報工学実験(J)			
	達成度	0%		0%		0%		0%		0%
D-4 専門（1）主要	電気電子設計製図	0	電気回路Ⅰ	0	電気回路Ⅰ	0	電気磁気学Ⅰ			
			電気情報工学実験	0	電気磁気学Ⅰ	0	通信工学			
					電子回路	0	信号処理			
					電気機器	0				
	達成度	0%		0%		0%		0%		0%
D-4 専門（2）電気電子										
	達成度	0%		0%		0%		0%		0%
D-4 専門（3）情報							情報理論(J)			
							言語理論(J)			
	達成度	0%		0%		0%		0%		0%
D-5 異分野										
	達成度	0%		0%		0%		0%		0%
E 情報技術			プログラミング	0	プログラミング	0			情報工学実験(J)	
									画像処理工学※	
	達成度	0%		0%		0%		0%		0%
学年累積達成度	第1学年達成度	0%	第2学年達成度	0%	第3学年達成度	0%	第4学年達成度	0%	卒業時達成度	0%



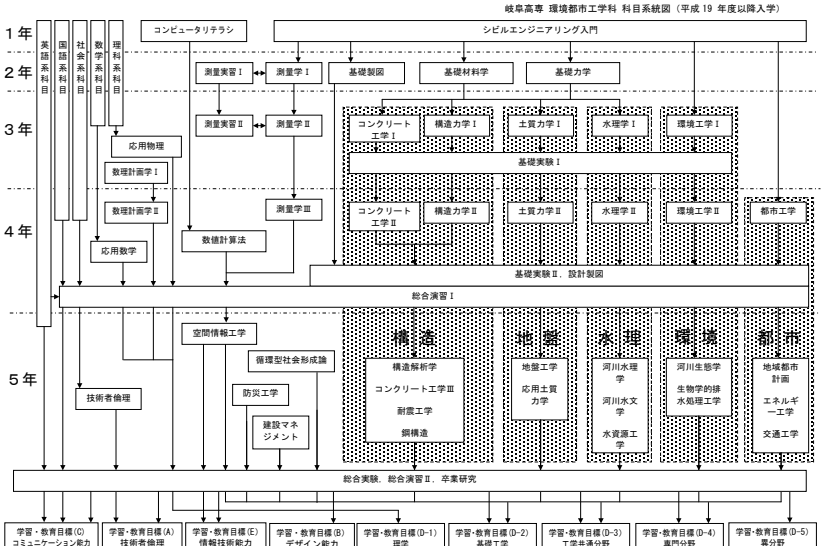
学習・教育目標達成度評価

電子制御工学科平成25年度入学生		学籍番号		氏名					
分類	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年	
	教科目	10段階評価	教科目	10段階評価	教科目	10段階評価	教科目	10段階評価	教科目	10段階評価
A-1 社会倫理	国語A		総合国語		総合国語		総合国語		英語A	
	国語B		歴史		政治経済		法学			
	地理		倫理		英語A		英語A			
	歴史		英語A		英語C					
	英語A		英語B							
	英語B		英語C							
	英語C									
	達成度	0%		0%		0%		0%		0%
A-2 技術者倫理									技術者倫理	
	達成度									0%
A-3 芸術・保健体育	美術		保健		体育		体育			
	音楽		体育							
	保健									
	体育									
	達成度	0%		0%		0%		0%		
B-1 計画					電子制御工学実験Ⅰ		電子制御工学実験Ⅱ		電子制御工学実験Ⅲ	
	達成度					0%		0%		0%
B-2 実践	電子制御工学実習Ⅰ		電子制御工学実習Ⅱ						卒業研究	
	達成度	0%		0%		0%		0%		0%
C-1 日本語	国語A		総合国語		総合国語		総合国語			
	達成度	0%		0.0%		0%		0%		0%
C-2 外国語	英語A		英語A		英語A		英語A		英語A	
	英語B		英語B		英語C		ドイツ語		ドイツ語	
	英語C		英語C		TOEIC					
	達成度	0%		0%		0%		0%		0%
D-1 理学	数学AⅠ		数学AⅠ		数学AⅠ		応用物理Ⅰ		応用物理Ⅱ※	
	数学AⅡ		数学AⅡ		数学AⅡ		応用数学B			
	数学B		数学B		応用数学A		応用数学C			
	物理A		物理BⅠ		応用物理Ⅰ		応用数学D			
	化学AⅠ		物理BⅡ							
	化学AⅡ		化学B							
	達成度	0%		0%		0%		0%		0%
D-2 基礎工学			電子制御設計製図Ⅰ		機械運動学Ⅰ		機械運動学Ⅱ		システム制御	
					材料の力学Ⅰ		材料の力学Ⅱ		情報伝送工学	
					電子制御設計製図Ⅱ		機械要素設計		材料学	
									電子機器設計※	
									信頼性工学※	
	達成度			0%		0%		0%		0%
D-3 工学共通							計測工学		電動力デバイス	
							制御工学		環境エネルギー工学	
							電子制御総合実験			
							工学基礎研究			
	達成度							0%		0%
D-4 専門	電子制御工学概論		ディジタル回路		電気磁気学Ⅰ		電気磁気学Ⅱ		電子工学	
					電気回路Ⅰ		電気回路Ⅱ		電子デバイス	
					電子回路		電気回路Ⅲ		ロボット工学	
							電子制御回路		電子応用機器※	
									ロボット応用※	
									画像工学※	
	達成度	0%		0%		0%		0%		0%
D-5 異分野										
	達成度									
E 情報技術			情報処理Ⅰ		情報処理Ⅱ		情報処理Ⅲ		電子計算機	
	達成度			0%		0%		0%		0%
学年累積達成度	第1学年達成度	0%	第2学年達成度	0%	第3学年達成度	0%	第4学年達成度	0%	卒業時達成度	0%



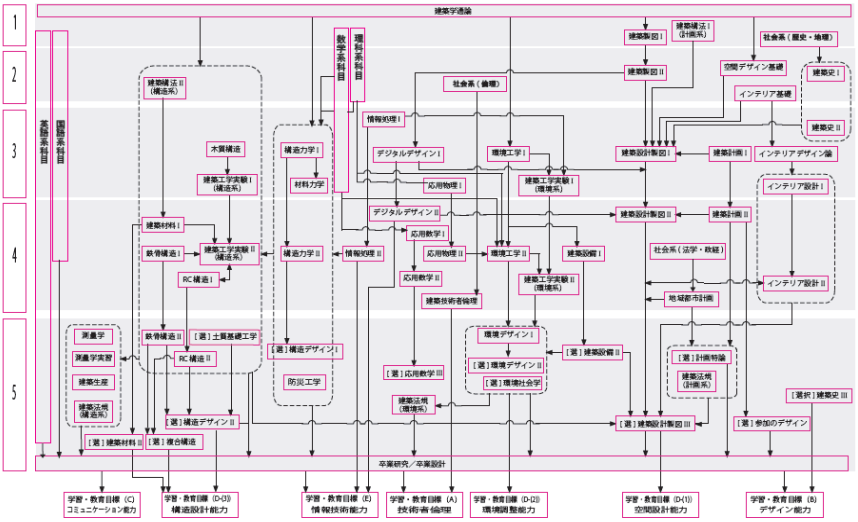
学習・教育目標達成度評価

環境都市工学科平成25年度入学生		学籍番号		氏名					
分類	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年	
	教科目	10段階評価	教科目	10段階評価	教科目	10段階評価	教科目	10段階評価	教科目	10段階評価
A-1 社会倫理	国語A	6	総合国語	6	総合国語	6	総合国語	6	英語A	6
	国語B	6	歴史	6	政治経済	6	法学	6		
	地理	6	倫理	6	英語A	6	英語A	6		
	歴史	6	英語A	6	英語C	6				
	英語A	6	英語B	6						
	英語B	6	英語C	6						
	英語C	6								
	達成度	33.3		61.9		81.0		95.2		100.0
A-2 技術者倫理									技術者倫理	6
	達成度	0.0		0.0		0.0		0.0		100.0
A-3 芸術・保健体育	美術	6	保健	6	体育	6	体育	6		
	音楽	6	体育	6						
	保健	6								
	体育	6								
	達成度	50.0		75.0		87.5		100.0		100.0
B-1 計画									卒業研究（問題点と課題を理解する能力）	6
	達成度	0.0		0.0		0.0		0.0		100.0
B-2 実践									卒業研究（総合的な論文作成能力）	6
	達成度	0.0		0.0		0.0		0.0		100.0
C-1 日本語	国語A	6	総合国語	6	総合国語	6	総合国語	6		
	達成度	25.0		50.0		75.0		100.0		100.0
C-2 外国語	英語A	6	英語A	6	英語A	6	英語A	6	英語A	6
	英語B	6	英語B	6	英語C	6	ドイツ語	6	ドイツ語	6
	英語C	6	英語C	6	TOEIC	6				
	達成度	23.1		46.2		69.2		84.6		100.0
D-1 理学	数学AⅠ	6	数学AⅠ	6	数学AⅠ	6	応用数学	6		
	数学AⅡ	6	数学AⅡ	6	数学AⅡ	6	数値計算法	6		
	数学B	6	数学B	6	応用物理	6	数理計画学Ⅱ	6		
	物理A	6	物理BⅠ	6						
	化学AⅠ	6	物理BⅡ	6						
	化学AⅡ	6	化学B	6						
	達成度	33.3		66.7		83.3		100.0		100.0
D-2 基礎工学			基礎力学	6	構造力学Ⅰ	6	基礎実験Ⅱ	6	空間情報工学	6
			基礎材料学	6	水理学Ⅰ	6	設計製図	6	建設マネジメント	6
					土質力学Ⅰ	6	コンクリート工学Ⅱ	6		
					環境工学Ⅰ	6	都市工学	6		
	達成度	0.0		16.7		50.0		83.3		100.0
D-3 工学共通			測量学Ⅰ	6	測量学Ⅱ	6	測量学Ⅲ	6	防災工学	6
									総合実験	6
									循環型社会形成論	6
									エネルギー工学*	6
	達成度	0.0		14.3		28.6		42.9		100.0
D-4 専門							構造力学Ⅱ	6		
							水理学Ⅱ	6		
							土質力学Ⅱ	6		
							環境工学Ⅱ	6		
	達成度	0.0		0.0		0.0		100.0		100.0
D-5 異分野									卒業研究（異なった研究領域、分野を理解）	6
	達成度	0.0		0.0		0.0		0.0		100.0
E 情報技術	コンピュータリテラシ	6					数値計算法	6	総合演習Ⅱ	6
							設計製図	6		
							総合演習Ⅰ	6		
	達成度	20.0		20.0		20.0		80.0		100.0
学年累積達成度	第1学年達成度	22.9	第2学年達成度	44.8	第3学年達成度	62.5	第4学年達成度	85.4	卒業時達成度	100.0



学習・教育目標達成度評価

建築学科平成25年度入学生		学籍番号		氏名						
分類	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		
	教科目	10段階評価	教科目	10段階評価	教科目	10段階評価	教科目	10段階評価	教科目	10段階評価	科目数
A-1 社会倫理	国語A	6	総合国語	6	総合国語	6	総合国語	6	英語A	6	
	国語B	6	歴史	6	政治経済	6	法学	6			
	地理	6	倫理	6	英語A	6	英語A	6			
	歴史	6	英語A	6	英語C	6					
	英語A	6	英語B	6							
	英語B	6	英語C	6							
	英語C	6									
	達成度	33		62		81		95		100	21
A-2 技術者倫理							建築技術者倫理	6			
	達成度							100		100	1
A-3 芸術・保健体育	美術	6	保健	6	体育	6	体育	6			
	音楽	6	体育	6							
	保健	6									
	体育	6									
	達成度	50		75		87.5		100		100	8
B-1 計画									卒業研究（計画性と計画遂行能	合	
	達成度									100	1
B-2 実践									卒業研究（解析能力と論文作成能	合	
	達成度									100	1
C-1 日本語	国語A	6	総合国語	6	総合国語	6	総合国語	6			
	達成度	25		50		75		100		100	4
C-2 外国語	英語A	6	英語A	6	英語A	6	英語A	6	英語A	6	
	英語B	6	英語B	6	英語C	6	ドイツ語	6	ドイツ語	6	
	英語C	6	英語C	6	TOEIC	6					
	達成度	23		46		69		85		100	13
D-1 理学	数学A I	6	数学A I	6	数学A I	6	応用数学 II	6			
	数学A II	6	数学A II	6	数学A II	6	応用物理 II	6			
	数学B	6	数学B	6	応用物理 I	6					
	物理A	6	物理B I	6							
	化学A I	6	物理B II	6							
	化学A II	6	化学B	6							
	達成度	35		71		88		100		100	17
D-2 基礎工学	建築製図 I	6	建築製図 II	6	建築史 II	6	建築材料 I	6	建築生産	6	
	建築学通論	6	建築史 I	6	材料力学	6	地域都市計画	6	建築法規	6	
	建築構法 I	6	建築構法 II	6	インテリアデザイン論	6	鉄骨構造 I	6	環境デザイン I	6	
			インテリアデザイン基礎	6			RC構造 I	6	鉄骨構造 II	6	
			空間デザイン基礎	6					RC構造 II	6	
	達成度	15		40		55		75		100	20
D-3 工学共通					建築工学実験 I	6	建築設備 I	6	測量学	6	
							建築工学実験 II	6	防災工学	6	
									環境社会学	6	
	達成度					17		50		100	6
D-4 専門					建築計画 I	6	建築計画 II	6			
					環境工学 I	6	環境工学 II	6			
					構造力学 I	6	構造力学 II	6			
					建築設計製図 I	6	建築設計製図 II	6			
					インテリア設計 I	6	インテリア設計 II	6			
	達成度					50		100		100	10
D-5 異分野											
	達成度										
E 情報技術					情報処理 I	6	情報処理 II	6			
					デジタルデザイン I	6	デジタルデザイン II	6			
	達成度					50		100		100	4
学年累積達成度	第1学年達成度	23	第2学年達成度	44	第3学年達成度	66	第4学年達成度	88	卒業時達成度	100	106



平成２５年度入学者用　更新日　2013 年９月３０日

出典　平成29年度 第01回 教務会議資料

平成 29 年度　第 01 回　教務会議議事録

日時：平成 29 年 4 月 7 日（金）　15 時-16 時 25 分	開催場所：教務主事室

出席者：[redacted]学生課長[redacted]学生課長補佐,
欠席者：[redacted]務係長

（審議事項・確認事項）

① 平成 29 年度教務委員業務分担表（主事）
再確認された。事務部としては、入試：渡邊課長補佐、[redacted]さん、教務：[redacted]係長、[redacted]さん、[redacted]さん、[redacted]んにご担当いただくことになった。

② 原級留置残留者に対する教育課程の変更等（主事）　第 1 回主管会議で審議済み
関連する添付資料のうち、2 年生（[redacted]）の適用表：H29→H28 に修正を依頼した。

③ 平成 29 年度年間行事予定表　1/11（木）
「1～4 年：補講・補習，5 年月曜授業，学習到達度試験（3 年：物理，数学，午後~~平常授業~~＞補講・補習）」

④ 平成 29 年度前期授業時間割（[redacted]）　変更が収束したと判断、今後、微修正が生じた際は適宜判断し、対処する。

⑤ 平成 29 年度 FD 活動実施要項（案）（主事）
AP 会議からの指摘により後期も一週間の授業参観週間を実施予定、12/6（水）～12（火）。第 3 ブロックの他高専の教員が AL 研修の一環として、参観する可能性がある。また、第 1 回 FD 講演会の講師を人文・[redacted]先生に依頼することが了承された。

⑥ 平成 28 年度 学習・教育目標達成度評価（専門 5 学科、2-5 年生）4/5 にメールで依頼、提出締切り　7/21（金）
~~平成 29 年度以降入学生用教育課程表に対応した評価表、科目系統図の作成が必要であり、学科判断で作成いただくよう依頼した。~~ 分類および構成科目について JABEE との整合を考慮する必要はない。　提出締切り　7/21（金）

⑦ オープンキャンパス 2017 のリーフレット（[redacted]）　承認された。

⑧ オープンキャンパス 2017 申込みフォーマット（[redacted]）　昼食の項目は削除のうえ、承認された。昼食の無料サービスを実施するが、教職員の利用はご遠慮いただくこととした。
昼食：参加者@300 円（使い捨て容器）、補助学生@260 円（メラミン食器）

⑨ 中学校訪問用ポスター（小川）　追加・修正箇所があれば、連絡を依頼した。締切り 4/12（水）

⑩ 中学校訪問用在学生アンケート　「岐阜高専に関するアンケート（平成 29 年度）」について　承認された。

（報告事項）

① 平成 28 年度第 37 回議事録を掲示板にアップロード

② 研究生　H28 年度卒　大前星成　指導教員：A 科　[redacted]先生（H29. 4. 1～H30. 3. 31）

③ 学校案内 2017 の 3 校校正　締切り 4/6（木）

④ 平成 29 年度特別活動指導計画　教務掲示板にアップロード

⑤ オフィスアワー平成 29 年度前期設置　締切り 4/6（木）　まとまり次第、教務掲示板にアップロード予定。

⑥ 平成 29 年度前期持ち時間一覧表
総務・企画係より研修、兼業が追記された資料が戻った後、再度の確認をお願いする予定であるが、日程は未定。

⑦ 平成 29 年度非常勤講師サポート教員　締切り 4/6（木）　まとまり次第、教務掲示板にアップロード予定。

⑧ 「大学編入学・専攻科進学説明会」4/6 実施　参加者
M科　17 人、E 科　27 人、D 科　21 人、C 科　13 人、A 科　15 人　計　93 人

⑨ 学級懇談会報告書の提出を 5 年担任に依頼　締切り 4/12（水）　まとまり次第、教務掲示板にアップロード予定。

⑩ 第 1 学年校内研修　4/10（月）

⑪ 低学年の特活における専門学科教員による講演　協力いただくよう、お願いした。

⑫ 平成 29 年度第 4 学年研修旅行取扱い旅行会社　[redacted]サービス（株）岐阜支店
旅行積立金の廃止に伴う措置に関する現状について説明いただいたが、詳細については未定の部分もある。

⑬ すぐメール　現在登録されている学生の「データ」は削除、学生の「区分 ID」も変更　4/3 に変更作業完了
学級担任会議で学生への周知を依頼予定、教務掲示板にはアップロード済み（登録マニュアル教職員用・学生用）

⑭ 本巣市バナー広告掲載決定通知（H29. 4-H30. 3、32, 400 円）

⑮ タイ（チュラポーン王女科学中等学校）からの留学生受入れに関する視察
計画通りなら H30 年度から受け入れ開始となり、グローバル拠点校として協力を要請される可能性が高い。

⑯ 広報活動スケジュール総括
5/25（木）[redacted]中：主事

教務会議予定　第 2 回　4 月 14 日（金）　15 時-　　※当日、16：20-第 1 回点検評価 FU 委員会

学習・教育目標達成度評価シートを運用していることがわかる議事録02

資料1-1-4-(2)-03

平成 30 年度　第 01 回　教務会議議事録

日時：平成 30 年 4 月 6 日（金）　13 時 30 分-15 時 30 分	開催場所：教務主事室

出席者：熊[redacted]学生課長，渡邊学生課長補佐，[redacted]教務係長
欠席者：

（審議事項・確認事項）

① 教務会議規程
② 平成 30 年度教務委員業務分担表（主事）　確認を依頼した。
③ 平成 29 年度広報活動の総括（[redacted]）　総括資料をもとに説明された。
④ 平成 30 年度広報活動（[redacted]）
・JR 駅構内ポスター掲示　提案通り、承認された。中学校訪問用ポスターの下部に携帯電話の利用マナーを追記し、共通のポスターとして使用する（駅構内掲示用は B1 に拡大）。
・進路説明会等案内文の送付先変更　提案通り、承認された。
・出前授業課題調査の予定　送付依頼はしないこととし、他の方法での実施を検討する。
⑤ 原級留置学生、仮進級者への対応　追認試験の回数および実施時期など
年度当初に単位修得者一覧（仮進級者および該当科目、担当教員が記載）、第 1 回目追認報告後の 10 月に追認状況（単位修得者一覧に評価「6」が記載）の印刷物を学級担任に配布して、指導を依頼する。また、同様の情報を教務委員も共有し、必要に応じて担当教員への状況確認等を行っていただく。早い時期に、追認試験への対応をいただくことについて、学科会議での周知をお願いした。
⑥ 実験・実習能力および分野別横断能力に関する合同シンポジウム（小栗、角野）
概要に関して説明があり、実験・実習能力評価に関してはルーブリックの作成など平成 30 年度の 1 年生から徐々に導入を図る必要がある。
⑦ 平成 30 年度 FD 活動実施要項（案）（主事、出口、小栗）
年 2 回の FD 講演会、授業参観週間の概要について提案し、承認された。
⑧ 平成 30 年度年間行事予定表（福永）　1/31　公開講座実施計画書年度の修正　平成 30 年度→平成 31 年度
⑨ 平成 30 年度前期授業時間割（岡崎）　1～4 年前期中間試験申請締切り　4/24（火）
⑩ 平成 29 年度 学習・教育目標達成度評価（専門 5 学科、2-5 年生）　メールで依頼予定、提出締切り　7/27（金）
⑪ オープンキャンパス 2018 実施要項（案）（[redacted]）
スケジュールの確認（12/1 に確定済み？），各学科等催物（内容，利用場所）の確定、提出　締切り　4/19（木）
内容が確定次第、本校 HP 等での案内を開始する。
⑫ オープンキャンパス 2018 のリーフレット（[redacted]　締切り　4/12（水）
従来版に掲載されている岐阜高専の概要（岐阜高専とは+就職および進学の状況など）、高専フォーラム（8/20）に実施する出前授業についても掲載する。また、入試説明・学科紹介 in 高専祭の掲載箇所を再検討する。
⑬ オープンキャンパス 2018 申込みフォーマット（[redacted]）　承認された。
⑭ 中学校訪問用ポスター（小川）　締切り　4/12（水）　確認依頼があり、何かあれば連絡する。
⑮ 中学校訪問用在学生アンケート　「岐阜高専に関するアンケート（平成 30 年度）」について　承認された。

（報告事項）

① 平成 29 年度第 36 回議事録を掲示板にアップロード
② 出前授業（高専フォーラム初日 8/20、名古屋大学）　公開講座？　出前講座？→出前授業のままとする。
③ 原級留置残留者に対する教育課程の変更等（主事）　第 1 回主管会議で審議済み
④ 学校案内 2018 の校正　締切り　4/9（月）
⑤ 平成 30 年度特別活動指導計画　教務掲示板にアップロード済み
⑥ オフィスアワー平成 30 年度前期設置　締切り　4/6（金）　教務掲示板にアップロード済み
⑦ 平成 30 年度前期持ち時間一覧表
総務・企画係より研修、兼業が追記された資料が戻った後、再度の確認をお願いする予定
⑧ 平成 30 年度非常勤講師サポート教員
⑨ 「大学編入学・専攻科進学説明会」4/6　16：00-
⑩ 学級懇談会報告書の提出を 5 年担任に依頼　締切り　4/11（水）
⑪ 第 1 学年校内研修　4/9（月）
⑫ 低学年の特活における専門学科教員、学生による講演
⑬ 平成 30 年度第 4 学年研修旅行取扱い旅行会社　名鉄観光サービス（株）岐阜支店
⑭ すぐメール　現在登録されている学生の「データ」は削除、学生の「区分 ID」も変更　4/3 に変更作業完了
学級担任会議で学生への周知を依頼予定、教務掲示板にはアップロード済み（登録マニュアル教職員用・学生用）
⑮ 広報活動スケジュール総括
5/17（木）　一宮市立南部中：主事
⑯ その他
モンゴル政府派遣留学生（平成 30 年 4 月編入学）の動向は未定

教務会議予定　第 2 回　4 月 13 日（金）　~~15 時~~　→　14 時 45 分　　※当日、16：20-第 1 回点検評価 FU 委員会

出典　平成30年度 第01回 教務会議議事録

岐阜工業高等専門学校の教育目標について

目的：岐阜工業高等専門学校は，教育基本法の精神にのっとり，及び学校教育法に基づき，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を養い，有為の人材を育成することを目的とする。

１．教育理念
（１）科学技術に夢を託し，人類愛と郷土愛に目覚めること．
（２）国際性豊かで世界に羽ばたく気概を持つこと．
（３）情報化社会の最前線で活動すること．
２．養成すべき人材像
科学技術に夢を託し，人類愛に目覚め国際性豊かで情報化社会の最前線で活躍する技術者
３．教育目標
（１）広い視野を持ち，自立心と向上心に富み，教養豊かで心身ともに健康な技術者の育成
（２）基礎学力を身に付け，創造力，応用力，実践力を備えた技術者の育成
（３）国際コミュニケーション能力と先端情報技術を駆使する能力を備えた技術者の育成
（４）工学技術についての倫理観を有した技術者の育成
（５）教育研究活動を通じて社会へ貢献できる技術者の育成

４．各学科で養成する学力及び資質・能力等の具体的な学習・教育目標

各学科の学習・教育目標の分類	学校の標語
（A）倫理	広い教養
（B）デザイン能力	ものづくり
（C）コミュニケーション能力	国際化
（D）専門知識・能力	深い専門
（E）情報技術	ＩＴ

各学科の具体的な学習・教育目標は，上記の分類に従って，学科別に示される．

５．環境システムデザイン工学教育プログラムの学習教育目標
（A）倫理を身につける．
（A－１）社会倫理
（A－２）技術者倫理

（B）デザイン能力を身につける．
（B－１）実務上の問題点や新たな課題を理解し，豊かな発想で自発的に問題を解決するための計画を立てる能力を身につける．
（B－２）基礎知識を活用し，着実に計画を継続して解析・実行し，得られた成果を論文にまとめる総合的なデザイン能力を身につける．

（C）コミュニケーション能力を身につける．
（C－１）日本語で記述，発表，討論する能力を身につける．
（C－２）国際的に通用するコミュニケーションの基礎能力を身につける．

（D）専門知識・能力を身につける．
（D－１）数学（微分積分学，線形代数，微分方程式，確率と統計，数値解析，応用数学等）および自然科学（一般物理，一般化学，生命科学，環境科学等）の基礎知識およびそれらを用いた問題解決能力を身につける．
（D－２）基礎工学（設計・システム，情報・論理，材料・バイオ，力学，社会技術）の基礎知識と能力を身につける．
（D－３）環境システムデザイン工学の専門共通分野（環境，創生，エネルギー，計測・制御，安全等）の知識と能力を身につける．
（D－４）最も得意とする専門分野の知識と能力を身につける．
（D－５）異なる技術分野を理解し，得意とする専門分野の知識と複合し，環境問題に配慮したシステムを開発する能力を身につける．

（E）情報技術を身につける．
情報機器を使いこなし，専門分野のプログラムを構築する能力を身につける．

応用物理・数学と一般科目の物理・数学の連携を示す資料

資料1-1-4-(2)-05

岐阜高専教務主事

差出人: [redacted]
日時:
宛先:

添付: 物理・応用物理__11.20 版 .docx
件名: 運営会議の宿題の提出

[redacted]校長先生
[redacted]教務主事
物理・応用物理、数学・応用数学の関係各位の皆様

[redacted]です。

11月6日の第9回運営会議の一般科と専門科の連携（非常勤講師削減案）の際に、校長先生より、「岐阜高専の物理・応用物理、数学・応用数学が、各学年で、どのような内容であるか簡潔に示す（A4で1枚程度）」との内容の宿題について、メール会議・対面会議などを経て、物理・応用物理については、添付ファイルがまとまりましたので、提出します。

数学・応用数学についても、各担当の先生方で記載の内容を確認して、11月26日（火）には、提出となります。

どうぞよろしくお願いいたします。

-----Original Message-----
From: N.Ogawa [mailto:[redacted]]
Sent: Wednesday, November 20, 2013 1:51 PM
To: [redacted]@gifu-nct.ac.jp'; [redacted]@gifu-nct.ac.jp'; [redacted]@gifu-nct.ac.jp'; [redacted]@gifu-nct.ac.jp'; 'sakabe'; 'Makoto Yasuda'
Subject: RE: 物理・応用物理の講義担当者の皆様へ

物理・応用物理の講義担当者の皆様へ
[redacted]です。

物理・応用物理の連携会議議の議事録案を
下記URLにアップしました。御確認いただき
何かありましたら11月26日までに御連絡下さい。

http://www.cc.g[redacted]

-----Original Message-----
From: N.Ogawa [mailto:[redacted]@gifu-nct.ac.jp]
Sent: Tuesday, November 19, 2013 10:52 AM
To: [redacted]@gifu-nct.ac.jp'; [redacted]@gifu-nct.ac.jp'; [redacted]@gifu-nct.ac.jp'; [redacted]@gifu-nct.ac.jp'; 'sakabe'; 'Makoto Yasuda'

出典　専門基礎グループ長から校長宛メール
以下の頁は講義内容の集約結果

岐阜工業高等専門学校の物理・応用物理科目の各学年における講義

学年	学科（科目名）難易度	講義
１年	全学科共通（物理Ａ） 難易度（高校物理）	はじめに工学や自然科学における実験値の扱い方の基本を学習する。つぎに物体の運動を定量的（数学的）に扱う方法を含めた、物理の出発点である力学の初歩を学ぶとともに、数学の有用性を認識し、すべての工学の基礎となる物理的な知識・考え方を習得する。
２年	全学科共通(物理ＢⅠ） 難易度（高校物理）	物理ＢⅠでは、力の大きさや方向が一定のときの力学、熱、円運動の考え方の初歩を学習する。
	全学科共通(物理ＢⅠ） 難易度（高校物理）	物理ＢⅡでは、一般的な波の数式表現、および物理的な性質を学習する。また、音や光の波としての物理的性質を学習する。さらに、電磁気の基礎概念も学習する。
３年	Ｍ科（応用物理Ⅰ） 難易度（大学物理）	Ｍ科からの教授内容の要望に従い、大学教養物理のうち，力学全般，電磁気学(一部)を実施する。
	Ｅ科（応用物理Ⅰ） 難易度（大学物理）	Ｅ科からの教授内容の要望に従い、基礎（運動、電磁気、熱など）、応用（物理工学、応用物理、現代物理）を学ぶことで様々な現象を理解する。基礎では１、２年で既に学習した物理の内容を応用物理の観点より現実の現象との対応において再構築する。
	Ｄ科（応用物理Ⅰ） 難易度（大学物理）	Ｄ科からの教授内容の要望に従い、大学教養物理のうち,力学全般を実施する。
	Ｃ科（応用物理） 難易度（大学物理）	Ｃ科からの教授内容の要望に従い、大学編入試験および国家公務員採用一般職試験（大卒程度）の工学基礎分野の物理に対応する内容として、力学、電磁気、熱学、波動、現代物理の初歩を扱う。
	Ａ科（応用物理Ⅰ） 難易度（大学物理）	Ａ科からの教授内容の要望に従い、建築の構造や環境の分野と関連する、力学、剛体、弾性体、振動などの応用物理を学ぶ。

４年	Ｍ科（応用物理Ⅱ） 難易度（大学物理）	Ｍ科からの教授内容の要望に従い、大学教養物理のうち，電磁気学を講義する。
	Ｅ科（応用物理Ⅰ） 難易度（大学物理）	Ｅ科からの教授内容の要望に従い、４年次は知識の定着と広範な現象の理解のために前期は力学を学習し、後期は、熱学、現代物理学の初歩を学習することで、各現象に対するより深い理解と発展的知識を得る。
	Ｄ科（応用物理Ⅰ） 難易度（大学物理）	Ｄ科からの教授内容の要望に従い、3 年次に続き，波動，光,熱および熱力学を講義する。
	Ａ科（応用物理Ⅱ） 難易度（大学物理）	Ａ科からの教授内容の要望に従い、建築の環境の分野と関連する、熱、波、音響などの応用物理を学ぶ。
５年	Ｍ科（応用物理Ⅲ） 難易度（大学物理）	Ｍ科からの教授内容の要望に従い、現代物理学入門について講義し，古典物理学との相違点に関する理解を深める。
	Ｅ科（応用物理Ⅱ） 難易度（大学物理） 【選択科目】	現代物理学のうち、量子論とそれに基づくいくつかの物性を取り上げ、原子の構造、分子の結合、電気伝導、超伝導などについて、量子論と物性論の立場から理解する。
	Ｄ科（応用物理Ⅱ） 難易度（大学物理） 【選択科目】	現代物理学のうち、量子論とそれに基づくいくつかの物性を取り上げ、原子の構造、分子の結合、電気伝導、超伝導などについて、量子論と物性論の立場から理解する。

岐阜工業高等専門学校の数学・応用数学科目の各学年における講義

学年	学科（科目名）難易度	講義
１年	全学科共通（数学ＡⅠ） 難易度（高校数学）	高学年で学ぶ数学を理解するため、式の変形、方程式、関数といった基本的な事項を習得する。
	全学科共通（数学ＡⅡ） 難易度（高校数学）	高学年で学ぶ数学を理解するため、関数、指数対数関数、三角関数、二次曲線といった事項を習得する。
	全学科共通（数学Ｂ） 難易度（高校数学）	三角関数およびベクトルを計算できる能力を習得する。
２年	全学科共通（数学ＡⅠ） 難易度（高校数学）	順列・組合せ、数列、微分といった事項を習得する。
	全学科共通（数学ＡⅡ） 難易度（高校数学）	微積分を理解し、計算能力を習得する。
	全学科共通（数学Ｂ） 難易度（高校数学）	行列の計算および線形変換を理解する能力を習得する。
３年	全学科共通（数学ＡⅠ） 難易度（高校・大学数学）	多変数関数の微分および級数を理解し、計算できる能力を習得する。
	全学科共通（数学ＡⅡ） 難易度（大学数学）	多変数関数の積分と微分方程式を理解し、計算できる能力を習得する。
	Ｅ科（応用数学Ａ） 難易度（大学数学）	応用数学の導入として、確率・統計や複素関数の微分積分の基礎的事項を学ぶ。
	Ｄ科（応用数学Ａ） 難易度（大学数学）	応用数学の導入として、確率・統計や複素関数の微分積分の基礎的事項を学ぶ。
４年	Ｍ科（応用数学Ⅰ） 難易度（大学数学）	工学専門知識に応用される数学的手法としての応用数学のうち、ベクトル解析、フーリエ解析、ラプラス変換を学ぶ。
	Ｍ科（応用数学Ⅱ） 難易度（大学数学）	工学専門知識に応用される数学的手法としての応用数学のうち、確率・統計を学ぶ。
	Ｍ科（応用数学Ⅲ） 難易度（大学数学）	工学専門知識に応用される数学的手法としての応用数学のうち、複素関数の微分・積分を学ぶ。
	Ｅ科（応用数学Ｂ） 難易度（大学数学）	工学専門知識に応用される数学的手法としての応用数学のうち、ベクトル解析、フーリエ解析、ラプラス変換を学ぶ。
	Ｅ科（応用数学Ｃ） 難易度（大学数学）	工学専門知識に応用される数学的手法としての応用数学のうち、複素関数の微分・積分を学ぶ。

	Ｅ科（応用数学Ｄ） 難易度（大学数学）	工学専門知識に応用される数学的手法としての応用数学のうち、確率・統計を学ぶ。
	Ｄ科（応用数学Ｂ） 難易度（大学数学）	工学専門知識に応用される数学的手法としての応用数学のうち、ベクトル解析、フーリエ解析、ラプラス変換を学ぶ。
	Ｄ科（応用数学Ｃ） 難易度（大学数学）	工学専門知識に応用される数学的手法としての応用数学のうち、複素関数の微分・積分を学ぶ。
	Ｄ科（応用数学Ｄ） 難易度（大学数学）	工学専門知識に応用される数学的手法としての応用数学のうち、確率・統計を学ぶ。
	Ｃ科（応用数学） 難易度（大学数学）	工学専門知識に応用される数学的手法としての応用数学のうち、ベクトル解析、フーリエ解析、ラプラス変換、複素解析を学ぶ。
	Ａ科（応用数学Ⅰ） 難易度（大学数学）	工学専門知識に応用される数学的手法としての応用数学のうち、確率・統計を学ぶ。
	Ａ科（応用数学Ⅱ） 難易度（大学数学）	工学専門知識に応用される数学的手法としての応用数学のうち、ベクトル解析、フーリエ解析、ラプラス変換を学ぶ。
５年	Ａ科（応用数学Ⅲ） 難易度（大学数学） 【選択科目】	工学専門知識に応用される数学的手法としての応用数学のうち、複素関数の微分・積分を学ぶ。

注１） 数学・応用数学と専門科目との連携については、学校認証評価等の頻度程度で、過去十数年に複数回、シラバスを確認して内容の重複や授業の順番や開講学年の変更など数学・応用数学と専門科目の授業担当者が改善してきた。過去の自己評価書の資料にあると思う。

注２） 数学の内容については、問題集として用いている「ドリルと演習シリーズ（日本数学教育学会高専・大学部会教材研究グループ(TAMS)著、電気書院出版）【基礎数学】【線形代数】【微分積分】」、応用数学については、「ドリルと演習シリーズ（日本数学教育学会高専・大学部会教材研究グループ(TAMS)著、電気書院出版）【応用数学】」が参考になる。

注３） 本校では、ＪＡＢＥＥプログラムの課程を経て、専攻科での学位取得を考える場合、専攻科での応用数学科目を必修科目にせざるを得ないくらい、本科での数学・応用数学科目の学習保証時間が不足している現状がある。（Ｄ）専門知識・能力（Ｄ－１）理学①数学の学習・教育目標「数学（微分積分学、微分方程式、確率と統計、数値解析、応用数学等）の基礎知識およびそれらを用いた問題解決能力を身につける。」を真剣に考えるのであれば、本科での数学・応用数学科目の学習保証時間が不足している現状や，それに伴うと思われる学生の学力不足などに取り組む必要がある。

注４） 数学・応用数学の科目には，実用数学技能検定(数検)の問題 [redacted] を見ると分かるように、（数学の考える能力である）計算技能や，数理技能としての表現技能や証明技能や整理技能等を習熟させる内容が含まれている。

岐阜工業高等専門学校アクティブラーニング推進ワーキンググループ内規

制定　平成２６年４月１日

（設置）

第１条　岐阜工業高等専門学校メディア委員会規程（平成１６年学校規則第１８号）第７条の規定に基づき，岐阜工業高等専門学校（以下「本校」という。）メディア委員会に，アクティブラーニング推進ワーキンググループを置く。

（目的）

第２条　アクティブラーニング推進ワーキンググループは、本校におけるアクティブラーニング，e-learning，ICT 機器活用の推進を図ることを目的とする。

（体制）

第３条　アクティブラーニング推進ワーキンググループに，アクティブラーニング推進ワーキンググループ長を置き，校長が指名した者をもって充てる。

２　アクティブラーニング推進ワーキンググループ員は，メディア委員をもって充てる。

（業務）

第４条　アクティブラーニング推進ワーキンググループは，次の事項を掌理する。

一　アクティブラーニング推進ワーキンググループの運営及び管理に関すること。

二　アクティブラーニングに伴う教育及び研究の援助に関すること。

三　アクティブラーニングに伴う企画，調査，研究開発に関すること。

四　アクティブラーニングの運用，維持，管理及び機器の保守に関すること。

五　アクティブラーニング推進ワーキンググループの広報活動に関すること。

六　アクティブラーニングに関する他高等専門学校及び大学等の連携に関すること。

七　その他アクティブラーニングに関すること。

（事務）

第５条　アクティブラーニング推進ワーキンググループの庶務は，学生課において処理する。

（雑則）

第６条 この内規に定めるもののほか，アクティブラーニング推進ワーキンググループの運営に関し必要な事項は，別に定める。

附　則

この規程は，平成２６年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成２８年４月１日から施行する。

出典　岐阜高専学内向けWebサイト―事務部―規則

授業参観において対象授業科目を重点化している状況がわかる資

資料1-1-4-(2)-07

平成31（2019）年度　**前 期 授 業 時 間 割 表**　**（先端的メディアを活用した授業）**

M：機械工学科　E：電気情報工学科　D：電子制御工学科　C：環境都市工学科　A：建築学科

国 立 岐 阜 工 業 高 等 専 門 学 校

		月（MON）				火（TUE）				水（WED）				木（THU）				金（FRI）			
		Ⅰ 9:00～10:30	Ⅱ 10:40～12:10	Ⅲ 13:00～14:30	Ⅳ 14:40～16:10	Ⅰ 9:00～10:30	Ⅱ 10:40～12:10	Ⅲ 13:00～14:30	Ⅳ 14:40～16:10	Ⅰ 9:00～10:30	Ⅱ 10:40～12:10	Ⅲ 13:00～14:30	Ⅳ 14:40～16:10	Ⅰ 9:00～10:30	Ⅱ 10:40～12:10	Ⅲ 13:00～14:30	Ⅳ 14:40～16:10	Ⅰ 9:00～10:30	Ⅱ 10:40～12:10	Ⅲ 13:00～14:30	Ⅳ 14:40～16:10
第1学年	M	英語C 情1 亀山	国語B 堅田	体育 麻草	特活 久保田	地理 小早川	音楽＊ ビデオ ※林	数学B 岡田		保健 麻草	英語B ※松野	数学AⅠ＊ 岡崎		数学AⅠ＊ 岡崎	英語A 野々村	国語A 堅田	化学A ※池上	ものづくり入門 工場・MDL 宮藤・高橋		総合理科＊ ※池上	世界史 ※遠藤（嘉）
	E	体育 麻草	英語A 野々村	数学AⅠ＊ 北川（真）	特活 堅田	英語C 情1 亀山	電気電子設計製図 E科2F電気電子実験室 田島	数学B 北川（真）	世界史 ※遠藤（嘉）	英語B ※松野	地理 小早川	保健 麻草		国語B 堅田	化学A 渡邉（慎）	総合理科＊ ※池上	電気電子設計製図 熊崎		国語A 堅田	音楽＊ ビデオ ※林	数学AⅠ＊ 北川（真）	
	D	地理 小早川	体育 山本（浩）	英語A 野々村	特活 野々村	音楽＊ ビデオ ※林	世界史 ※遠藤（嘉）	数学AⅠ＊ 八木		国語A 堅田	化学A 渡邉（慎）	英語B ※松野		数学AⅠ＊ 八木	総合理科＊ ※池上	英語C 情1 亀山	電子制御工学概論＊ 小木曽	保健 山本（浩）	国語B 中島（泰）	数学B 中島（泰）	
	C	音楽＊ ビデオ ※林	英語B ※澤田	数学AⅠ＊ 岡崎	特活 小早川	化学A 上原	英語C 情1 亀山	世界史 ※遠藤（嘉）		英語A 野々村	数学B 岡崎	体育 久世		コンピュータリテラシ＊ 情3 鈴木（正）	国語B 中島（泰）	保健 久世	地理 小早川	総合理科＊ ※池上	数学AⅠ＊ 岡崎	国語A 堅田	シビルエンジニアリング入門 吉村
	A	英語B ※澤田	国語B 中島（泰）	数学AⅠ＊ 八木	特活 八木	英語A 野々村	化学A 上原	体育 久世		保健 久世	国語A 堅田	数学B 八木		地理 小早川	建築製図Ⅰ 3A・情5 鶴田	数学AⅠ＊ 八木	英語C 情1 亀山	音楽＊ ビデオ ※林	総合理科＊ ※池上	世界史 ※遠藤（嘉）	建築構法Ⅰ＊ 清水（隆）
第2学年	M	英語A 佐竹	数学AⅠ＊ 岡崎	物理BⅠ＊ 渡邉（慎）	特活 渡邉（慎）	物理BⅠ＊ 渡邉（慎）	倫理 久保田	機械工学実習Ⅰ 工場 宮藤		化学B 上原	英語C 野々村	機械設計製図Ⅰ MDL 高橋		機械工作法Ⅰ＊ 宮藤	数学B 岡崎	情報リテラシー＊ 情2 島本		数学AⅠ＊ 岡崎	総合国語 宮口	体育 麻草	日本史 ※稲垣
	E	物理BⅠ＊ 菅	化学B 上原	倫理 小早川	特活 中島（泰）	総合国語 宮口	数学AⅠ＊ 中島（泰）	プログラミング 出口		英語A 佐竹	数学B ※真島	物理BⅠ＊ 菅		英語C 野々村	電気回路Ⅰ 飯田	日本史 ※稲垣		体育 麻草	数学AⅠ＊ 中島（泰）	電気情報工学実験 柴田（欣）・堀内	
	D	電子制御設計製図Ⅰ 情3 北川（輝）	物理BⅠ＊ 渡邉（慎）	数学AⅠ＊ 中島（泰）	特活 宮口	倫理 久保田	ディジタル回路 北川（輝）	英語C 野々村		総合国語 宮口	情報処理Ⅰ 情1 遠藤	数学AⅠ＊ 中島（泰）		英語A 佐竹	化学B 上原	物理BⅠ＊ 渡邉（慎）	日本史 ※稲垣	数学B ※真島	体育 山本（浩）	電子制御工学実習Ⅱ＊ 工場・計測制御実験室 栗山	
	C	総合国語 宮口	数学AⅠ＊ 岡田	化学B 上原	特活 佐竹	英語C 清水（晃）	物理BⅠ＊ 菅	基礎力学 水野（和）	基礎材料学 水野（和）	数学B ※真島	体育 ※井上	倫理 ※大塚		数学AⅠ＊ 岡田	物理BⅠ＊ 菅	英語A 佐竹		基礎製図 渡邉（尚）	日本史 ※稲垣	測量実習Ⅰ 廣瀬	測量学Ⅰ 廣瀬
	A	空間デザイン基礎＊ 情4 今田	建築構法Ⅱ＊ 犬飼	建築製図Ⅱ 3A・情5 鶴田	特活 菅	数学AⅠ＊ 岡田	総合国語 宮口	物理BⅠ＊ 菅		体育 ※井上	倫理 ※大塚	化学B 上原		建築史Ⅰ 清水（隆）	数学AⅠ＊ 岡田	英語C 清水（晃）	物理BⅠ＊ 菅	英語A 佐竹	数学B ※真島	日本史 ※稲垣	
第3学年	M	数学AⅠ＊ 岡田	英語C＊ ※キャシディー	応用物理Ⅰ 河野	特活 河野	機構学 山田（実）	計測工学＊ 小栗	材料学Ⅰ＊ 島本		数学AⅠ＊ 岡田	政治経済 久保田	英語A 佐竹■	■	体育 山本（浩）・麻草	総合国語 ※後藤	機械工学実習Ⅱ 工場 宮藤		材料力学Ⅰ 小栗	工業力学 石丸	情報処理Ⅰ＊ MDL 山本（高）	機械設計製図Ⅱ MDL 高橋
	E	計算機アーキテクチャ 田島	プログラミング 山田（博）	英語A 佐竹	特活 柴田（欣）	電子回路 飯田	数学AⅠ＊ 北川（真）	応用物理Ⅰ 安田	電気回路Ⅰ 所	数学AⅠ＊ 北川（真）	電気磁気学Ⅰ 熊崎	政治経済 久保田		応用数学A＊ 柴田（欣）	体育 久世・山本（浩）・麻草	電気情報工学実験 白木・柴田（欣）		電気情報工学基礎演習 田島	英語C＊ ※キャシディー	総合国語 ※後藤	
	D	材料の力学Ⅰ 栗山	数学AⅠ＊ 北川（真）	英語C＊ ※キャシディー	特活 小林	応用物理Ⅰ 河野	電子回路 小木曽	電子制御工学実験Ⅰ D科計測制御実験室 黒山		機械運動学Ⅰ 小林	数学AⅠ＊ 北川（真）	情報処理Ⅱ 情2 遠藤		体育 山本（浩）・麻草	政治経済 久保田	電気磁気学Ⅰ 藤田		総合国語 ※後藤	英語A 佐竹	電子制御設計製図Ⅱ＊ 情2 黒山	電気回路Ⅰ 長南
	C	英語C＊ ※キャシディー	応用物理 応用物理実験教室 小川・渡邉（尚）	構造力学Ⅰ 水野（剛）	特活 菊	土質力学Ⅰ 吉村	数学AⅠ＊ 八木	測量実習Ⅱ 廣瀬	測量学Ⅱ 廣瀬	数学AⅠ＊ 八木	英語A 亀山	コンクリート工学Ⅰ 岩瀬		総合国語 ※後藤	体育 久世・山本（浩）・麻草	基礎実験Ⅰ 岩瀬・吉村・川端		数理計画学Ⅰ 川端	政治経済 久保田	環境工学Ⅰ 角野	水理学Ⅰ 菊
	A	構造力学Ⅰ 犬飼	数学AⅠ＊ 中島（泰）	英語A ビデオ 亀山	特活 小川	応用物理Ⅰ 応用物理実験教室 小川	建築計画Ⅰ 今田	情報処理＊ 情1 小川	数学AⅠ＊ 中島（泰）	インテリアデザイン論＊ 櫻木	環境工学基礎＊ 石川	建築環境実験＊ 情4 青木・石川		政治経済 久保田	体育 久世・山本（浩）・麻草	建築設計製図Ⅰ 情3 ※門脇・今田・櫻木		デジタルデザインⅠ＊ 情2 清水（隆）	総合国語 ※後藤	英語C＊ ※キャシディー	材料力学＊ 柴田（良）
第4学年	M	機械設計法Ⅱ＊ MDL 片峯	塑性加工学Ⅰ＊ 加藤	創生工学実習 MDL ～16:00 石丸・片峯・宮藤・高橋		法学 ※大矢	体育 久世・※揖斐・※上田	機械工学実験Ⅱ＊ 加藤・石丸・山田（実）		熱力学Ⅰ 石丸	伝熱工学Ⅰ＊ 山本（高）	総合国語＊ 宮口		流体力学Ⅰ 中谷	応用数学Ⅰ 加藤・山田（実）	ドイツ語 ※橋本	応用物理Ⅱ＊ 河野	英語A 情5 菅原	工業英語＊ 加藤	応用数学Ⅱ＊ 森口	材料学Ⅱ＊ 島本
	E(E)	応用数学B 富田（勲）	情報伝送工学 情4 所	工学基礎研究 E科教員		体育 ※揖斐・※上田	信号処理＊ ※山田（功）	電気情報工学実験＊ 富田（勲）・堀内		電気磁気学Ⅰ＊ 羽渕	ディジタル回路Ⅱ＊ 山田（博）	応用数学D＊ 森口		法学 ※荻野	ドイツ語 ※橋本	応用物理Ⅰ 富田（勲）	計算機アーキテクチャ 田島	通信工学 白木	英語A 情5 菅原	総合国語＊ 宮口	電子工学 飯田
	E(J)	応用数学B 富田（勲）	データ構造とアルゴリズム＊ CCR2 出口	工学基礎研究 E科教員		体育 ※揖斐・※上田	信号処理＊ ※山田（功）	電気情報工学実験＊ 富田（勲）・堀内		電気磁気学Ⅰ＊ 羽渕	情報数学 CCR2 安田	応用数学D＊ 森口		法学 ※荻野	ドイツ語 ※橋本	応用物理Ⅰ 富田（勲）	計算機アーキテクチャ 田島	通信工学 白木	英語A 情5 菅原	総合国語＊ 宮口	電子工学 飯田
	D	制御工学 黒山	英語A 情2 菅原	電子制御総合実験＊ D科情報処理演習室 D科教員		体育 ※揖斐・※上田	法学 ※大矢	電気回路Ⅱ＊ 小木曽		応用物理Ⅰ 河野	応用数学D＊ 森口	機械運動学Ⅱ＊ 小林		ドイツ語 ※橋本	情報処理Ⅲ 情2 福永	電子制御工学実験Ⅱ D科計測制御実験室 小林		応用数学B 森口	計測工学 情2 黒山	電気磁気学Ⅱ 福永	電子制御回路＊ 情2 藤田
	C	水理学Ⅱ 和田	総合国語＊ 宮口	基礎実験Ⅱ 岩瀬・水野（和）		設計製図 情2 岩瀬・水野（和）	体育 久世・※揖斐・※上田	構造力学Ⅱ 水野（剛）	都市工学＊ 川端	コンクリート工学Ⅱ 岩瀬	英語A 情5 菅原	環境工学Ⅱ 角野		水理学Ⅱ／和田 構造力学Ⅱ／水野（剛）	土質力学Ⅱ 情1 水野（和）	法学 ※荻野	応用数学 渡邉（尚）	土質力学Ⅱ 情1 水野（和）	測量学Ⅲ 菊	数値計算法 情1 鈴木（正）	ドイツ語 ※中川
	A	応用物理Ⅱ＊ 応用物理実験教室 小川	インテリア設計Ⅱ＊ 情1 清水（隆）・青木		建築設計製図Ⅱ 情1 清水（隆）・青木	建築材料Ⅰ＊ 犬飼	体育 久世・※揖斐・※上田	環境工学Ⅱ 石川	応用数学Ⅱ 渡邉（尚）	構造力学Ⅱ 柴田（良）	建築技術者倫理＊ 櫻木	英語A 情5 菅原■	■	RC構造Ⅰ ※竹中	法学 ※荻野	情報処理Ⅱ＊ 情4 柴田（良）	地域都市計画＊ 鶴田	ドイツ語 ※中川	建築計画Ⅱ 櫻木	鉄骨構造Ⅰ 柴田（良）	建築設備Ⅰ 青木
第5学年	M	熱力学Ⅱ＊ 石丸	卒業研究	流体機械＊@ 中谷	弾性力学＊@ 小栗	流体力学Ⅱ＊ 中谷	伝熱工学Ⅱ＊@ 山本（高）	応用物理Ⅲ＊ 河野	機械力学Ⅱ＊ 片峯	制御工学Ⅱ＊ 山田（実）	メカトロニクス＊@ ※奥川	ドイツ語 ※神谷		工学解析＊ MDL 片峯		材料力学Ⅲ＊ 小栗		エネルギー工学＊ 山本（高）	英語A 清水（晃）■	技術者倫理＊ ※比屋根	卒業研究
	E(E)	電子計測＊@ 熊崎	情報数学@ CCR1 安田	卒業研究		応用物理Ⅱ＊@ 1講 富田（勲）	英語A 清水（晃）	情報理論＊@ ※山田（功）	エネルギー変換工学＊@ 冨田（睦）	プラズマ工学＊@ 柴田（欣）	ドイツ語 ※神谷	発変電工学＊@ 冨田（睦）		光・量子エレクトロニクス＊@ 白木	データ構造とアルゴリズム＊@ CCR1 出口	光工学＊@ 羽渕	高電圧工学＊@ 所	電気材料Ⅱ＊@ 飯田	自動制御@ 冨田（睦）	電気電子工学実験 E科教員	
	E(J)	電子計測＊@ 熊崎	情報伝送工学@ 情4 所	卒業研究		応用物理Ⅱ＊@ 1講 富田（勲）	英語A 清水（晃）	電気磁気学Ⅱ＊@ CCR1 羽渕	エネルギー変換工学＊@ 冨田（睦）	プラズマ工学＊@ 柴田（欣）	ドイツ語 ※神谷	ディジタル回路Ⅱ＊@ CCR1 羽渕		光・量子エレクトロニクス＊@ 白木	ソフトウェア工学＊@ 田島	光工学＊@ 羽渕	コンパイラ＊@ CCR1 出口	電気材料Ⅱ＊@ 飯田	自動制御@ 冨田（睦）	情報工学実験 E科教員	
	D	システム制御Ⅰ＊ 遠藤	電子計算機Ⅰ＊ 福永	電動力デバイスⅠ＊ 長南	電子応用機器＊@ ※鈴木（克）	応用物理Ⅱ＊@ 1講 富田（勲）	ロボット工学Ⅰ＊ 北川（秀）	情報伝送工学＊ 遠藤	卒業研究	ドイツ語 ※神谷	電子工学Ⅰ＊ ※吉田	卒業研究		電子デバイスⅠ＊ 藤田	電子制御工学実験Ⅱ D科教員	信頼性工学＊@ ※竹下・※三宅		英語A 清水（晃）	技術者倫理＊ ※比屋根	環境エネルギー工学＊ ※平田	電子制御工学実験Ⅲ D科教員
	C	総合実験＊ 吉村・廣瀬・川端		防災工学＊ 和田・吉村・廣瀬・渡邉（尚）	河川水文学＊@ 鈴木（正）	鋼構造＊@ ※西澤 卒業研究		地盤工学＊@ 吉村		地域都市計画＊@ 川端	英語A 清水（晃）	交通工学＊@ ※非常勤・吉村		生物学的排水処理工学＊@ 角野	構造解析学＊@ 水野（剛）	応用土質力学＊@ 水野（和）	空間情報工学＊ 情2 ※馬渕	循環型社会形成論＊ 吉村	ドイツ語 ※中川	耐震工学＊@ 渡邉（尚）	総合演習Ⅱ C科教員
	A	計画特論＊@ 情5 鶴田	環境社会学＊@ 石川	測量学＊ ※伊藤	測量学実習＊ ※伊藤	建築史Ⅲ＊@ 清水（隆）	建築生産 犬飼	建築設計製図Ⅲ＊@ 情2 今田		構造デザインⅠ＊@ ※長山	環境デザインⅠ＊ 情2 青木	卒業研究		英語A 清水（晃）	RC構造Ⅱ＊ ※竹中	防災工学＊ 犬飼	鉄骨構造Ⅱ＊ ※樋口	建築法規 櫻木	卒業研究	ドイツ語 ※中川	

［記号］　＊：前期のみ開講科目　@：選択科目　※：非常勤講師　　大講：大講義室，ビデオ：ビデオルーム，工場：実習工場，情1・情2・情3・情4・情5：情報センター第1・第2・第3・第4（図書館棟），第5演習室（一般科棟3F），1講：第一講義室　　シラバス（授業計画）：http://www.gifu-nct.ac.jp/syllabus

■：同時限に留学生科目開講　　MDL：機械デザインラボ，CCR1：コース別CR1（E科棟1F），CCR2：コース別CR2（E科棟3F），E強実：E科電気制御実験室（E科棟1F），E1実：E科情報工学実験室（E科棟1F），E2実：E科電気電子実験室（E科棟2F），E3演：E科情報処理演習室（E科棟3F），C演：C科演習室（C科棟3F），製図室：A科製図室（A科棟2F），CAD室：A科CAD室（A科棟3F）

出典　学内向けWebサイト　令和元年度　教務掲示板

専門学科の教員が一般科目を参観している状況がわかる資料

資料1-1-4-(2)-08

令和元(2019)年度　授業参観報告書(教職員用)

5月17日（金）～23日（木）

参観者氏名	[redacted]博	参観者所属（科・課・係等）	機械工学科
授業参観日	令和元年　5月 23 日木曜日　　第Ⅲ限目		
授業科目名	国語Ａ	参観クラス	M学科　　1 学年
授業担当教員名	[redacted]生	参観時間	約　　15 分

【教科目連携あるいはアクティブラーニングの観点などからのコメント】
①今回、アクティブラーニングを行っているという場面はありませんでした。

【良かった点・参考になった点（受講学生の動機づけを高揚させる取組みなどの観点から）】
①国語という教科にも関わらず、身振り手振りで授業を行っておられ、非常に熱心に授業を行っている印象を受けました。学生さんの意見（先生からの質問に対する回答）をかなり頻繁に聞きながらやっており、良かったと思います。

【授業担当教員へのアドバイス】
①声が通り、聞きやすかったです。とにかく熱心さが伝わってきました。

【感想・その他】
①国語という教科にも関わらず、身振り手振りで授業を行っておられ、非常に熱心に授業を行っている印象を受けました。他事をしたり寝たりする学生はおらず、熱心に聞いており授業の雰囲気として良かったと思います。

☆報告書記入後，教員は所属学科の教務委員へ，事務職員は今西教務係長（kyou1）にメールの添付ファイル（Word）でご提出ください.
☆提出締切を令和元（2019）年5月31日（金）とさせて頂きます.
☆非常勤講師の方についての提出は任意ですが，御提出頂く場合は学生課へお願い致します．本件についてのお問い合わせは，各学科の教務会議委員にお問い合わせください.

令和元(2019)年度　授業参観報告書(教職員用)

5月17日（金）～23日（木）

参観者氏名	[redacted]　実	参観者所属（科・課・係等）	機械工学科
授業参観日	令和元年　5月　22日水曜日　第Ⅲ限目		
授業科目名	数学ＡⅠ	参観クラス	機械工学科　　１学年
授業担当教員名	[redacted]　[redacted]宣	参観時間	約　　２０分

【教科目連携あるいはアクティブラーニングの観点などからのコメント】
①制御工学の伝達関数の計算にでてくる有理関数の四則演算を丁寧に教えられていた。計算で特に間違えやすいポイントを指導されていた。

【良かった点・参考になった点（受講学生の動機づけを高揚させる取組みなどの観点から）】
①分かりやすい話し方であった。

【授業担当教員へのアドバイス】
①

【感想・その他】
①学生は集中して問題を解いているようでした。

☆報告書記入後，教員は所属学科の教務委員へ，事務職員は今西教務係長（kyou1）にメールの添付ファイル（Word）でご提出ください．
☆提出締切を令和元（2019）年5月31日（金）とさせて頂きます．
☆非常勤講師の方についての提出は任意ですが，御提出頂く場合は学生課へお願い致します．本件についてのお問い合わせは，各学科の教務会議委員にお問い合わせください．

令和元(2019)年度　授業参観報告書(教職員用)

5月17日（金）～23日（木）

[redacted]	[redacted]郎	参観者所属（科・課・係等）	電気情報工学科
授業参観日	令和元年　5月　２３日　水曜日　第　Ｉ限目		
授業科目名	数学ＡＩ	参観クラス	Ｅ学科　３学年
授業担当教員名	[redacted]	参観時間	約　３０分

【教科目連携あるいはアクティブラーニングの観点などからのコメント】
- ＰＰＴ活用。黒板への書き込みがあると動的に展開できるが、スクリーンだけだと話しだけになり、真面目に聞いていないと、どこが大切か分かりにくい。
- 質問は全くないので、教科書問題の教え方としては問題ないかもしれない。

【良かった点・参考になった点（受講学生の動機づけを高揚させる取組みなどの観点から)】
- 学生は、ＰＰＴ資料はＬＭＳ等で確認可能となっていた。丁寧に実施されていた。クラスも静かであった。

【授業担当教員へのアドバイス】
- 見学時間範囲では、やや学生の参加が不足するかも知れないが、問題等を解く時間が別にあるものと思われる。

【感想・その他】
- グラフなどで可視化すると積分の意味が分かって良いと思う。ただ解くだけだと、数学ソフトで解けるので、解き方のテクニックを覚えるだけになり、受験対策にしかならない。
- 所はMathcadで数学問題を解いているが、これもそのソフトの使い他のテクニックを示しているだけだともいえる。唯し、グラフ化やパラメータを振った場合の変化の可視化、境界条件の意味などは、動的な可視化が可能なので、学生が自分で確認することはできる。また、答えの表現が教科書と異なることも多く、数学的に等しいか確認することで、数学の理解が進むと感じている。

☆報告書記入後，教員は所属学科の教務委員へ，事務職員は今西教務係長（kyou1）にメールの添付ファイル（Word）でご提出ください.
☆提出締切を令和元（2019）年5月31日（金）とさせて頂きます.
☆非常勤講師の方についての提出は任意ですが，御提出頂く場合は学生課へお願い致します．本件についてのお問い合わせは，各学科の教務会議委員にお問い合わせください.

令和元(2019)年度　授業参観報告書(教職員用)

5月17日（金）～23日（木）

参観者氏名	■■■　■治	参観者所属（科・課・係等）	電気情報工学科
授業参観日	令和元年　5月　　23日 木 曜日 第　　3限目		
授業科目名	物理	参観クラス	電子制御工学科　　2学年
授業担当教員名	■■■　■　■生	参観時間	約　　15分

【教科目連携あるいはアクティブラーニングの観点などからのコメント】
① 学生に自由に発言させながら、必要なところを拾って授業に反映さえていた。後半からの参加であったが、序盤に演習問題の解説をしていたようである。

【良かった点・参考になった点（受講学生の動機づけを高揚させる取組みなどの観点から）】
① スライドに直接書き込んでいく方式だったので、学生の理解度に合わせて資料を補いながら進行することができていた。
② 動画によるエネルギーの提示方法は直感的な理解がしやすく、すべてを動画にしないことで適切に組み合わされていたと思う

【授業担当教員へのアドバイス】
① 教室の問題もあるが、教卓ではなく窓際あたりにパソコンを置くと良いと思う。スライドにどうしても教員が重なってしまう。
② レーザーポインタはマウスカーソルを大きくするタイプのソフトがおすすめです。あまりどこを指しているか分かりませんでした。

【感想・その他】
① 学生の反応も良く、良い授業構成だった。とくに、配布資料とスライドの対応付けが分かりやすく、学生も興味をもって授業を聞いていた。

☆報告書記入後，教員は所属学科の教務委員へ，事務職員は今西教務係長（kyou1）にメールの添付ファイル（Word）でご提出ください.
☆提出締切を令和元（2019）年5月31日（金）とさせて頂きます.
☆非常勤講師の方についての提出は任意ですが，御提出頂く場合は学生課へお願い致します．本件についてのお問い合わせは，各学科の教務会議委員にお問い合わせください.

令和元(2019)年度　授業参観報告書(教職員用)

5月17日（金）～23日（木）

参観者氏名	[redacted]	参観者所属（科・課・係等）	電子制御工学科
授業参観日	令和元年　5月 22　日　水曜日　　第２限目		
授業科目名	化学Ａ	参観クラス	電子制御工学科　　１学年
授業担当教員名	[redacted]	参観時間	約　　２０　分

【教科目連携あるいはアクティブラーニングの観点などからのコメント】
① 授業の進行に合わせて，例を示してから学生に考えさせ解答させる時間を取っていた点が，学生の授業への参加を促す観点から良いと思いました．

【良かった点・参考になった点（受講学生の動機づけを高揚させる取組みなどの観点から)】
① 授業スライドを用い，スライドを穴埋め形式にした授業資料を配布していた．タブレットPCを用いて穴埋めの答えをスライド上に書き込むなど，機材を上手く活用されていた．

【授業担当教員へのアドバイス】
① 特にありません

【感想・その他】
① 私の授業でもタブレットPCを導入し活用したいと思いました．

☆報告書記入後，教員は所属学科の教務委員へ，事務職員は今西教務係長（kyou1）にメールの添付ファイル（Word）でご提出ください．
☆提出締切を令和元（2019）年5月31日（金）とさせて頂きます．
☆非常勤講師の方についての提出は任意ですが，御提出頂く場合は学生課へお願い致します．本件についてのお問い合わせは，各学科の教務会議委員にお問い合わせください．

令和元(2019)年度　授業参観報告書(教職員用)

5月17日（金）～23日（木）

参観者氏名	[redacted]	参観者所属（科・課・係等）	環境都市工学科
授業参観日	令和元年　5月 21　日 火 曜日　第　II　限目		
授業科目名	英語C	参観クラス	C　学科　　1学年
授業担当教員名	[redacted]	参観時間	約 55 分　　（10:40～11:35）

【教科目連携あるいはアクティブラーニングの観点などからのコメント】
①Moodle を使用しての自学自習は，自分のペース（英語が得意な学生も不得意な学生も）で，また，正解が得られるまで，取り組めるので素晴らしい．
②スピーキングは個別に廊下で対応も合理的．（学生はコンピュータ使用の自学自習のため，並んで待つ必要が無く，空いているときにスピーキングを行うことができる．

【良かった点・参考になった点（受講学生の動機づけを高揚させる取組みなどの観点から)】
①やる気さえあれば，英語が得意な学生も不得意な学生も，自分の能力に応じて学習し，語句力，ヒヤリング，スピーキングの能力を伸ばすことができる．

【授業担当教員へのアドバイス】
①英語 C（発音，語彙力，会話）の他，英語 A，英語 B との連携（文法や作文）はどうなっているでしょうか．英語 C のように自学自習システムがあれば素晴らしい．

【感想・その他】
①最初の 25 分程度，CR にて単語の復習（電子辞書使用），その後情報処理センター第 1 演習室にて Moodle を使用しての自学自習
②入力が，キーボードの他にタブレットに手書き（単語など）でも認識する．

☆報告書記入後，教員は所属学科の教務委員へ，事務職員は今西教務係長（kyou1）にメールの添付ファイル（Word）でご提出ください．
☆提出締切を令和元（2019）年 5月31日（金）とさせて頂きます．
☆非常勤講師の方についての提出は任意ですが，御提出頂く場合は学生課へお願い致します．本件についてのお問い合わせは，各学科の教務会議委員にお問い合わせください．

令和元(2019)年度　授業参観報告書(教職員用)

5月17日（金）～23日（木）

参観者氏名	[redacted]	参観者所属（科・課・係等）	環境都市工学科
授業参観日	令和元年　5月 23 日　木 曜日 第　III 限目		
授業科目名	英語 C	参観クラス	D 学科　1 学年
授業担当教員名	[redacted]	参観時間	約　10 分

【教科目連携あるいはアクティブラーニングの観点などからのコメント】
①独自に開発した教材を用いて，学生が積極的に学習を行っており，その結果は即座に返却，学生へのフィードバックと意識向上を目指した授業であり大変参考になった．

【良かった点・参考になった点（受講学生の動機づけを高揚させる取組みなどの観点から)】
①学習結果の正解がポイント制，ランキング表示等，学生のやる気を引き出す工夫が感じられた．

【授業担当教員へのアドバイス】
①

【感想・その他】
①自分の専門分野（水理学）では，ある程度の基礎知識を蓄えないと適用は難しいが，課題演習の内容を見直して学生の主体的な取組みに繋がる教材を開発したい．

☆報告書記入後，教員は所属学科の教務委員へ，事務職員は今西教務係長（kyou1）にメールの添付ファイル（Word）でご提出ください．
☆提出締切を令和元（2019）年5月31日（金）とさせて頂きます．
☆非常勤講師の方についての提出は任意ですが，御提出頂く場合は学生課へお願い致します．本件についてのお問い合わせは，各学科の教務会議委員にお問い合わせください．

令和元(2019)年度　授業参観報告書(教職員用)

5月17日（金）～23日（木）

参観者氏名	[redacted]	参観者所属（科・課・係等）	環境都市工学科
授業参観日	令和元年　5月 21　日 火 曜日　第Ⅱ限目		
授業科目名	英語C	参観クラス	環境都市工学科　　1学年
授業担当教員名	[redacted]	参観時間	約 20　　分

【教科目連携あるいはアクティブラーニングの観点などからのコメント】
①リスニング，ライティングについて，学生が能動的に取り組むようなシステムが構築されている

【良かった点・参考になった点（受講学生の動機づけを高揚させる取組みなどの観点から)】
①他のクラスの成績（達成度？）と比較することで学生の競争心を刺激するようになっている

【授業担当教員へのアドバイス】
①特にありません

【感想・その他】
①少なくとも私の知る限り，これまでのC科の学生は英語について苦手意識を持っている．このシステムを導入されてからどれくらいの期間が経過しているかが分かりませんが．システム導入後は英語への苦手意識は改善されたのでしょうか．

☆報告書記入後，教員は所属学科の教務委員へ，事務職員は今西教務係長（kyou1）にメールの添付ファイル（Word）でご提出ください．
☆提出締切を令和元（2019）年5月31日（金）とさせて頂きます．
☆非常勤講師の方についての提出は任意ですが，御提出頂く場合は学生課へお願い致します．本件についてのお問い合わせは，各学科の教務会議委員にお問い合わせください．

令和元(2019)年度　授業参観報告書(教職員用)

5月17日（金）～23日（木）

参観者氏名	[redacted]	参観者所属（科・課・係等）	環境都市工学科
授業参観日	令和元年　5月　23日　木 曜日　　第III限目		
授業科目名	英語C	参観クラス	D学科　　1学年
授業担当教員名	[redacted]	参観時間	約　　30分

【教科目連携あるいはアクティブラーニングの観点などからのコメント】
① 情報処理センター演習室で、一通り説明のあと、各学生がPCに向かい自身のペースで課題について取り組んでいた。
② 他事や私語をする学生はほとんどいなかった。

【良かった点・参考になった点（受講学生の動機づけを高揚させる取組みなどの観点から）】
① 教室内をくまなく巡回しアドバイスをしていた。
② ワイヤレス・ヘッドセットを利用することにより、教室内を移動してもクラス全員に説明が聞こえていた。

【授業担当教員へのアドバイス】
① 学生の様子を見ながら課題からまとめへの時間配分をうまくなされていると感じました。

【感想・その他】
① 多くの学生たちは良い意味でゲーム感覚で課題をしているように見えた。

☆報告書記入後，教員は所属学科の教務委員へ，事務職員は今西教務係長（kyou1）にメールの添付ファイル（Word）でご提出ください．
☆提出締切を令和元（2019）年5月31日（金）とさせて頂きます．
☆非常勤講師の方についての提出は任意ですが，御提出頂く場合は学生課へお願い致します．本件についてのお問い合わせは，各学科の教務会議委員にお問い合わせください．

令和元(2019)年度　授業参観報告書(教職員用)

5月17日（金）～23日（木）

参観者氏名	[redacted] [redacted]	参観者所属（科・課・係等）	環境都市工学科
授業参観日	令和元年　5月 17 日 金 曜日　　第Ⅱ限目		
授業科目名	英語 C	参観クラス	環境都市工学科　１学年
授業担当教員名	[redacted] [redacted]	参観時間	約　３０分

【教科目連携あるいはアクティブラーニングの観点などからのコメント】
①情報演習室でパソコン，タブレットなどの電子教材をフル活用して授業を進めていた（前半 20 分は教室）．

【良かった点・参考になった点（受講学生の動機づけを高揚させる取組みなどの観点から)】
①電子教材を使用しているので学生個々の能力やペースに応じて授業を進めることができるのはよいと思った．ソフトは独自開発のものを使用していた．
②タブレットを全学生に配布し，手書き入力により単語の書き取り練習をさせていた．正解・不正解は画面上に表示されていた．

【授業担当教員へのアドバイス】
①

【感想・その他】
①学生は真面目に授業を受けていた．

☆報告書記入後，教員は所属学科の教務委員へ，事務職員は今西教務係長（kyou1）にメールの添付ファイル（Word）でご提出ください．
☆提出締切を令和元（2019）年 5 月 31 日（金）とさせて頂きます．
☆非常勤講師の方についての提出は任意ですが，御提出頂く場合は学生課へお願い致します．本件についてのお問い合わせは，各学科の教務会議委員にお問い合わせください．

令和元(2019)年度　授業参観報告書(教職員用)

5 月 17 日（金）～23 日（木）

参 観 者 氏 名	[redacted]	参観者所属（科・課・係等）	環境都市工学科
授 業 参 観 日	令和　元　年　5　月　23　日　木　曜日　　第　III　限目		
授 業 科 目 名	英語 C	参観クラス	電子制御工学科　第 1 学年
授業担当教員名	[redacted]	参観時間	約　30　分

【教科目連携あるいはアクティブラーニングの観点などからのコメント】

① 学生が自ら学習を進めていく形式の授業であった．

② スペリングやスピーキングの練習は各自で行い，教員はスピーキングのテスト対応をしていた．テスト結果は即時に反映され，学生が確認できるようになっていた．

③ 学生の進捗状況は様々であったが，他のことをやっている学生や寝ている学生は皆無で，学生が積極的に学習を行っており，究極のアクティブラーニングだと思った．

【良かった点・参考になった点（受講学生の動機づけを高揚させる取組みなどの観点から）】

① 学生が取り組む教材は，スペリング・リスニング・スピーキングをトータル的に学習できるものだった．

② それぞれの学習において，正解するとポイントが得られる仕組みになっており，連続正解すると加点があったり，1 学年のランキングが表示されたりするなど，学生のやる気や関心を引き立たせる仕組みになっていた．実際，ランキングを確認して一喜一憂し，新たな課題に取り組む学生の姿がみられた．

③ スピーキングのテストを 1 対 1 で行うことで，教員はその学生のスピーキングの至らない点を指摘でき，学生はその場で改善を図ることができていた．

④ 授業開始当初は教室，その後情報処理センターに移動しており，なぜわざわざ授業中に移動するのだろうか？と思ったのだが，最初は教室で教えあう時間を設け，その後情報処理センターにて各自で教材に取り組む意図があると知り，授業にメリハリが出てよいと思った．また，学生が学生を教える機会を設けることは大事だと思った．

【授業担当教員へのアドバイス】

① 独自に開発された教材によって学生の意欲・関心を向上されていて，とても素晴らしいと思いました．

【感想・その他】

① 独自教材により効果的な授業をされていて，とても勉強になりました．ある程度の知識を与えなければならない科目にそのまま適用することは難しいですが，学生が自ら課題に取り組む仕組みづくりの参考にします．

② FD では本校で行われている特色ある授業や効果的な授業について話を聞きたいです．その上で，授業を参観したいです．

☆報告書記入後，教員は所属学科の教務委員へ，事務職員は今西教務係長（kyou1）にメールの添付ファイル（Word）でご提出ください．

☆提出締切を令和元（2019）年 5 月 31 日（金）とさせて頂きます．

☆非常勤講師の方についての提出は任意ですが，御提出頂く場合は学生課へお願い致します．本件についてのお問い合わせは，各学科の教務会議委員にお問い合わせください．

令和元(2019)年度　授業参観報告書(教職員用)

5月17日（金）～23日（木）

参観者氏名	[redacted]	参観者所属（科・課・係等）	環境都市工学科
授業参観日	令和元年　5月 20　日　月 曜日　第 2 限目		
授業科目名	物理 BI	参観クラス	D 学科　2 学年
授業担当教員名	[redacted]	参観時間	約　20 分

【教科目連携あるいはアクティブラーニングの観点などからのコメント】
①ペンで書き込み可能なノート PC を映写して説明が行われていた．電子黒板と同様な効果が発揮されていた．
（ppt による説明，手書き板書による説明，それぞれのメリットが取り入れられている方法だと思った．演習解答において式の誘導などは実際に展開されていく状況を示すのが効果的であるし，一方問題文や教科書に書かれている内容等はそのまま映し出すのが時間の短縮になる，という点で．）
②解説の後にはグループを組ませて課題に取組ませていた

【良かった点・参考になった点（受講学生の動機づけを高揚させる取組みなどの観点から)】
①力学的エネルギー保存を使った問題例を扱うに当たり，収入支出の例に例えられていたり，弾性力による位置エネルギー保存の説明に実際のバネを持ち出されていたりと，授業に関係する幾つかのネタが用意されていた．
②演習にあたって間違いやすいポイントが解説されていた．

【授業担当教員へのアドバイス】
①

【感想・その他】
①

☆報告書記入後，教員は所属学科の教務委員へ，事務職員は今西教務係長（kyou1）にメールの添付ファイル（Word）でご提出ください．
☆提出締切を令和元（2019）年 5 月 31 日（金）とさせて頂きます．
☆非常勤講師の方についての提出は任意ですが，御提出頂く場合は学生課へお願い致します．本件についてのお問い合わせは，各学科の教務会議委員にお問い合わせください．

令和元(2019)年度　授業参観報告書(教職員用)

5月17日（金）～23日（木）

参観者氏名	[redacted]	参観者所属（科・課・係等）	建築学科
授業参観日	令和元年　5月 22　日 水 曜日　第　Ⅱ　限目		
授業科目名	化学Ａ	参観クラス	電子制御工学科　　１学年
授業担当教員名	[redacted]	参観時間	約２０　　分

【教科目連携あるいはアクティブラーニングの観点などからのコメント】
①タブレットとプロジェクターを繋いで，理解しやすい工夫をして説明をしていた。

【良かった点・参考になった点（受講学生の動機づけを高揚させる取組みなどの観点から)】
①タブレットの機能と手書き機能を混在させることで機動的に説明していたこと
②１学年なので 90 分授業に耐えられないことを配慮されたのか、リフレッシュのために授業の間に少しの時間休憩を入れていたこと

【授業担当教員へのアドバイス】
①居眠りしている学生が何人かいましたので、おこして授業に参加させてあげると良いと思いました。

【感想・その他】
①学生の席を巡回するのを頻繁にすると良いと思いました。

☆報告書記入後，教員は所属学科の教務委員へ，事務職員は今西教務係長（kyou1）にメールの添付ファイル（Word）でご提出ください.
☆提出締切を令和元（2019）年5月31日（金）とさせて頂きます.
☆非常勤講師の方についての提出は任意ですが，御提出頂く場合は学生課へお願い致します．本件についてのお問い合わせは，各学科の教務会議委員にお問い合わせください.

出典　学内向けWebサイト　令和元年度教務掲示板

令和元年度第１回授業技術研究会報告

R1.5.24 16:30～　２M ＣR

参加者

人文：[redacted]　自然：[redacted]　M：[redacted]、[redacted]、[redacted]　E：[redacted]　D：[redacted]、[redacted]　C：[redacted]

授業参観週間(5.17～5.23)に参観した授業から得られた知見や、これに関連しての意見交換を行った。今回の授業参観では、教務主事より「最先端メディアを活用した授業」を各学科からピックアップし、重点的に参観をするよう要請があり、本研究会においてはこれに該当する授業に関する議論が白熱した。

以下はその抜粋であるが、関連する発言をまとめているので、発言内容は必ずしも時系列に沿ったものとはなっていないことを付記する。なお発言者は匿名とする。

- M 科の専門科目の授業で、最初に Moodle を利用した小テストを行い、前時の授業内容の復習として効果を上げていた。
- 同じく C 科の専門科目でも、Moodle のテスト機能を利用して授業中の演習課題を行っていた。
- D 科では、仮進級者のための補習用課題として Moodle を活用している。Moodle で学習させ、一定の課題を終えたら試験をして単位認定をするという流れを作ることで、教員が補習にかける労力を減らすことができた。
- 英語の授業では、本校に Moodle が入る前から WEB 技術を活用した教材を作成し、10 年以上にわたって授業で利用かつ改良してきた経緯があるので、今さら Moodle に載せ替える予定はないが、授業で見せたい動画や練習問題の解答など、教材や資料の閲覧用として Moodle を活用している。この機能はテストなどを作るよりもはるかに簡単で、どの教員にとっても利用価値があると思われる。
- 物理の授業では、プロジェクターに投影した画像に直接文字などを書き込める仕組みを活用していた（どのようなアプリケーションを利用しているかは未確認)。

（議論）

- ✧ Moodle を使うことにより、演習で出題される問題の数値を学生ごとに変えることができるので、その効果が高まるという期待ができる。
- ✧ 解答に制限時間を設けることができ、自動的に終了となるので学生の緊張感が持続できる。
- ✧ スマホやタブレットでも利用できるので、情報処理センター等での授業が前提条件とならない。
- ✧ Moodle でできる問題形式は、語句を問う問題、数値計算の問題、多肢選択問題、等であり、その結果はすべて学生ごとに記録することができる。
- ✧ １つの課題を作るのにかかる時間は、慣れてしまえばそれほど長時間はかからない。何よりも 1 回作ってしまえば毎年それを使って授業ができるというメリットが大きい。

総括

今後は Moodle に代表されるような教材作成ツールの活用は必須であろうと思われる。特に構内無線 LAN が整備され、ほぼすべての教室でスマホやタブレットを活用した授業が可能になった現在、その有効利用の方策を全校一丸となって考えていくことが求められている。

Moodle に限らず、授業で使う教材や資料のデジタル化を推進することは、授業の省力化や教材の共通

化を図る上でのメリットが大きく、特に若手・中堅教員にとっては、今後の教育スキルを高める上での利用価値が高いと思われる。

これを推進するためには、モデルとなる教員やその授業を校内に知らしめることと、Moodle 等の教材作成ツールの使い方の研修を（負担が増えない形で）実施していく必要がある。

文責：[redacted]（AL 推進 WG 長）

出典　学内向けWebサイト令和元年度教務掲示板

2020年4月03日　第1回運営会議資料

教務主事関連

■ 協議事項

1. 原[redacted]の教育課程の取扱いについて　　・・・・別紙1

教育課程の過渡期にあり，1 学年下の教育課程において入学時の教育課程と異なる学生が[redacted]となった場合に必要な措置を行う.

2. 本科3つのポリシー（修正版）について　　・・・・別紙2

DP：ディプロマ・ポリシー
CP：カリキュラム・ポリシー
AP：アドミッション・ポリシー
（本科全体，機械工学科，電気情報工学科，電子制御工学科，環境都市工学科，建築学科）

別紙2

岐阜工業高等専門学校の3つのポリシー

■本科全体

【ディプロマ・ポリシー】（卒業認定の基本方針）

本科では、所定の年限在籍し、以下に示す能力・技術の素養を身につけて、各学科の規定する単位数を修得し、卒業研究審査に合格した学生に対して卒業を認定する。

1. (A)倫理観を身につけていること。

グローバルな規模で社会問題や環境問題を捉えて、科学技術が影響等について責任を自覚する技術者としての倫理観を身につけていること。

2. (B)デザイン能力を身につけていること。

新たな課題や実務上の問題点を理解して、自発的に課題を解決する計画を立案する。基礎知識等を活用しながら、その計画を継続して実行し、得られた成果をまとめるデザイン能力とチームワーク能力を身につけていること。

3. (C)コミュニケーション能力を身につけていること。

日本語で記述、発表等をする能力、国際的に通用するコミュニケーションの基礎能力を身につけていること。

4. (D)専門知識・実践的な能力を身につけていること。

専門分野の基礎知識を理解し、それらを用いて応用問題に実践的に取り組む能力を身につけていること。

5. (E)情報技術を身につけていること。

情報機器等を使いこなし、専門分野で必要とされるプログラムを構築する能力を身につけていること。

【カリキュラム・ポリシー】（教育課程編成および実施の基本方針）

本科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、以下に示す科目群から構成する。

1. 一般科目群：豊かな教養を身につけることを目的として人文・社会科学、芸術などに関する科目、工学の専門知識や技術の修得に必要な学問的な基礎を学ぶための科目、技術者としての異文化対応力、倫理観を身につけることなどを目的とした科目

2. 専門科目群:専門分野の基盤技術を習得し、実践的な工学技術などを学習する科目、思考力や課題解決能力などの育成に関する科目

学修成果の評価は、ディプロマ・ポリシーに掲げた各項目について実施する。各授業科目の成績は、シラバス（平素の学習状況、提出物及び試験の成績等）に基づき、記載された基準で評価する。

【アドミッション・ポリシー】（入学者選抜の基本方針）

本科における受入方針は、ディプロマ・ポリシーに基づき、次のような能力と意欲を持った学生を入学させるためのものである。具体的には、次のような人を求めている。

1. 基礎学力の修得に努めている人
2. 一般教養および専門知識・実践的能力を身につけたい人
3. 好奇心が旺盛で、技術者としての能力開発をめざす人
4. 学んだ知識などを活用して社会に貢献したい人

2020年4月03日　第1回運営会議資料

教務主事関連

■ 協議事項

[redacted] ・・・・別紙1

[redacted]

2．本科3つのポリシー（修正版）について ・・・・別紙2

DP：ディプロマ・ポリシー

CP：カリキュラム・ポリシー

AP：アドミッション・ポリシー

（本科全体，機械工学科，電気情報工学科，電子制御工学科，環境都市工学科，建築学科）

別紙2

岐阜工業高等専門学校の3つのポリシー

■本科全体

【ディプロマ・ポリシー】（卒業認定の基本方針）

本科では、所定の年限在籍し、以下に示す能力・技術の素養を身につけて、各学科の規定する単位数を修得し、卒業研究審査に合格した学生に対して卒業を認定する。

1. (A)倫理観を身につけていること。

グローバルな規模で社会問題や環境問題を捉えて、科学技術が影響等について責任を自覚する技術者としての倫理観を身につけていること。

2. (B)デザイン能力を身につけていること。

新たな課題や実務上の問題点を理解して、自発的に課題を解決する計画を立案する。基礎知識等を活用しながら、その計画を継続して実行し、得られた成果をまとめるデザイン能力とチームワーク能力を身につけていること。

3. (C)コミュニケーション能力を身につけていること。

日本語で記述、発表等をする能力、国際的に通用するコミュニケーションの基礎能力を身につけていること。

4. (D)専門知識・実践的な能力を身につけていること。

専門分野の基礎知識を理解し、それらを用いて応用問題に実践的に取り組む能力を身につけていること。

5. (E)情報技術を身につけていること。

情報機器等を使いこなし、専門分野で必要とされるプログラムを構築する能力を身につけていること。

【カリキュラム・ポリシー】（教育課程編成および実施の基本方針）

本科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、以下に示す科目群から構成する。

1. 一般科目群：豊かな教養を身につけることを目的として人文・社会科学、芸術などに関する科目、工学の専門知識や技術の修得に必要な学問的な基礎を学ぶための科目、技術者としての異文化対応力、倫理観を身につけることなどを目的とした科目

2. 専門科目群:専門分野の基盤技術を習得し、実践的な工学技術などを学習する科目、思考力や課題解決能力などの育成に関する科目

学修成果の評価は、ディプロマ・ポリシーに掲げた各項目について実施する。各授業科目の成績は、シラバス（平素の学習状況、提出物及び試験の成績等）に基づき、記載された基準で評価する。

【アドミッション・ポリシー】（入学者選抜の基本方針）

本科における受入方針は、ディプロマ・ポリシーに基づき、次のような能力と意欲を持った学生を入学させるためのものである。具体的には、次のような人を求めている。

1. 基礎学力の修得に努めている人
2. 一般教養および専門知識・実践的能力を身につけたい人
3. 好奇心が旺盛で、技術者としての能力開発をめざす人
4. 学んだ知識などを活用して社会に貢献したい人

2020年4月03日　第1回運営会議資料

教務主事関連

■ 協議事項

1. [redacted]第1学年～第4学年）の教育課程の取扱いについて　・・・・別紙1

教育課程の過渡期にあり，1 学年下の教育課程において入学時の教育課程と異なる学生が[redacted]となった場合に必要な措置を行う.

2. 本科3つのポリシー（修正版）について　・・・・別紙2

DP：ディプロマ・ポリシー
CP：カリキュラム・ポリシー
AP：アドミッション・ポリシー
（本科全体，機械工学科，電気情報工学科，電子制御工学科，環境都市工学科，建築学科）

別紙2

岐阜工業高等専門学校の3つのポリシー

■本科全体

【ディプロマ・ポリシー】（卒業認定の基本方針）

本科では、所定の年限在籍し、以下に示す能力・技術の素養を身につけて、各学科の規定する単位数を修得し、卒業研究審査に合格した学生に対して卒業を認定する。

1. (A)倫理観を身につけていること。

グローバルな規模で社会問題や環境問題を捉えて、科学技術が影響等について責任を自覚する技術者としての倫理観を身につけていること。

2. (B)デザイン能力を身につけていること。

新たな課題や実務上の問題点を理解して、自発的に課題を解決する計画を立案する。基礎知識等を活用しながら、その計画を継続して実行し、得られた成果をまとめるデザイン能力とチームワーク能力を身につけていること。

3. (C)コミュニケーション能力を身につけていること。

日本語で記述、発表等をする能力、国際的に通用するコミュニケーションの基礎能力を身につけていること。

4. (D)専門知識・実践的な能力を身につけていること。

専門分野の基礎知識を理解し、それらを用いて応用問題に実践的に取り組む能力を身につけていること。

5. (E)情報技術を身につけていること。

情報機器等を使いこなし、専門分野で必要とされるプログラムを構築する能力を身につけていること。

【カリキュラム・ポリシー】（教育課程編成および実施の基本方針）

本科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、以下に示す科目群から構成する。

1. 一般科目群：豊かな教養を身につけることを目的として人文・社会科学、芸術などに関する科目、工学の専門知識や技術の修得に必要な学問的な基礎を学ぶための科目、技術者としての異文化対応力、倫理観を身につけることなどを目的とした科目

2. 専門科目群:専門分野の基盤技術を習得し、実践的な工学技術などを学習する科目、思考力や課題解決能力などの育成に関する科目

学修成果の評価は、ディプロマ・ポリシーに掲げた各項目について実施する。各授業科目の成績は、シラバス（平素の学習状況、提出物及び試験の成績等）に基づき、記載された基準で評価する。

【アドミッション・ポリシー】（入学者選抜の基本方針）

本科における受入方針は、ディプロマ・ポリシーに基づき、次のような能力と意欲を持った学生を入学させるためのものである。具体的には、次のような人を求めている。

1. 基礎学力の修得に努めている人
2. 一般教養および専門知識・実践的能力を身につけたい人
3. 好奇心が旺盛で、技術者としての能力開発をめざす人
4. 学んだ知識などを活用して社会に貢献したい人

岐阜工業高等専門学校専攻科　先端融合開発専攻

【ディプロマ・ポリシー】

専攻科先端融合開発専攻では、修業年限以上在籍し所定の単位数を修得するとともに、以下の素養を身につけ、特別研究審査に合格した学生に対して修了を認定します。

（１）倫理を身につける。
（２）デザイン能力を身につける。
（３）コミュニケーション能力を身につける。
（４）専門知識・能力を身につける。
（５）情報技術を身につける。

【カリキュラム・ポリシー】

専攻科先端融合開発専攻の科目は、機械工学、電気情報工学、電子制御工学、環境都市工学、建築学を基礎とした各分野の融合を含めた以下の３種類で構成します。

（１）専門展開科目：先端融合開発を目指した実践的な工学技術を学習する科目
（２）専門基盤科目：先端融合の基盤技術を学習する科目
（３）一般科目：技術者としての幅広い社会的教養や語学力を習得する科目

学修成果の評価は、教育課程の総まとめとなる特別研究を中心に、ディプロマ・ポリシーに掲げた各項目について実施します。各授業科目の成績は、（平素の学習状況、提出物及び試験の成績等に基づき）シラバスに記載された基準で評価します。

【アドミッション・ポリシー】

専攻科先端融合開発専攻における受入方針を、以下のように定めます。

（１）　国際的視野を持ち、先端技術の融合により世界の持続的成長に貢献するものづくりの技術的能力の獲得を目指している人
（２）産業界の要請に対して、創造的手法により革新的な価値創生を実現できる融合的な開発的能力の習得を目指している人
（３）高専本科などにおいて、基盤となる専門科目を習得したのちに、さらに融合分野の学修や研究に強い意欲を持つ人

岐阜工業高等専門学校専攻科　先端融合開発専攻

【ディプロマ・ポリシー】

専攻科先端融合開発専攻では、修業年限以上在籍し所定の単位数を修得するとともに、以下の素養を身につけ、特別研究審査に合格した学生に対して修了を認定します。

（１）倫理を身につける。
（２）デザイン能力を身につける。
（３）コミュニケーション能力を身につける。
（４）専門知識・能力を身につける。
（５）情報技術を身につける。

【カリキュラム・ポリシー】

専攻科先端融合開発専攻の科目は、機械工学、電気情報工学、電子制御工学、環境都市工学、建築学を基礎とした各分野の融合を含めた以下の３種類で構成します。

（１）専門展開科目：先端融合開発を目指した実践的な工学技術を学習する科目
（２）専門基盤科目：先端融合の基盤技術を学習する科目
（３）一般科目：技術者としての幅広い社会的教養や語学力を習得する科目

学修成果の評価は、教育課程の総まとめとなる特別研究を中心に、ディプロマ・ポリシーに掲げた各項目について実施します。各授業科目の成績は、（平素の学習状況、提出物及び試験の成績等に基づき）シラバスに記載された基準で評価します。

【アドミッション・ポリシー】

専攻科先端融合開発専攻における受入方針を、以下のように定めます。

（１）　国際的視野を持ち、先端技術の融合により世界の持続的成長に貢献するものづくりの技術的能力の獲得を目指している人
（２）産業界の要請に対して、創造的手法により革新的な価値創生を実現できる融合的な開発的能力の習得を目指している人
（３）高専本科などにおいて、基盤となる専門科目を習得したのちに、さらに融合分野の学修や研究に強い意欲を持つ人

岐阜工業高等専門学校専攻科　先端融合開発専攻

【ディプロマ・ポリシー】

専攻科先端融合開発専攻では、修業年限以上在籍し所定の単位数を修得するとともに、以下の素養を身につけ、特別研究審査に合格した学生に対して修了を認定します。

（１）倫理を身につける。
（２）デザイン能力を身につける。
（３）コミュニケーション能力を身につける。
（４）専門知識・能力を身につける。
（５）情報技術を身につける。

【カリキュラム・ポリシー】

専攻科先端融合開発専攻の科目は、機械工学、電気情報工学、電子制御工学、環境都市工学、建築学を基礎とした各分野の融合を含めた以下の３種類で構成します。

（１）専門展開科目：先端融合開発を目指した実践的な工学技術を学習する科目
（２）専門基盤科目：先端融合の基盤技術を学習する科目
（３）一般科目：技術者としての幅広い社会的教養や語学力を習得する科目

学修成果の評価は、教育課程の総まとめとなる特別研究を中心に、ディプロマ・ポリシーに掲げた各項目について実施します。各授業科目の成績は、（平素の学習状況、提出物及び試験の成績等に基づき）シラバスに記載された基準で評価します。

【アドミッション・ポリシー】

専攻科先端融合開発専攻における受入方針を、以下のように定めます。

（１）　国際的視野を持ち、先端技術の融合により世界の持続的成長に貢献するものづくりの技術的能力の獲得を目指している人
（２）産業界の要請に対して、創造的手法により革新的な価値創生を実現できる融合的な開発的能力の習得を目指している人
（３）高専本科などにおいて、基盤となる専門科目を習得したのちに、さらに融合分野の学修や研究に強い意欲を持つ人